

(1) 調査概要

(ア) 調査目的

本調査は、扶桑町男女共同参画プラン（第二期）策定のため、男女共同参画社会に関する町民の意識・行動の実態、ニーズ等を把握し、新たな計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

(イ) 調査設計

調査地域	: 扶桑町全域
調査対象者	: 扶桑町内在住の満 15 歳以上の男女
標本数	: 1,000 件
抽出方法	: 住民基本台帳より無作為抽出
調査期間	: 平成 30 年 10 月 10 日～平成 30 年 10 月 31 日（書面）
調査方法	: 調査票による本人記入方式 郵送による配布、回収

(ウ) 回収状況

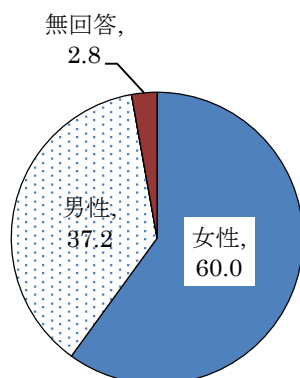
配布数	: 1,000 件
回収数	: 320 件
回収率	: 32.0%

(エ) 調査結果の表示方法

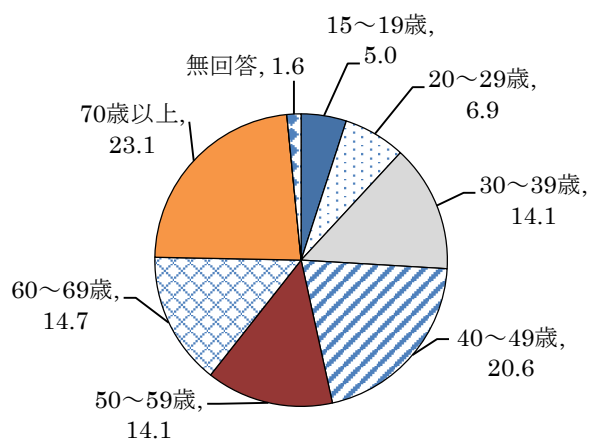
- ・ 調査結果の％表示は、少数以下第 2 位を四捨五入しておりますので、内訳の合計がちょうど 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な場合、すべての比率の合計がちょうど 100.0%にならない場合があります。
- ・ クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差し並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

(2) 回答者の属性

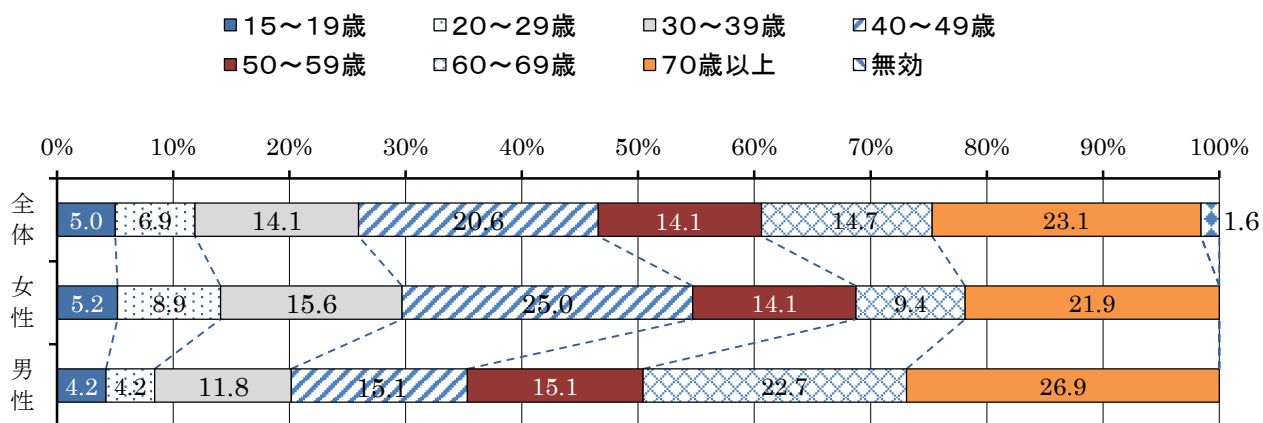
(1) 回答者の性別 (%)



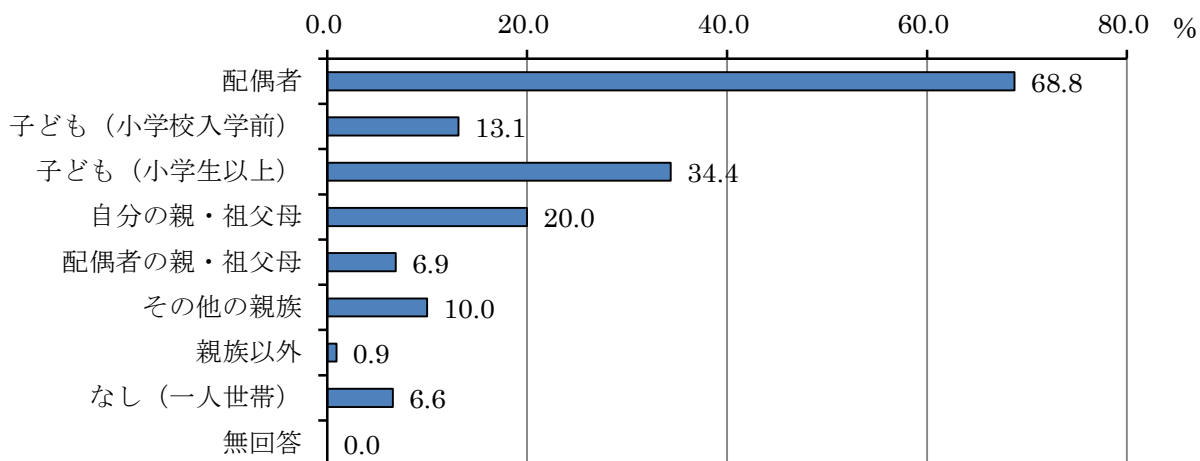
(2) 回答者の年齢 (%)



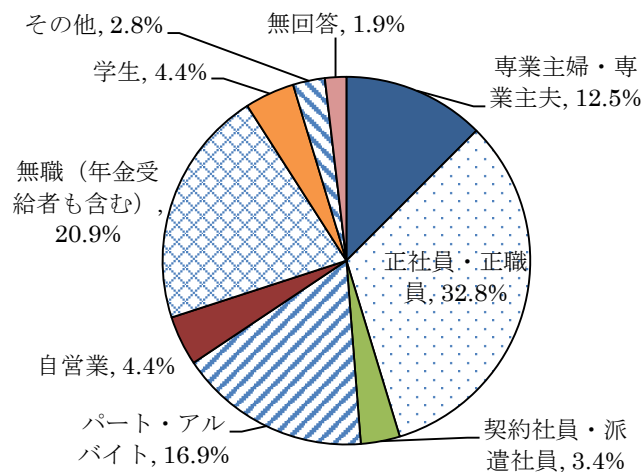
(1) × (2) 男女別 年代



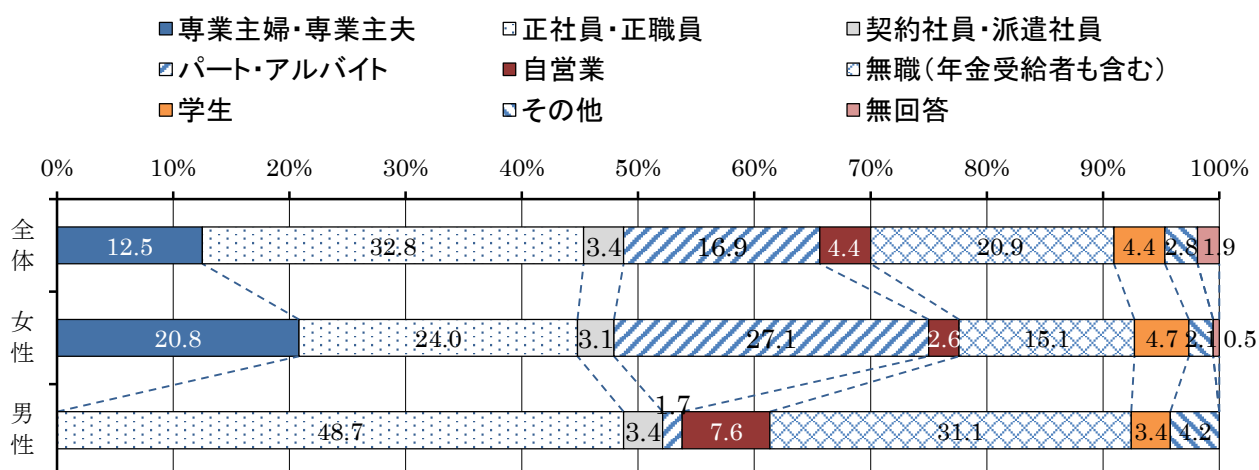
(3) 回答者の同居家族 (複数回答)



(4) 回答者の職業 (%)



(1)×(4) 男女別 職業



1 男女共同参画について

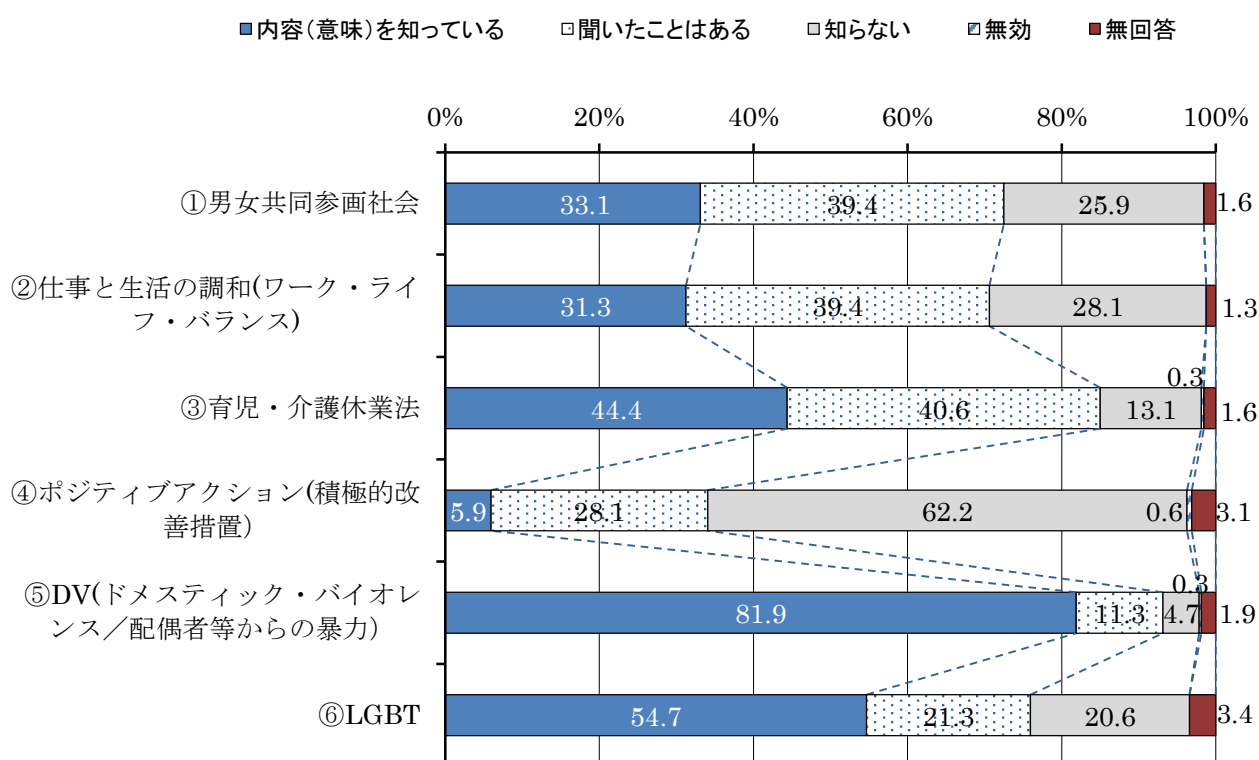
問1 あなたは、下記の言葉を知っていますか。（①から⑥までそれぞれ1つに○）

「男女共同参画社会」を「内容（意味）を知っている＝以下、知っている」は33.1%、「聞いたことはある」39.4%となり（2つの計は72.5%）でした。前回調査の「知っている」17.9%、「聞いたことはある」36.2%（2つの計は54.1%）と比べて、理解が進んでいます。

6つの問の内、「知っている」が最も高いものが「DV」の81.9%で、次いで「LGBT」54.7%でした。「育児・介護休業法」は「知っている」が44.4%、「仕事と生活の調和」は同31.3%で、「聞いたことはある」との計は、各々85.0%、70.7%で、一定程度認知されています。

他方、「ポジティブアクション」は、「知っている」5.9%、「聞いたことがある」28.1%、「知らない」62.2%で、よく知られていない状況でした。

図 6つの語句の認知



① 男女共同参画社会

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が 72.5%と、一定の認知が得られています。「知らない」が 25.9%で、平成 20 年の数値（42.5%）と比べて大幅に減少しました。

男女別で見ると、男性は女性に比べて「知らない」の割合が高くなっています（女性 22.4%、男性 31.9%）。平成 20 年では、女性の方が「知らない」が高く（女性 44.3%、男性 39.0%）、女性において認知が進みました。

年齢別で見ると、「知っている」という割合は男女ともに 30 代が低く、特に女性 30 代で最も低い 13.3%となっています。また、「知らない」の割合は、30 代男性が 50.0%と最も高く、続いて 20 代男性が 40.0%と高い割合となりました。

図 男女別「男女共同参画社会」の認知度の状況

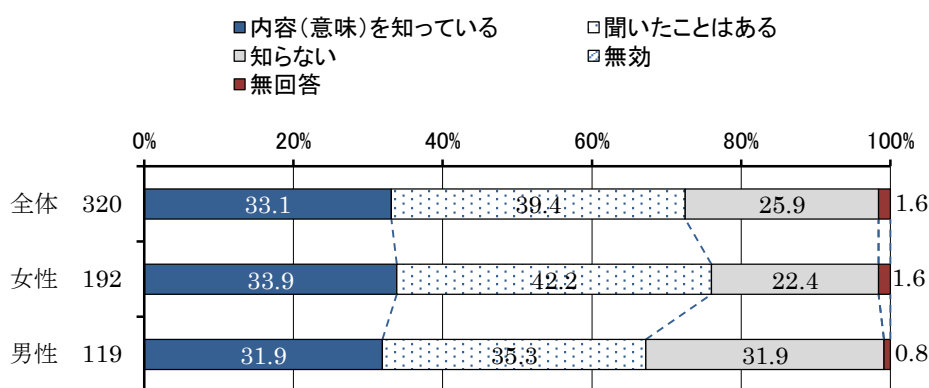
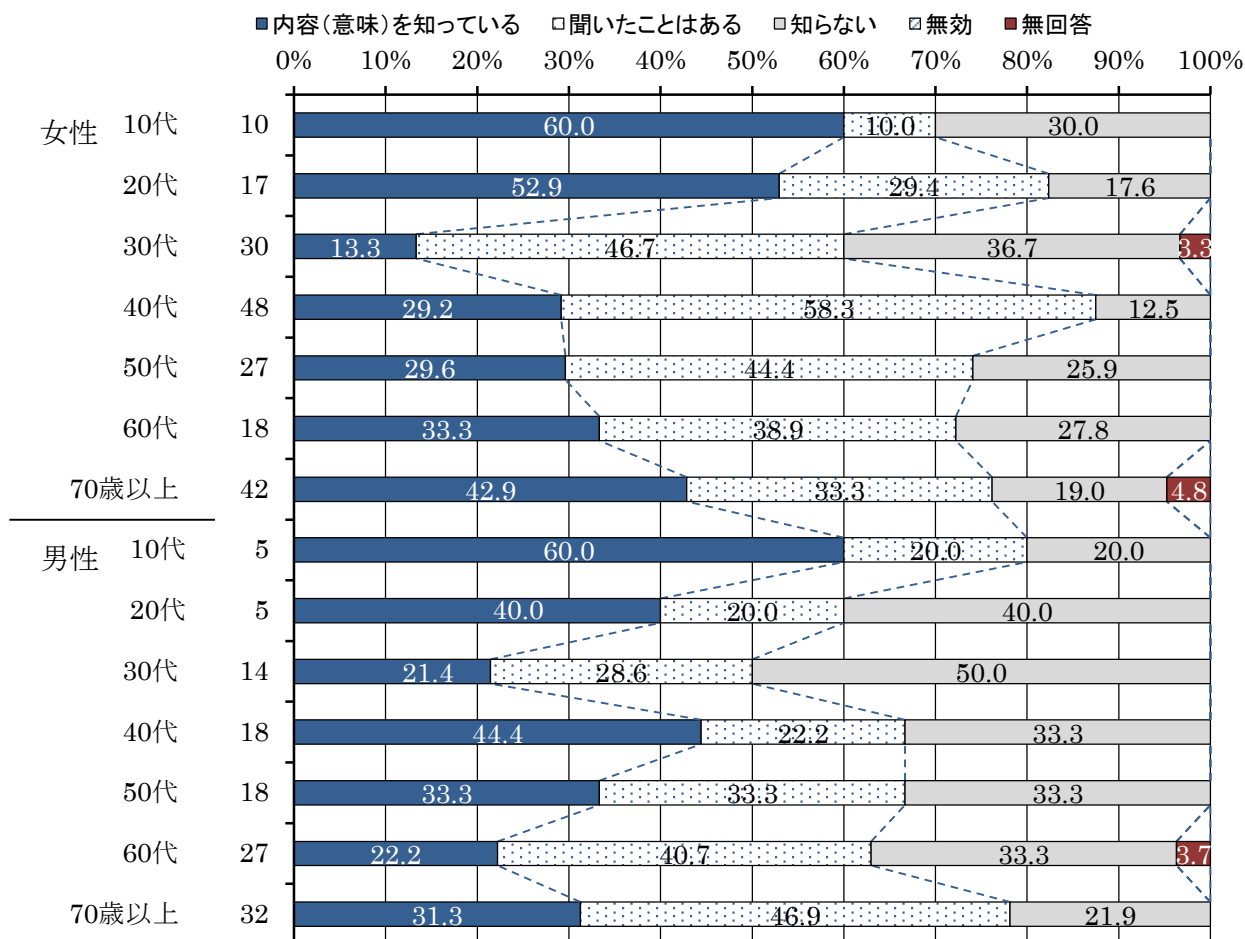


図 男女別年代別「男女共同参画社会」の認知度の状況



② 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が 70.7%と、一定の認知が得られています。

男女別で、大きな差異はありませんが、男性に「聞いたことがある」の割合が高く、女性に「内容（意味）を知っている」の割合が高い結果でした。

年齢別で見ると、「知っている」は男女ともに 10 代が高い割合でした。また、「知らない」の割合は、女性は 50 代、60 代に高く、男性は 40 代と 70 代以上で高くなっています。一方で、女性では 70 代以上、男性では 60 代で「知らない」が低い割合でした。

図 男女別「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度の状況

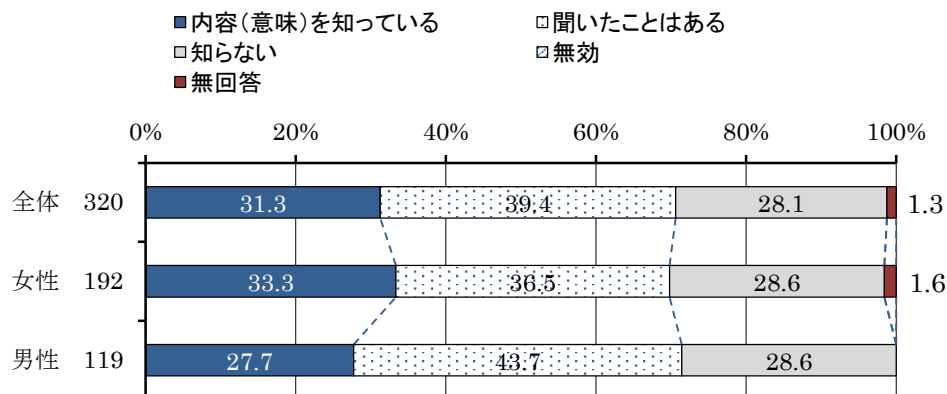
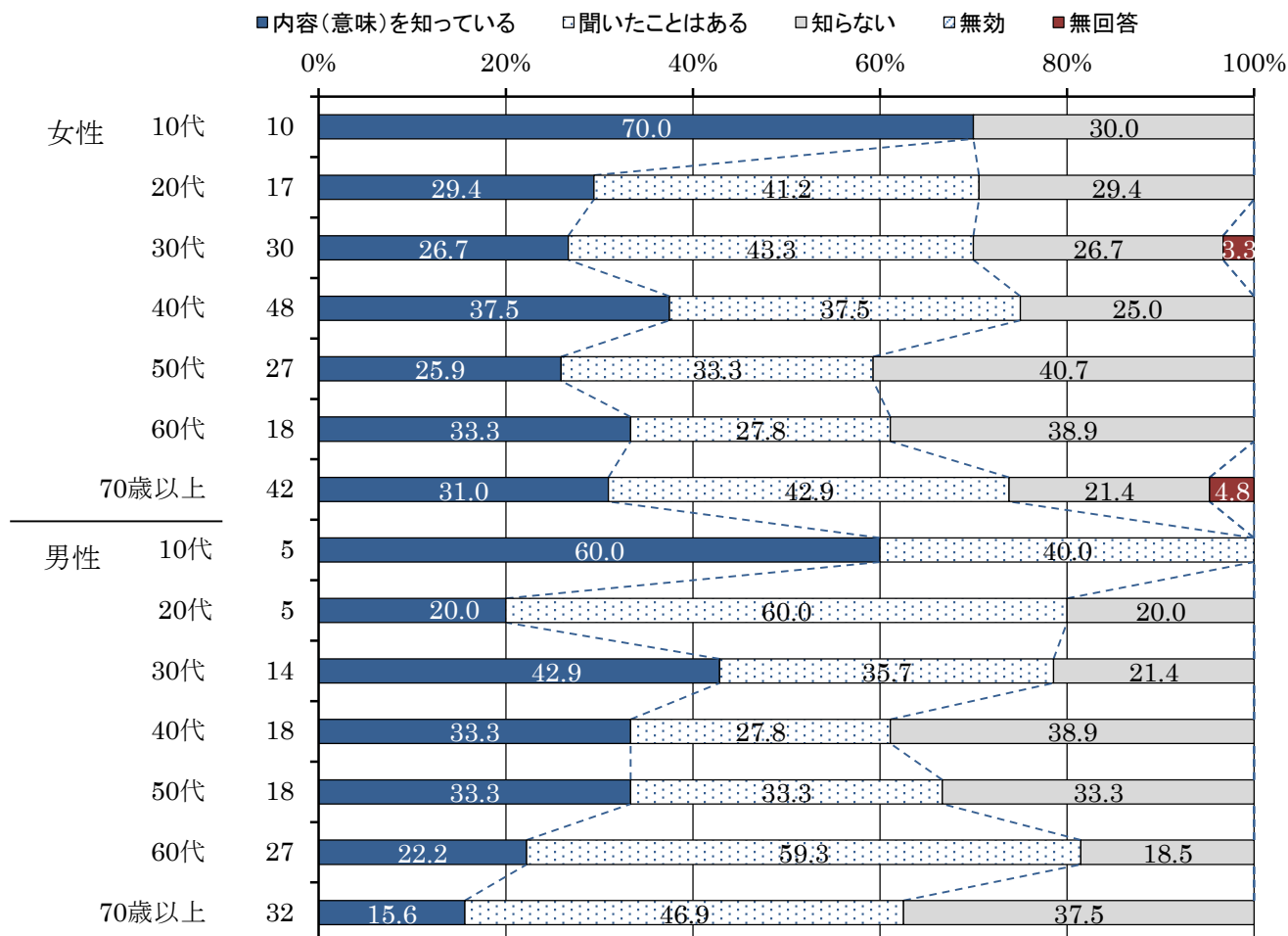


図 男女別年代別「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の認知度の状況



③ 育児・介護休業法

全体では、「知っている」「聞いたことはある」の計が85.0%と、一定の認知が得られています。

男女別では、女性は男性に比べ「知っている」の比率は高く、男性は「聞いたことがある」の割合が高くなりました。

年齢別で見ると、「知っている」割合は女性では40代、50代で高く、30代ではやや低くなっています。男性では30代では30%以下で、40代、50代でも40%以下とやや低い割合でした。

図 男女別「育児・介護休業法」の認知度の状況

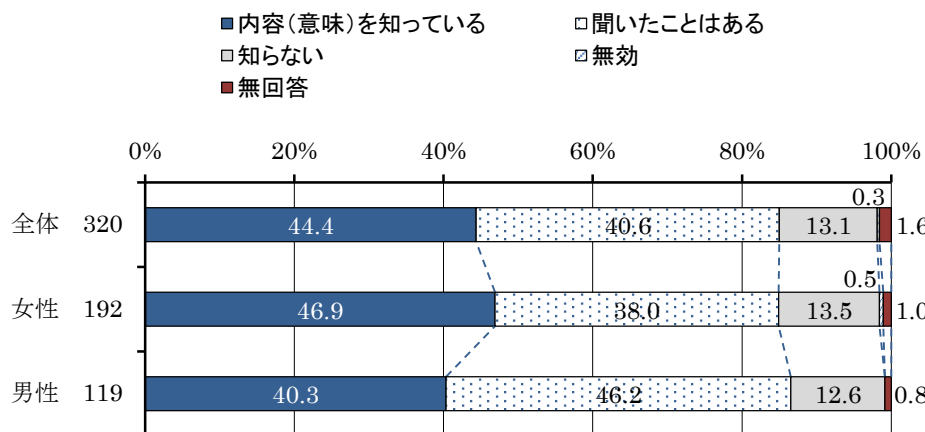
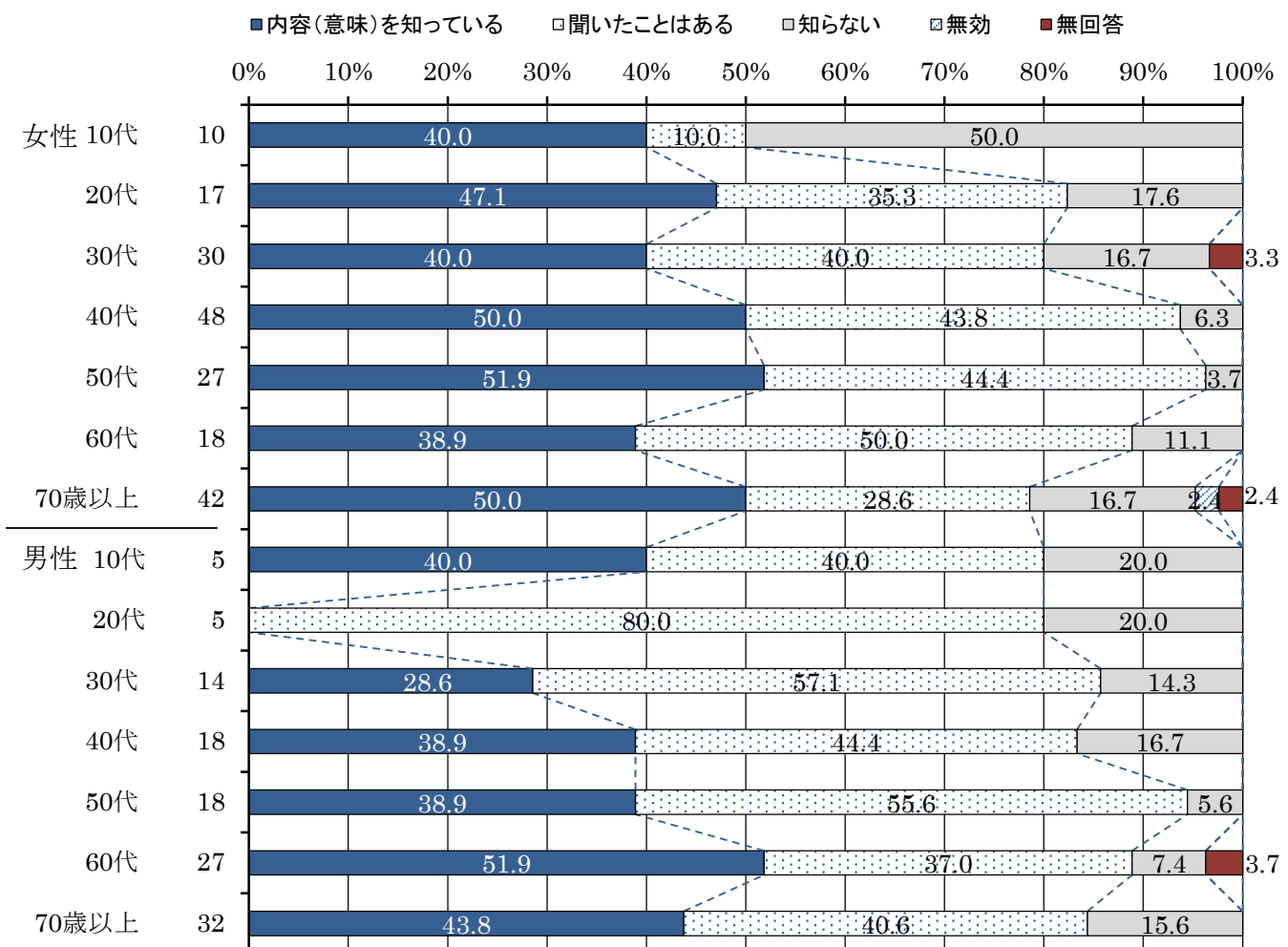


図 男女別年代別「育児・介護休業法」の認知度の状況



④ ポジティブアクション（積極的改善措置）

全体では、「知っている」が5.9%と低く、「聞いたことはある」28.1%と、合計しても34.0%にとどまりました。

男女別では、男性の方が「知っている」の割合は高く、女性は「聞いたことはある」の割合が高くなりました。

年齢別で見ると、「知らない」の割合は10代で男女ともに高く80.0%でした。「知っている」「聞いたことがある」の計は、女性では60代、70代で高い割合でした。男性では、30代が最も高く、次いで20代と、男女での傾向が異なりました。

図 男女別「ポジティブアクション(積極的改善措置)」の認知度の状況

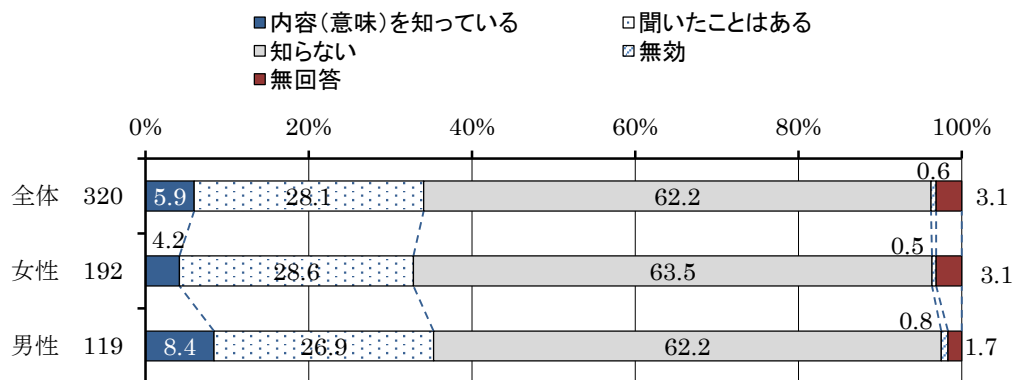
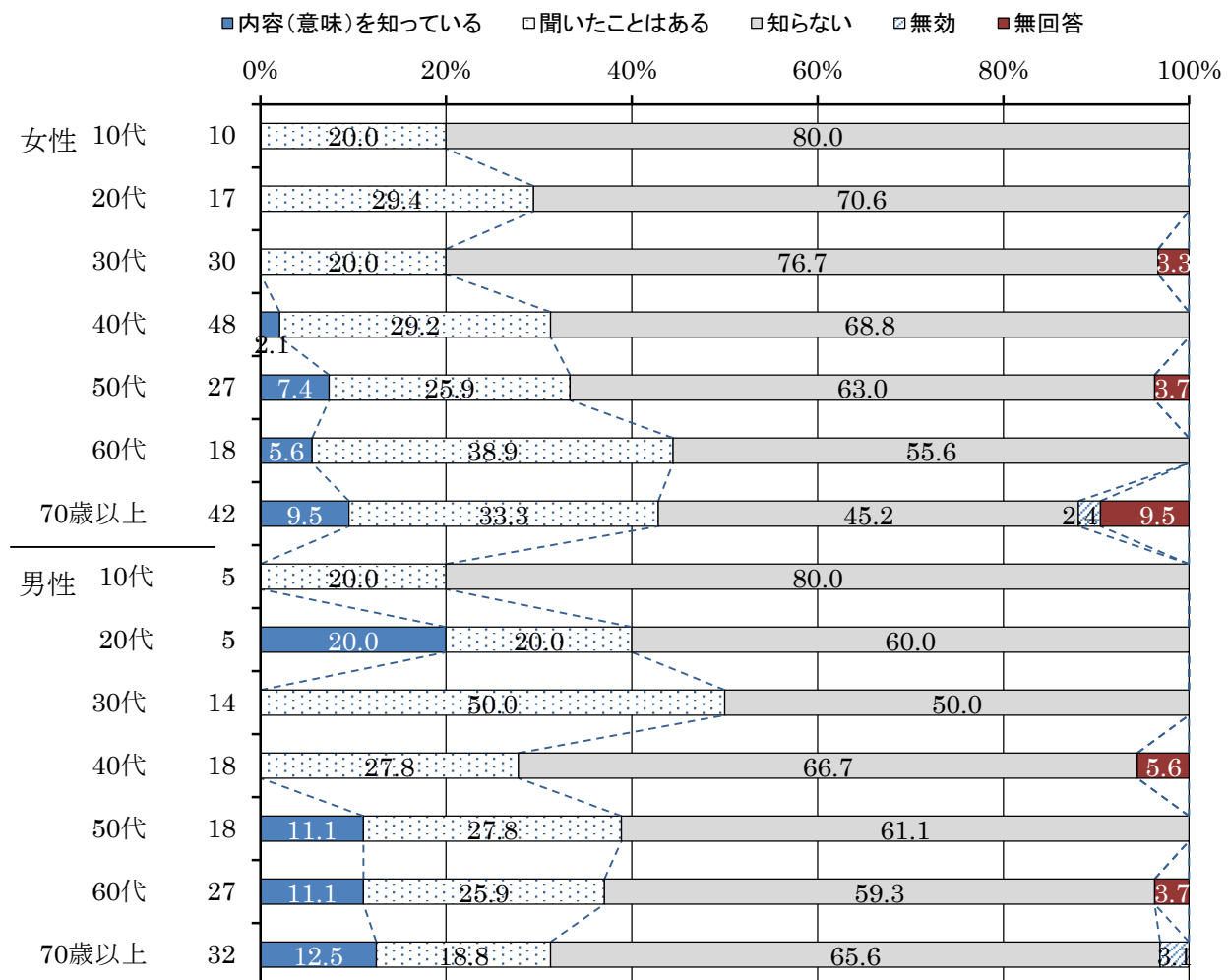


図 男女別年代別「ポジティブアクション(積極的改善措置)」の認知度の状況



⑤ DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）

全体では、「知っている」81.9%と、よく知られています。

男女別では、女性が男性に比べ「知っている」が高い割合になりました。

年齢別で見ると、「知っている」割合がやや低かったのは、女性では10代、60代、70代以上、男性では30代、60代、70代以上でした。

図 男女別「DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）」の認知度の状況

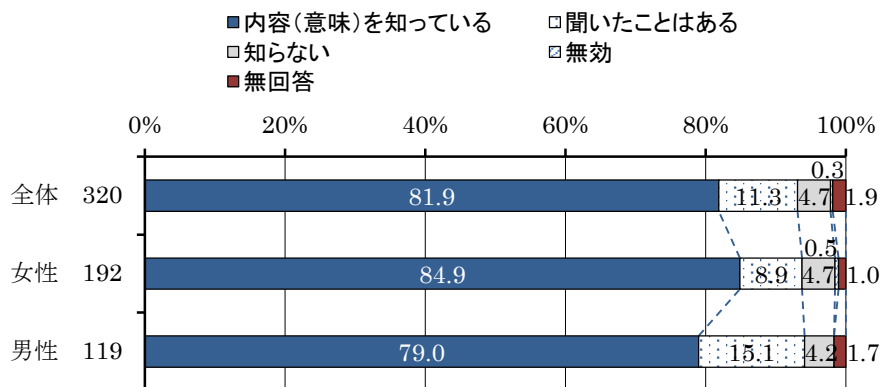
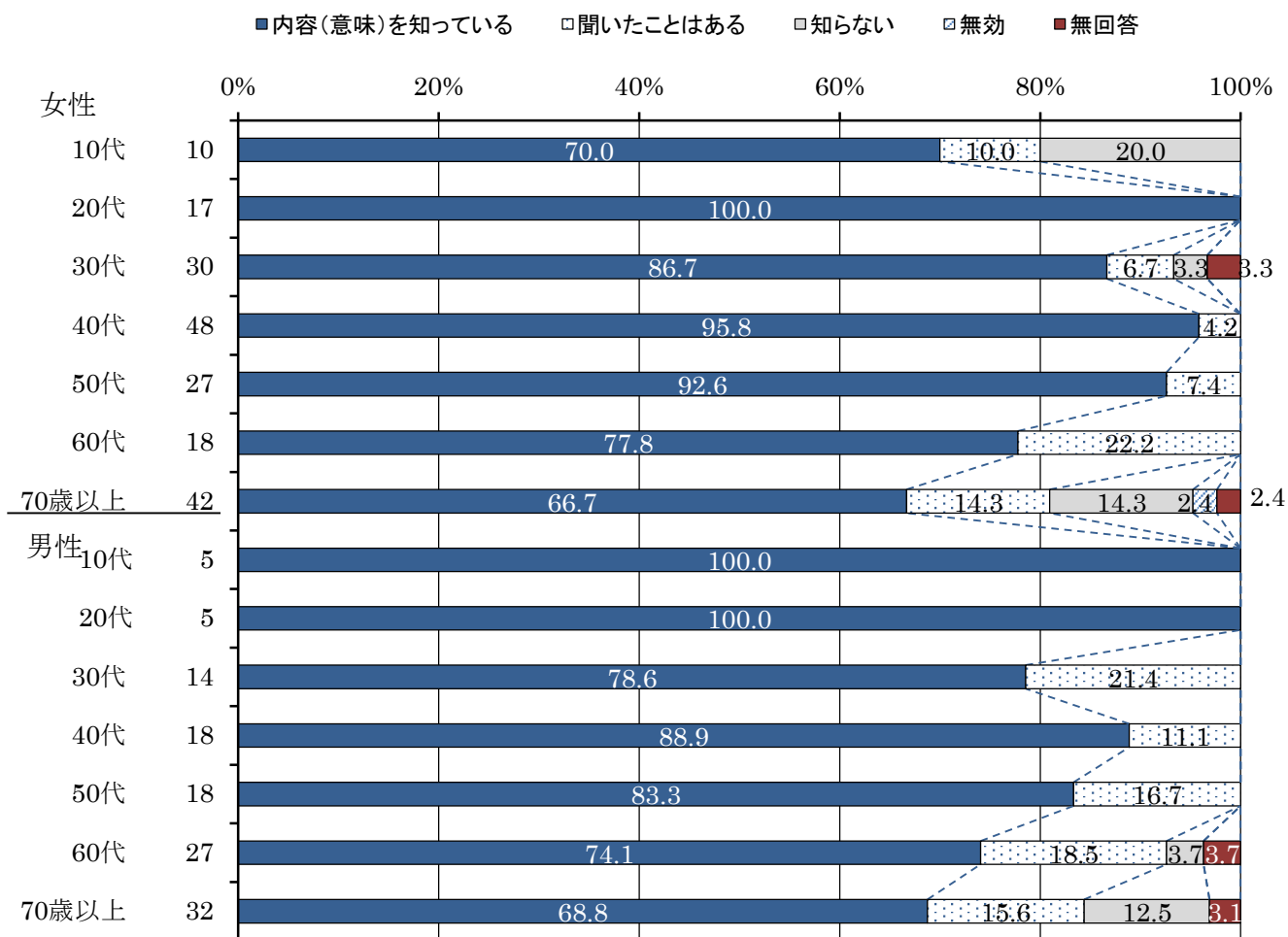


図 男女別年代別「DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）」の認知度の状況



⑥ **LGBT**（同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。「セクシャルマイノリティ」、「性的マイノリティ」、「性的少数者」とも言う。L（レズビアン）＝女性の同性愛者、G（ゲイ）＝男性の同性愛者、B（バイセクシャル）＝両性愛者、T（トランスジェンダー）＝生まれてきたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人・生きたいと望む人、の頭文字をとって「LGBT」と呼ばれている）

全体では、「知っている」54.7%、「聞いたことはある」21.3%と、合計で76.0%で、一定の認知が得られています。

男女別では、女性は男性に比べ「知っている」の割合が大きく上回りました（女性62.0%、男性44.5%）。男性では「知らない」が26.9%にのぼっています。

年齢別で見ると、「知っている」割合は男女ともに70代以上で低くなりました。また、男性ではいずれの年代も女性と比較的すると低い割合となっています。

図 男女別「LGBT」の認知度の状況

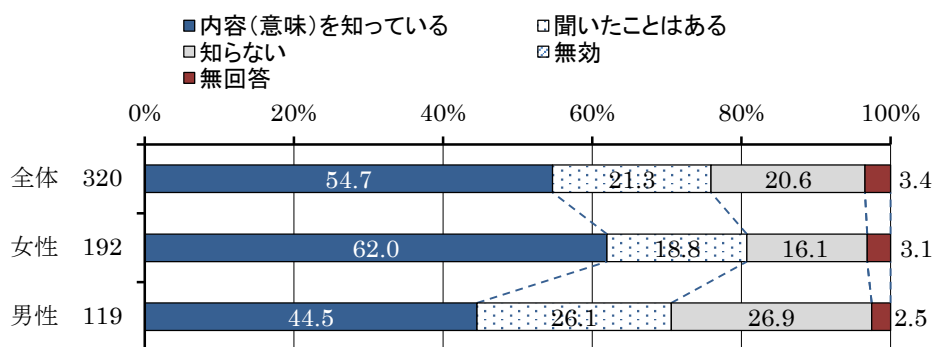
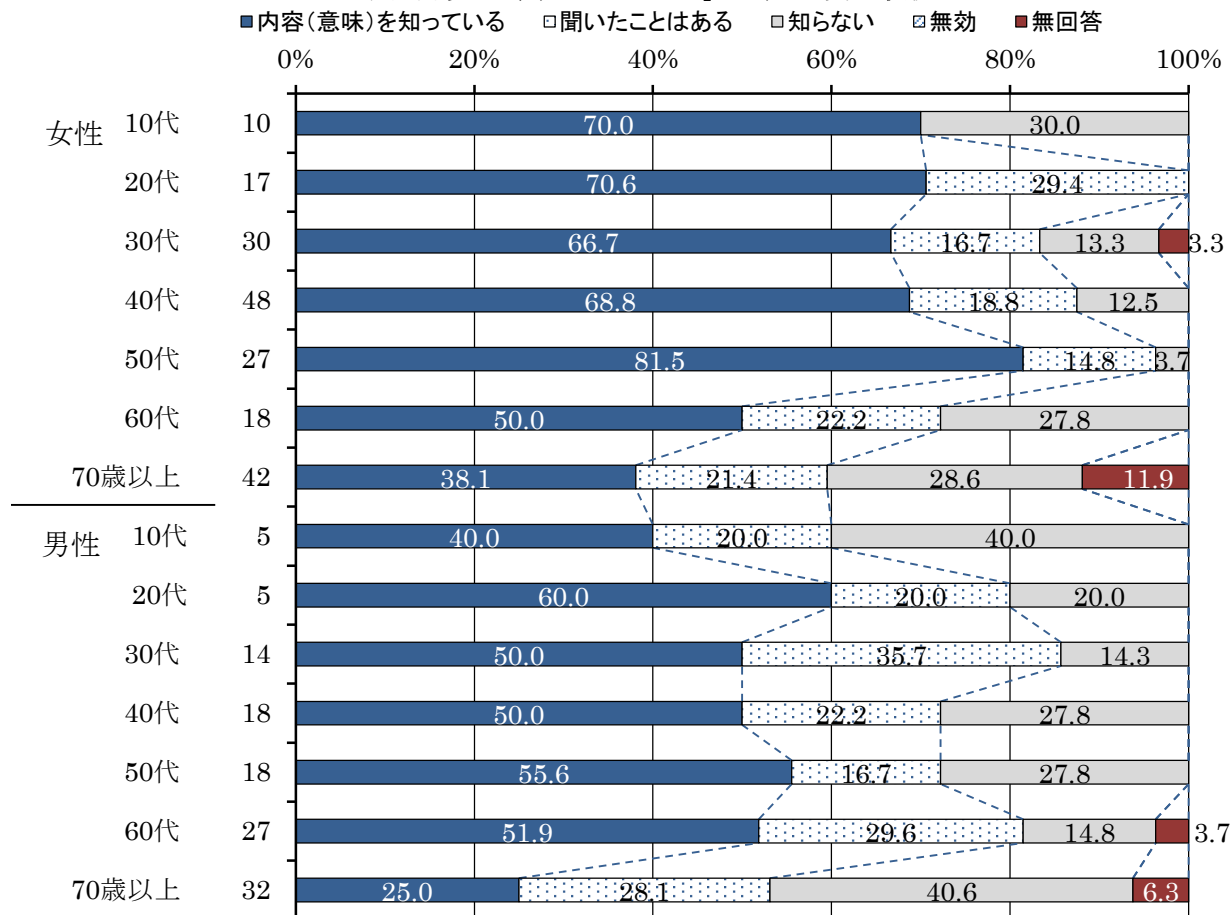


図 男女別年代別「LGBT」の認知度の状況



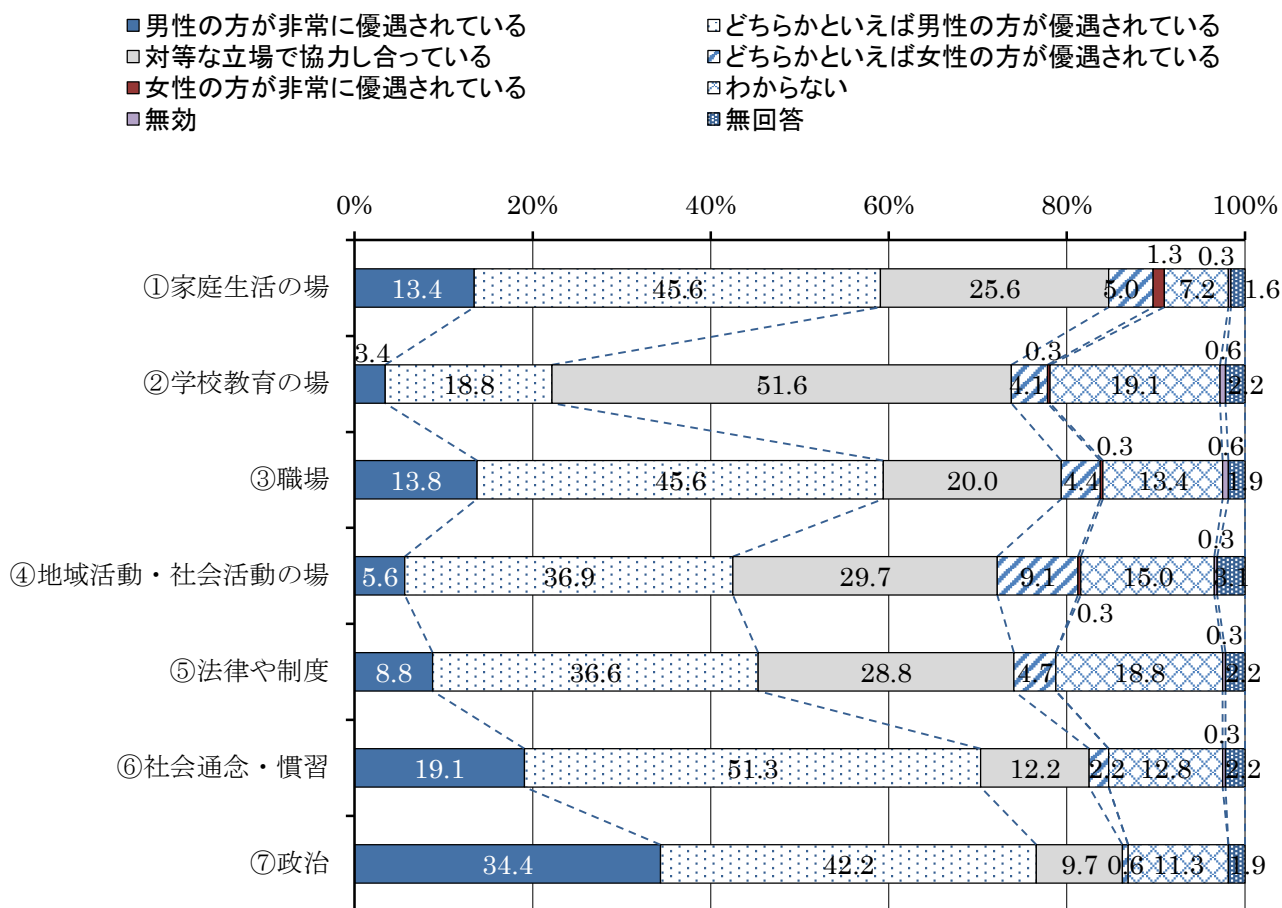
問2 あなたは、次のような分野において、現在、男女が共に対等な立場で協力し合っていると思いますか。
(①から⑦までそれぞれ1つに○)

学校教育の場を除いて、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人が多く、その割合は、政治 76.6%、社会通念・慣習 70.4%、職場 59.4%、家庭生活の場 59.0%、法律や制度 45.4%、地域活動・社会活動 42.5%の順となっています。

また、学校教育では「対等の立場で協力し合っている」51.6%と高い割合でした。

前回調査との比較では、“男性が優遇されている”は、前回数値は社会通念・慣習 67.0%、家庭生活の場 51.8%、法律や制度 38.0%、地域活動・社会活動 36.3%で、これらは今回の方が増加しており、職場(61.2%)では、減少しました。

図 分野別 男女の協力の状況



① 家庭生活の場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が59.0%と過半数となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は65.2%と、男性より高くなっています。

年齢別で見ると、“男性が優遇されている”の割合は、若い世代では低い傾向が見られますが、高齢でも低くなっている層もあり、不規則な状況となっています。

図 男女別「家庭生活の場」での協力の状況

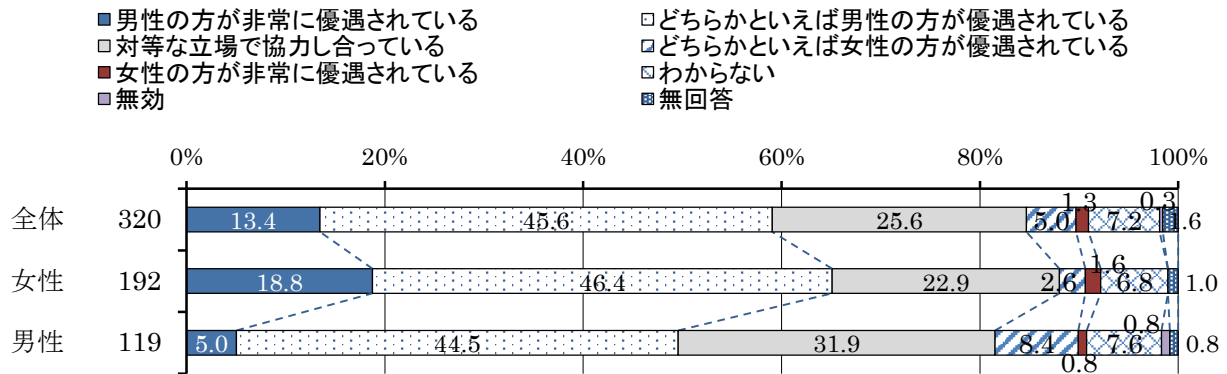
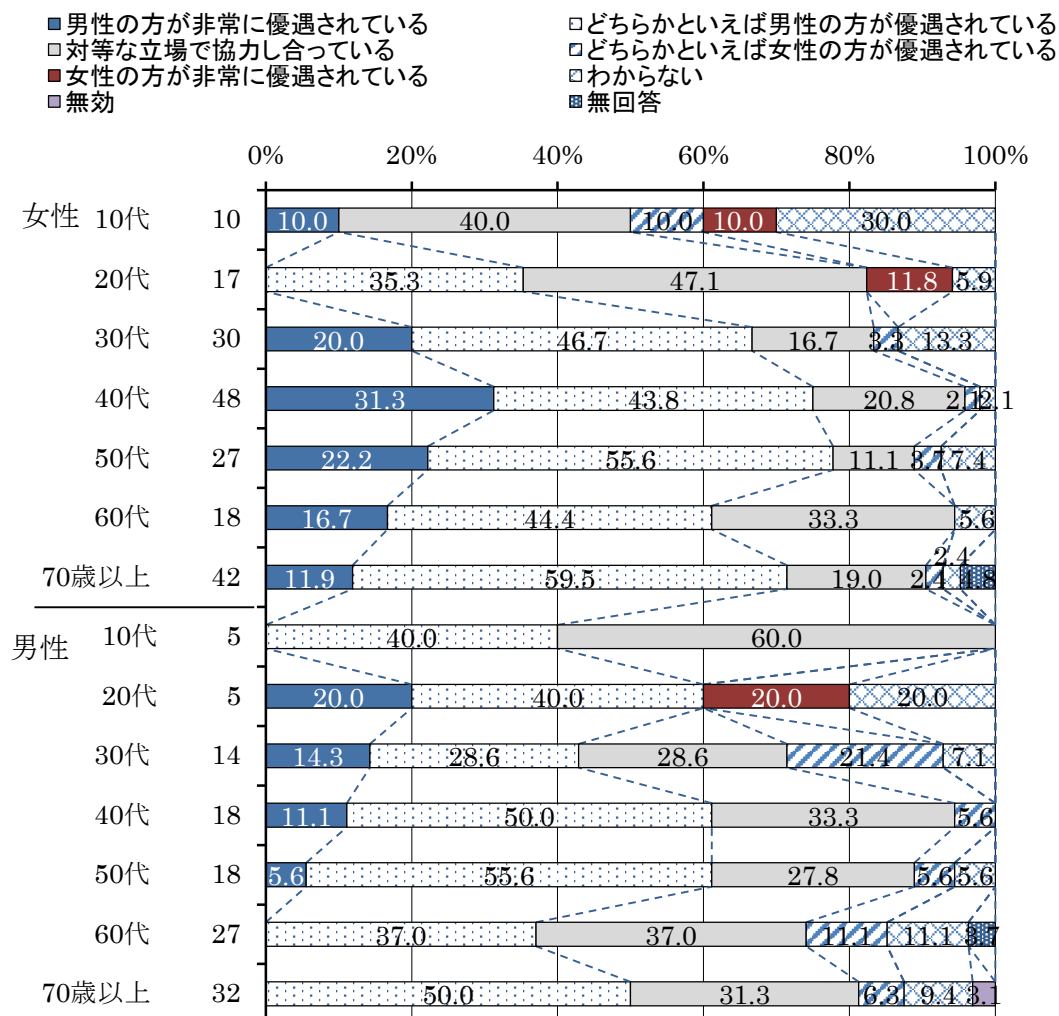


図 男女別年代別「家庭生活の場」での協力の状況



② 学校教育の場

全体では、「対等な立場で協力し合っている」が51.6%と最も高く、“男性が優遇されている”の割合は22.2%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は28.2%と男性より高くなっています。

年齢別で見ると、“男性が優遇されている”の割合は、40代で男女ともにやや高い傾向が見られます。

図 男女別「学校教育の場」での協力の状況

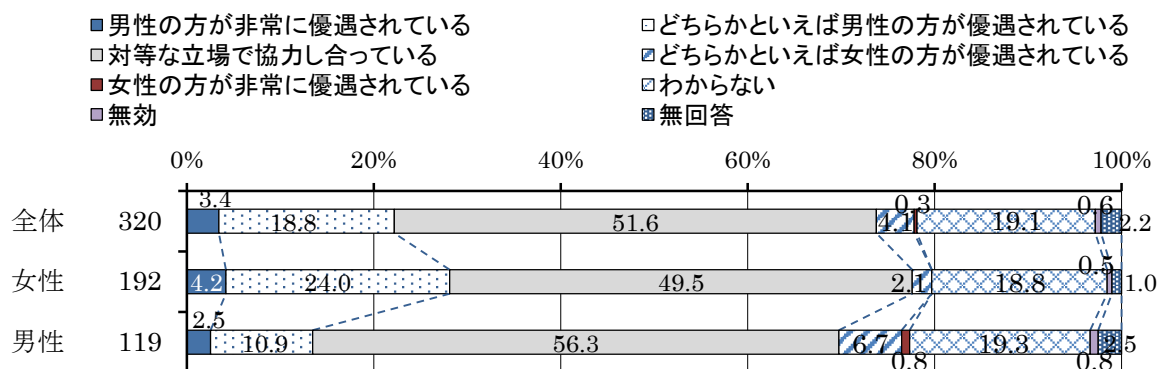
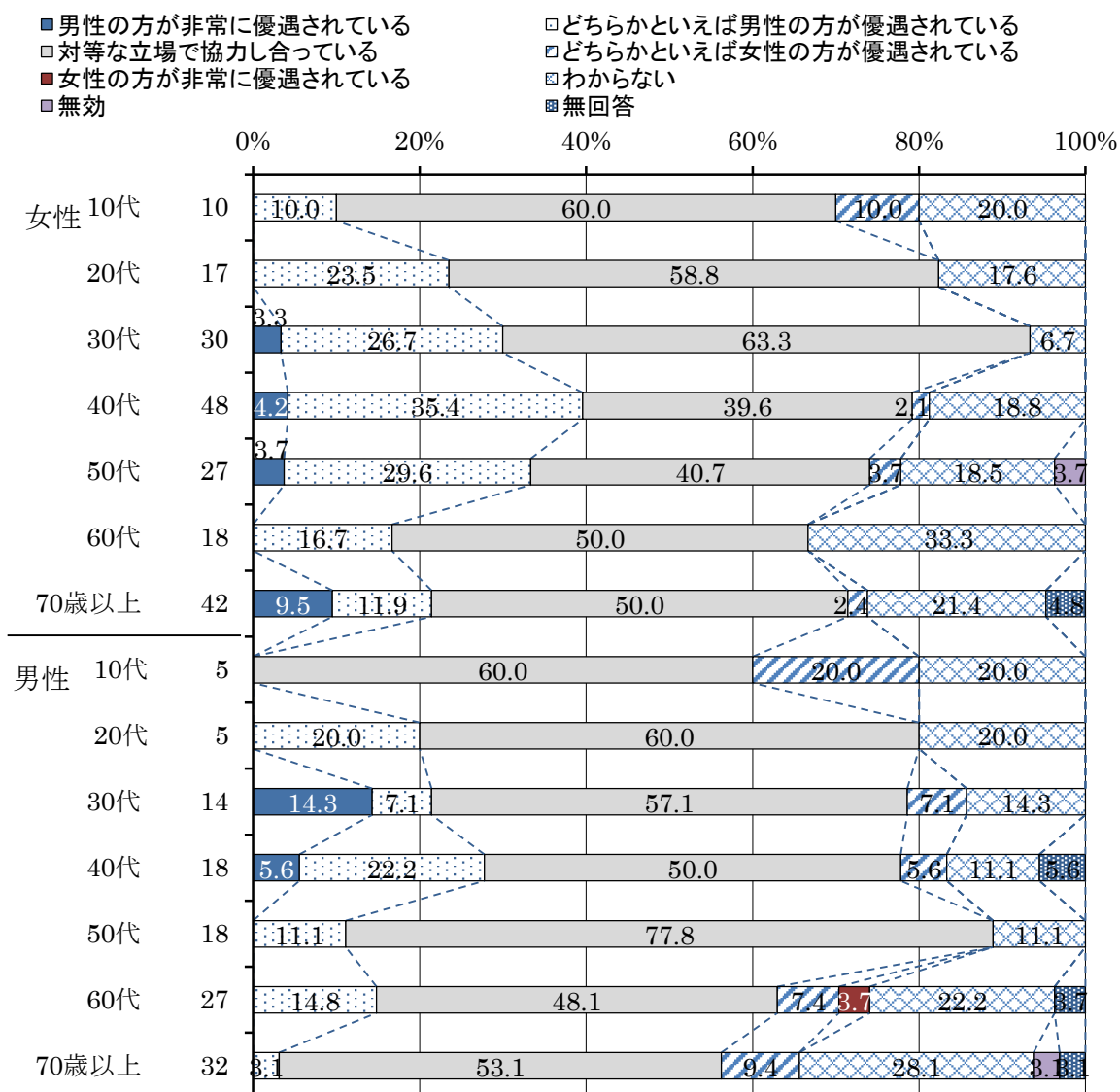


図 男女別年代別「学校教育の場」での協力の状況



③ 職場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が59.4%と過半数となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は61.0%と男性よりやや高くなりました。年齢別では、不規則で若い世代でも、“男性が優遇されている”の割合が高い層もありました。

図 男女別「職場」での協力の状況

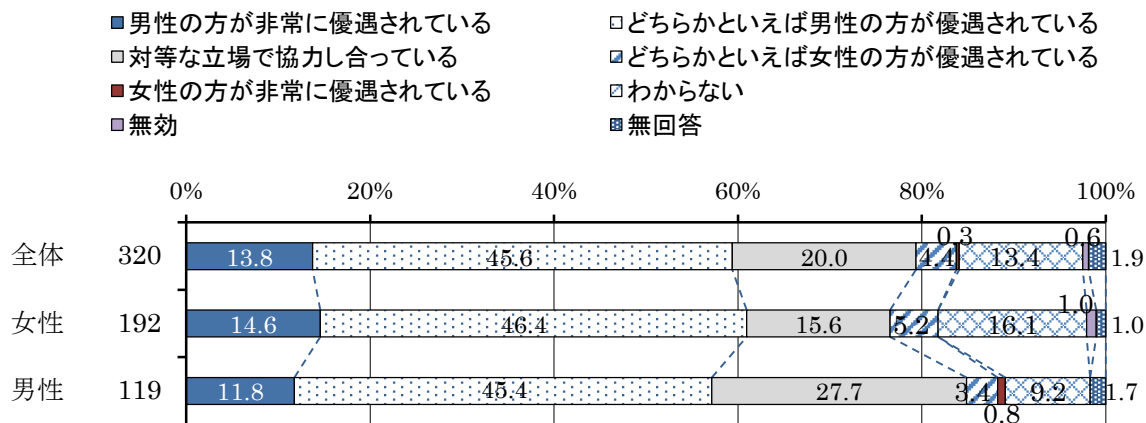
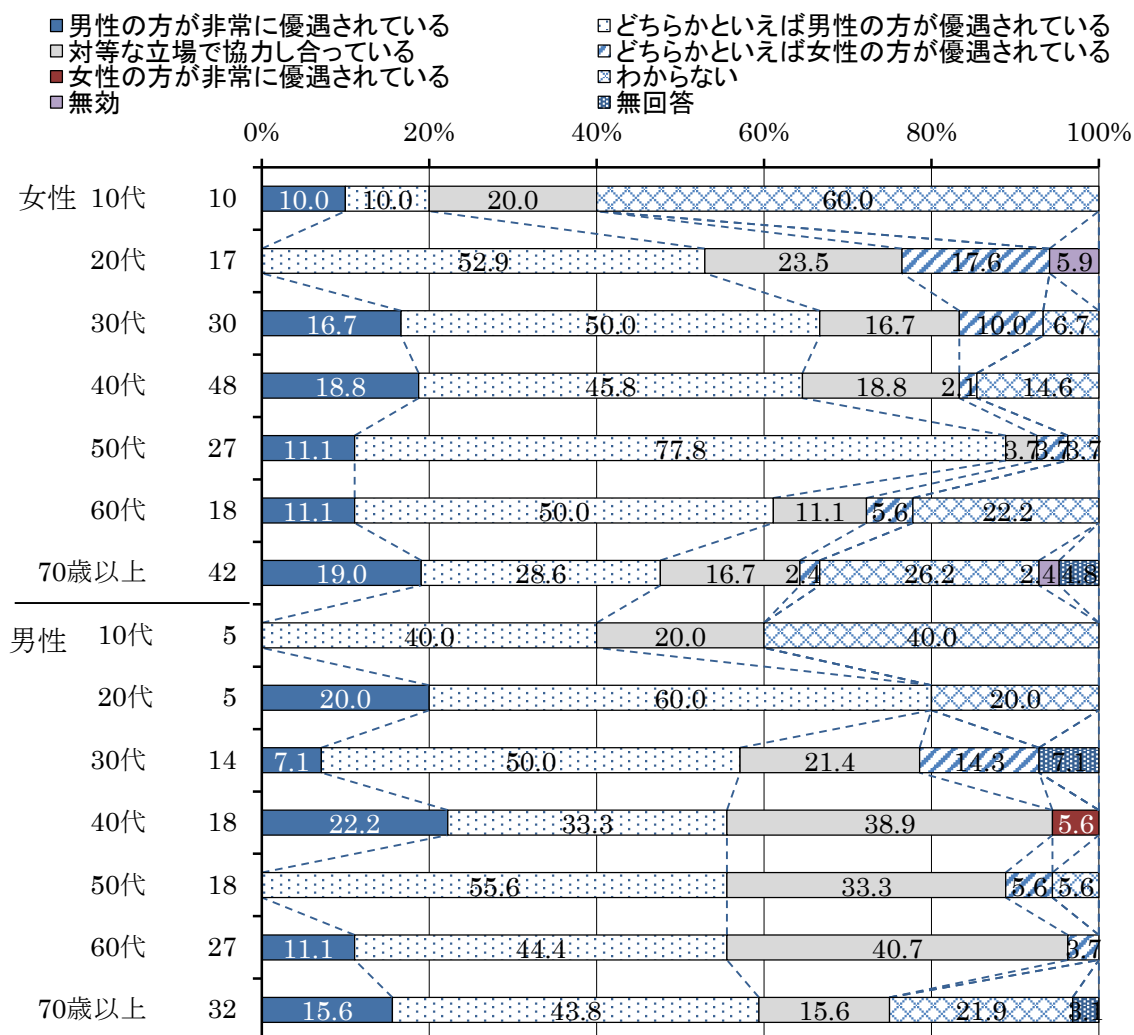


図 男女別年代別「職場」での協力の状況



④ 地域活動・社会活動の場

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が42.5%で、「対等の立場で協力し合っている」が29.7%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は52.1%、男性では28.6%と、両者の開きは大きくなっています。

年齢別では、40代から60代の女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

図 男女別「地域活動・社会活動の場」での協力の状況

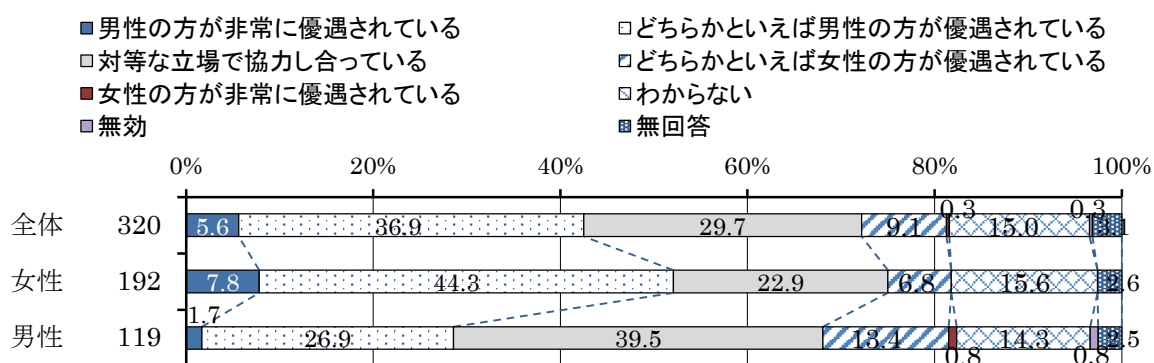
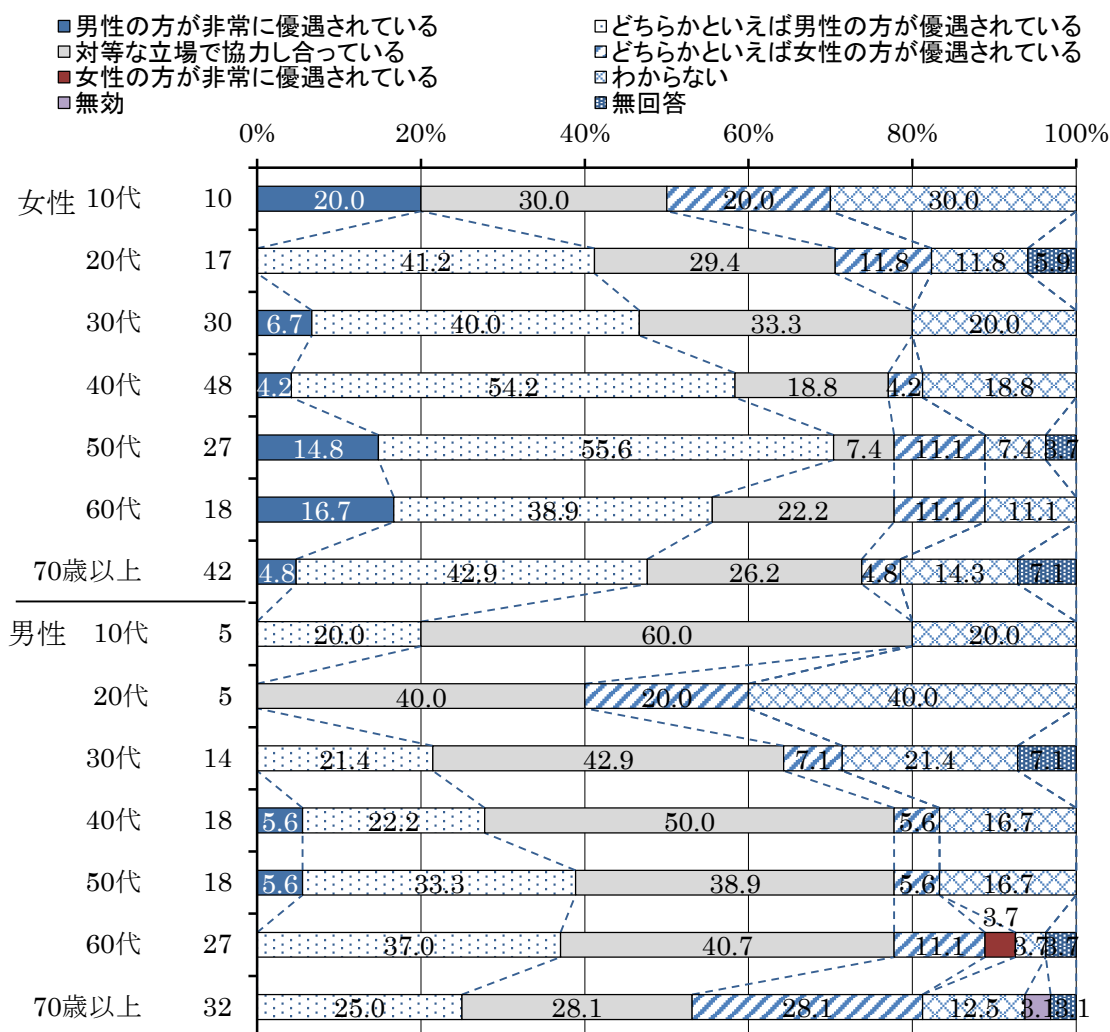


図 男女別年代別「地域活動・社会活動の場」での協力の状況



⑤ 法律や制度

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が45.4%で、「対等の立場で協力し合っている」が28.8%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は54.7%、男性では30.2%と、両者の差異は大きくなっています。男性では「対等の立場で協力し合っている」が45.4%と高い数値でした。

年齢別では、30代から50代の女性で“男性が優遇されている”の割合が高くなっています。

図 男女別「法律や制度」での協力の状況

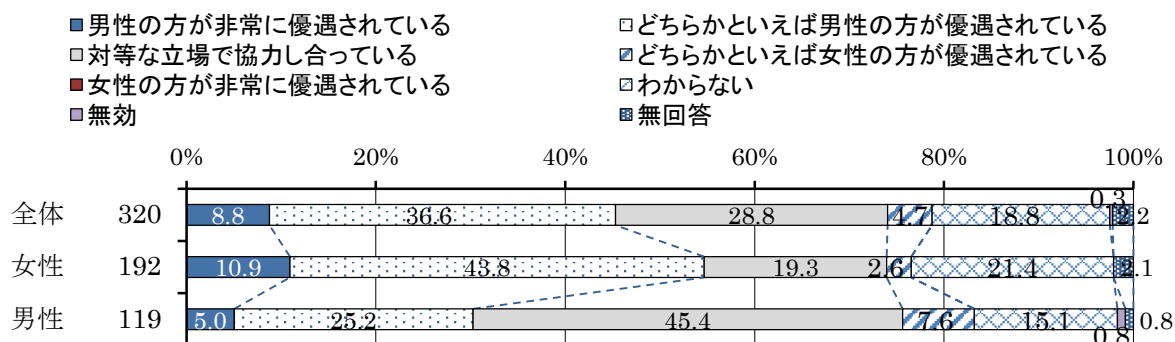
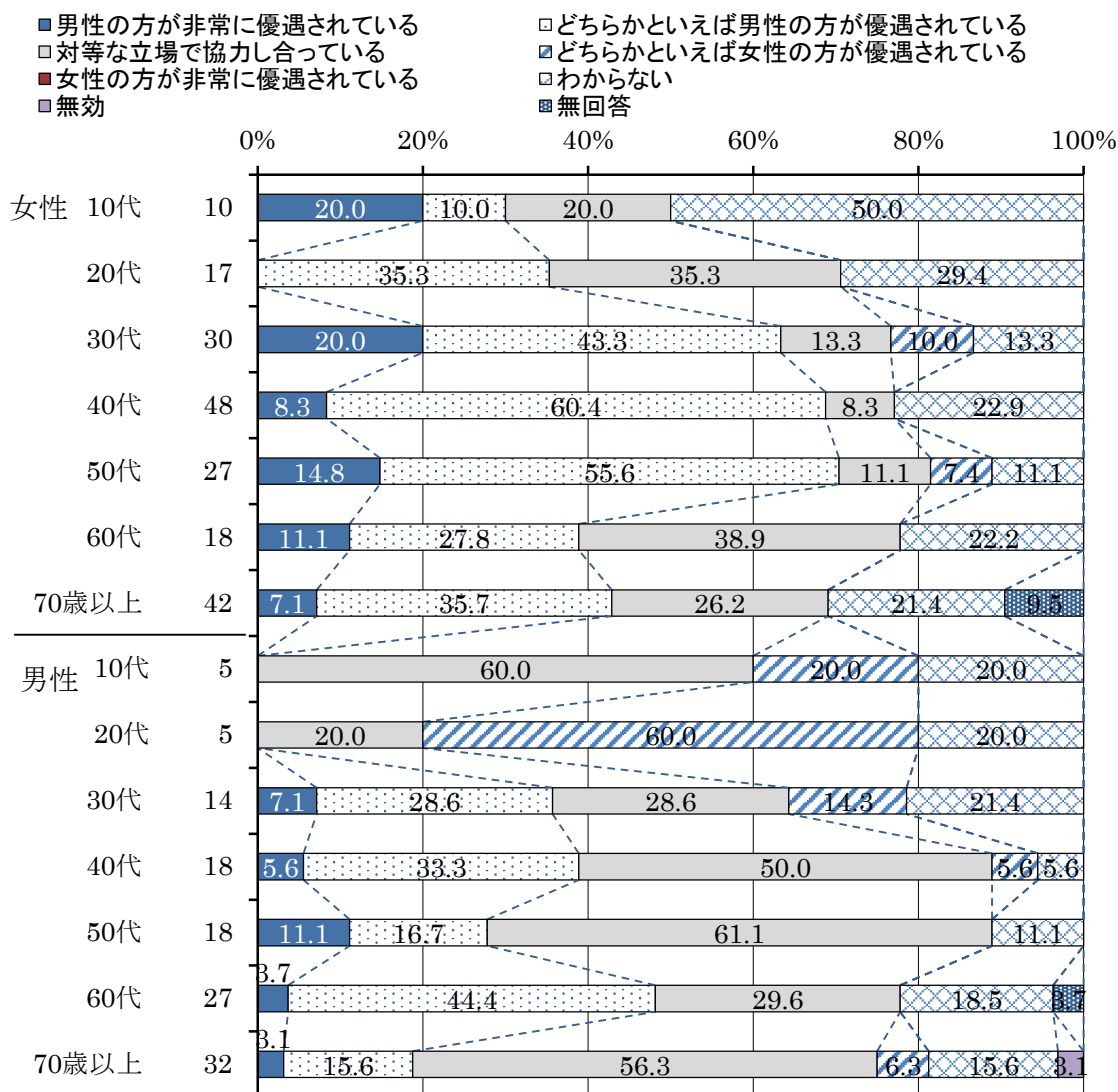


図 男女別年齢別「法律や制度」での協力の状況



⑥ 社会通念・慣習

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が70.4%で、「対等の立場で協力し合っている」が12.2%となっています。

男女別では、女性で“男性が優遇されている”の割合は72.4%、と男性より高くなっています。
年齢別では、40代から60代で男女ともに“男性が優遇されている”が高い割合でした。

図 男女別「社会通念・慣習」での協力の状況

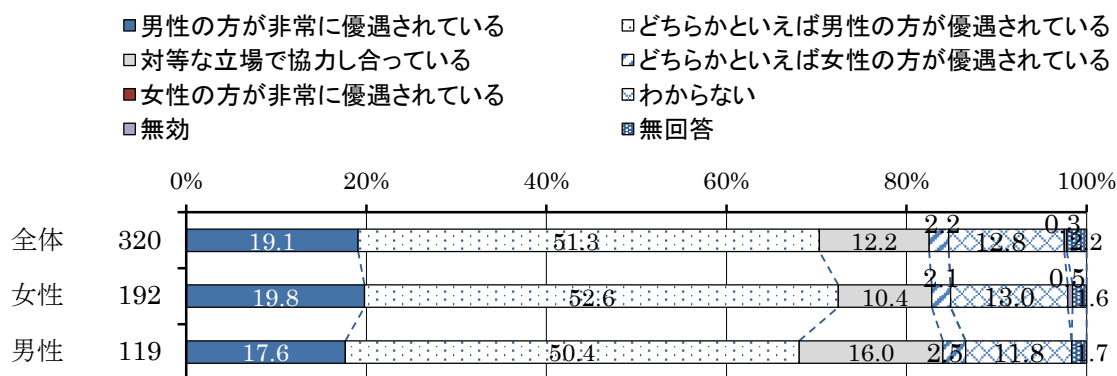
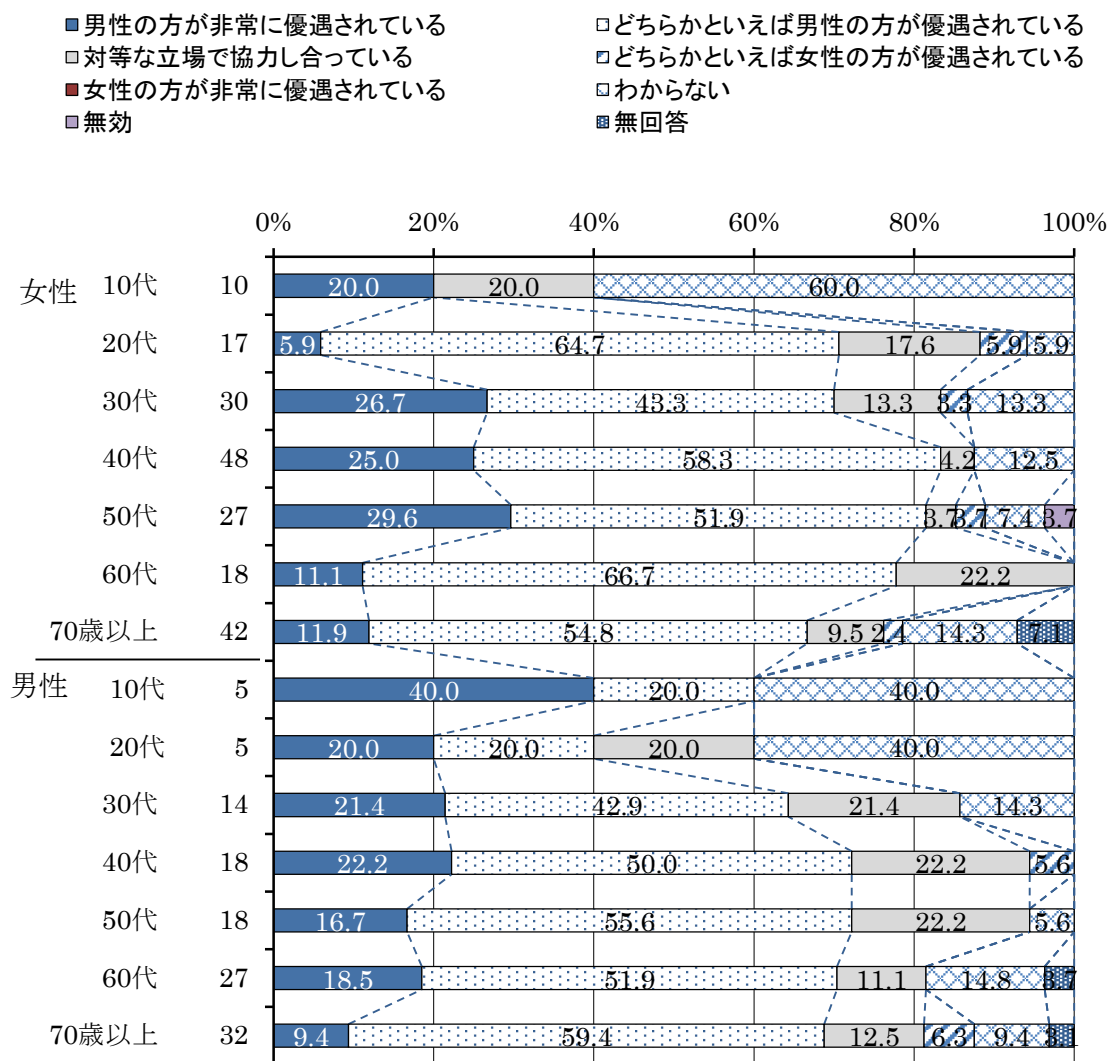


図 男女別年代別「社会通念・慣習」での協力の状況



⑦ 政治

全体では、「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた“男性が優遇されている”と感じている人の割合が76.6%で、「対等の立場で協力し合っている」が9.7%となっています。

男女別では、女性では“男性が優遇されている”の割合は81.2%と男性と比べて高くなっています。

年齢別では、70代以上女性、20代と60代・70代以上男性で“男性が優遇されている”の割合がやや低くなりました。

図 男女別「政治」での協力の状況

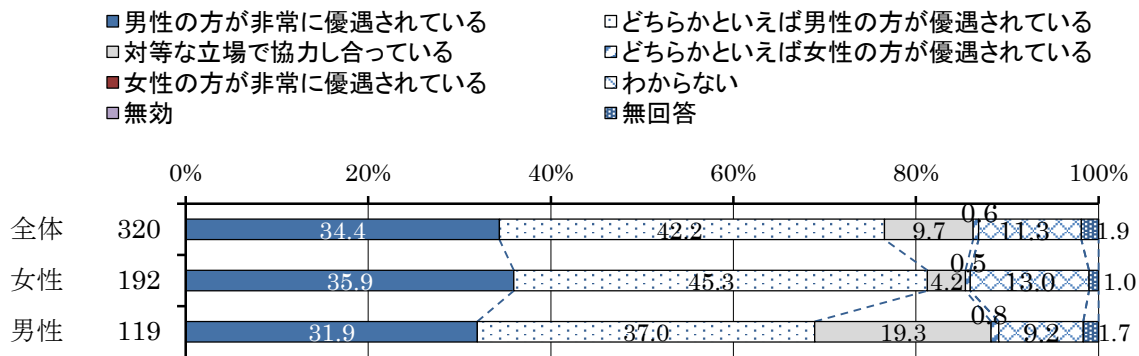
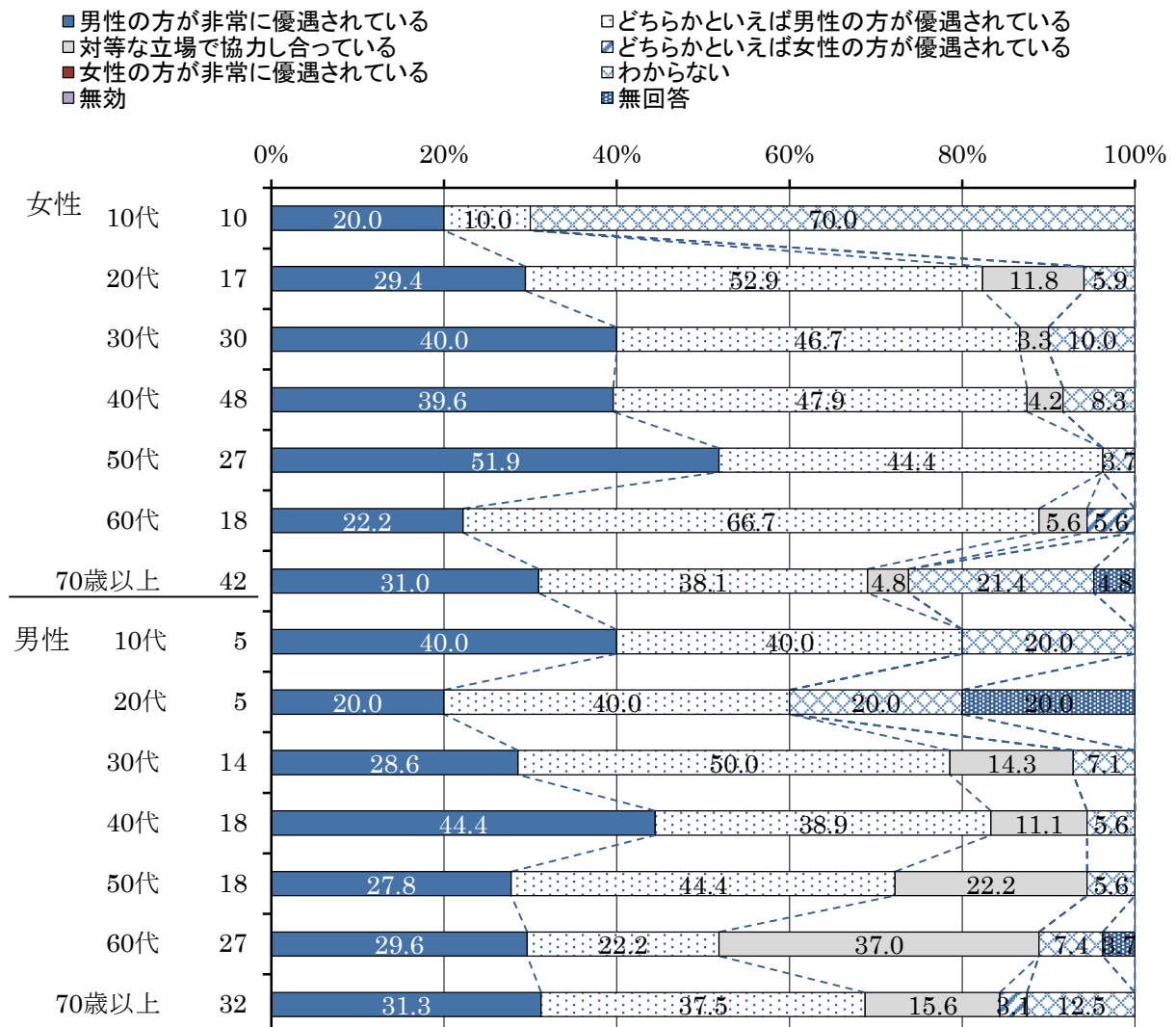


図 男女別年代別「政治」での協力の状況



2 家庭生活、育児、介護等について

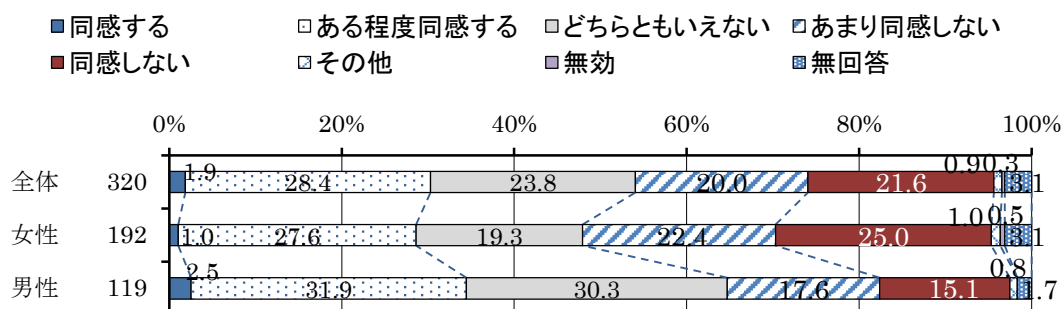
問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。（〇は1つ）

全体では、「同感する」1.9%、「ある程度同感する」28.4%で、計30.3%が“同感する”と感じています。前回の調査の同数字44.9%と比べ、大幅に減少しました。他方、「あまり同感しない」20.0%、「同感しない」21.6%で、計41.6%が、“同感しない”という回答で、“同感する”を上回りました。

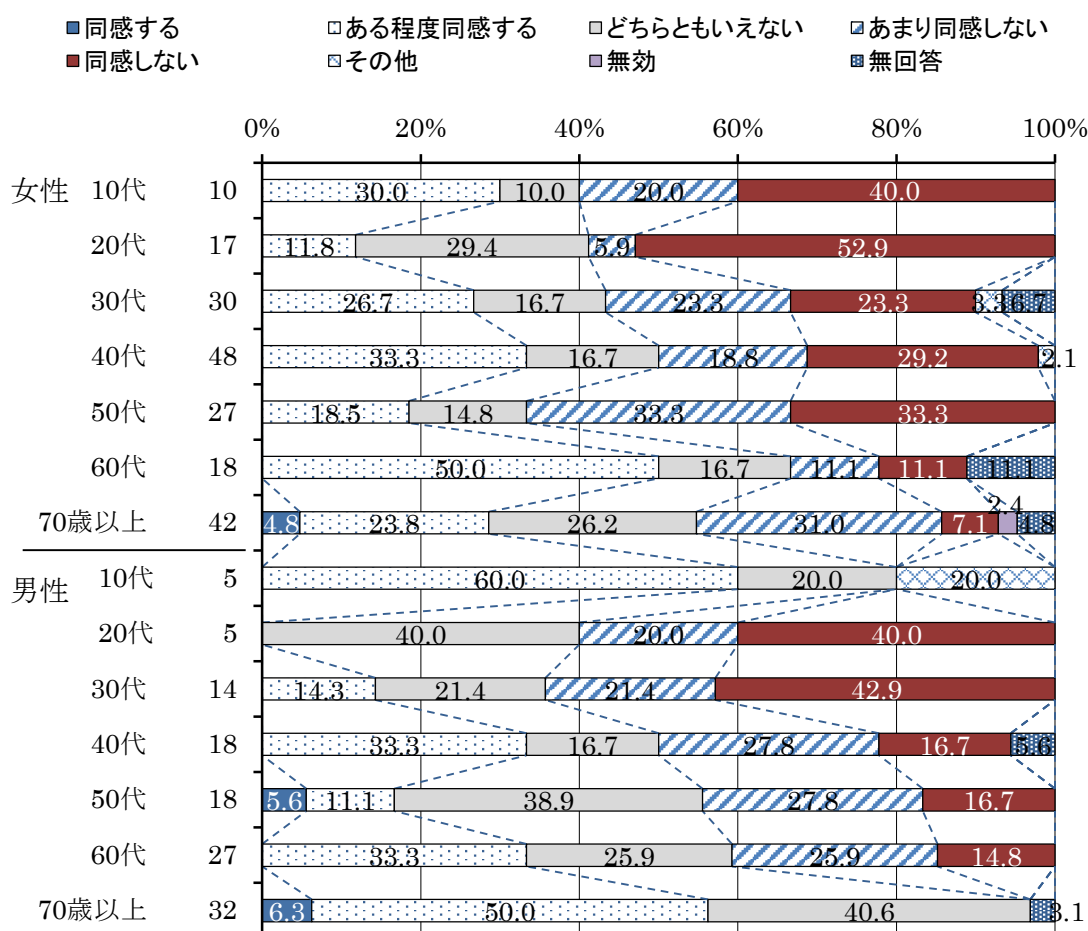
男女別では、“同感する”の割合は、女性28.6%、男性34.4%と、男性の方が高くなっています。

年齢別では、60代女性と、10代と70代以上男性で“同感する”の割合が高くなりました。

図 男女別 「男は仕事、女は家庭」についての考え方について



男女別 年代別「男は仕事、女は家庭」についての考え方について



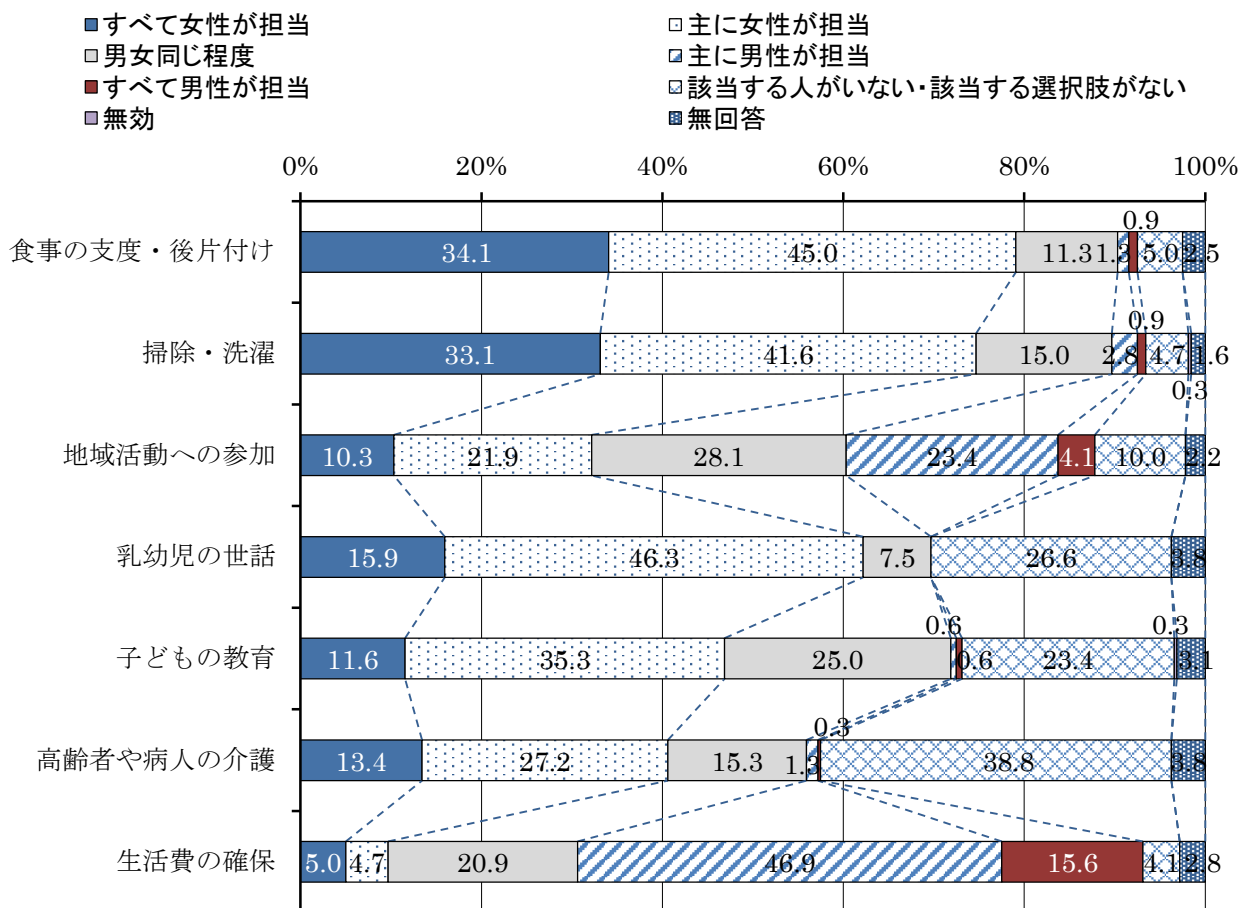
問4 あなたのご家庭での男女の役割について、現状をお答えください。また、理想をお答えください。
(①から⑦でそれぞれ1つに○)

「すべて女性が担当」「主に女性が担当」を合計した“女性が担当”の割合が高いものとして、食事の支度・後片付け 79.1%、掃除・洗濯 74.7%、乳幼児の世話 62.2%があります。

これは、前回調査では、食事 85.4%、掃除・洗濯 81.6%であり、これらは“女性が担当”する割合が減少し、乳幼児の世話（前回：47.1%）は、増加しました。ただし、「該当する人がいない」「無回答」「無効」の比率が前回と大きく異なるため、単純に比較はできません。

逆に、「すべて男性が担当」「主に男性が担当」を合計した“男性が担当”の割合が高いものとしては、生活費の確保 62.5%があります。前回の数値では 66.5%で、やや減少しました。

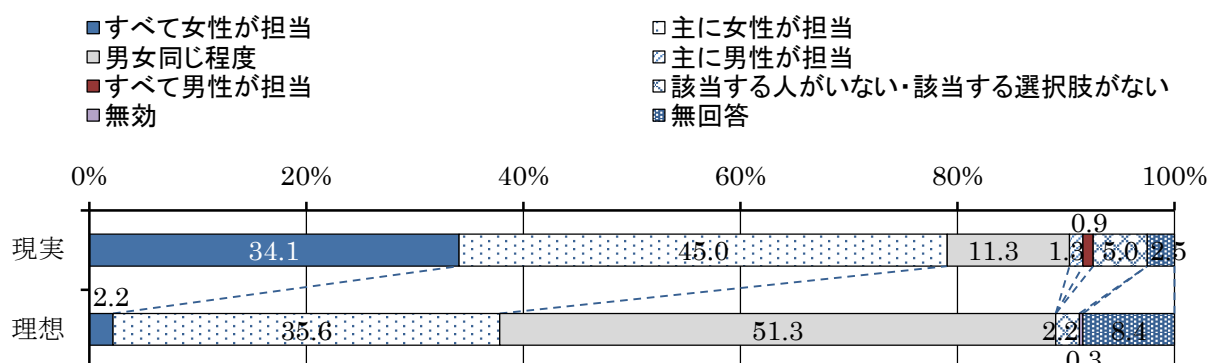
図 家庭での男女の役割 [現状]



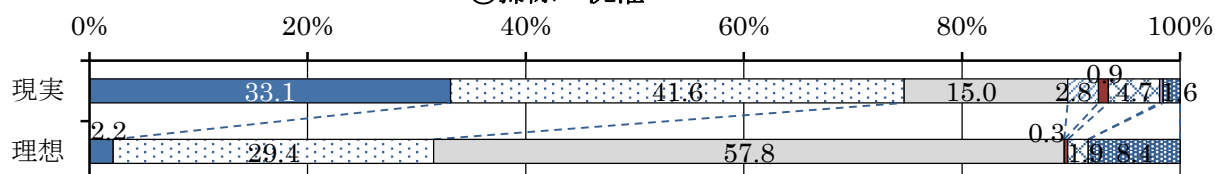
(1) 現実と理想の比較

各項目の男女の役割の「理想」については、「男女ともに同じ程度」という答えが多く、特に多いものとしては、地域活動への参加 69.7%、子どもの教育 64.7%、高齢者や病人の介護 59.7%がありました。「男女ともに同じ程度」の比率がやや低いものとしては、生活費の確保 45.3%、乳幼児の世話 46.3%があり、生活費の確保では、“男性が担当”が 38.7%、乳幼児の世話では“女性が担当”が 28.1%を占めました。

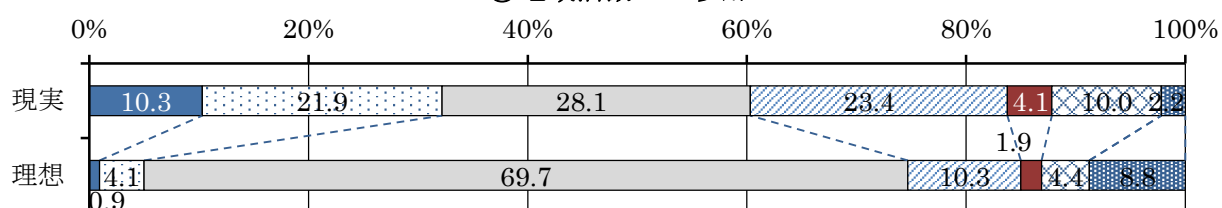
①食事の支度・後片付け



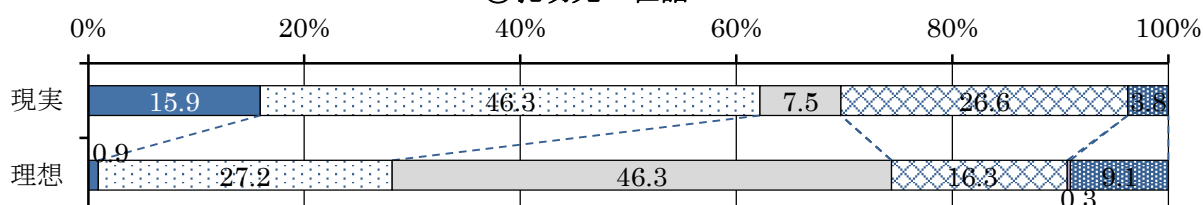
②掃除・洗濯



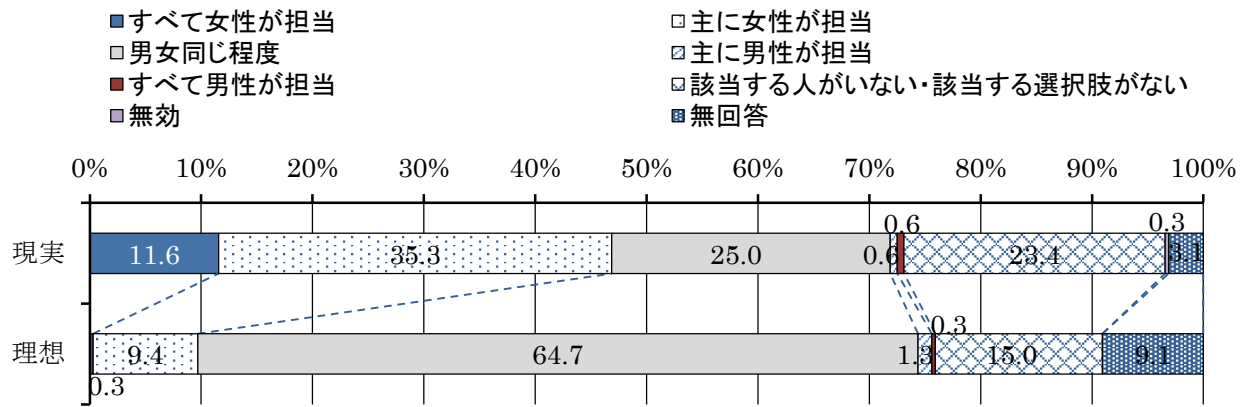
③地域活動への参加



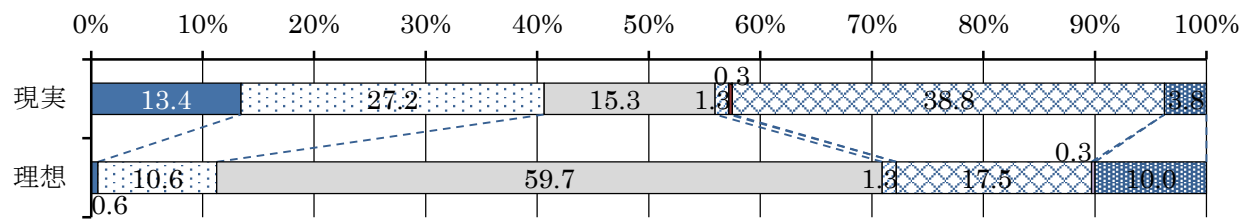
④乳幼児の世話



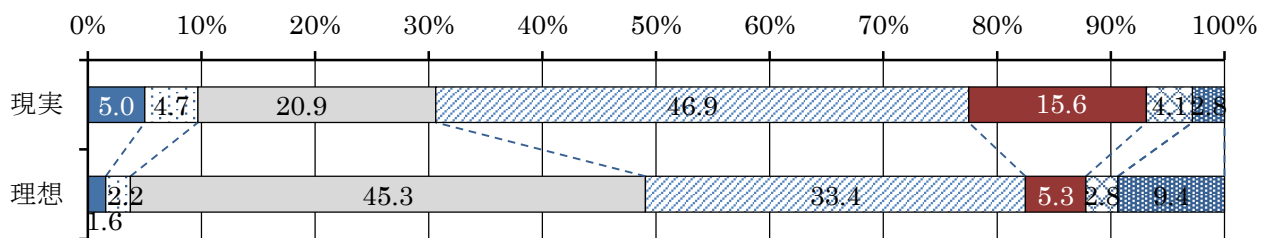
⑤子どもの教育



⑥高齢者や病人の介護



⑦生活費の確保



(2) 男女別

現実で“女性が担当”しているという回答で、男女別の差異が大きな項目として、掃除・洗濯（女性 78.6%、男性 68.9%）、地域活動への参加（女性 40.6%、男性 21.0%）、高齢者や病人の介護（女性 45.8%、男性 32.7%）がありました。実態と認識に差が存在する可能性も考えられます。

理想については、「男女ともに同じ程度」の回答が、男性に多いものとして、地域活動への参加（男性 74.8%、女性 68.2%）、乳幼児の世話（男性 51.3%、女性 43.2%）、「掃除・洗濯」（男性 61.3%、女性 56.8%）があります。その他は、男女別の差異はあまり大きくありませんでした。

表 男女別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位：%

		①食事の支度・後片付け								
		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
女性	現実	100.0	38.7	41.3	11.3	0.7	0.0	5.3	0.0	2.7
	理想	100.0	1.3	34.7	54.0	0.0	0.0	4.0	0.0	6.0
男性	現実	100.0	18.4	55.2	12.6	3.4	2.3	6.9	0.0	1.1
	理想	100.0	1.1	35.6	52.9	0.0	0.0	0.0	1.1	9.2
		②掃除・洗濯								
女性	現実	100.0	41.1	37.5	13.5	2.1	0.0	4.2	0.0	1.6
	理想	100.0	3.6	30.2	56.8	0.0	0.0	3.1	0.0	6.3
男性	現実	100.0	20.2	48.7	17.6	4.2	2.5	5.9	0.8	0.0
	理想	100.0	0.0	27.7	61.3	0.0	0.8	0.0	0.0	10.1
		③地域活動への参加								
女性	現実	100.0	15.6	25.0	26.0	18.8	2.1	10.4	0.0	2.1
	理想	100.0	1.6	4.2	68.2	12.5	2.1	5.2	0.0	6.3
男性	現実	100.0	2.5	18.5	31.1	30.3	7.6	9.2	0.0	0.8
	理想	100.0	0.0	4.2	74.8	5.9	1.7	2.5	0.0	10.9
		④乳幼児の世話								
女性	現実	100.0	17.7	42.7	7.3	0.0	0.0	29.2	0.0	3.1
	理想	100.0	0.5	29.2	43.2	0.0	0.0	20.3	0.5	6.3
男性	現実	100.0	11.8	54.6	7.6	0.0	0.0	22.7	0.0	3.4
	理想	100.0	0.8	25.2	51.3	0.0	0.0	10.9	0.0	11.8

表 男女別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位：％

⑤子どもの教育										
		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
女性	現実	100.0	15.1	32.8	22.9	1.0	0.0	25.0	0.5	2.6
	理想	100.0	0.5	9.4	64.1	2.1	0.5	17.2	0.0	6.3
男性	現実	100.0	5.9	39.5	28.6	0.0	1.7	21.8	0.0	2.5
	理想	100.0	0.0	9.2	66.4	0.0	0.0	12.6	0.0	11.8
⑥高齢者や病人の介護										
女性	現実	100.0	17.7	28.1	11.5	0.5	0.0	39.1	0.0	3.1
	理想	100.0	0.5	11.5	59.9	1.6	0.0	19.3	0.0	7.3
男性	現実	100.0	5.0	27.7	21.0	2.5	0.8	39.5	0.0	3.4
	理想	100.0	0.8	8.4	60.5	0.8	0.0	16.0	0.8	12.6
⑦生活費の確保										
女性	現実	100.0	6.8	6.3	21.4	45.8	13.5	3.6	0.0	2.6
	理想	100.0	2.1	3.6	45.3	34.4	3.6	4.2	0.0	6.8
男性	現実	100.0	2.5	2.5	21.0	47.9	19.3	5.0	0.0	1.7
	理想	100.0	0.8	0.0	45.4	33.6	7.6	0.8	0.0	11.8

(3)同居家族別（抜粋）

④乳幼児の世話については、現実で“女性が担当”しているという回答は、「小学生入学前の子どもがいる」家庭で88.1%と大変高く、「小学生以上の子どもがいる」家庭で74.6%でした。いずれも理想は、「男女同じ程度」が高く、各々64.3%、48.2%でした。

⑤子どもの教育については、現実で“女性が担当”しているという回答は、「小学生入学前の子どもがいる」家庭で59.5%、「小学生以上の子どもがいる」家庭で60.0%です。また、いずれも理想は、「男女同じ程度」が高く、各々78.6%、76.4%です。

現実と理想の隔たりが大きい状況になっています。

表 同居家族別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位 : %

④乳幼児の世話										
同居家族		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
全体	現実	320	15.9	46.3	7.5	0.0	0.0	26.6	0.0	3.8
	理想	320	0.9	27.2	46.3	0.0	0.0	16.3	0.3	9.1
子ども(小学校入学前)	現実	42	7.1	81.0	11.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	理想	42	0.0	31.0	64.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8
子ども(小学生以上)	現実	110	19.1	55.5	10.0	0.0	0.0	14.5	0.0	0.9
	理想	110	0.9	36.4	48.2	0.0	0.0	9.1	0.0	5.5

表 同居家族別 家庭での男女の役割 現実と理想

単位 : %

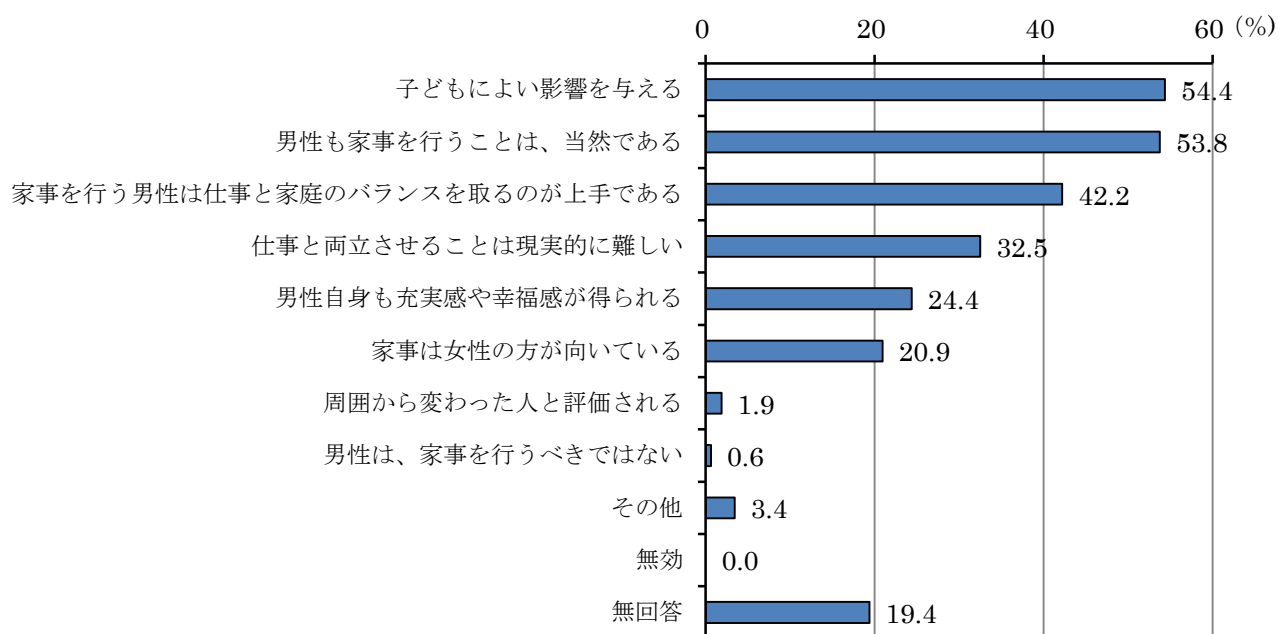
⑤子どもの教育										
同居家族		回答数	すべて女性が担当	主に女性が担当	男女同じ程度	主に男性が担当	すべて男性が担当	該当する人がいない・該当する選択肢がない	無効	無回答
全体	現実	320	11.6	35.3	25.0	0.6	0.6	23.4	0.3	3.1
	理想	320	0.3	9.4	64.7	1.3	0.3	15.0	0.0	9.1
子ども(小学校入学前)	現実	42	7.1	52.4	38.1	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0
	理想	42	0.0	11.9	78.6	2.4	0.0	2.4	0.0	4.8
子ども(小学生以上)	現実	110	12.7	47.3	28.2	0.9	1.8	9.1	0.0	0.0
	理想	110	0.9	8.2	76.4	2.7	0.0	6.4	0.0	5.5

問5 あなたは、男性が家事を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。
(〇は3つまで)

「子どもにより影響を与える」54.4%、「男性も家事を行うことは、当然である」53.8%、「家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である」42.2%と、肯定的にとらえる回答が多く、「周囲から変わった人と評価される」1.9%、「男性は、家事を行うべきではない」0.6%といった否定的なイメージはわずかでした。

他方で、「仕事と両立させることは現実的に難しい」32.5%といった回答も一定程度あります。

図 男性が家事を行うことのイメージ



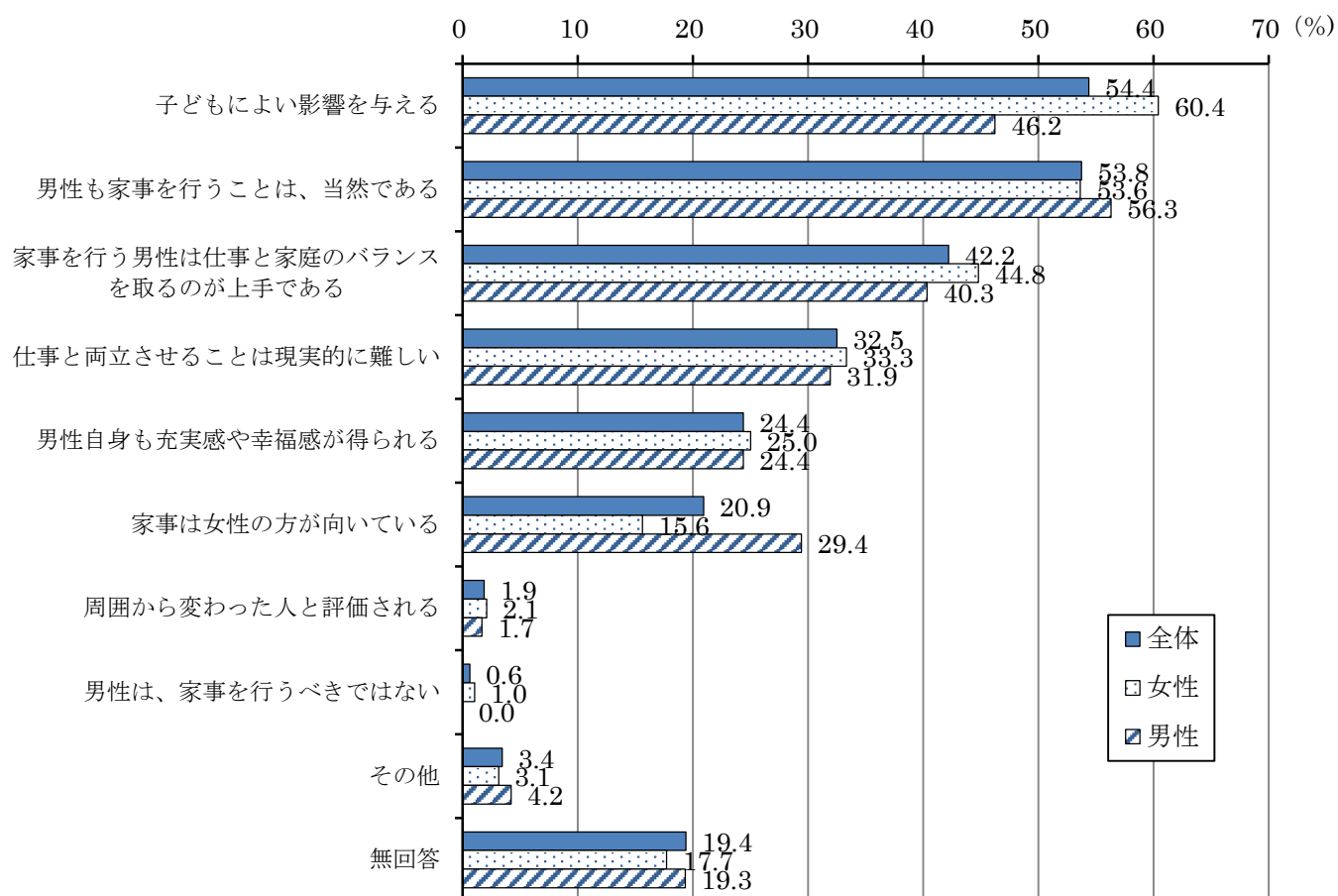
●その他回答

- ・ お互いに良く相談して時間的に都合の良い方が担当する。
- ・ それぞれ向き・不向きがあるので”家事”と規定するのは現実的ではない
- ・ 時間的に厳しい面も多少なりともあるが、手の空いた時などコミュニケーションをとるという点においても家事をするのが最適だと思う。
- ・ 男性も家事をする事によって独居生活を強いられた時困らない。
- ・ なんとも思わない。
- ・ 女性も家事が得意な人とは限らない。得意な人（性別関係なく）がやるといい
- ・ 家事を行うことが全ではない。あたり前の思想であるべき
- ・ すべての文章に付いて家庭に男性が居ない、女性だけの家庭の為、現実的にすべてが難しい問題である
- ・ 男性もした方がいい
- ・ 困った時、手を借り、時々台所に立つのは良い事です。
- ・ 女性である、事が（以下解説不明）

(1) 男女別

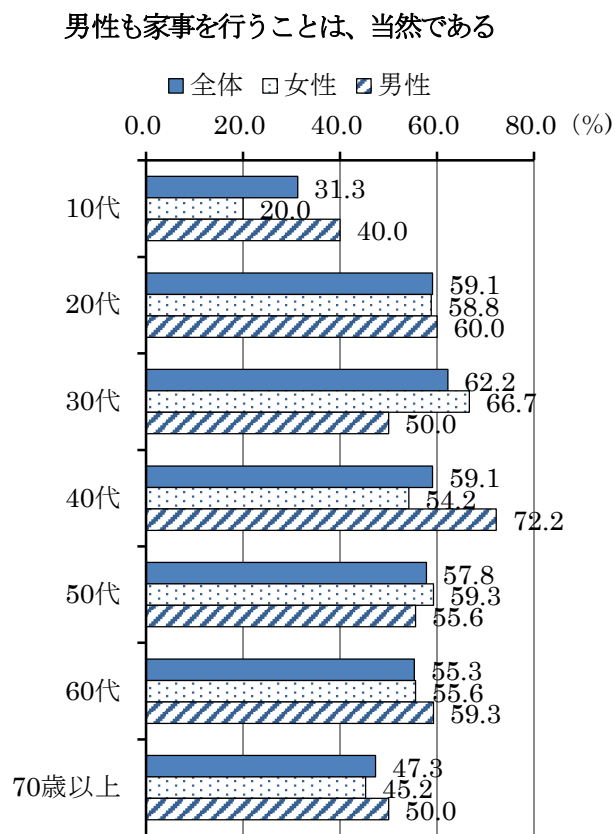
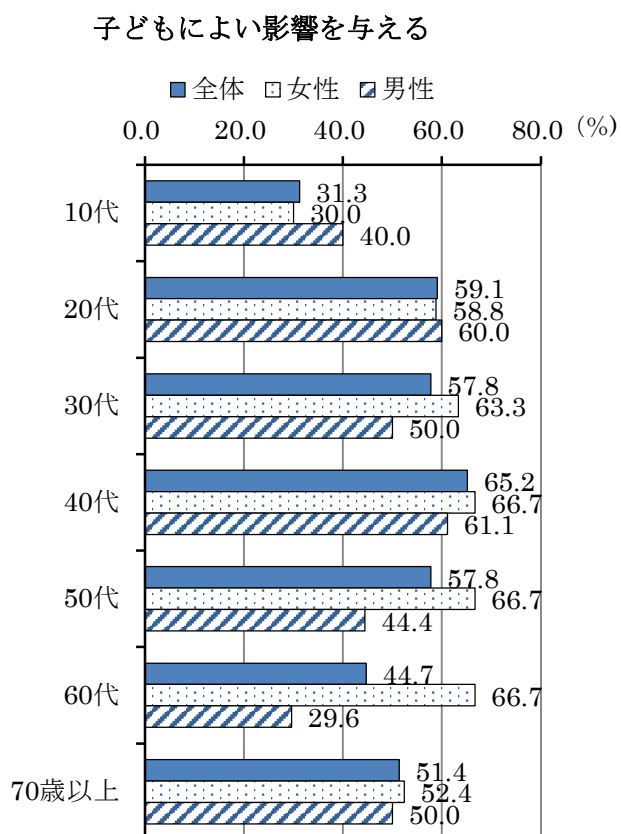
男女別で回答の差異が大きなものとして、「子どもにより影響を与える」は女性が男性に比べて割合が高く（女性 60.4%、男性 46.2%）、逆に、「家事は女性の方が向いている」は男性が女性に比べて割合が高く（女性 15.6%、男性 29.4%）になりました。

図 男女別 男性が家事を行うことのイメージ

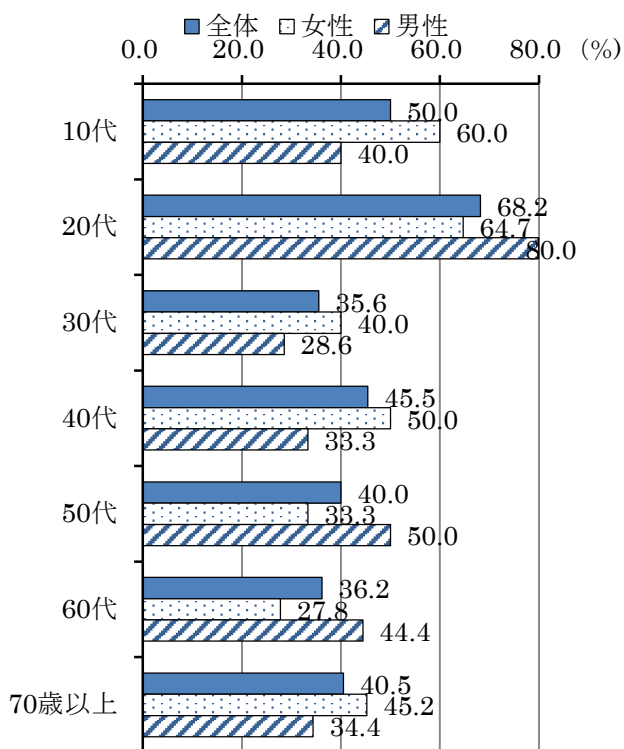


(2) 男女別・年代別

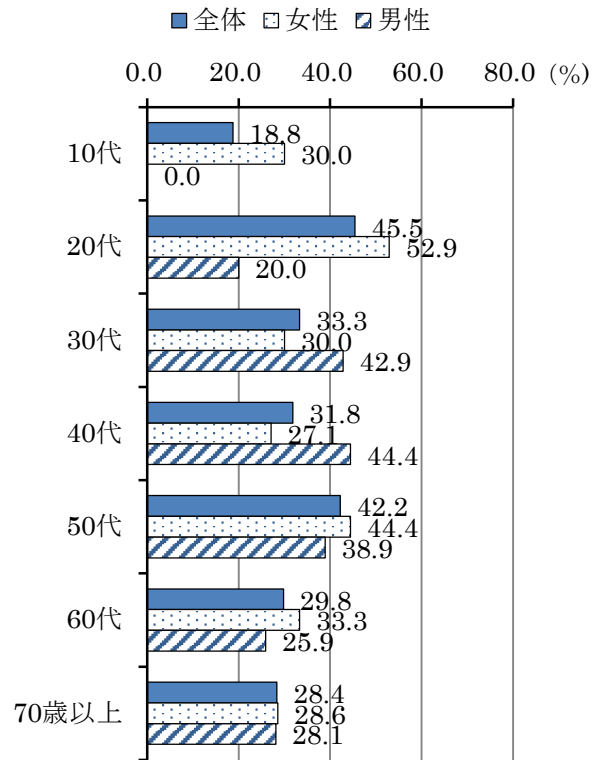
- ・「子どもにより影響を与える」は、20代~40代で男女ともに高く、50代・60代では女性が男性に比べて高くなりました。
- ・「男性も家事を行うことは、当然である」は、10代では低い割合になりました。
- ・「家事を行う男性は仕事と家庭のバランス取るのが上手である」は、10代、20代で高い数値になっており、また、30代・40代では女性で比較的高く、50代・60代では男性で高くなっています。
- ・「仕事と両立させることは現実的に難しい」は、20代女性が52.9%と特に高く、30代40代では男性が、50代では男女ともに高く40%前後となりました。
- ・「男性自身も充実感や幸福感が得られる」は、60代で男女ともに高い傾向がみられました。
- ・「家事は女性の方が向いている」は、60代・70代以上で高く、特に70代以上男性では46.9%にのびりました。



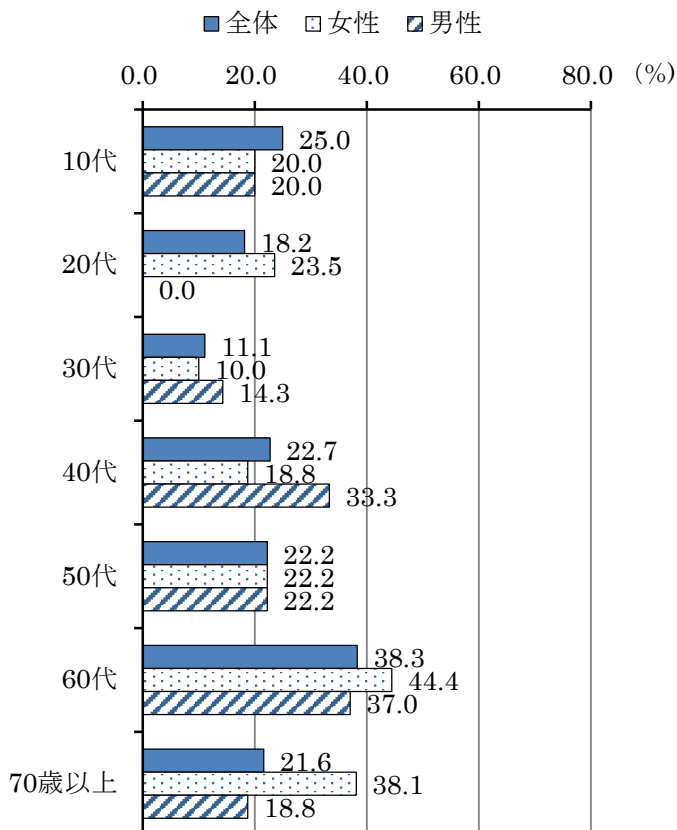
家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である



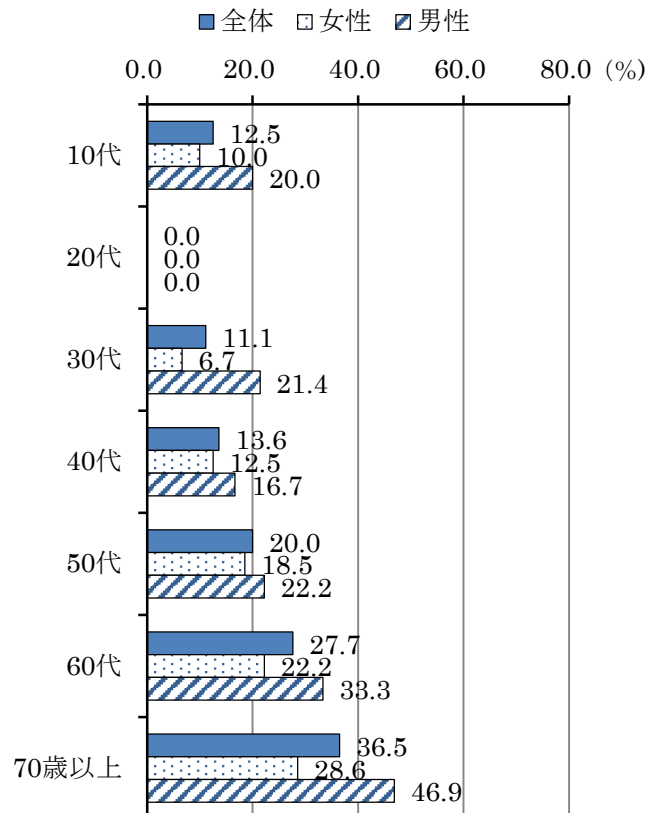
仕事と両立させることは現実的に難しい



男性自身も充実感や幸福感が得られる



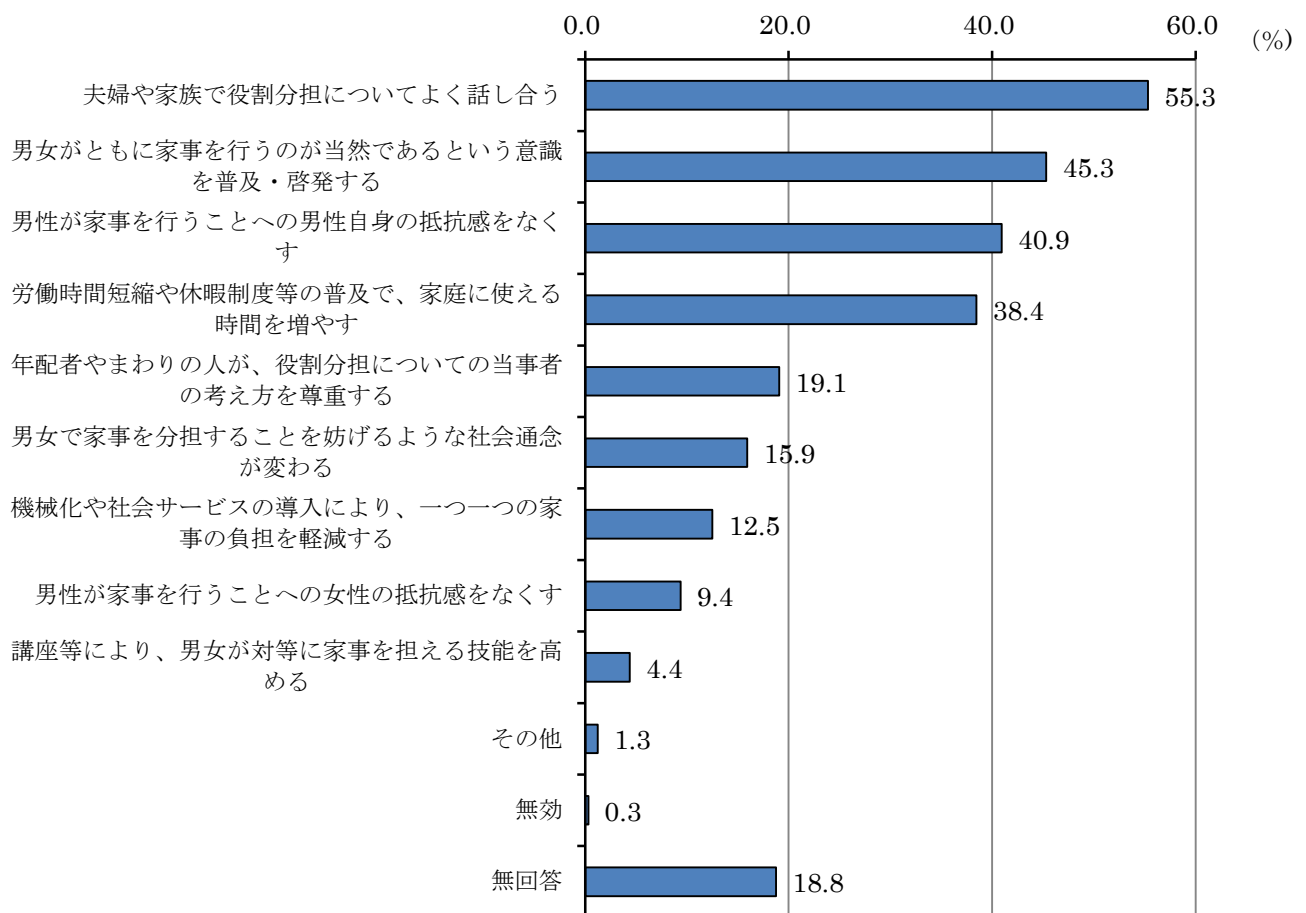
家事は女性の方が向いている



**問6 家庭の中での、炊事、洗濯、掃除などの家事を男女がともに担うために必要だと思うことは何ですか。
(〇は3つまで)**

「夫婦や家族で役割分担についてよく話し合う」55.3%、「男女がともに家事を行うのが当然であるという意識を普及・啓発する」45.3%、「男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす」40.9%、「労働時間短縮や休暇制度等の普及で、家庭に使える時間を増やす」38.4%が上位にあがりました。

図 家事の男女分担のために必要だと思うこと



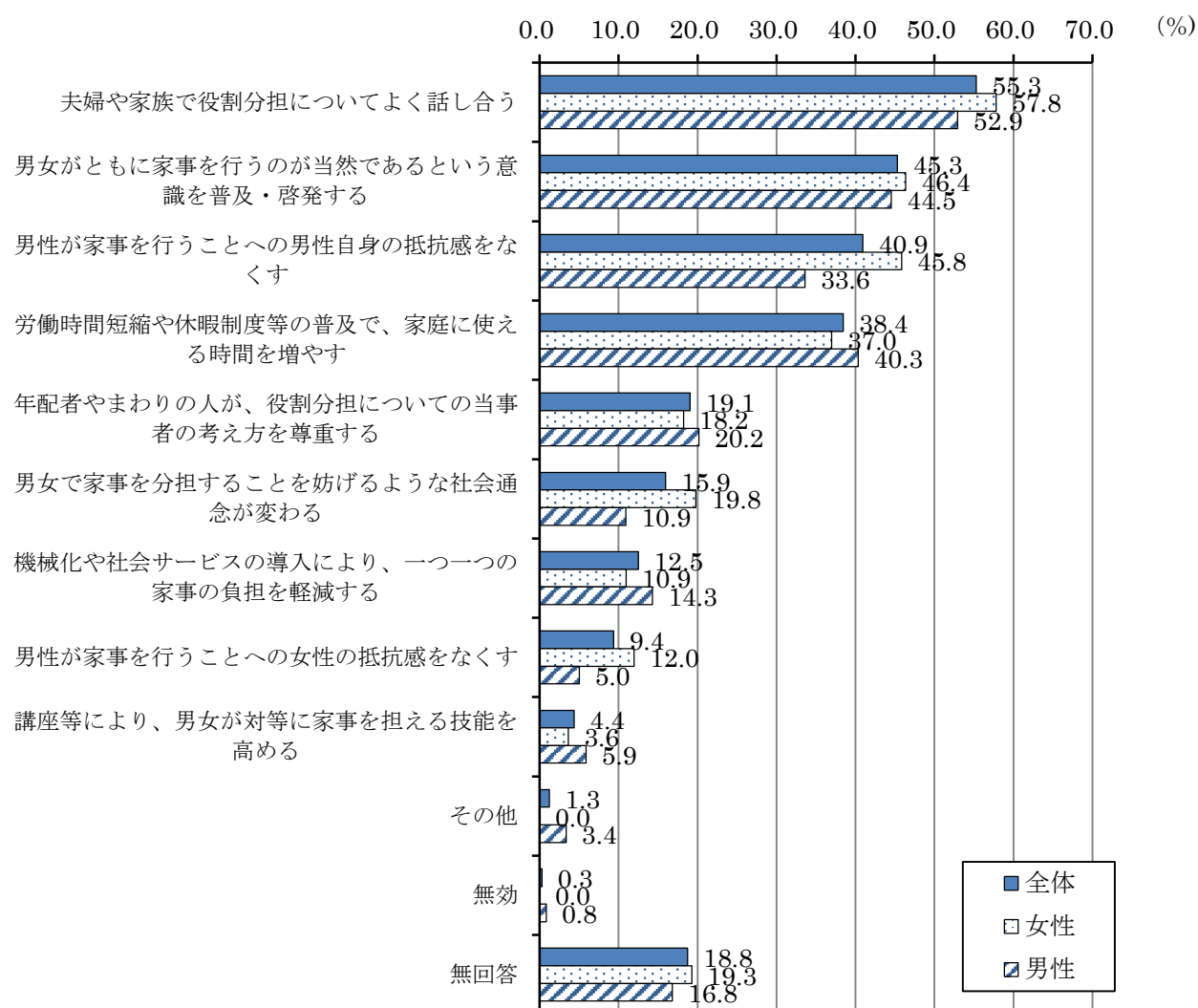
●その他回答

- ・相手による！
- ・正社員、パートを男女入れ換えても収入が変わらないか、それ以上の社会
- ・どちらか得意な事をやる 例. 炊事→男 そうじ→女 洗たく→女
- ・男性のやり方を女性がある程度認め、文句を言わない

(1) 男女別

男女別の差異が大きな項目として、「男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす」(女性 45.8%、男性 33.6%)、「男女で家事を分担することを妨げるような社会通念が変わる」(女性 19.8%、男性 10.9%)があります。

図 男女別 家事の男女分担のために必要だと思うこと

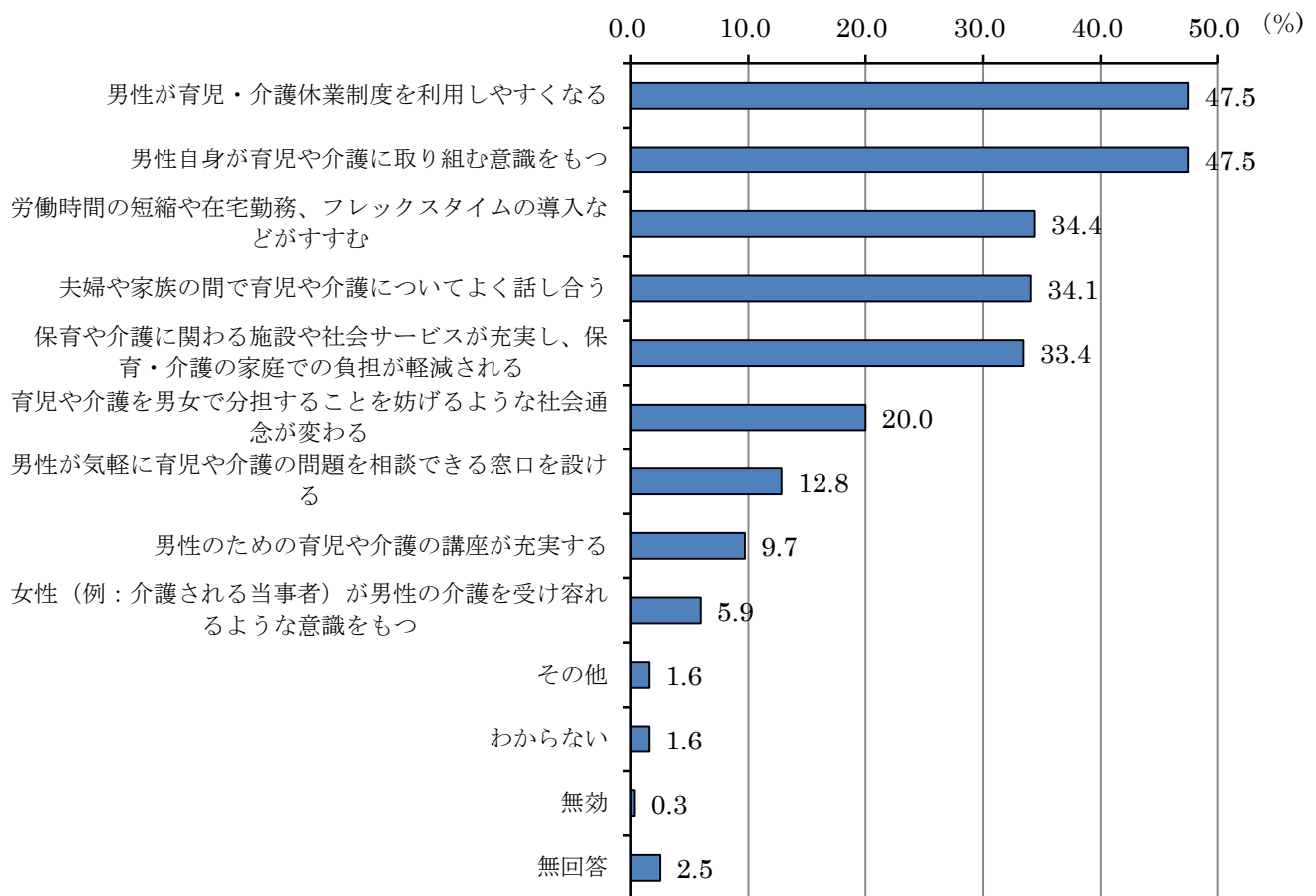


**問7 男性と女性がともに育児や介護に参加していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。
(〇は3つまで)**

「男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる」「男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ」がともに47.5%と最も多く、次いで、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ」34.4%、「夫婦や家族の間に育児や介護についてよく話し合う」34.1%、「保育や介護に関わる施設や社会サービスが充実し、保育・介護の家庭での負担が軽減される」33.4%となりました。

前回調査では、育児に特化した形で尋ねていますが、「男性自身が育児に取り組む意識を持つ」が56.9%、「男性が育児休業制度を利用しやすくなる」49.7%、「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」42.5%であり、社会通念が変化してきている状況がうかがえます。そして、当事者意識や家族間の話し合い等の主体側の努力と共に、職場環境や社会サービスの充実などの環境整備が重要視されています。

図 男女ともに育児・介護に参加するために重要なこと



●その他回答

- ・育児や介護中に収入があれば男性も参加すると思う
- ・時間の自由に関係しない給料、会社の体制（子供の病気等）
- ・子供を育てる時期、男性は会社で1番仕事が多くなり責任ある仕事が多くなる。経けんから子育て期間の女性の育児休かをもっと充実するほうが、子供のためになる
- ・育児が全ではない。それはもちろん仕事もしっかりやっていることが前提。
- ・生涯現役志向で介護負担の少ない社会の実現

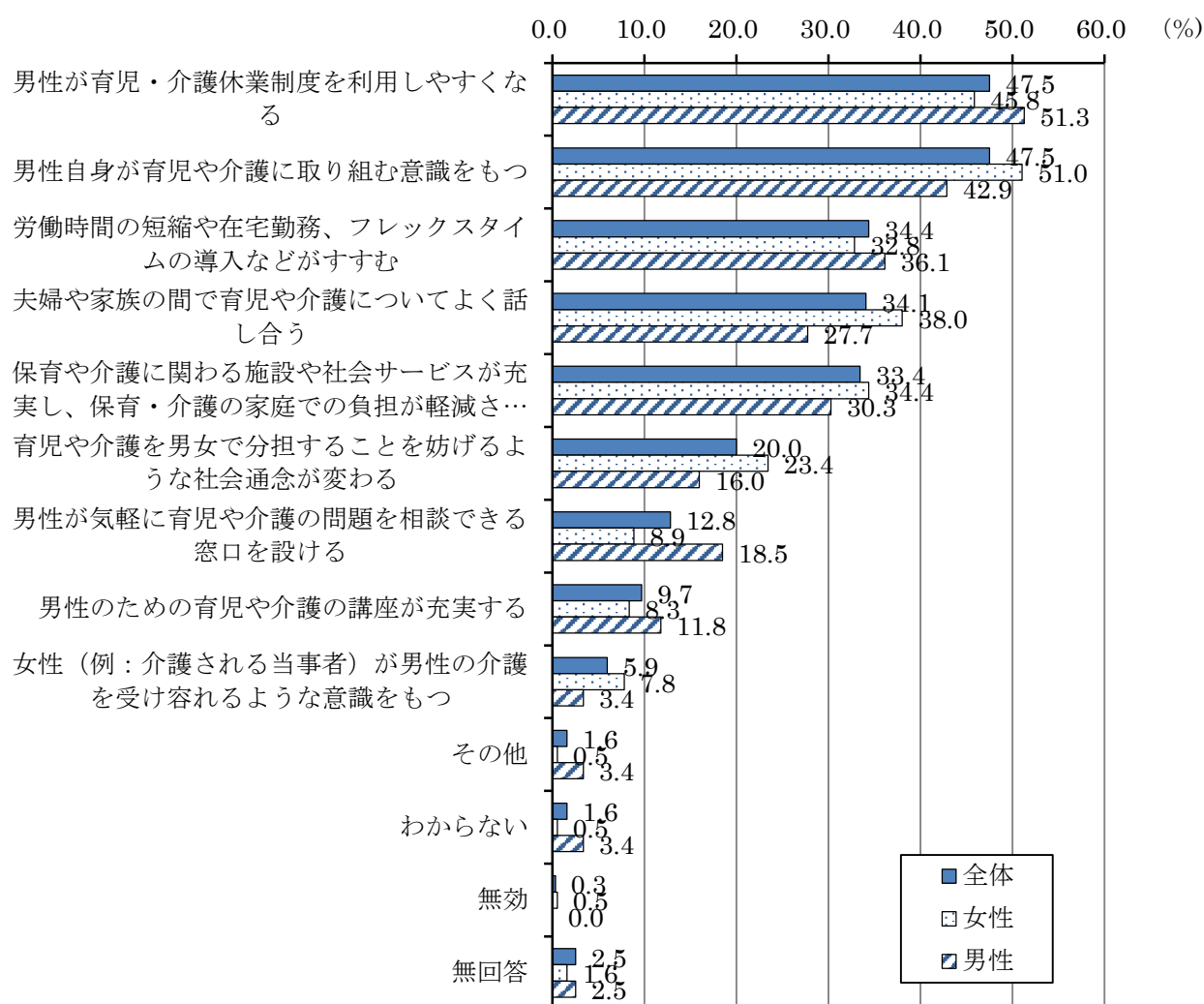
(1) 男女別

男女別の差異が大きな項目で、女性が男性に比べ高かったのは、「男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ」(女性 51.0%、男性 42.9%)、「夫婦や家族の間に育児や介護についてよく話し合う」(女性 38.0%、男性 27.7%) でした。

他方、男性が女性と比べて高かったのは、「男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる」(女性 45.8%、男性 51.3%)、「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ」(女性 32.8%、男性 36.1%) で、環境改善を重要視する傾向がみられました。

また、「男性が気軽に育児や介護の問題を相談できる窓口を設ける」(女性 8.9%、男性 18.5%) は、男性にとっての重要度の高さがうかがえました。

図 男女別 男女ともに育児・介護に参加するために重要なこと

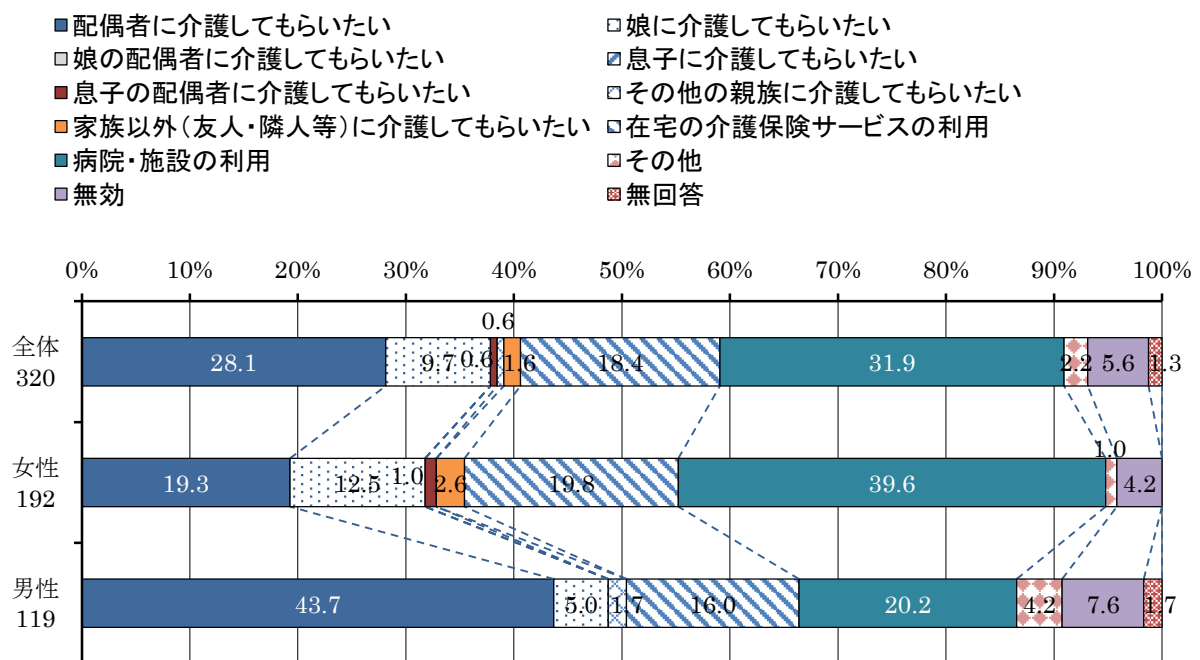


問8 将来、自分の老後の介護が必要になったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。（〇は1つ）

全体では、「病院や施設の利用」31.9%が最も多く、「配偶者による介護」28.1%、「在宅の介護保険サービスの利用」18.4%、「娘による介護」9.7%という順になりました。

男女別では、「病院や施設の利用」は女性39.6%、男性20.2%と、女性の方が大幅に高くなっています。一方、「配偶者による介護」は、女性では19.3%と「在宅の介護保険サービスの利用」19.8%を下回ったのに対し、男性では43.7%と非常に高い割合を占めました。また、「娘による介護」は、女性12.5%、男性5.0%と女性の意向がより高くなっています。

図 男女別 老後の介護をしてもらいたい人

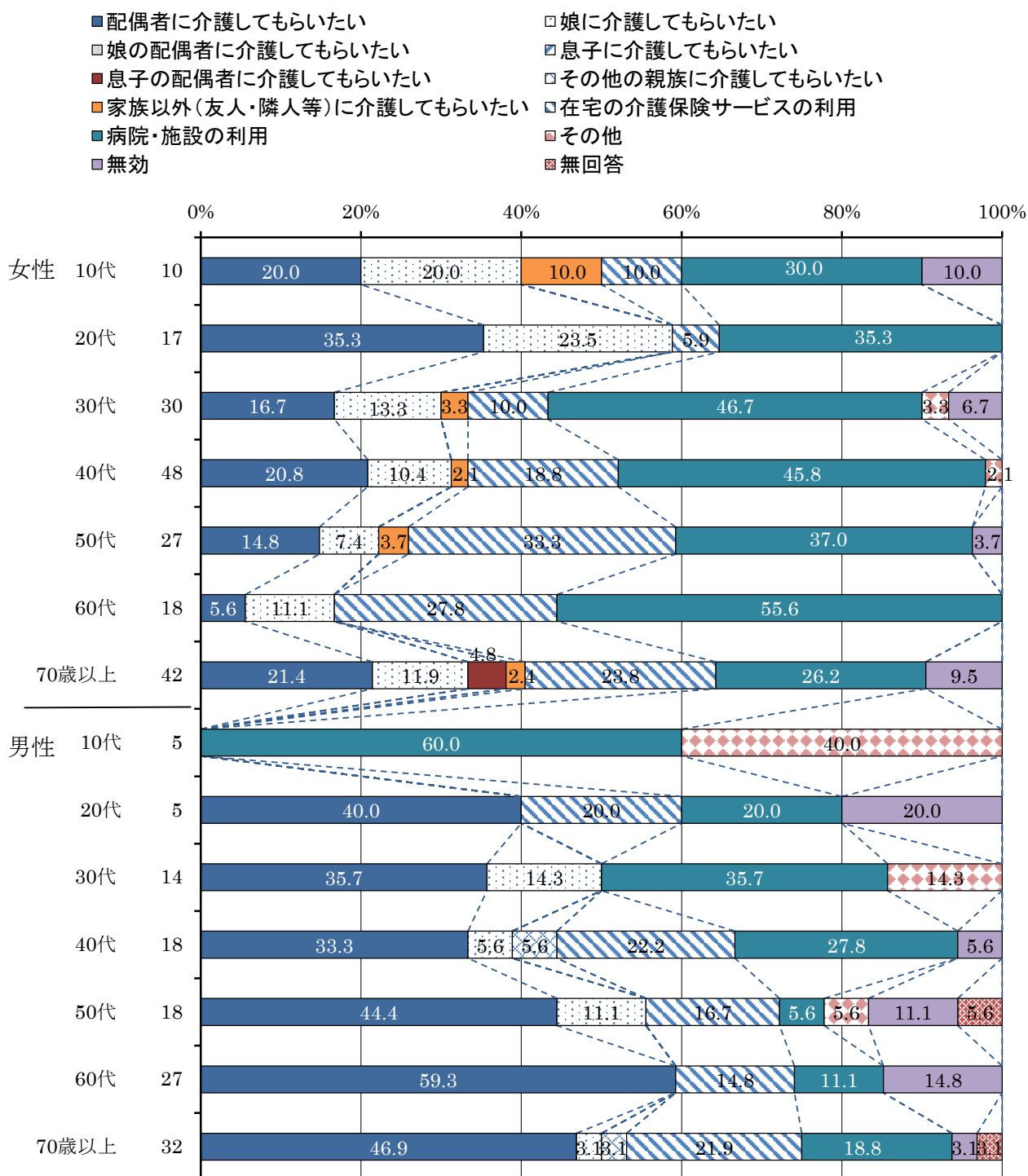


(1) 男女別・年代別

「病院・施設の利用」は、10代男性 60.0%が最も多く、ついで 60代女性 55.6%、30代と 40代女性で高い割合となりました。「配偶者による介護」は、20代～70代以上の男性全ての年代で最も多い回答ですが、特に 60代男性で 59.3%、70代以上男性 46.9%、50代男性 44.4%が高くなっています。

また、「在宅の介護保険サービス」は、50代女性で 33.3%と高く、60代女性 27.8%、70代以上女性 23.8%も比較的高い結果でした。また、70代以上男性も、21.9%にのびりました。

図 男女別 年代別 老後の介護をしてもらいたい人

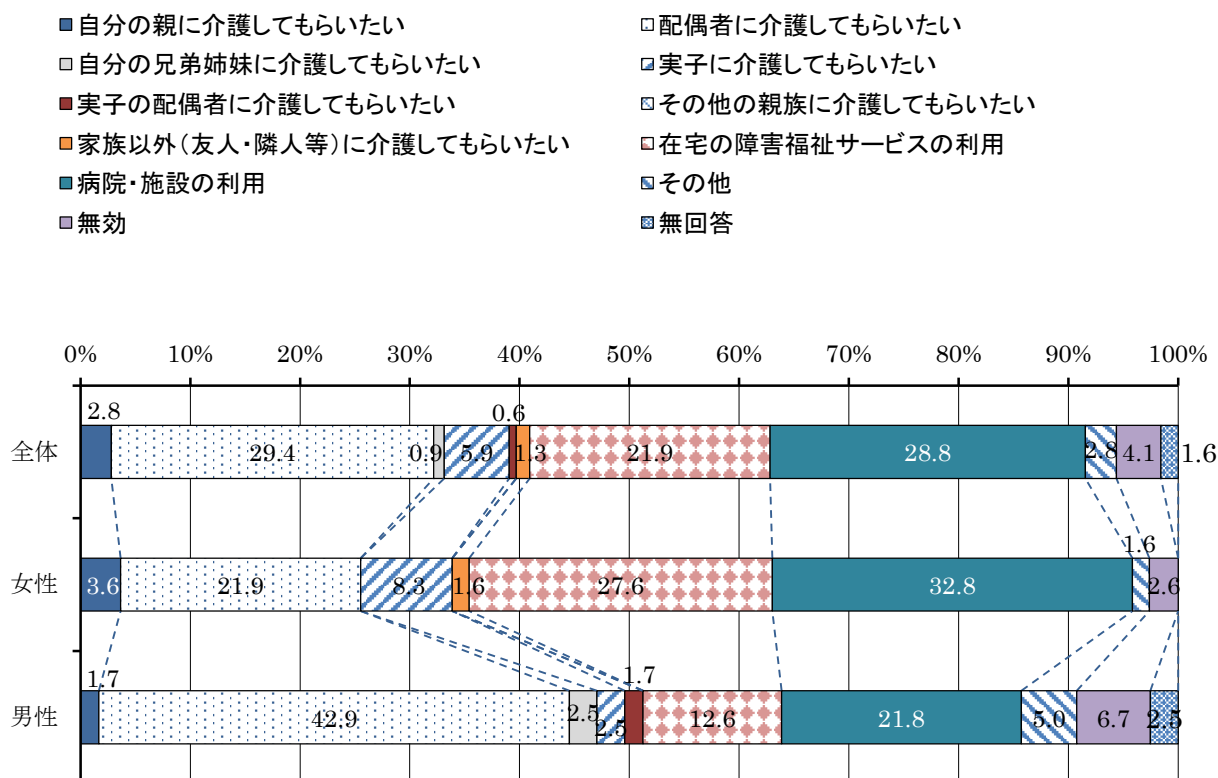


問9 自分が障害を負ったとき、主に誰に介護してもらいたいと思いますか。(〇は1つ)

全体では、「配偶者による介護」29.4%が最も多く、続いて「病院や施設の利用」28.8%、「在宅の障害福祉サービスの利用」21.9%、「実子による介護」5.9%という順になりました。

男女別では、「病院や施設の利用」は女性 32.8%、男性 21.8%と、女性の方が高く、「配偶者による介護」は、女性では 21.9%、男性 42.9%と、高齢時の介護と同様、男性では高い割合を占めています。また、「在宅の障害福祉サービスの利用」は女性で 27.6%、男性では 12.6%と女性で高い割合となりました。

図 男女別 障害を負ったとき介護してもらいたい人



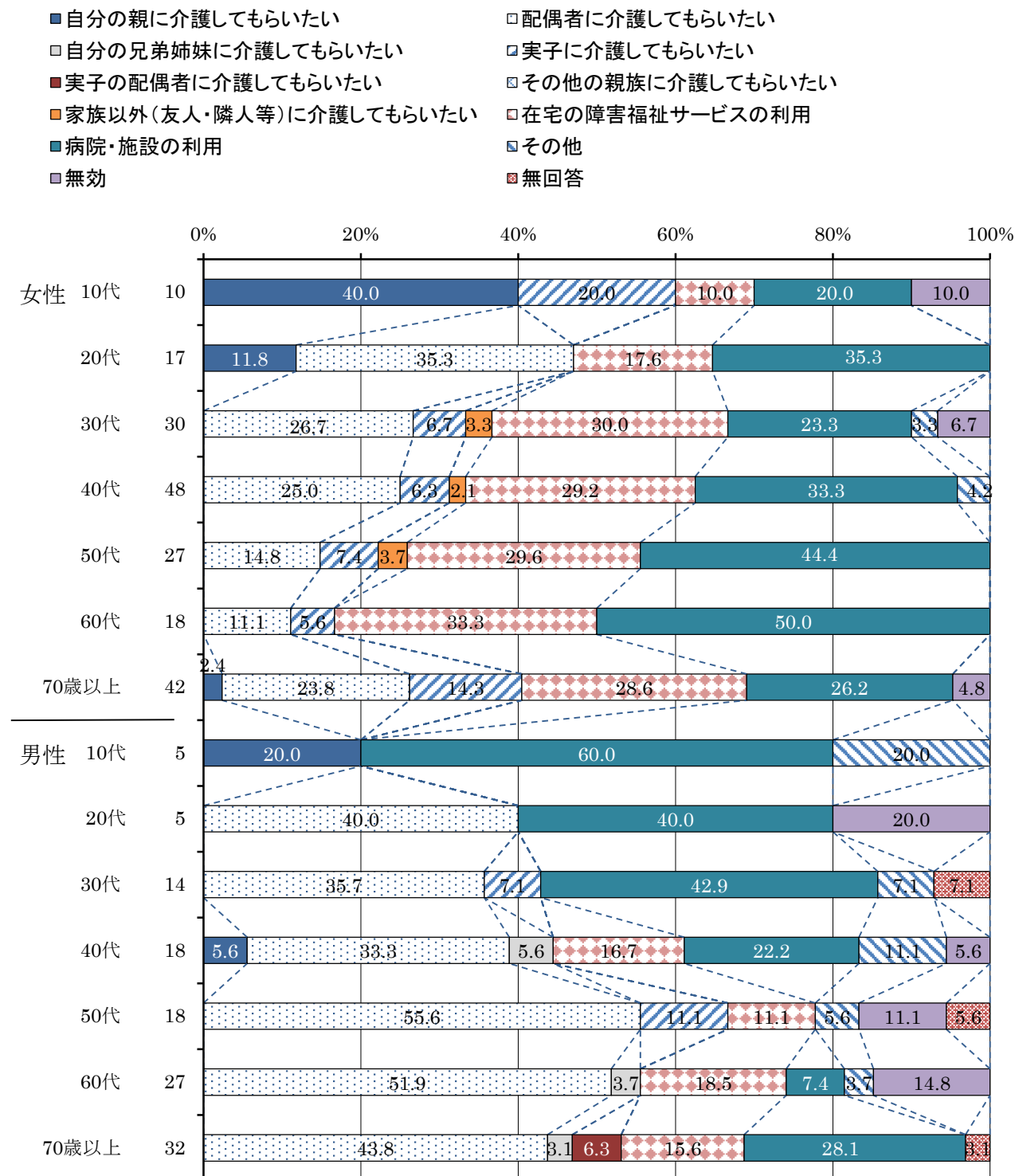
(1) 男女別・年代別

「病院・施設の利用」は、10代男性 60.0%が最も多く、ついで 60代女性 50.0%、50代女性で 44.4%となりましたが、加えて 30代男性 42.9%、20代男性 40.0%も高い数値となりました。

他方、「配偶者による介護」は、50代~70代の男性で高く、50代男性 55.6%、60代男性 51.9%、70代以上男性 43.8%となっています。

また、「在宅の介護保険サービス」は、60代女性で 33.3%と高く、30代~50代、及び 70代以上女性において 30%前後にのぼっています。

図 男女別 年代別 障害を負ったとき介護をしてもらいたい人



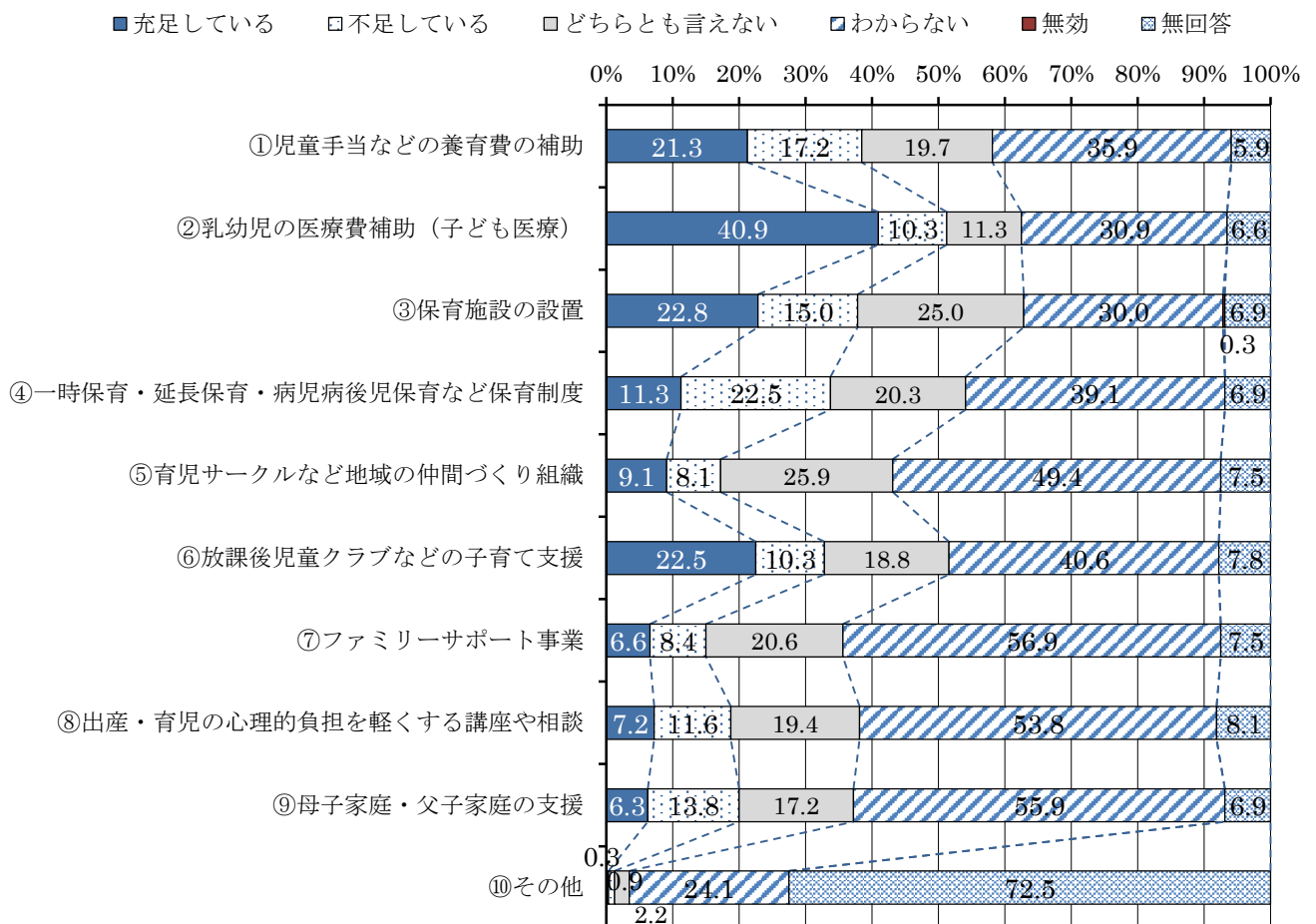
問 10 安心して子どもを産み育てるために、町が行っている事業に関する充足度についてお聞かせください。
(①から⑩でそれぞれ1つに○)

「充足している」の割合が高いものとして、「乳幼児の医療費制度」40.9%、「放課後児童クラブなどの子育て支援」22.5%があげられます。また、「保育施設の設置」22.8%「児童手当などの養育費の補助」21.3%は、「充足している」も一定程度ありますが、「不足している」が各々15.0%、17.2%であり、評価が分かれています。

「不足している」が最も高かったのが、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」22.5%でした（「充足している」は11.3%）。

また、「わからない」の回答が多いものとして、「ファミリーサポート事業」56.9%、「母子家庭・父子家庭の支援」55.9%、「出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談」53.8%があり、こうした事業の周知が進んでいない状況も存在します。

図 町が行う子育てに関する事業の充足度



●その他回答

- ・全部自分の責任
- ・多胎児支援と理解
- ・自分が調べてない事もあるが、何をしているのか知らない
- ・年令的にすべての内容が終了して居る為良くわからない
- ・①～⑨までのことをしらない
- ・子ども向けの行事
- ・育児休暇期間

(1) 男女別

「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」を除いて、女性が男性より「充足している」が高い傾向にあります。男女の差異が比較的大きいものとして、「放課後児童クラブなどの子育て支援」(女性 27.1%、男性 14.3%)、「児童手当などの養育費の補助」(女性 24.5%、男性 17.6%)がありました。また、いずれも男性の方が「不足している」の回答が高い結果が出ています。

逆に、「不足している」の割合が女性に高いものとして、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」があり、「不足している」の回答が女性 25.5%、男性 18.5%でした。

図 男女別 児童手当などの養育費の補助

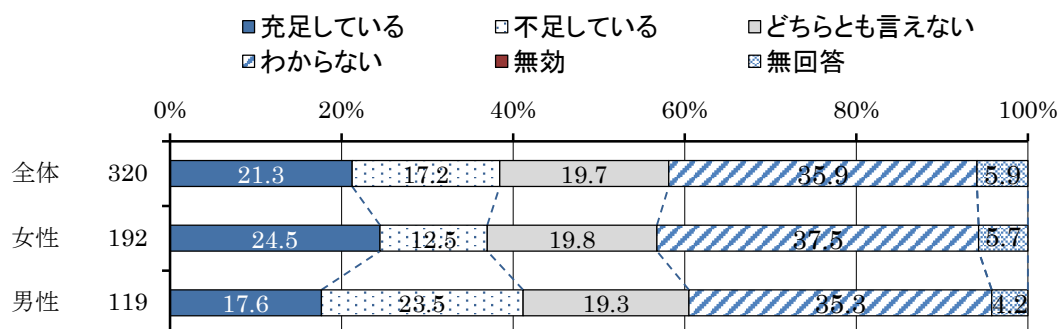


図 男女別 乳幼児の医療費補助(子ども医療)

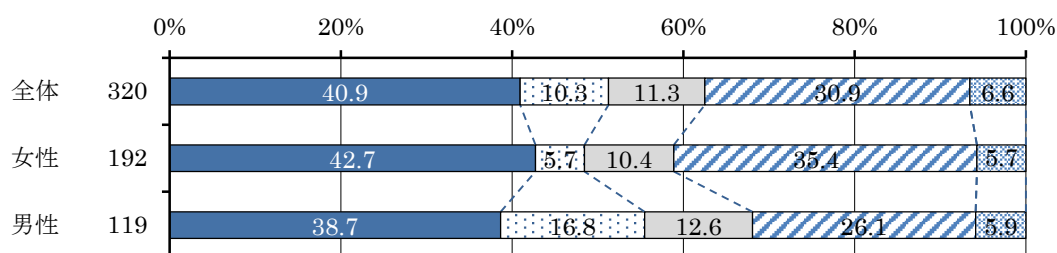


図 男女別 保育施設の設置

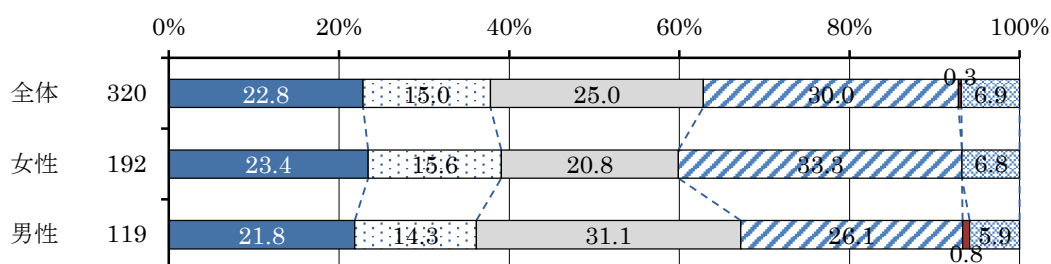


図 男女別 一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度

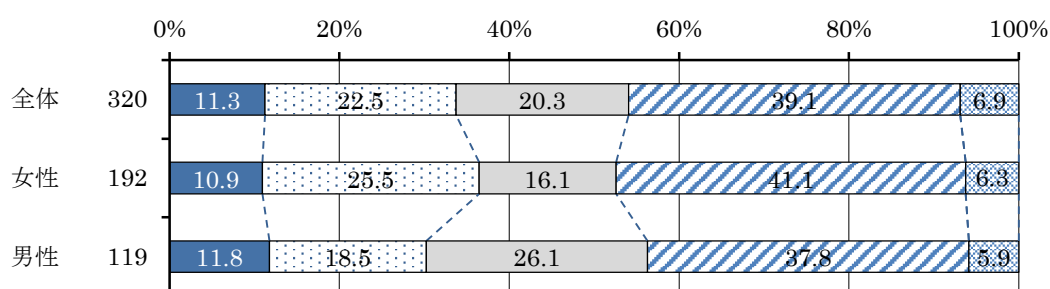


図 男女別 育児サークルなど地域の仲間づくり組織

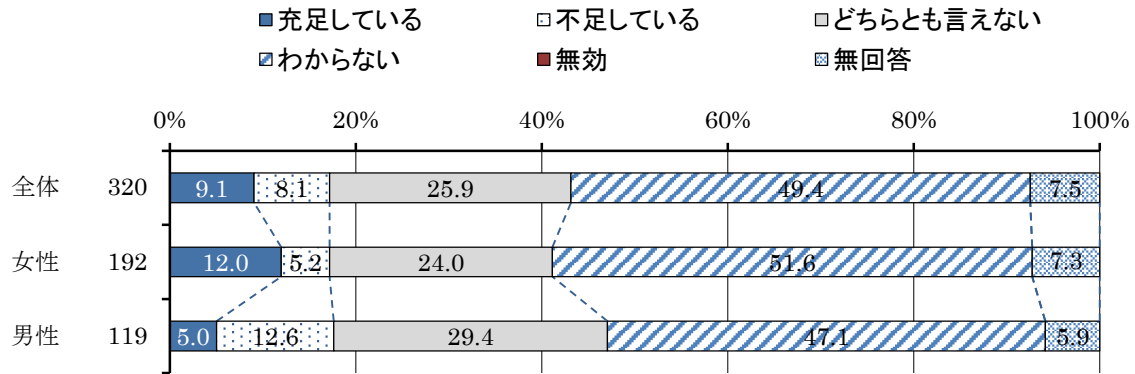


図 男女別 放課後児童クラブなどの子育て支援

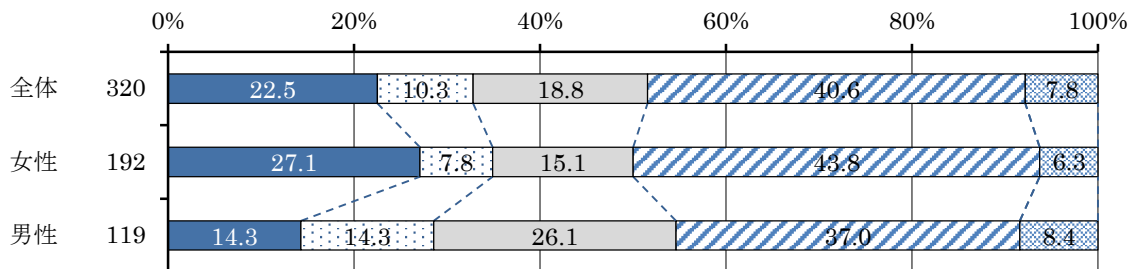


図 男女別 ファミリーサポート事業

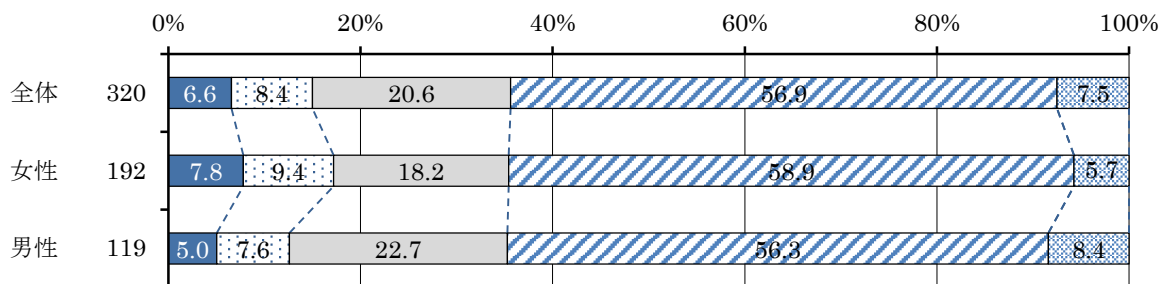


図 男女別 出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談

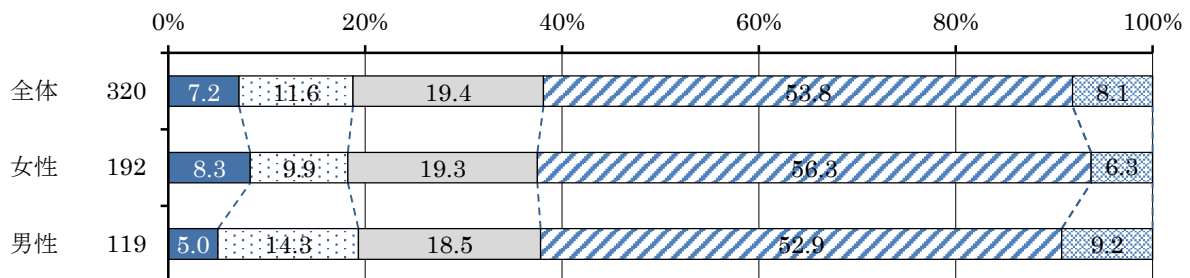
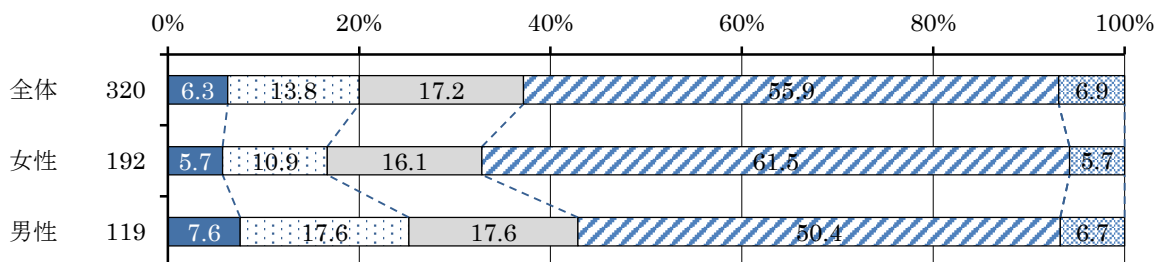


図 男女別 母子家庭・父子家庭の支援



(2) 同居家族別

全ての項目について、事業と関係が深い層で「充足している」が高くなりました。特に高いものとしては、「乳幼児の医療費補助」「児童手当などの養育費の補助」(いずれも「子ども(小学校入学前)」と暮らし層で各々85.7%、38.1%)があります。

他方、「不足している」の回答が高かったものとして、「一時保育・延長保育・病児病後児保育など保育制度」(「子ども(小学生入学前)」33.3%、「子ども(小学生以上)」27.3%)、「児童手当などの養育費の補助」各々33.3%、20.0%、「保育施設の設置」各々23.8%、13.6%、「出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談」各々23.8%、10.0%がありました。

図 同居家族別 児童手当などの養育費の補助

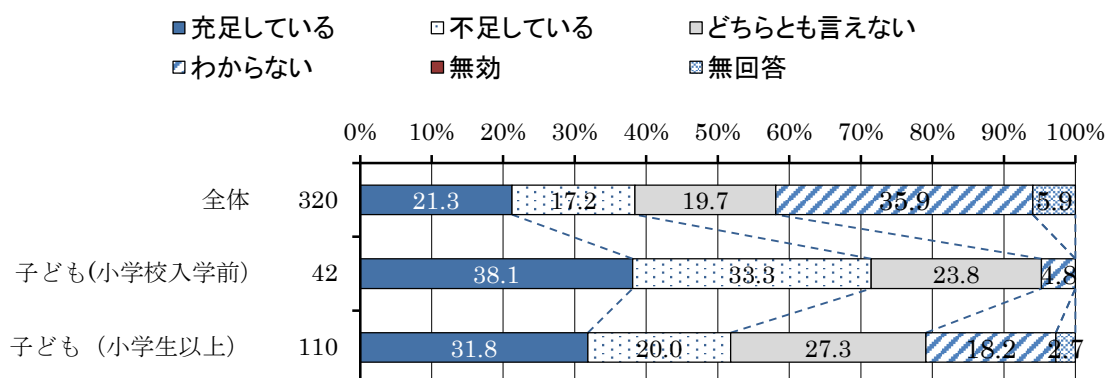


図 同居家族別 乳幼児の医療費補助(子ども医療)

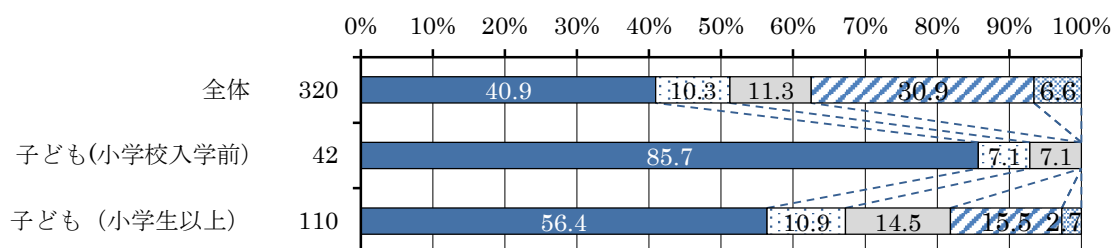


図 同居家族別 保育施設の設置

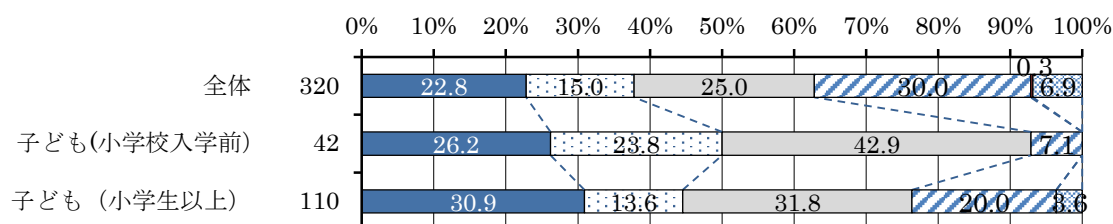


図 同居家族別 一時保育・延長保育・病児病後児保育など
保育制度

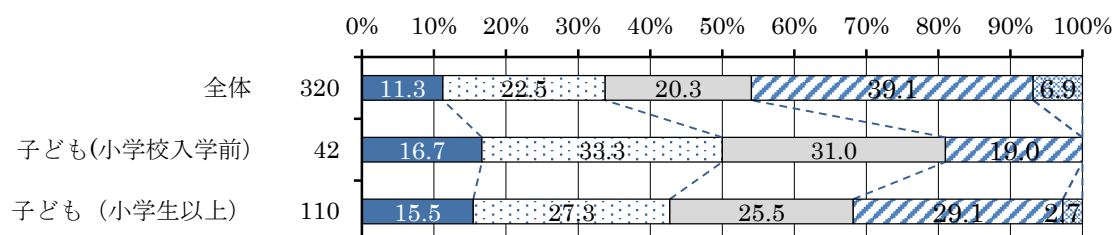


図 同居家族別 育児サークルなど地域の仲間づくり組織

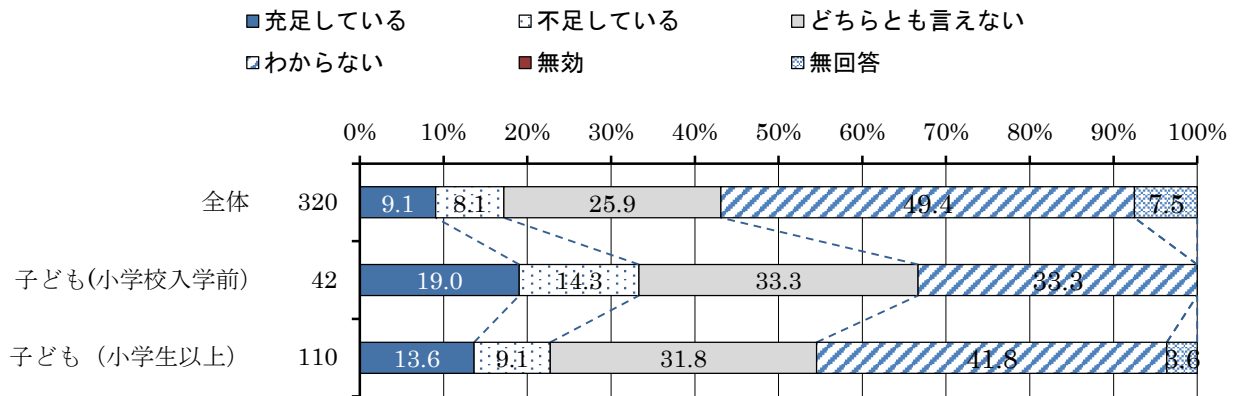


図 同居家族別 放課後児童クラブなどの子育て支援

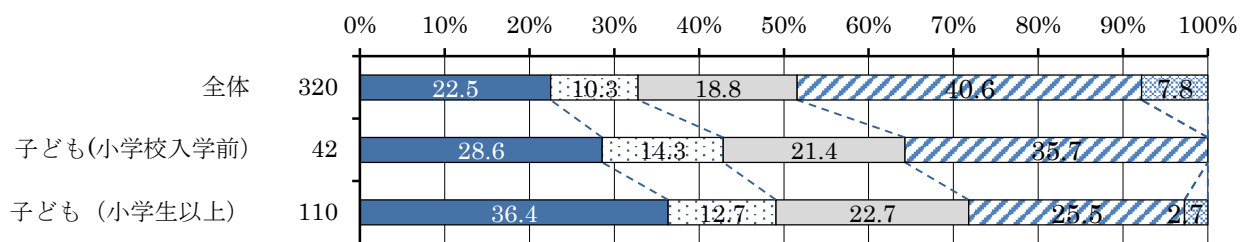


図 同居家族別 ファミリーサポート事業

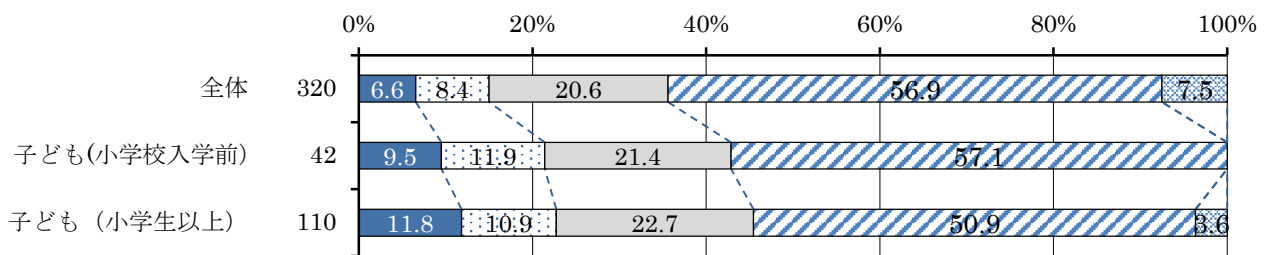


図 同居家族別 出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談

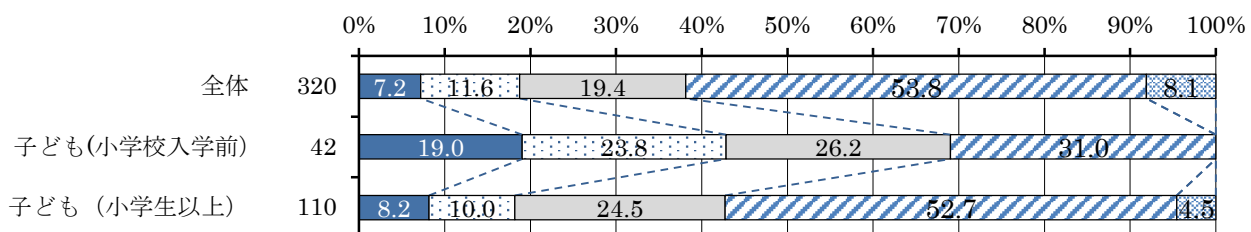
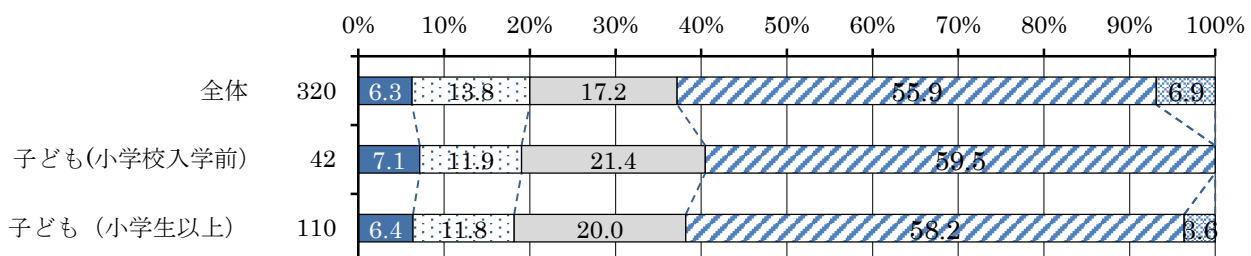


図 同居家族別 母子家庭・父子家庭の支援

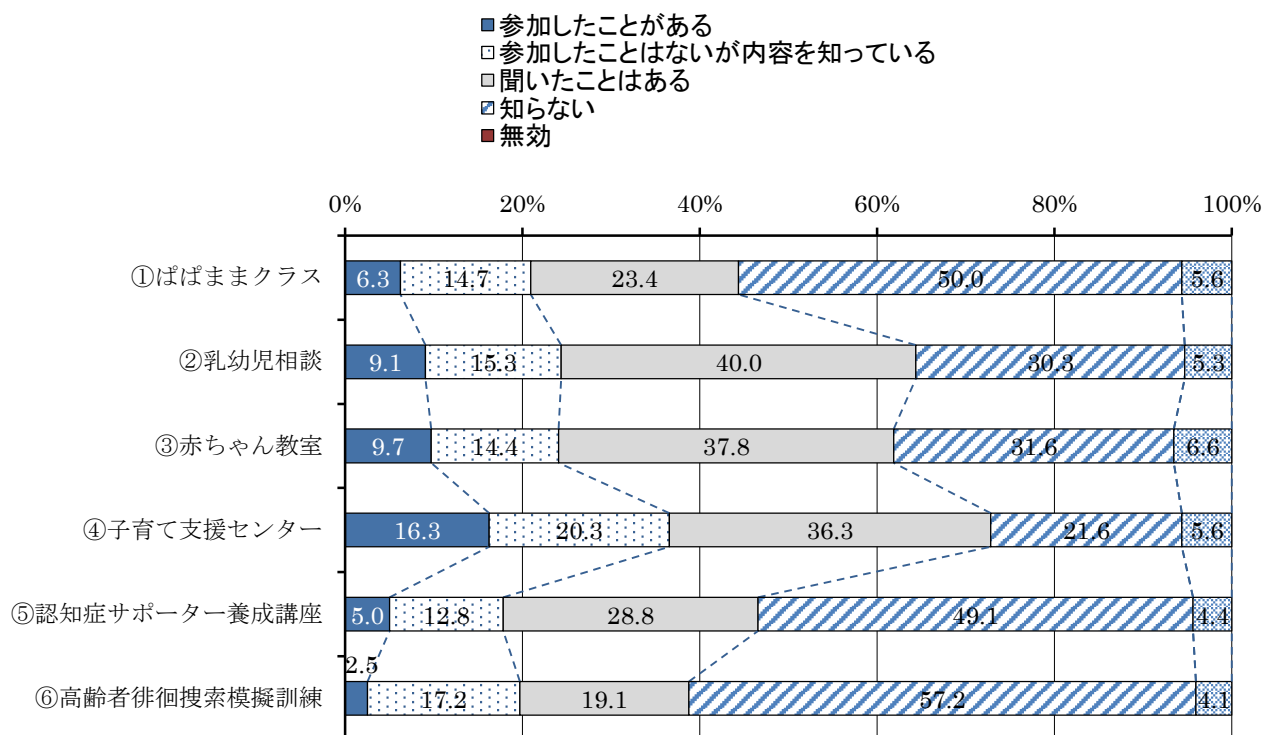


**問 11 以下の育児・介護に関して町が実施する教室や講座等を知っていますか。
(①から⑥でそれぞれ1つに○)**

「参加したことがある」が最も多いのが「子育て支援センター」16.3%で、「赤ちゃん教室」9.7%、「乳幼児相談」9.1%と続きました。

「知らない」が最も多かったのが、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」57.2%で、次いで「ばばママクラス」50.0%、「認知症サポーター養成講座」49.1%となっています。

図 町が実施する育児・介護の教室や講座等の認知度



(1) 男女別

「参加したことがある」について、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」では女性 2.1%、男性 3.4%と男性がやや上回りましたが、その他の全ての事業で、女性が大きく上回っています。男女の差異が大きなものとして、「子育て支援センター」(女性 21.9%、男性 8.4%)、「乳幼児相談」(女性 13.5%、男性 2.5%)、「赤ちゃん教室」(女性 13.5%、男性 4.2%)、「ばばママクラス」(女性 8.9%、男性 2.5%)がありました。

「知らない」の回答は、全ての項目において男性が女性を大きく上回っています。「知らない」割合が男性で過半数を上回ったものに、「高齢者徘徊搜索模擬訓練」(女性 50.5%、男性 69.7%)、「ばばママクラス」(女性 41.1%、男性 65.5%)、「認知症サポーター養成講座」(女性 43.8%、男性 59.7%)があります。

図 男女別 ぱぱママクラス

■参加したことがある □参加したことはないが内容を知っている □聞いたことはある □知らない ■無効 □無回答

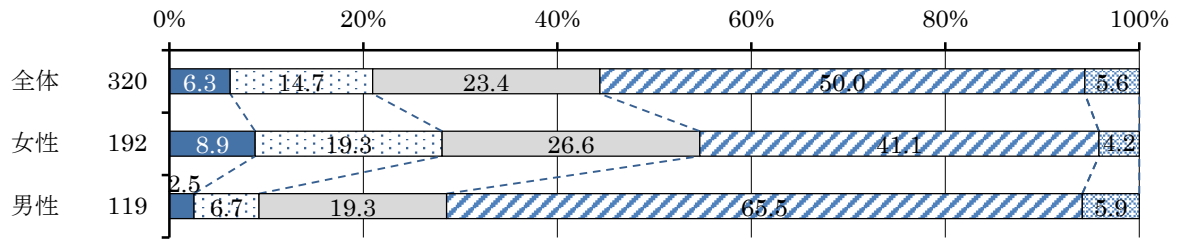


図 男女別 乳幼児相談

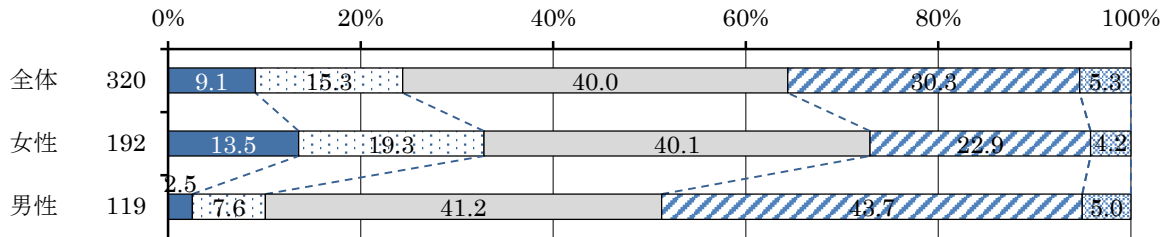


図 男女別 赤ちゃん教室

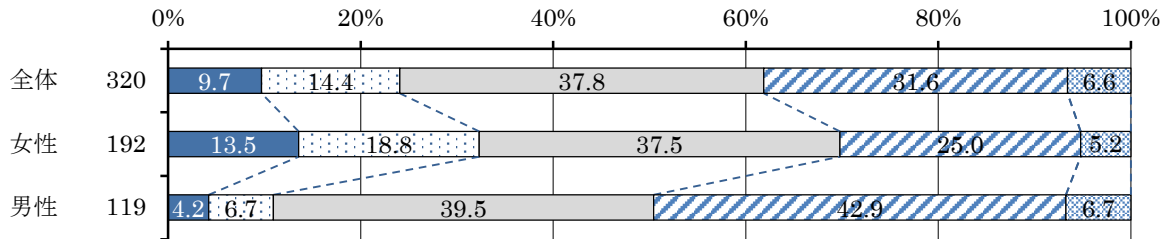


図 男女別 子育て支援センター

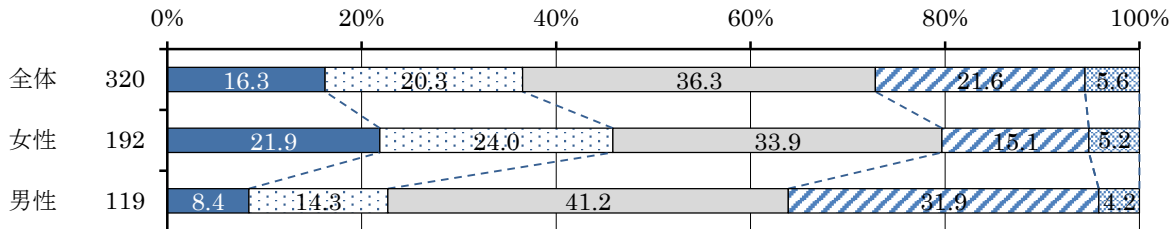


図 男女別 認知症サポーター養成講座

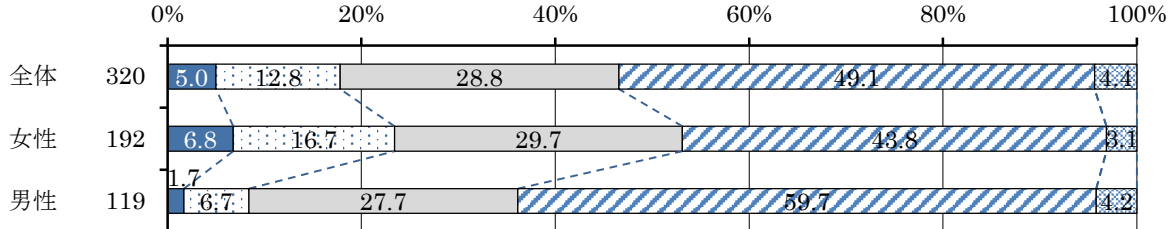
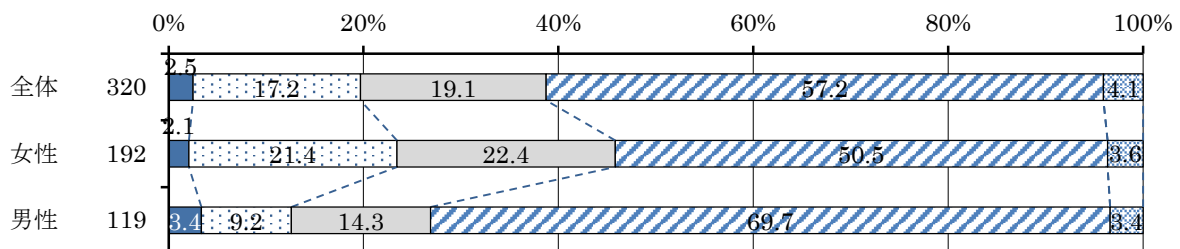


図 男女別 高齢者徘徊捜査模擬訓練



(2) 同居家族別

「子ども（小学校入学前）」と同居する家族では、子育てに関する下記事業について「知らない」はいずれも10%以下でした。また、「参加したことがある」が高かったものは、「子育て支援センター」（「子ども（小学校入学前）」59.5%、「子ども（小学生以上）」26.4%）、「赤ちゃん教室」各々40.5%、15.5%でした。

図 同居家族別 ぱまママクラス

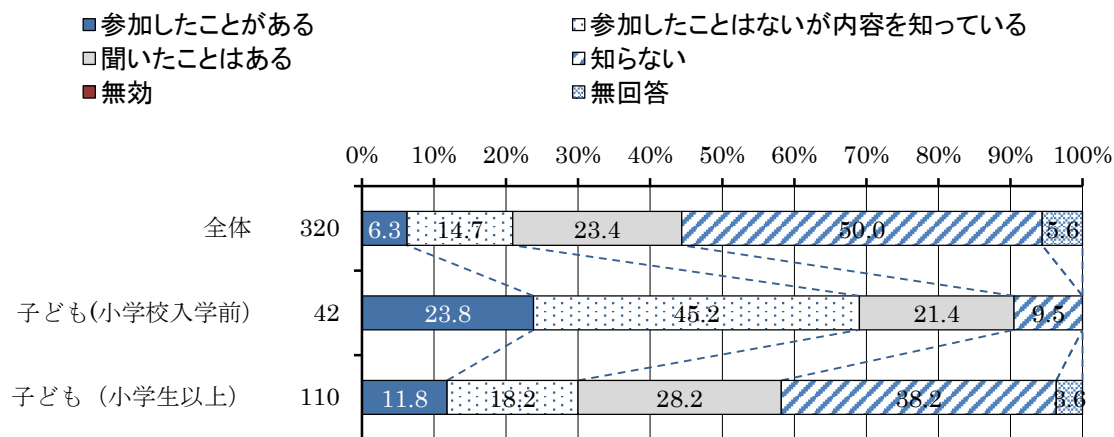


図 同居家族別 乳幼児相談

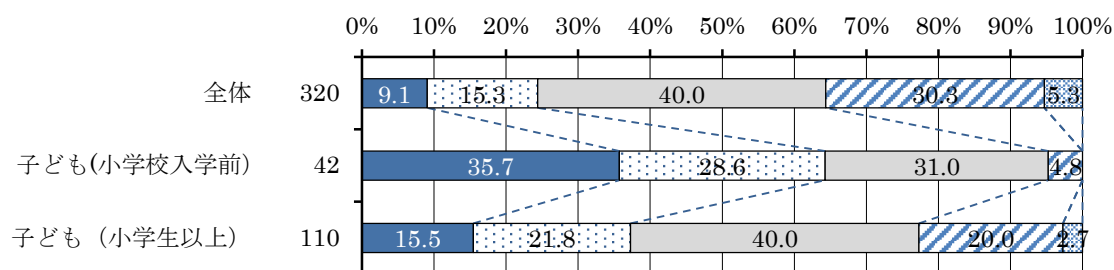


図 同居家族別 赤ちゃん教室

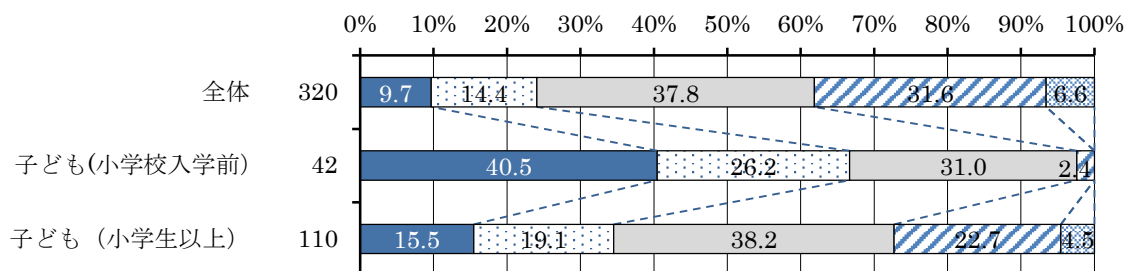
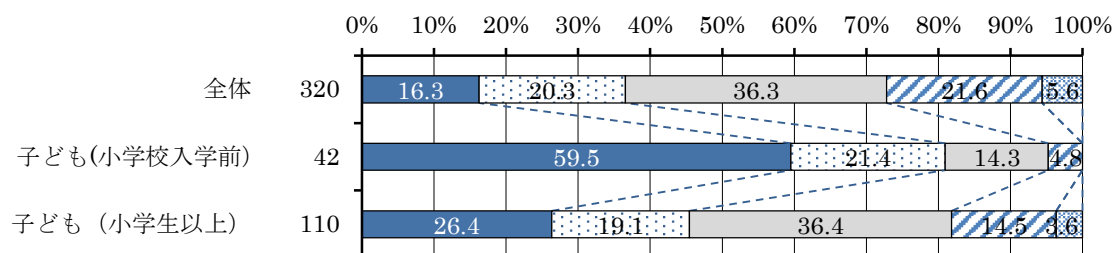


図 同居家族別 子育て支援センター



3 仕事、働き方について

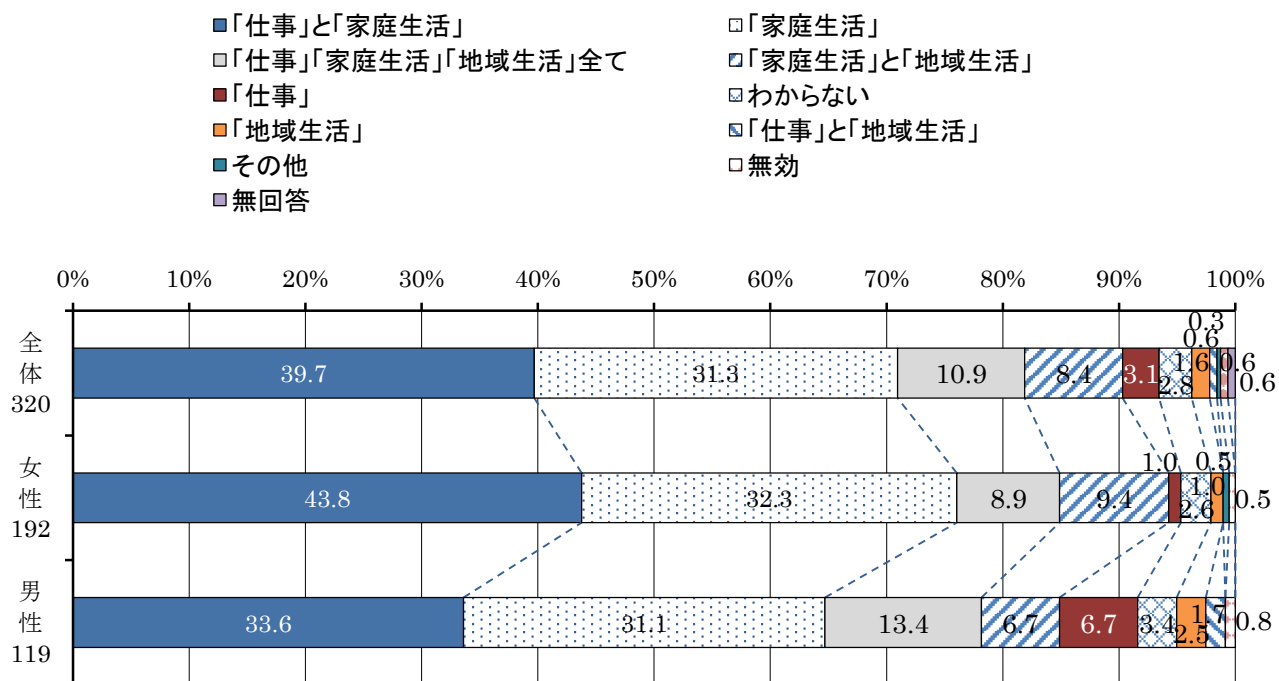
問 1 2 生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域生活」の内、あなたが最も優先したいと思う形はどれですか。 (〇は1つ)

最も多いのが「仕事と家庭生活」で 39.7%、次いで「家庭生活」 31.3%、「仕事、家庭生活、地域生活全て」 10.9%、「家庭生活と地域生活」 8.4%と続きました。

男女別では、女性は男性に比べ「仕事と家庭生活」の回答の割合が高く（女性 43.8%、男性 33.6%）、また、「家庭生活と地域生活」（女性 9.4%、男性 6.7%）も女性での割合が高くなっています。

男性が女性に比べ割合が高かった回答は、「仕事、家庭生活、地域生活全て」「仕事」「地域生活」「仕事と地域生活」でした。

図 男女別 生活における「仕事」「家庭生活」「地域生活」の優先順位

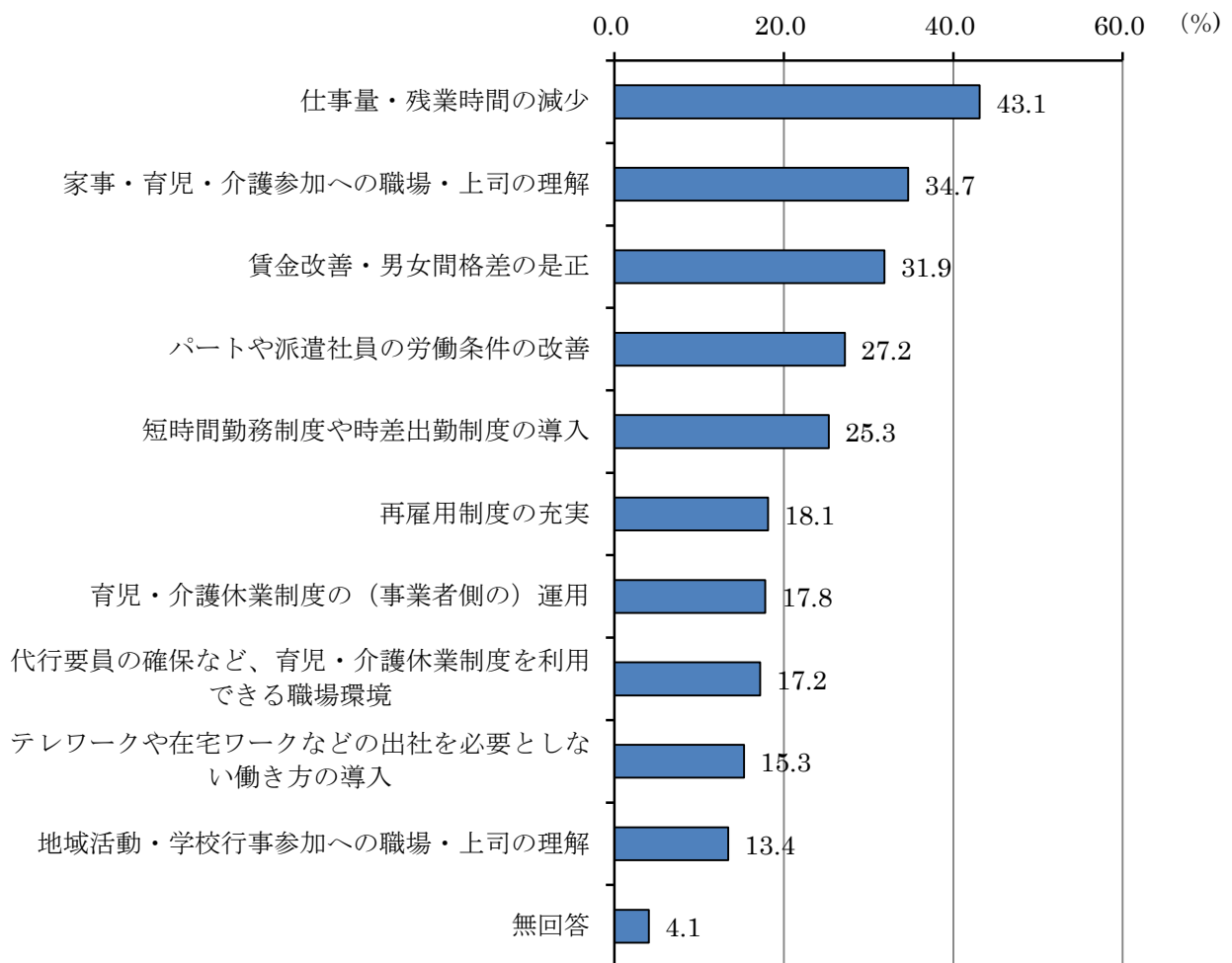


問 13 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくための雇用環境として、どのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

最も多い回答が「仕事量・残業時間の減少」で 43.1%、次いで「家事・育児・介護参加への職場・上司の理解」34.7%、「賃金改善・男女間格差の是正」31.9%、「パートや派遣社員の労働条件の改善」27.2%、「短時間勤務制度や時差出勤制度の導入」25.3%と続きました。

その他の項目もいずれも 10%を上回っており、さまざまな面で雇用環境の整備が必要とされる状況が存在します。

図 仕事と家庭生活の調和を実現するために雇用環境として必要なこと

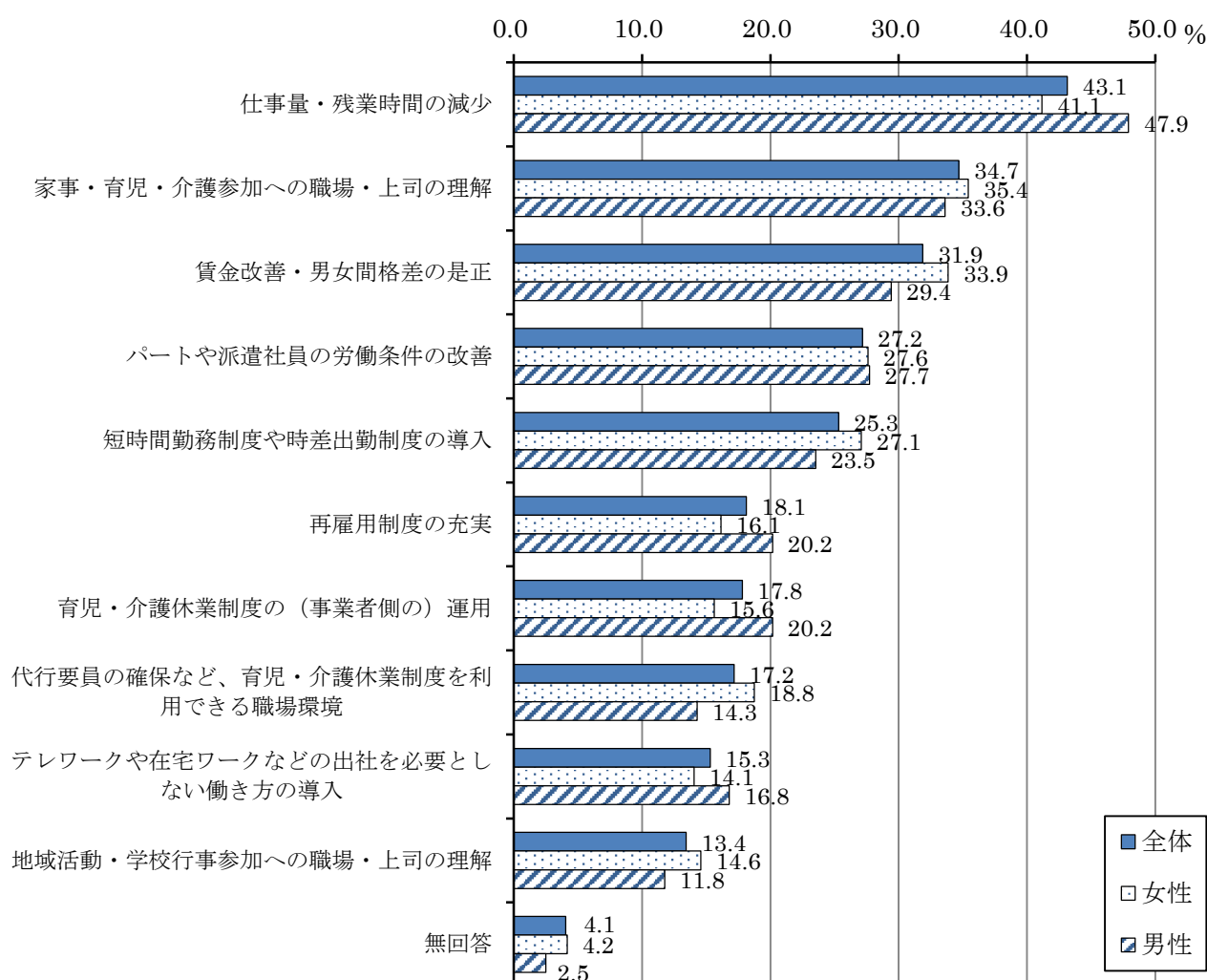


(1) 男女別

女性が男性より高い回答をしていて、その差異が大きなものとしては、「賃金改善・男女間格差の是正」(女性 33.9%、男性 29.4%)、「短時間勤務制度や時差出勤制度の導入」(女性 27.1%、男性 23.5%)、「代行要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる環境」(女性 18.8%、男性 14.3%)がありました。

男性が女性より高い回答をしていて、その差異が大きなものとしては「仕事量・残業時間の減少」(女性 41.1%、男性 47.9%)、「再雇用制度の充実」(女性 16.1%、男性 20.2%)、「育児・介護休業制度の(事業者側の)運用」(女性 15.6%、男性 20.2%)等があります。

図 男女別 仕事と家庭生活の調和を実現するために雇用環境として必要なこと

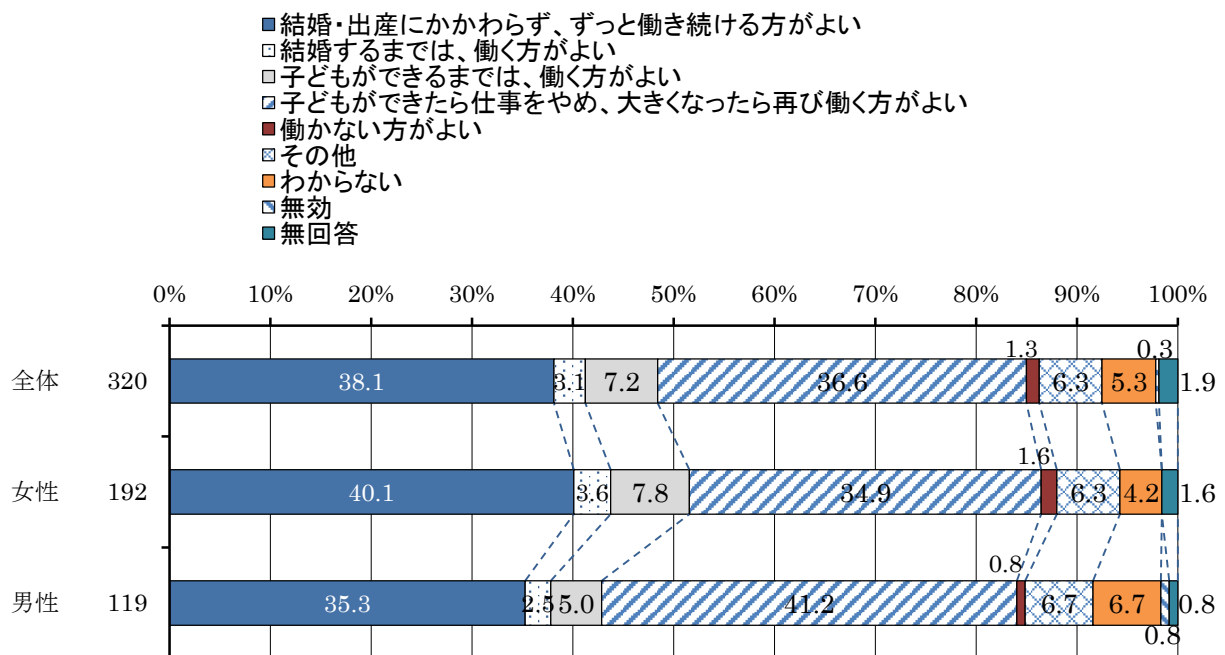


問 14 あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。（〇は1つ）

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」で 38.1%、次いで「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」36.6%が続きました。前回調査では、各々23.9%、50.4%であり、「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」が大きく増加、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」が大きく減少しています。

男女別では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は女性 40.1%、男性 35.3%と女性で高く、「子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は、女性 34.9%、男性 41.2%と男性で高い割合になっています。

図 男女別 女性が働くことについて



●その他回答

- ・経済的に自立余裕が充足しているなら、自分の関心分野を極める。
- ・自分のしたいようにするのがよい ・人それぞれなので個人個人でちがうのでなんとも言えない。
- ・結婚・出産・子どもの成長をきっかけに自分や家族の幸せを考えて決めていけばいい 選択肢は多いと選ぶ人は安心できる
- ・人それぞれだと思う ・自分の好きな様にすればよい ・働き続けたい、子育てに専念したいと思うのは人それぞれ
- ・その家庭による ・個人の価値感、生活環境に適した方法がよい ・その女性の家族関係や、生活環境による
- ・本人の意志次第 ・個人が自分で決めることだと思う。 ・その時の状況に応じて夫婦で話して決める
- ・設問の内容がおかしい。働きたい時に働けるようにするのがよい
- ・男女ともに1～5まで選択できる社会環境がよい
- ・ワーク・ライフ・バランス個人によって色々で良い
- ・女性自身のせんとくで、女性も働らくべきとしなくても良いと思う
- ・家で、子供を見る者がいれば、働く方がよい
- ・子どもが生まれて、乳児期は休暇を取ることができ、その後はまた復帰できる職場環境がよい。
- ・働き続けたい人は働き続け、家事に専念したい人はそうできることが1番良いと思う。
- ・自分が続けたいと思えば続けられ、やめたいと思えばやめられるーどんな状況でも自分で選択できるのがよい。

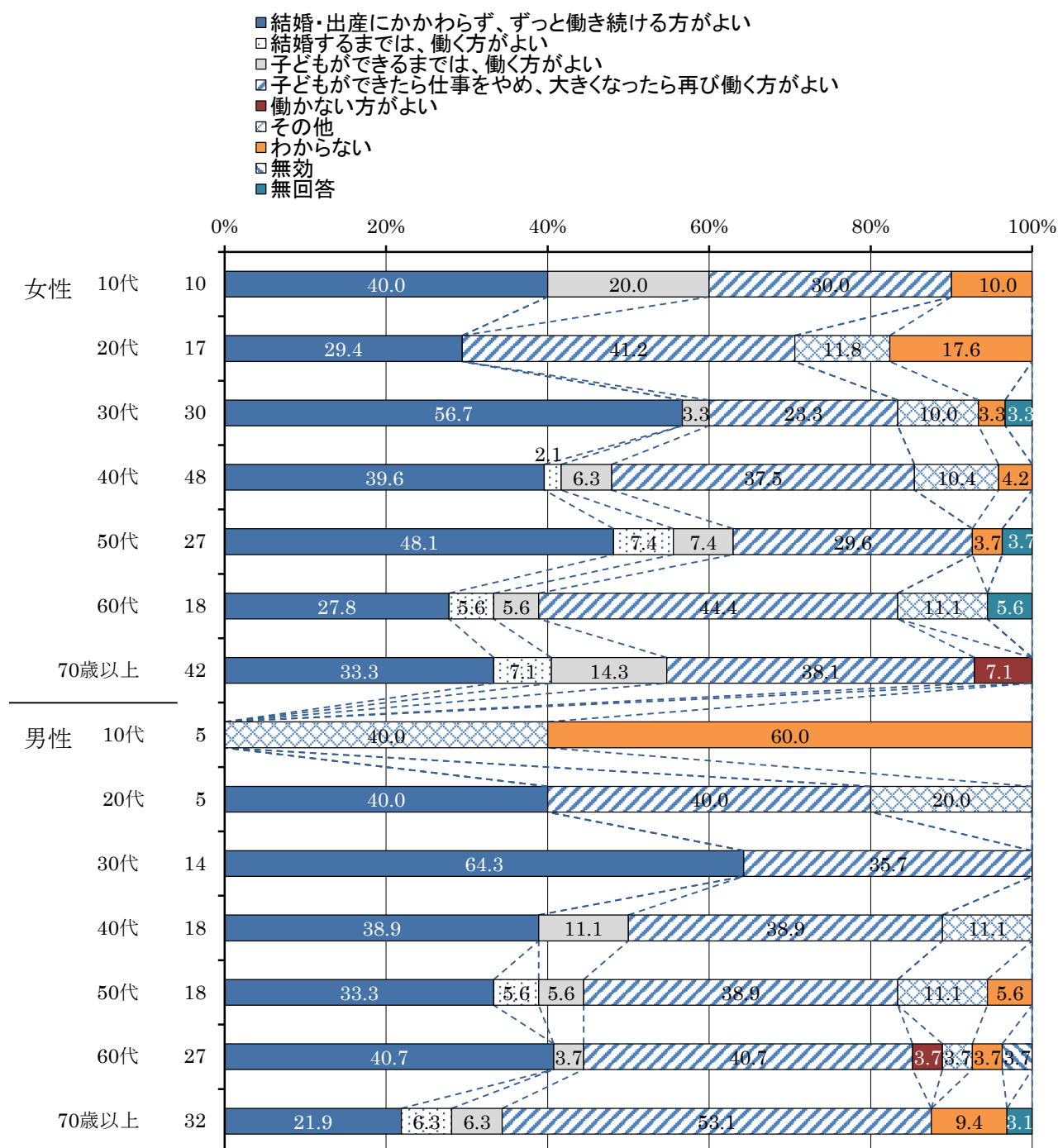
(1) 男女別・年代別

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は、特に30代で男女ともに高い(女性 56.7%、男性 64.3%) 割合でした。また、50代女性も 48.1%と高くなっています。

「子どもができたらか仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」は、20代で男女ともに高く、女性 41.2%、男性 40.0%です。また、60代、70代でも比較的高く、60代女性 44.4%、60代男性 40.7%、70代以上女性 38.1%、70代以上男性 53.1%でした。

10代では、10代女性で「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」が40%で最も高い一方で、「子どもができるまでは働く方がよい」「子どもができたらか仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい」の計も50%にのびりました。

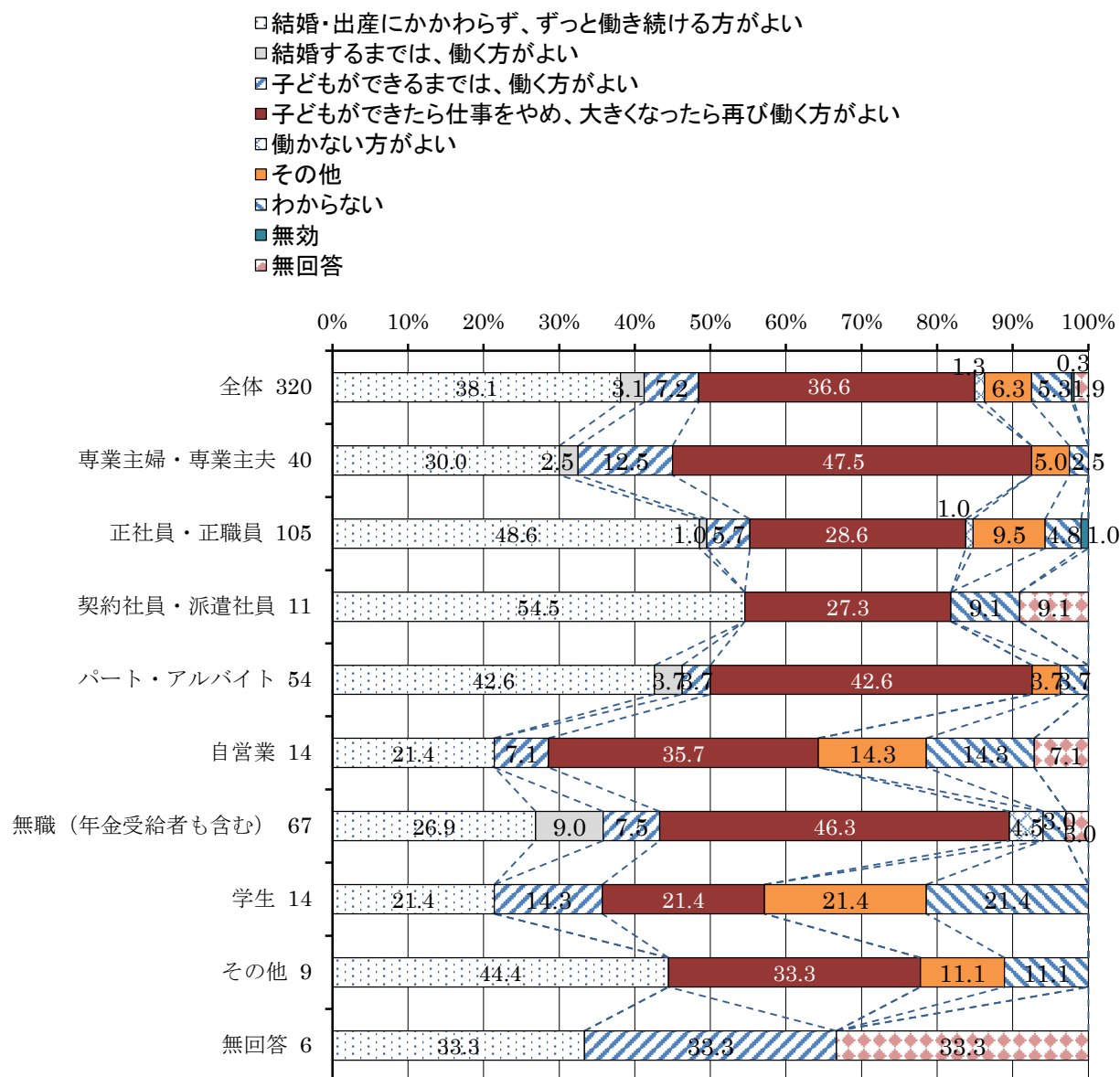
図 男女別 年代別 女性が働くことについて



(2) 職業別

「結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい」は、契約社員・派遣社員で54.5%、正社員・正職員48.6%で高く、自営業21.4%、無職26.9%、専業主婦・主夫30.0%で低くなっています。また、学生は、「その他」「わからない」の割合が高く、また、「ずっと働き続ける方がよい」は21.4%と比較的低い割合になりました。

図 職業別 女性が働くことについて

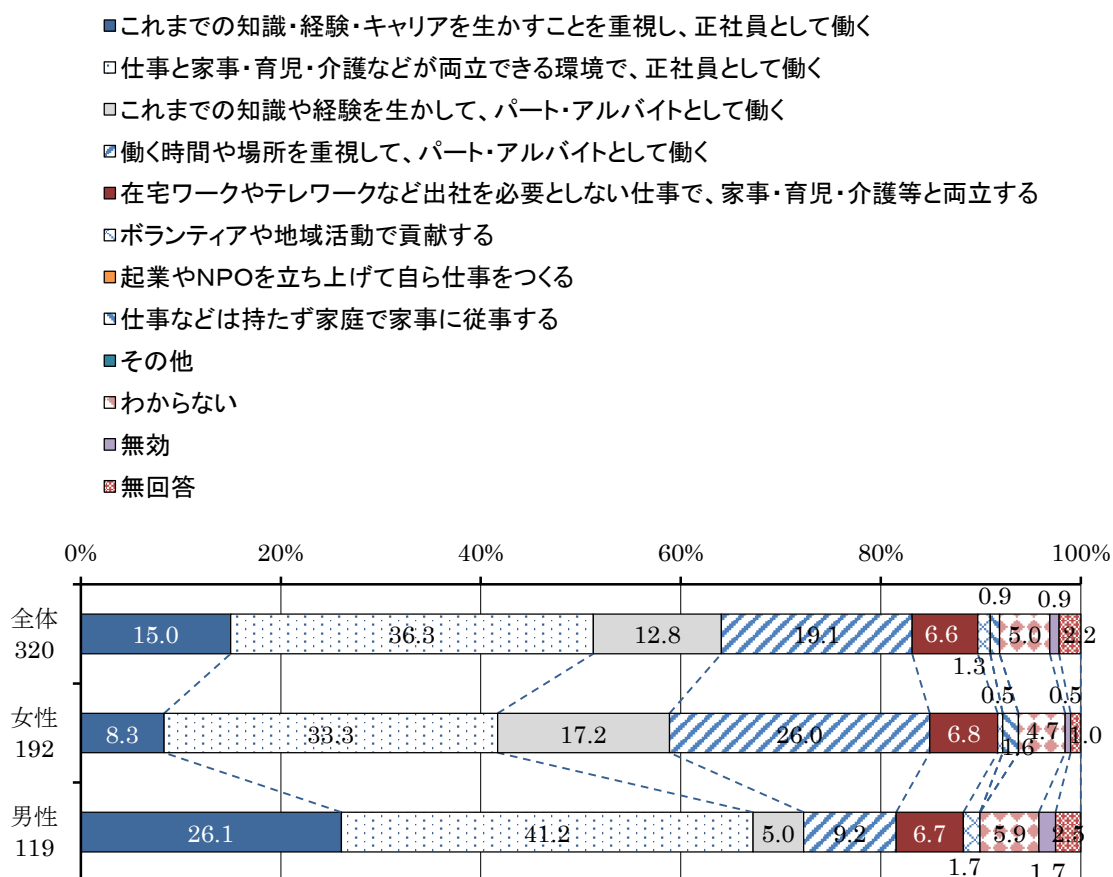


問 15 あなたが、いったん出産・育児・介護などで離職した場合、次にどのような働き方や生活がしたいですか。(〇は1つ)

最も多い回答が「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」36.3%、次いで「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」19.1%でした。「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」15.0%、「これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く」12.8%となっています。上位2つは、離職後の働き方として生活とのバランスがより重視される回答になっています。

男女別での意向の差異は大きく、女性では、「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」33.3%に次いで、「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」26.0%、「これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く」17.2%で、後者2つのパート・アルバイトの働き方が43.2%に上っています。対して、男性では「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」41.2%に次いで、「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」26.1%で、正社員の働き方が計67.3%、パート・アルバイトの働き方が計14.2%に留まりました。

図 男女別 出産・育児・介護等で離職した後に希望する働き方や生活

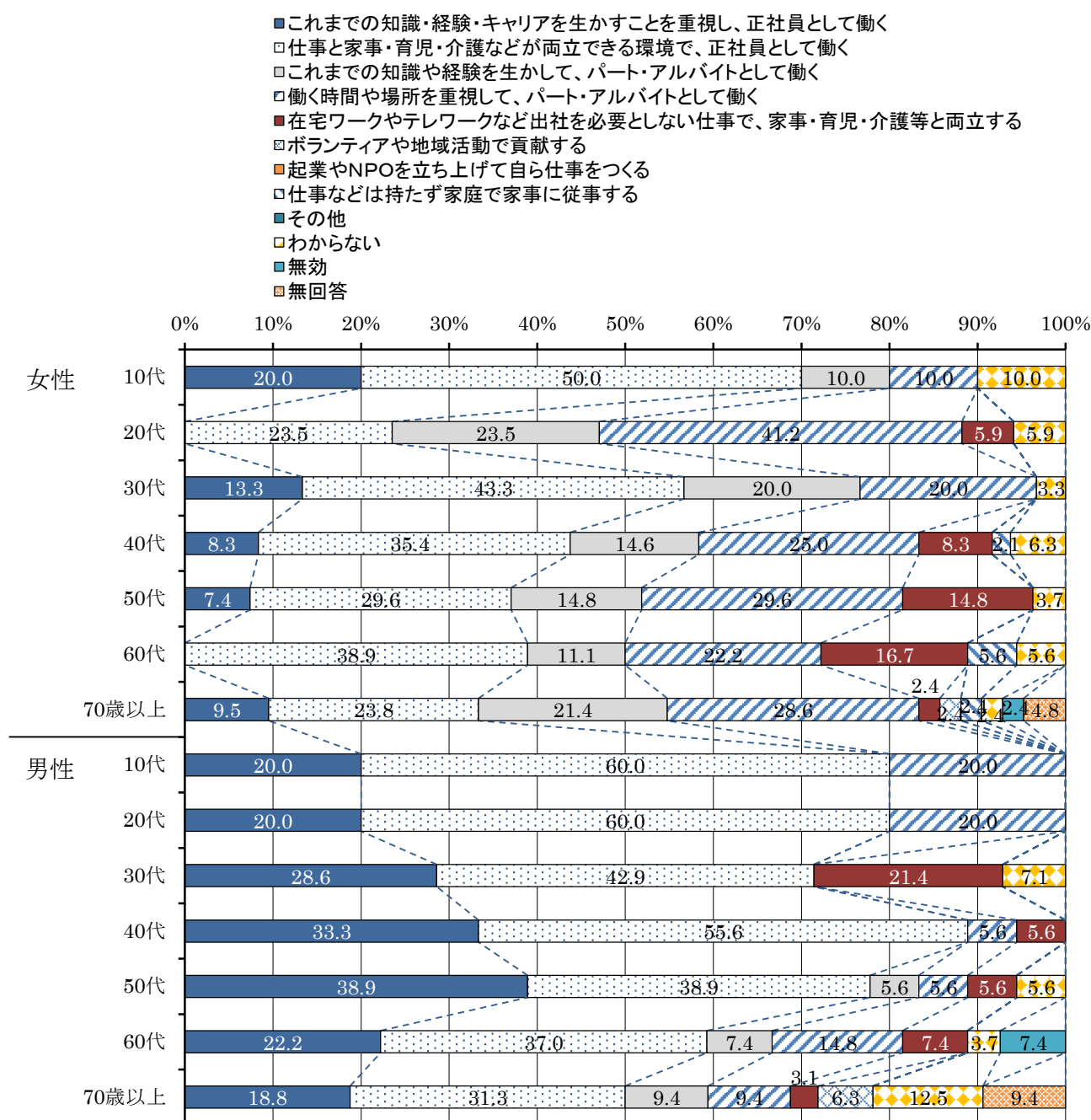


(1) 男女別・年代別

女性では、20代と70代以上を除いて「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」が各々最も高い割合を占め、また10代を除いて2番目に高いのは「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」でした。20代と70代以上では、「働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く」が最も高い割合となっています。

男性では、全ての年代で「仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く」が最も高く、2番目に多いのは、「これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く」でした。特に、30代から50代では、この回答の割合が高くなっています。

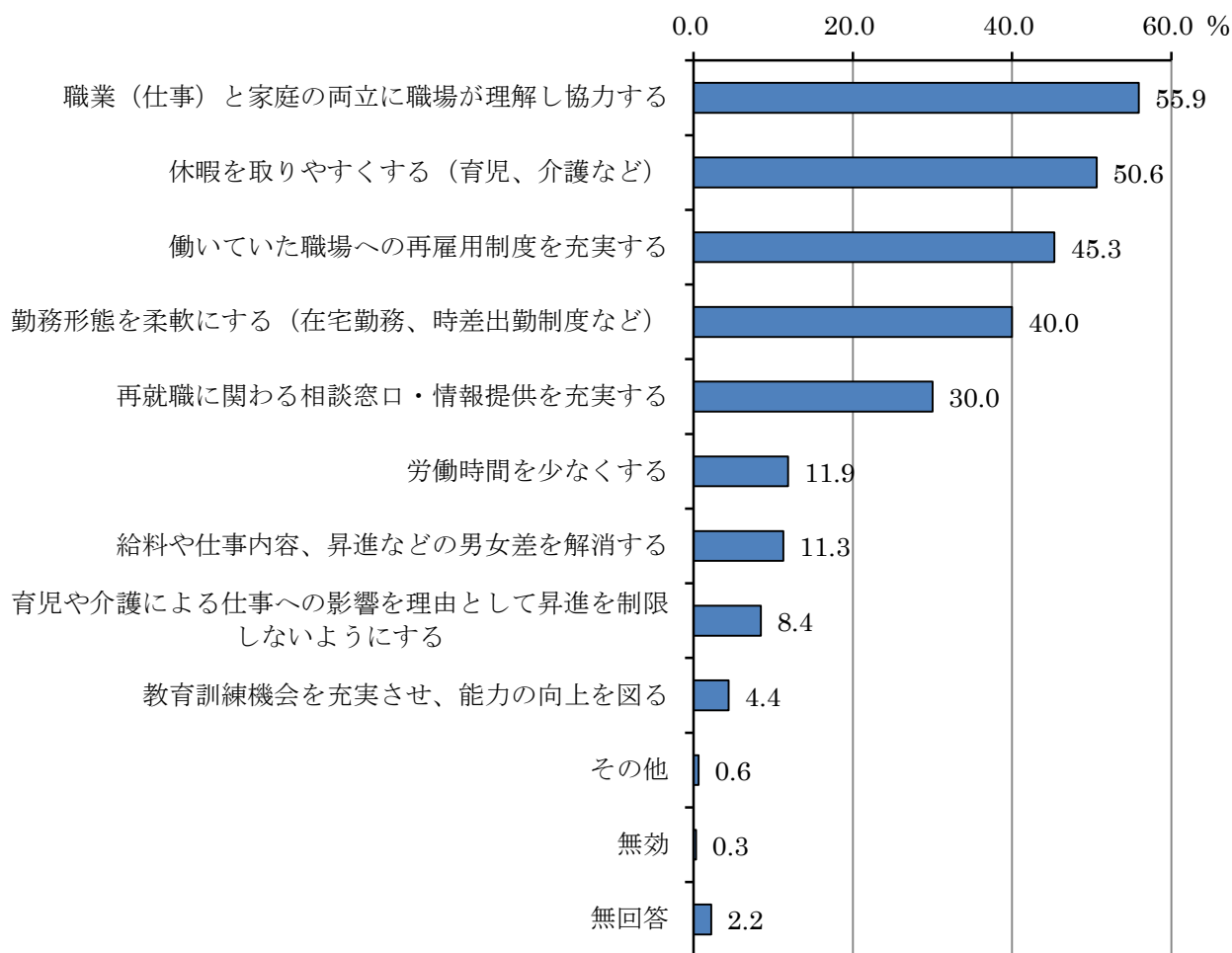
図 男女別 年代別 出産・育児・介護等で離職した後に希望する働き方や生活



問 16 結婚や出産、介護などで離職した人が、再び職業をもち、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。 （〇は3つまで）

最も多い回答が「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」で 55.9%、次いで「休暇を取りやすくする（育児、介護など）」50.6%、「働いていた職場への再雇用制度を充実する」が 45.3%、「勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）」40.0%、「再就職に関わる相談窓口・情報提供を充実する」30.0%の順となりました。

図 離職した人が再び安心して働けるために必要な環境



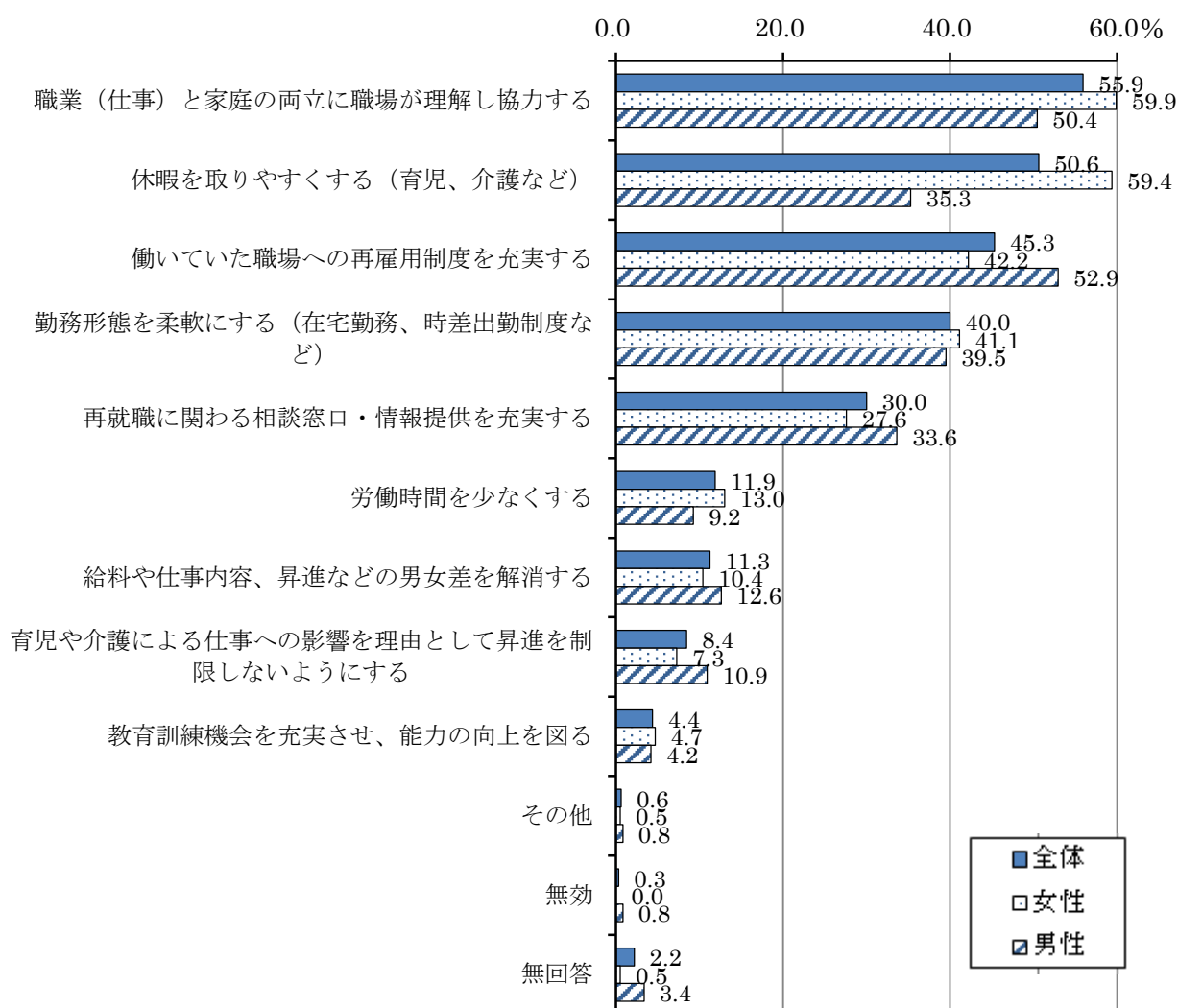
●その他回答

- ・メンタルケア
- ・本人のやる気

（１）男女別

上位４つの回答の中で、女性が男性と比べ高い割合になった項目は、「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」（女性 59.9%、男性 50.4%）、「休暇を取りやすくする（育児、介護など）」（女性 59.4%、男性 35.3%）でした。逆に、男性が女性と比べ高い割合になった項目は、「働いていた職場への再雇用制度を充実する」（女性 42.2%、男性 52.9%）です。「勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）」は、男女ともに 40%前後になりました。

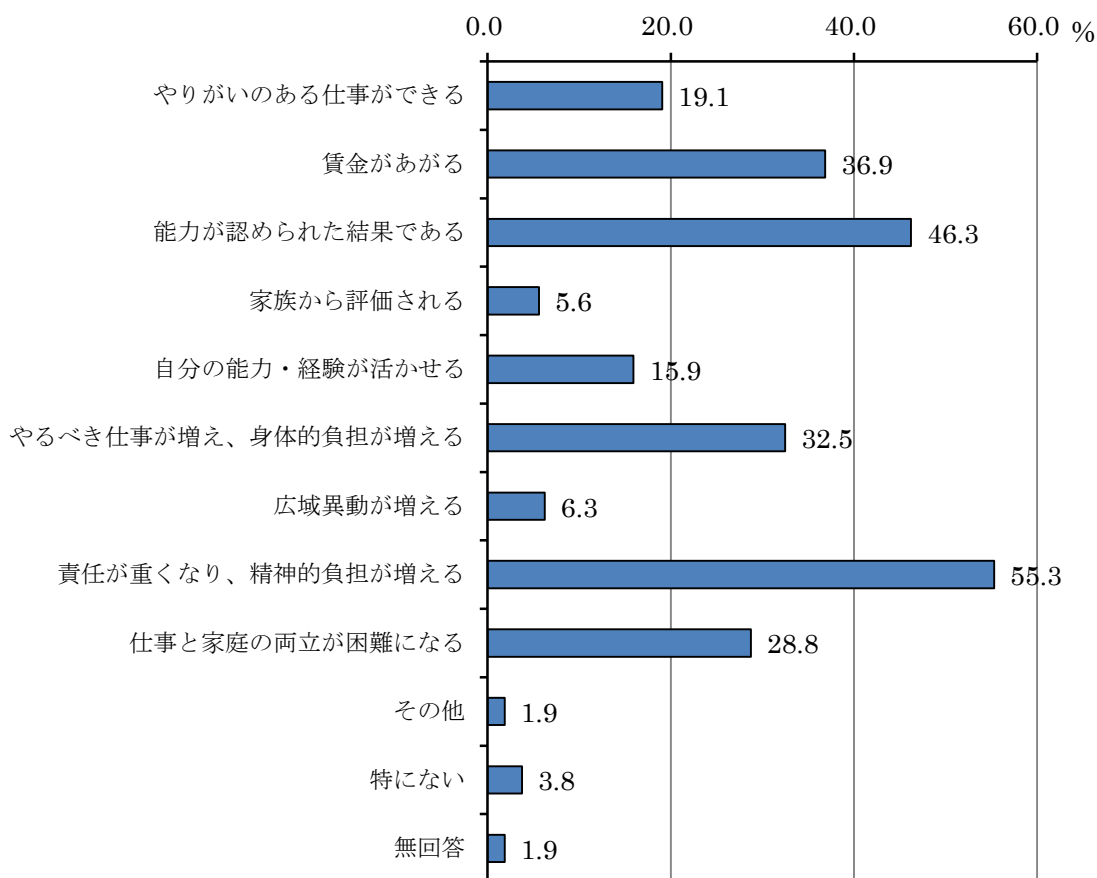
図 男女別 離職した人が再び安心して働けるために必要な環境



問 17 管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。（〇は3つまで）

「責任が重くなり、精神的負担が増える」55.3%が最も高い結果となりました。次いで「能力が認められた結果である」46.3%、「賃金があがる」が36.9%となり、肯定的なイメージも持たれています。しかし、4位以下は「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」32.5%、「仕事と家庭の両立が困難になる」28.8%と続き、最多の「責任が重くなり、精神的負担が増える」を含めて、負担を感じるという回答も多い結果となっています。

図 管理職以上に昇進することのイメージ



●その他回答

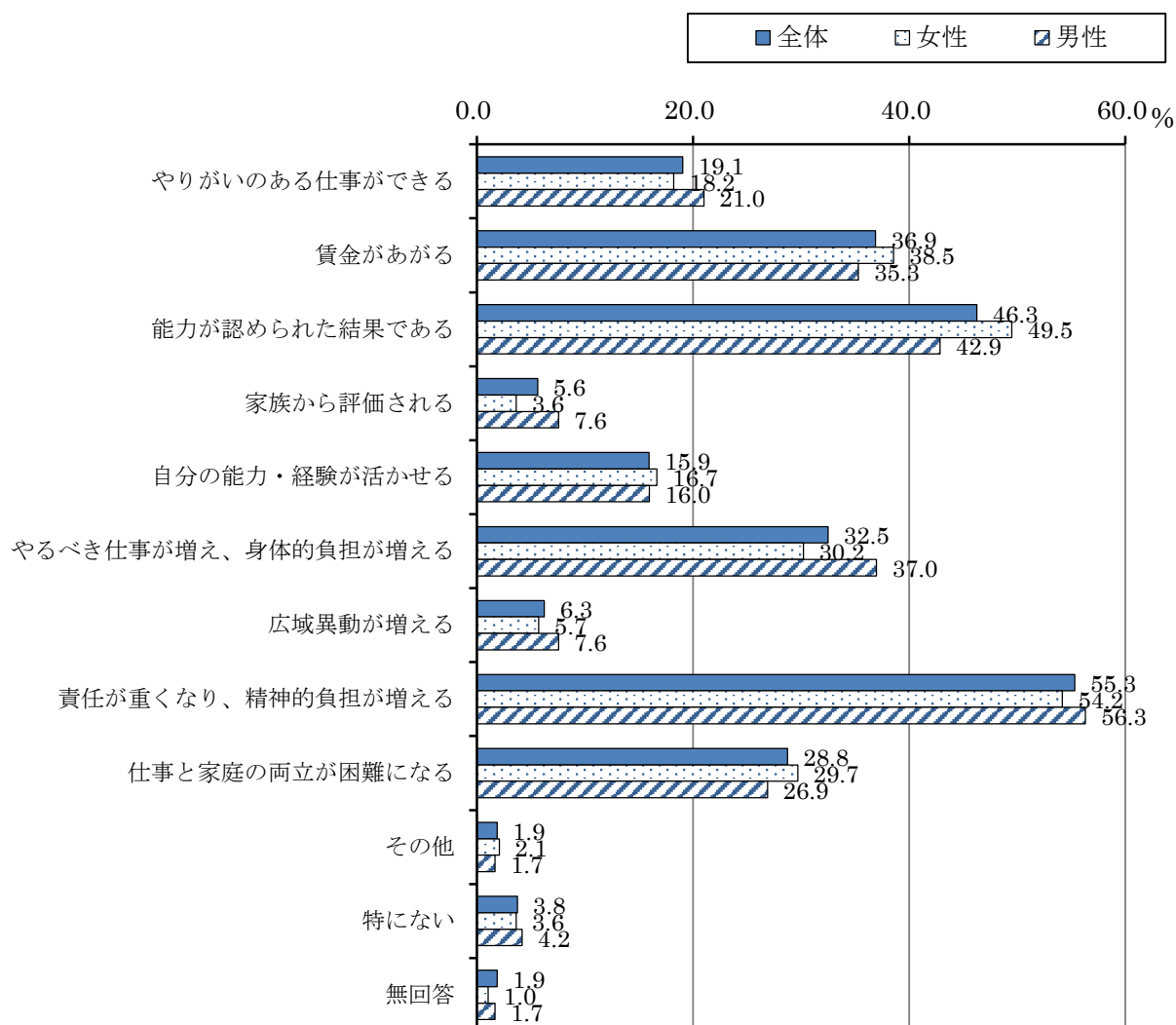
- ・長年勤めていればなれる
- ・わからない
- ・魅力がない
- ・年功序列

(1) 男女別

女性が男性より高かった回答には、「能力が認められた結果である」女性 49.5%、男性 42.9%、「賃金があがる」(女性 38.5%、男性 35.3%)と肯定的なものがありますが、「仕事と家庭の両立が困難になる」(女性 29.7%、男性 26.9%)もありました。

男性が女性より高かった回答には、「責任が重くなり、精神的負担が増える」(女性 54.2%、男性 56.3%)、「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」(女性 30.2%、男性 37.0%)などがあります。

図 男女別 管理職以上に昇進することのイメージ



(2) 男女別・年代別

女性では、20代と30代で「賃金があがる」の割合が最も高く、次いで「責任が重くなり、精神的負担が増える」でした。30代女性では「仕事と家庭の両立が困難になる」も40.0%と比較的高めでした。40代～60代の女性では、「責任が重くなり、精神的負担が増える」の割合が最も高く、次いで「能力が認められた結果である」が続きました。

70代以上では男女ともに、「能力が認められた結果である」が最も高くなりました。

男性では、40代・70代以上を除くすべての世代で「責任が重くなり、精神的負担が増える」が最も高く、10代・30代・60代では次いで「賃金があがる」、20代・50代では「やるべき仕事が増え、身体的負担が増える」でした。40代のみ「能力が認められた結果である」が最も高くなりました。

表 男女別 年代別 管理職以上に昇進することのイメージ

単位：％

性別	年代	回答数	やりがいのある仕事ができる	賃金があがる	能力が認められた結果である	家族から評価される	自分の能力・経験が活かせる	やるべき仕事が増え、身体的負担が増える	広域異動が増える	責任が重くなり、精神的負担が増える	仕事と家庭の両立が困難になる	その他	特にない	無回答
女性	10代	10	20.0	30.0	20.0	0.0	10.0	50.0	10.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	20代	17	11.8	70.6	35.3	0.0	0.0	17.6	11.8	58.8	23.5	0.0	5.9	0.0
	30代	30	3.3	60.0	46.7	0.0	6.7	36.7	3.3	50.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	40代	48	25.0	33.3	50.0	2.1	18.8	41.7	6.3	62.5	25.0	4.2	2.1	0.0
	50代	27	14.8	33.3	51.9	0.0	7.4	29.6	0.0	66.7	33.3	0.0	3.7	3.7
	60代	18	5.6	44.4	55.6	5.6	22.2	22.2	11.1	66.7	22.2	0.0	5.6	0.0
	70歳以上	42	31.0	19.0	59.5	11.9	33.3	16.7	4.8	35.7	35.7	4.8	7.1	2.4
男性	10代	5	0.0	60.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0	80.0	0.0	20.0	0.0	0.0
	20代	5	20.0	40.0	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30代	14	14.3	50.0	28.6	0.0	21.4	42.9	0.0	64.3	28.6	0.0	0.0	0.0
	40代	18	27.8	44.4	66.7	0.0	22.2	38.9	0.0	55.6	33.3	0.0	5.6	0.0
	50代	18	22.2	22.2	33.3	5.6	11.1	38.9	0.0	55.6	22.2	5.6	5.6	5.6
	60代	27	25.9	37.0	33.3	7.4	22.2	29.6	18.5	51.9	25.9	0.0	3.7	0.0
	70歳以上	32	18.8	25.0	53.1	12.5	9.4	34.4	12.5	50.0	31.3	0.0	6.3	3.1

4 地域活動について

問 18 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

「自治会・町内会活動」の割合が最も高く 43.1%であり、次いで「特に参加していない」35.3%となっています。前回の数値は、「自治会・町内会活動」が 41.1%、「特に参加していない」40.0%であり、この2つの回答では、活動に参加している割合は微増しています。

前回調査と比べて、多くの活動項目で参加率は増加しましたが、「老人クラブ活動」（今回 7.5%、前回 8.6%）、「スポーツ・レクリエーション活動」（今回 11.3%、前回 17.0%）で前回より減少しました。

男女別では、女性は男性と比べ「PTA 活動」（女性 13.0%、男性 3.4%）「子ども会・青少年活動」（女性 14.1%、男性 6.7%）、「文化活動（趣味・教養）」（女性 14.6%、男性 10.1%）等の割合が高くなっています。他方、男性は女性と比べ、「自治会・町内会活動」（女性 41.7%、男性 47.9%）、「老人クラブ活動」（女性 4.2%、男性 13.4%）の割合が高くなっています。

前回調査との比較では、「自治会・町内会活動」の女性の参加（前回 37.6%、今回 41.7%）は、増えています。また、「老人クラブ活動」の男性の参加は、（前回 11.7%、今回 13.4%）と増えていますが、女性の参加が（前回 5.7%、今回 4.2%）と減ったことにより、全体での参加の数値が下がりました。

表 男女別 地域活動の参加状況

単位：%

性別	有効回答数	割合 %	自治会・町内会活動	女性団体活動	PTA 活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動（趣味・教養）	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動（グループ活動を含む）	その他	特に参加していない	無回答
全体	320	100	43.1	2.2	9.4	10.9	7.5	12.2	0.9	12.8	11.3	3.1	1.3	35.3	1.3
女性	192	100	41.7	3.6	13.0	14.1	4.2	12.5	1.6	14.6	11.5	4.2	1.0	37.0	0.0
男性	119	100	47.9	0.0	3.4	6.7	13.4	11.8	0.0	10.1	11.8	1.7	1.7	32.8	0.8

（1）男女別・年代別

「特に参加していない」の割合は、10代・20代で男女ともに高く、また30代女性も56.7%と高くなっています。

30代女性は、「自治会・町内会活動」には26.7%、「PTA 活動」「子ども会・青少年活動」に20.0%参加しています。40代・50代女性では、「自治会・町内会活動」への参加率が増えるとともに、「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「文化活動（趣味・教養）」「スポーツ・レクリエーション活動」等、様々な地

域活動への参加が見られます。40代女性は「PTA活動」「子ども会・青少年活動」がともに31.3%と高い数値ですが、子どもの成長とともに50代以降ではこれらの活動への参加は減少、またはなくなります。60代・70代女性では、「自治会・町内会活動」への参加は減少しますが、70代女性では、「文化活動（趣味・教養）」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」「老人クラブ活動」など多様な活動に参加しています。60代女性もそれらへの参加は見られますが、70代より低い数値で「特に参加していない」が44.4%にのびります。

男性では、30代以降で「自治会・町内会活動」への高い参加が見られますが、50代では33.3%とやや低く、「特に参加していない」の比率が38.9%と他の年代に比べて高くなっています。また、「スポーツ・レクリエーション活動」が、30代男性で21.4%と高いのに対し、40代男性は0.0%、60代男性が7.4%と年代による差異が大きくなっています。女性と同じく、70代男性も、多様な地域活動に参加しており、特に「老人クラブ活動」は43.8%と大変高くなっています（70代女性は16.7%）。

表 男女別・年代別 地域活動の参加状況

単位：%

性別 年代		有効 回答数	割合 %	自治会・町内会活動	女性団体活動	PTA活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動（趣味・教養）	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動（グループ活動を含む）	その他	特に参加していない	無回答
女性	10代	10	100	20.0	0.0	0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	20代	17	100	5.9	0.0	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	88.2	0.0
	30代	30	100	26.7	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	6.7	10.0	3.3	0.0	56.7	0.0
	40代	48	100	60.4	2.1	31.3	31.3	0.0	12.5	4.2	12.5	8.3	2.1	2.1	16.7	0.0
	50代	27	100	51.9	0.0	11.1	3.7	0.0	18.5	0.0	18.5	18.5	0.0	0.0	18.5	0.0
	60代	18	100	38.9	5.6	0.0	5.6	5.6	5.6	5.6	16.7	11.1	5.6	5.6	44.4	0.0
	70歳以上	42	100	45.2	11.9	0.0	4.8	16.7	23.8	0.0	26.2	19.0	11.9	0.0	28.6	0.0
男性	10代	5	100	40.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0
	20代	5	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	30代	14	100	50.0	0.0	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	21.4	7.1	0.0	21.4	0.0
	40代	18	100	44.4	0.0	5.6	16.7	0.0	5.6	0.0	5.6	0.0	5.6	5.6	33.3	0.0
	50代	18	100	33.3	0.0	5.6	5.6	0.0	11.1	0.0	11.1	16.7	0.0	0.0	38.9	0.0
	60代	27	100	51.9	0.0	0.0	7.4	7.4	11.1	0.0	11.1	7.4	0.0	3.7	33.3	0.0
	70歳以上	32	100	62.5	0.0	0.0	0.0	43.8	25.0	0.0	15.6	18.8	0.0	0.0	18.8	3.1

(2) 同居家族別

「特に参加していない」の割合は、「親族以外」「その他の親族」「自分の親・祖父母」と同居している層で50～60%台と高い割合を占め、この層では、「自治会・町内会活動」への参加が20～30%前後と低くなっています。また、一人世帯でも「特に参加していない」の割合が42.9%、「自治会・町内会活動」への参加が23.8%でした。

また、「PTA活動」「子ども会・青少年活動」は、「子ども(小学校入学前)」「子ども(小学生以上)」「配偶者の親・祖父母」の間で比較的高い割合ですが、20～30%台でした。また、「子ども(小学生以上)」「一人世帯」で、「文化活動(趣味・教養)」「ボランティア活動などの社会奉仕活動」へ参加する割合が比較的高くなっています。

表 同居家族別 地域活動の参加状況

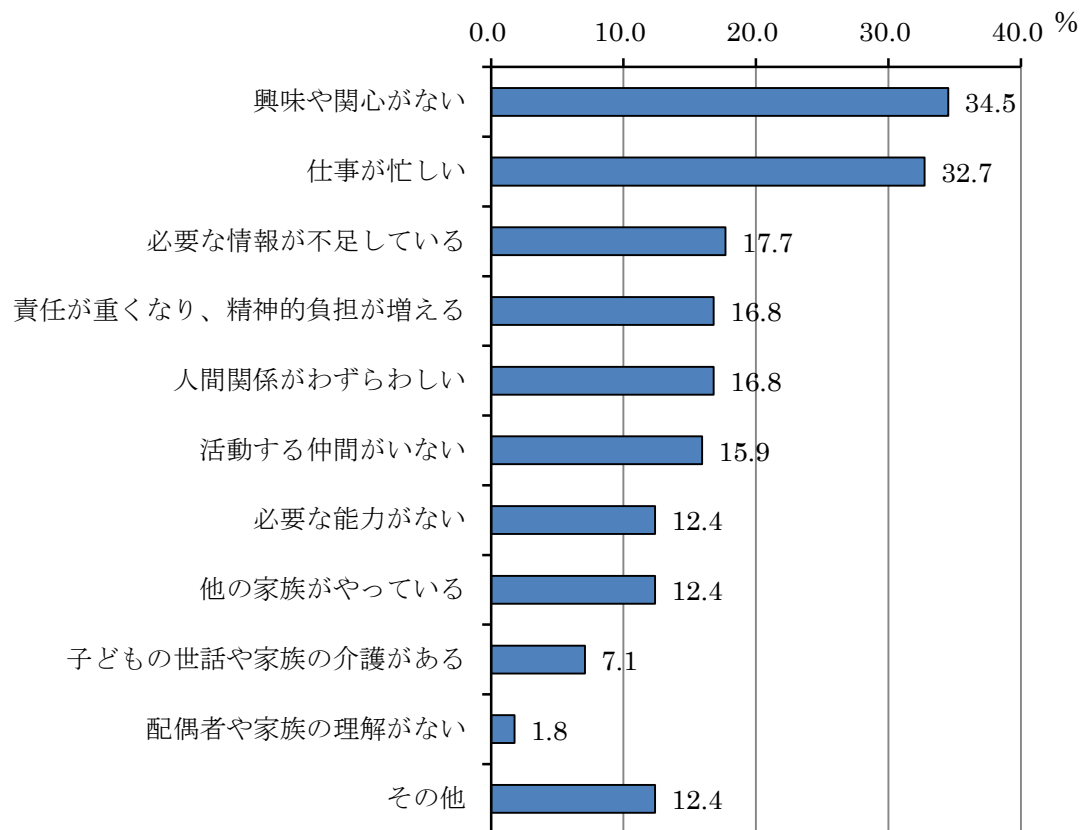
単位：％

同居家族	回答数	自治会・町内会活動	女性団体活動	PTA活動	子ども会・青少年活動	老人クラブ活動	ボランティア活動などの社会奉仕活動	消費者活動	文化活動(趣味・教養)	スポーツ・レクリエーション活動	子育て支援活動(グループ活動を含む)	その他	特に参加していない	無回答
全体	320	43.1	2.2	9.4	10.9	7.5	12.2	0.9	12.8	11.3	3.1	1.3	35.3	1.3
配偶者	220	52.7	1.8	12.3	14.1	6.8	12.7	0.9	13.2	13.2	3.2	0.9	25.9	0.5
子ども(小学校入学前)	42	57.1	2.4	26.2	26.2	2.4	4.8	0.0	7.1	9.5	7.1	0.0	26.2	0.0
子ども(小学生以上)	110	60.0	1.8	26.4	27.3	5.5	17.3	0.9	14.5	10.9	1.8	0.9	17.3	0.0
自分の親・祖父母	64	23.4	0.0	6.3	6.3	0.0	7.8	1.6	9.4	6.3	0.0	1.6	57.8	0.0
配偶者の親・祖父母	22	63.6	0.0	36.4	18.2	4.5	9.1	0.0	4.5	9.1	0.0	4.5	22.7	0.0
その他の親族	32	25.0	6.3	3.1	6.3	9.4	9.4	0.0	15.6	9.4	6.3	0.0	62.5	0.0
親族以外	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
なし(一人世帯)	21	23.8	4.8	0.0	0.0	14.3	14.3	0.0	19.0	9.5	9.5	4.8	42.9	0.0
無回答	19	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	10.5	15.8

問 19 問 18 で「12. 特に参加していない」と答えた方のみにお聞きます。地域活動に参加していない主な理由は何ですか。（〇は3つまで）

「興味や関心がない」34.5%で最も高く、次いで「仕事が忙しい」32.7%、「必要な情報が不足している」17.7%となっています。この3つは、前回調査でも上位3つで、前は「興味や関心がない」26.0%、「仕事（や家事が）忙しい」43.9%、「必要な情報が不足している」18.6%でした。「興味や関心がない」が増え、「仕事が忙しい」が減っています。

図 地域活動に参加しない主な理由



●その他回答

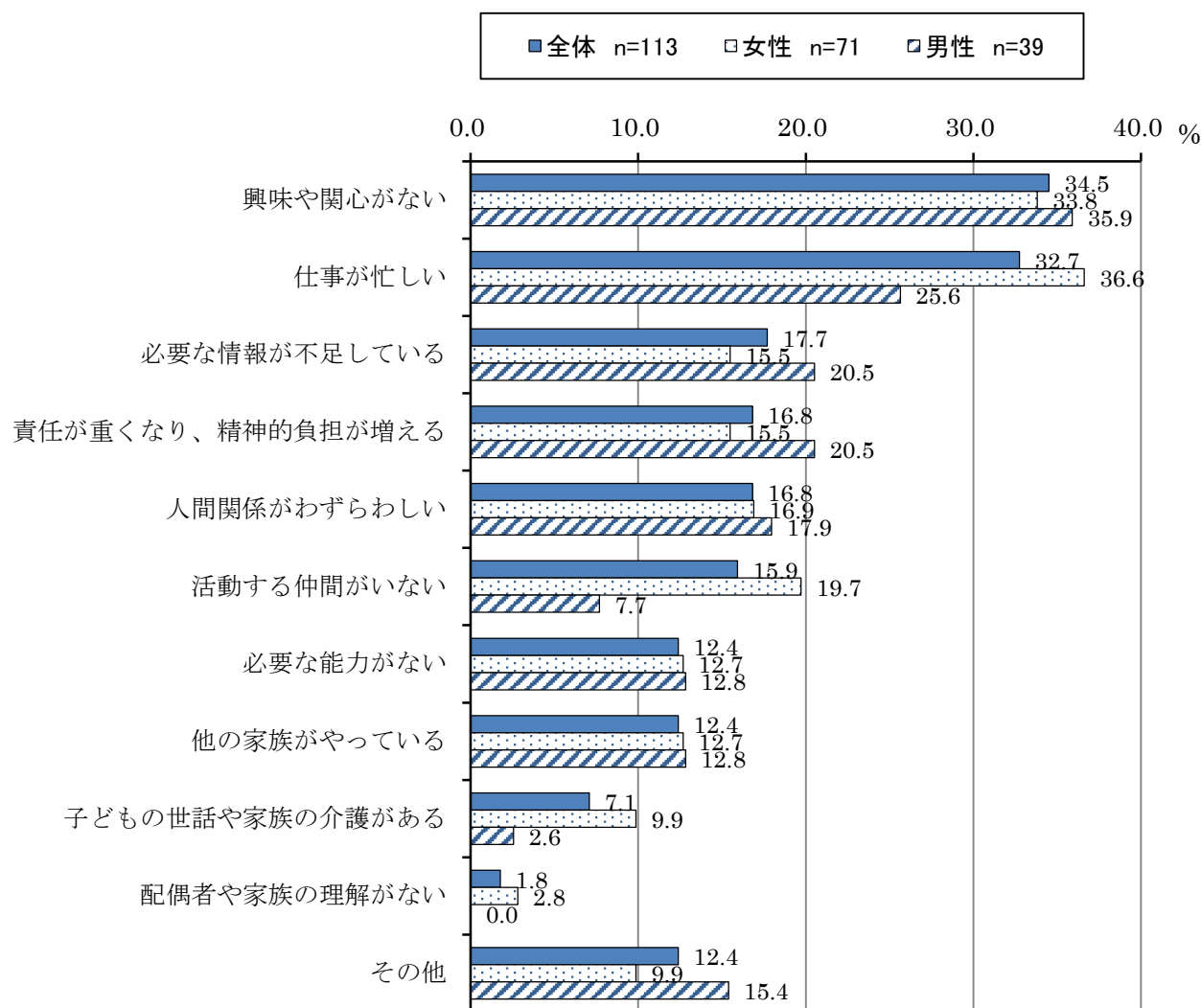
- ・参加させてもらえません
- ・体調不良
- ・人が苦手
- ・職場のある市町村の地域活動に参加している
- ・学校がいそがしい
- ・単身赴任中
- ・自分のペースで生活したい
- ・療養中
- ・体調が悪い状態であること
- ・自分の趣味の時間のため、時間がない
- ・高令 80才
- ・2019 年より子ども会参加予定

(1) 男女別

男女別での差異が大きいものとして、女性は男性に比べ「仕事が忙しい」(女性 36.6%、男性 25.6%)、「活動する仲間がいない」(女性 19.7%、男性 7.7%) の割合が高くなっています。

また、男性は女性に比べ「必要な情報が不足している」(女性 15.5%、男性 20.5%)、「責任が重くなり、精神的負担が増える」(女性 15.5%、男性 20.5%) の割合が高くなっています。

図 男女別 地域活動に参加しない主な理由



(2) 男女別・年代別

10代では男女ともに「他の家族がやっている」「興味や関心がない」が同率で最も高くなっています。20代から40代女性では「仕事が忙しい」が、50代女性では「興味や関心がない」が最も高くなりました。

男性では、20代と40代で「興味や関心がない」が最も高く、50代と60代で「仕事が忙しい」が最も高くなりました。

表 男女別 年代別 地域活動に参加しない主な理由

単位：％

性別	年代	回答数	興味や関心がない	仕事が忙しい	必要な情報が不足している	責任が重くなり、精神的負担が増える	人間関係がわずらわしい	活動する仲間がいない	必要な能力がない	他の家族がやっている	子どもの世話や家族の介護がある	配偶者や家族の理解がない	その他	無回答
女性	10代	6	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	20代	15	40.0	60.0	6.7	13.3	20.0	13.3	0.0	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	17	29.4	47.1	29.4	11.8	5.9	29.4	5.9	5.9	17.6	0.0	5.9	0.0
	40代	8	25.0	62.5	0.0	25.0	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	12.5	0.0
	50代	5	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	8	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	37.5	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0
	70歳以上	12	25.0	16.7	25.0	8.3	33.3	8.3	25.0	0.0	16.7	0.0	25.0	0.0
男性	10代	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	5	60.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	30代	3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	40代	6	66.7	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	0.0
	50代	7	14.3	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	9	33.3	44.4	22.2	22.2	33.3	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
	70歳以上	6	0.0	33.3	33.3	50.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

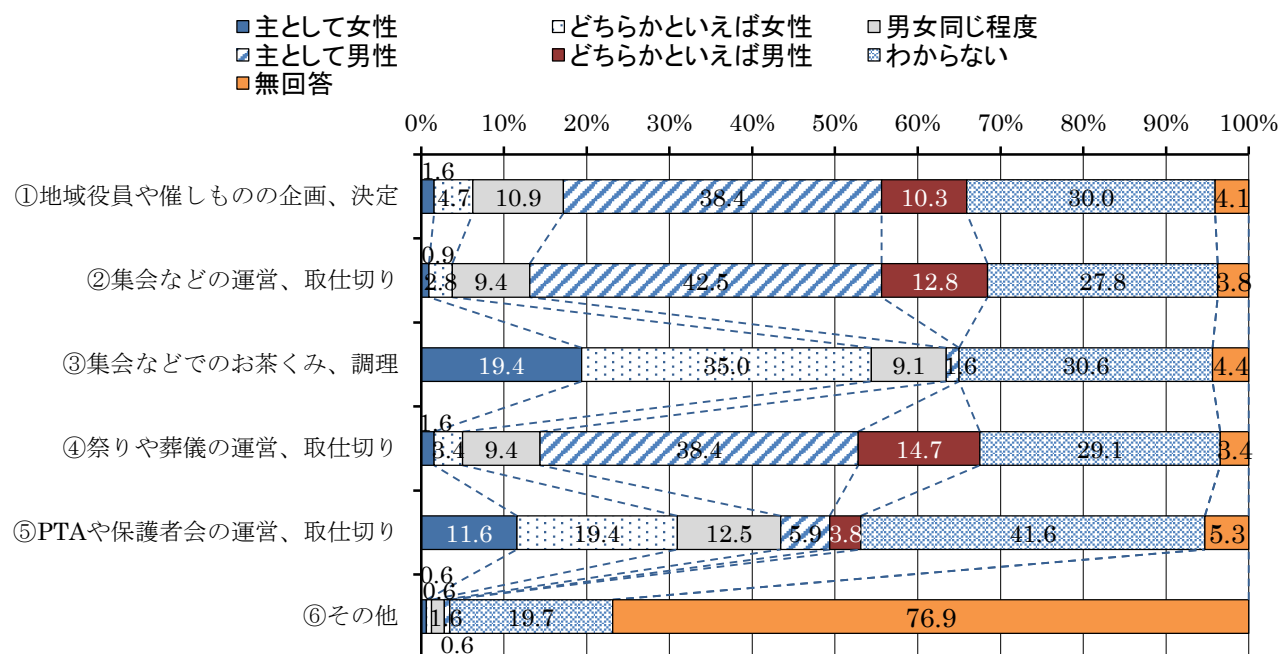
問 20 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。

(①～⑥それぞれ1つに○)

「集会などでのお茶くみ、調理」「PTA や保護者会の運営、取仕切り」では、「主として女性」と「どちらかといえば女性」を合わせた“女性”の割合が高く、各々54.4%、31.0%となりました。これらは前回調査では、各々62.3%、30.9%で、「集会などのお茶くみ、調理」は減少しています。

「集会などの運営、取仕切り」「祭りや葬儀の運営、取仕切り」「地域役員や催しものの企画、決定」では、「主として男性」と「どちらかといえば男性」を合わせた“男性”の割合が高く、各々55.3%、53.1%、48.7%、でした。前回の調査は各々57.2%、50.8%、52.7%で、大きな変化はありませんが、「祭りや葬儀の運営、取仕切り」でやや減少、「地域役員や催しものの企画、決定」でやや増加しています。

図 地域活動の男女の役割分担



●その他回答

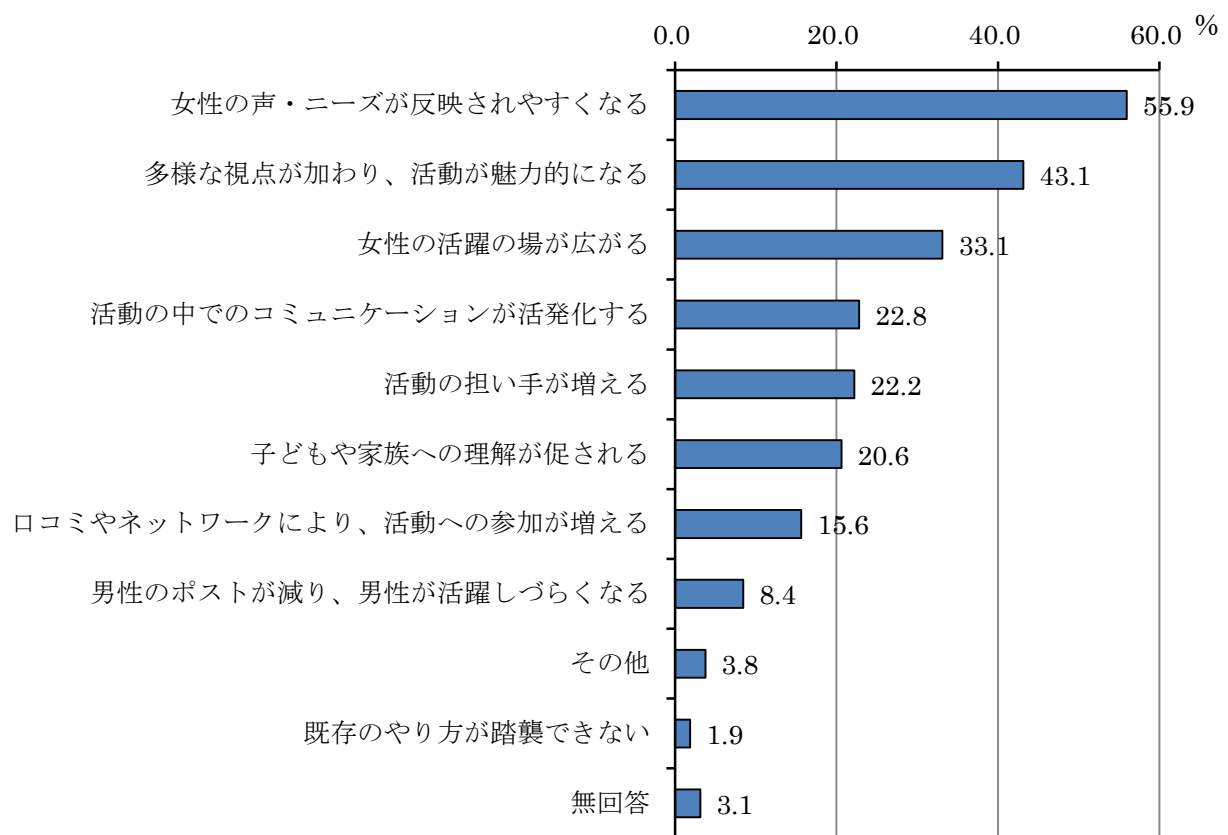
- ・何も参加していない
- ・子供会
- ・役員会で決定
- ・神社、区内清掃、寺清掃

**問 21 地域活動で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。
(〇は3つまで)**

「女性の声・ニーズが反映されやすくなる」55.9%が最も多く、次いで「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」が43.1%でした。続いて、「女性の活躍の場が広がる」33.1%と「活動の中でのコミュニケーションが活発化する」22.8%、「活動の担い手が増える」22.2%となりました。

「男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる」8.4%、「既存のやり方が踏襲できない」1.9%といった懸念項目の割合は大きくはありませんでした。

図 地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響



●その他回答

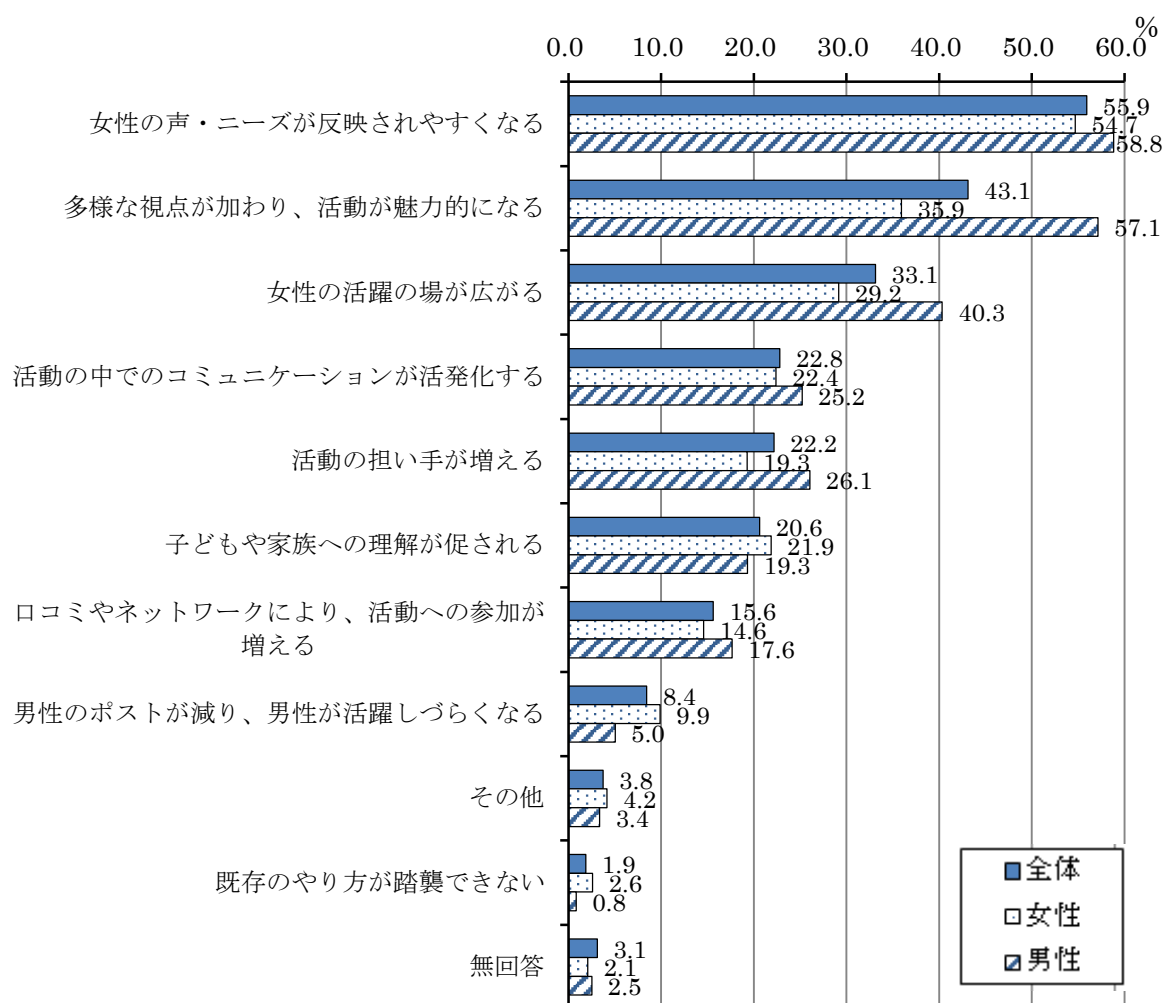
- ・目立つ影響は無い
- ・特に影響はないと思う
- ・女性のリーダーが増えて、仕事や、進め方等が変わる事は少しおかしい
- ・良い仕事や進め方ができれば男女関係ないと思う
- ・女性のグループ化を減少させる
- ・広い意見を聞く人を教育する必要
- ・女性特有の悪口、隠口が増える
- ・めんどくさいことが多くなる
- ・女性の負担が増えるだけ

(1) 男女別

多くの項目で女性に比べ男性で地域活動に与える影響に期待する傾向が高い結果となりました。差異が大きかったものとして、男性は女性に比べて「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」(女性 35.9%、男性 57.1%)、「女性の活躍の場が広がる」(女性 29.2%、男性 40.3%)、「活動の担い手が増える」(女性 19.3%、男性 26.1%) が高い割合となりました。

女性は男性に比べて「子どもや家族への理解が促される」(女性 21.9%、男性 19.3%) の割合が高くなっています。

図 男女別 地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響



(2) 男女別・年代別

全体で最多の「女性の声・ニーズが反映されやすくなる」は、男女ともに70代以上と、50代女性で50%を切り若干低めの数値になりました。

「多様な視点が加わり、活動が魅力的になる」は、10代～40代男性で高い割合にのびりました。また、「女性の活躍の場が広がる」は、男性ではいずれの世代でも40%前後の割合を占めましたが、10代・30代・40代の女性では、20%前後と低くなっています。

表 男女別 年代別 地域活動での女性の参加や女性リーダーの増加が与える影響

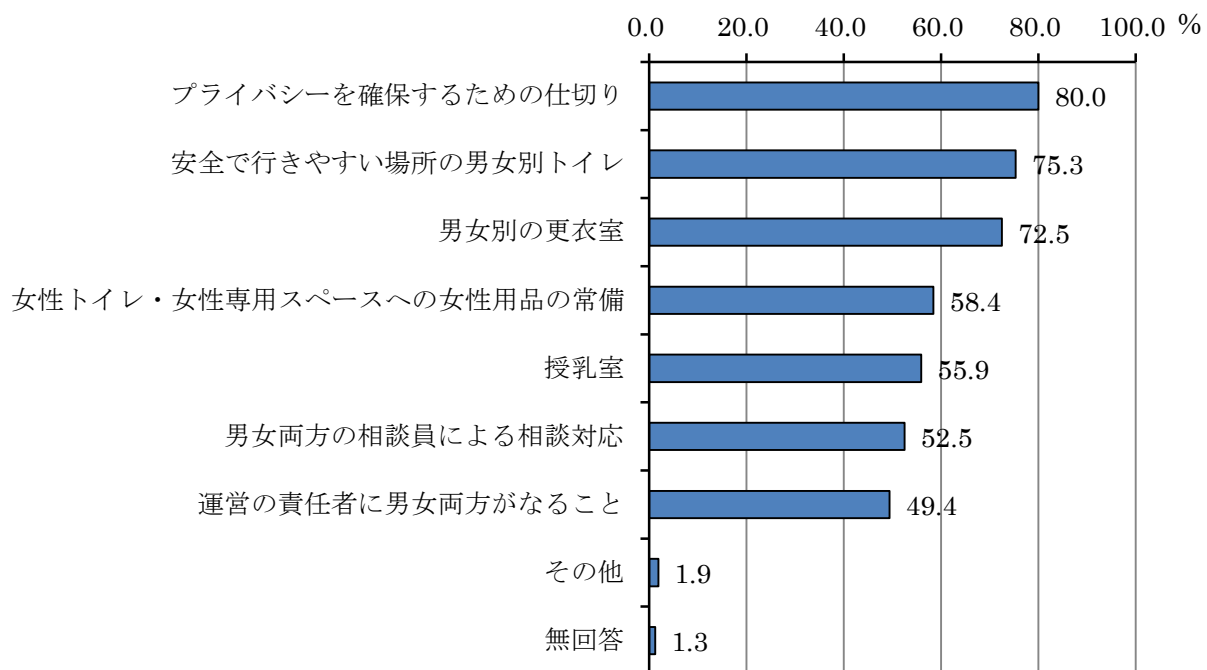
単位：％

性別	年代	回答数	女性の声・ニーズが反映されやすくなる	多様な視点が加わり、活動が魅力的になる	女性の活躍の場が広がる	活動の中でコミュニケーションが活発化する	活動の担い手が増える	子どもや家族への理解が促される	活動への参加が増える	ロコミやネットワークにより、活動への参加が増える	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	その他	既存のやり方が踏襲できない	無回答
女性	10代	10	70.0	30.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	20代	17	64.7	41.2	35.3	29.4	11.8	23.5	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0
	30代	30	70.0	30.0	23.3	13.3	20.0	23.3	10.0	13.3	6.7	0.0	0.0	0.0
	40代	48	54.2	37.5	18.8	18.8	16.7	31.3	8.3	10.4	6.3	4.2	0.0	0.0
	50代	27	37.0	37.0	29.6	18.5	25.9	11.1	18.5	3.7	0.0	7.4	3.7	3.7
	60代	18	61.1	44.4	33.3	38.9	22.2	16.7	16.7	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	42	45.2	33.3	42.9	31.0	23.8	19.0	28.6	11.9	2.4	2.4	7.1	7.1
男性	10代	5	60.0	60.0	80.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20代	5	60.0	100.0	40.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30代	14	57.1	78.6	35.7	28.6	28.6	42.9	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	40代	18	66.7	72.2	38.9	5.6	33.3	27.8	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0
	50代	18	66.7	50.0	38.9	27.8	22.2	5.6	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	60代	27	63.0	37.0	40.7	25.9	29.6	29.6	18.5	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
	70歳以上	32	46.9	53.1	37.5	34.4	25.0	6.3	21.9	9.4	0.0	3.1	9.4	9.4

問 22 自然災害が起きたとき、男女両方に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと考えますか。（あてはまるものすべてに○）

「プライバシーを確保するための仕切り」80.0%が最も多く、次いで「安全で行きやすい場所の男女別トイレ」75.3%、「男女別の更衣室」72.5%となりました。その他の項目も概ね 5 割以上の割合となり、これから項目への配慮の必要性を多くの人が感じています。

図 男女両方に配慮した災害時避難所にするために必要なこと



●その他回答

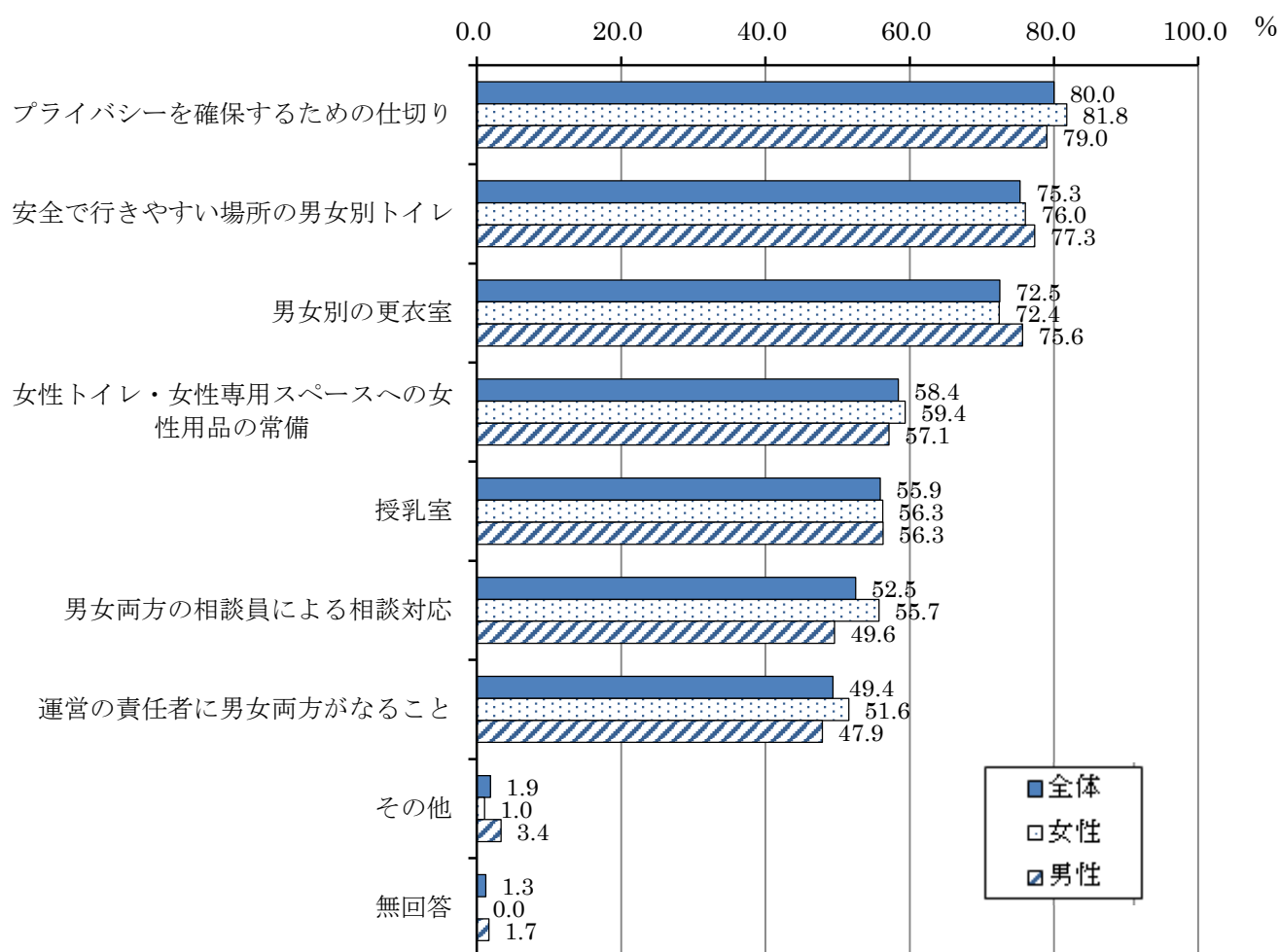
- ・年齢別の相談員
- ・男女別の数日分の下着、服
- ・男女と子供、老人等の年令別の事も考えるべき
- ・介護を必要としている人を預かってくれるところ
- ・LGBT への対応もできたら良いが・・・
- ・他にも色々あると思うが、何が必要かは分からない

(1) 男女別

いずれの項目でも、男女での差異は大きく現れませんでした。多くの項目で女性の方が若干高い割合となっています。

差異が大きいものとして、女性は男性に比べて「男女両方の相談員による相談対応」（女性 55.7%、男性 49.6%）、「運営の責任者に男女両方がなること」（女性 51.6%、男性 47.9%）の割合が高くなっています。逆に、男性は女性に比べて「男女別の更衣室」（女性 72.4%、男性 75.6%）の割合が高くなりました。

図 男女別 男女両方に配慮した災害時避難所にするために必要なこと



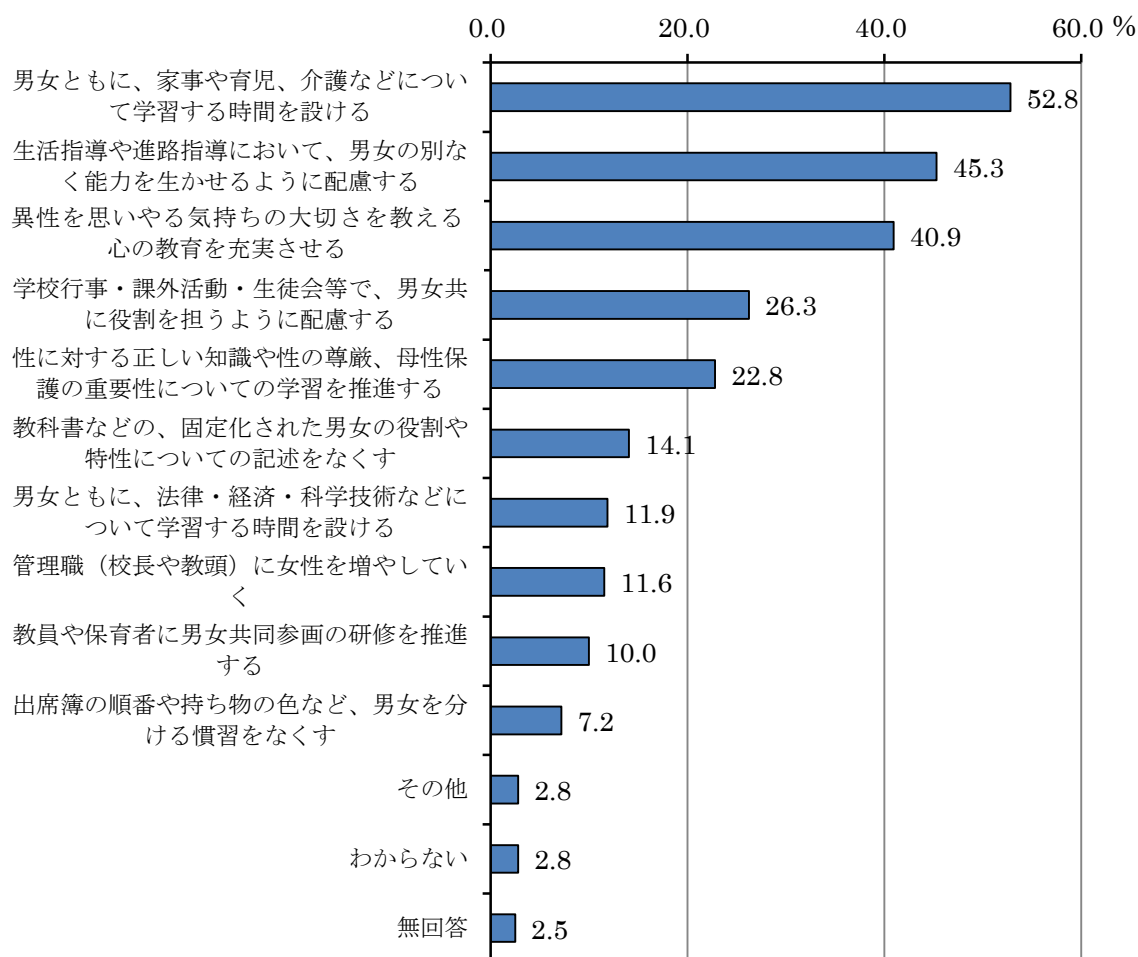
5 教育について

問 23 あなたは、男女が共に協力し合う社会を作るために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（〇は3つまで）

「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」52.8%が最も多く、次いで「生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるように配慮する」45.3%、「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」40.9%となりました。

前回調査でも、これらの3項目は各々、33.8%、40.0%、38.9%で同じく上記3位を占めていますが、この中で、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の回答が大幅に増加しました。

図 男女が協力し合う社会を作るために学校教育で力を入れるべきこと



●その他回答

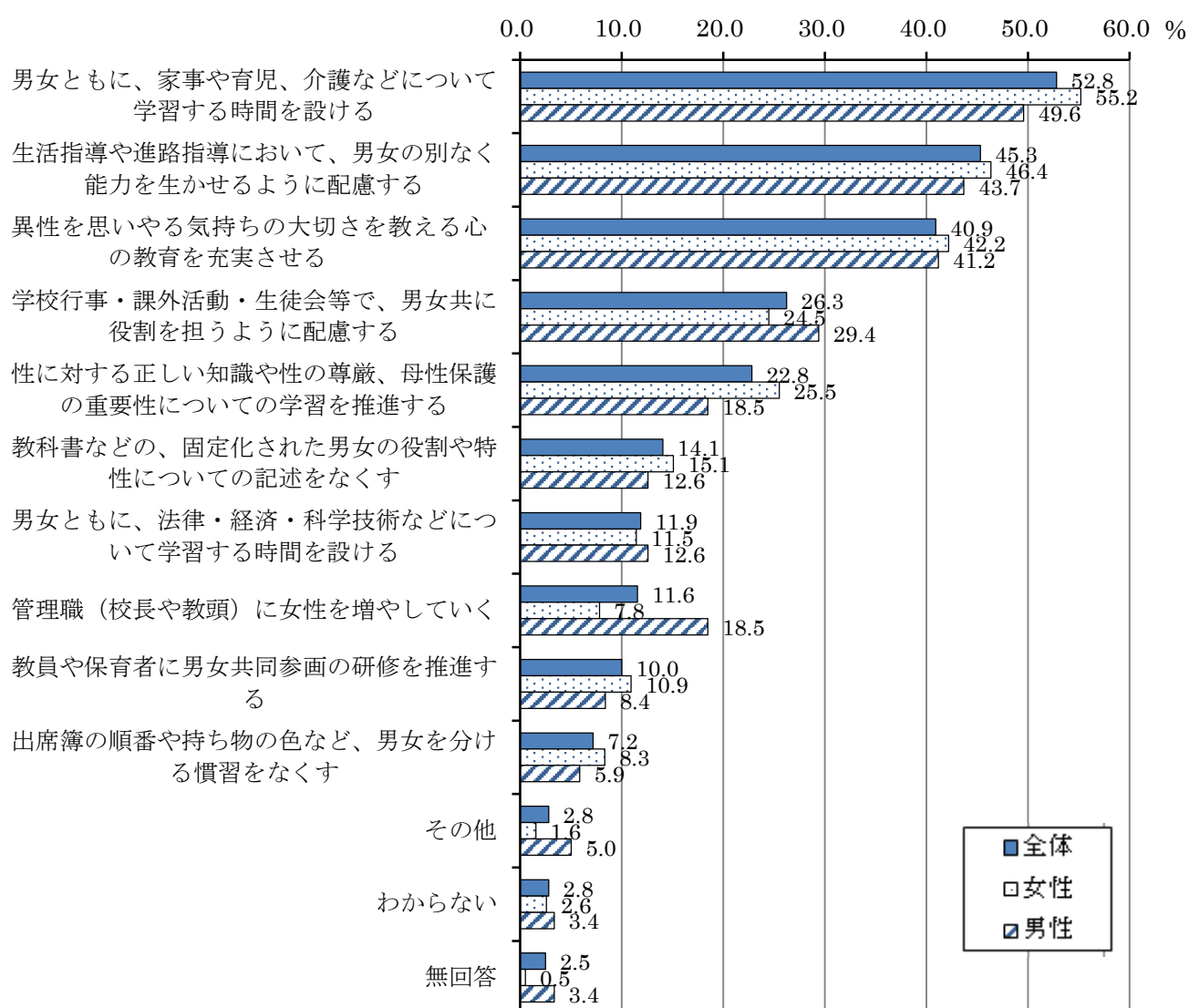
- ・むしろ女子の方が活発な生徒が多い
- ・理系は男子、文系は女子という固定概念を壊す
- ・いいところを探す” その視点をもって過ごす毎日にする。いやなこと、困ったことは” どうしたのかな” と一息おく、そんな余裕のある環境が先生にも子どもにも必要
- ・体力に合わせた取り決めをする
- ・出産＝母乳＋育児の方程式を無くす
- ・男女をまったく一緒にするのではなく女性を男性が守る事を学ばせると良い
- ・もっと女性ファーストを学ばせるべき
- ・教師のへんけんをなくす。
- ・自転車のマナー安全

(1) 男女別

男女での差異が大きいもので、女性が男性に比べ高いものとして、「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」（女性 55.2%、男性 49.6%）、「性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する」（女性 25.5%、男性 18.5%）があります。

男性が女性に比べ高いものとしては、「学校行事・課外活動・生徒会等で、男女共に役割を担うように配慮する」（女性 24.5%、男性 29.4%）、「管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく」（女性 7.8%、男性 18.5%）がありました。

図 男女別 男女が協力し合う社会を作るために学校教育で力を入れるべきこと

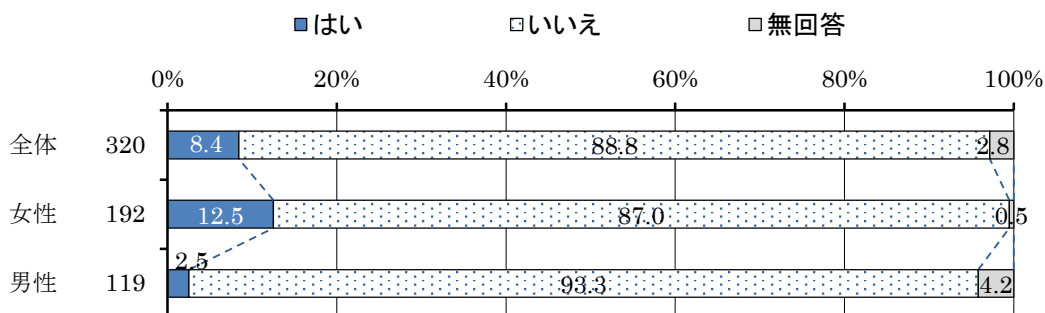


6 DV（ドメスティック・バイオレンス／配偶者等からの暴力）について

問 24 あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がありますか。（〇は1つ）

「配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がある」は8.4%で、女性12.5%、男性2.5%となりました。選択肢が若干異なりますが、前回調査では「自分が直接経験したことがある」が全体で9.0%、女性11.4%、男性5.7%で、比較すると少し減少しています。

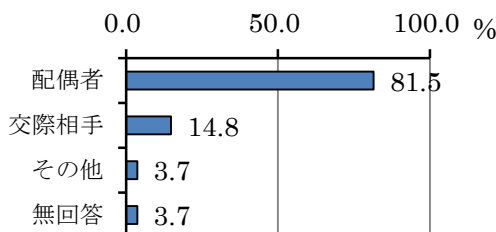
図 男女別 配偶者・交際相手から暴力を受けた経験の有無



問 25 問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きます。それは誰からですか。（あてはまるものすべてに〇）

「配偶者」が81.5%と大半を占め、次いで「交際相手」が14.8%でした。

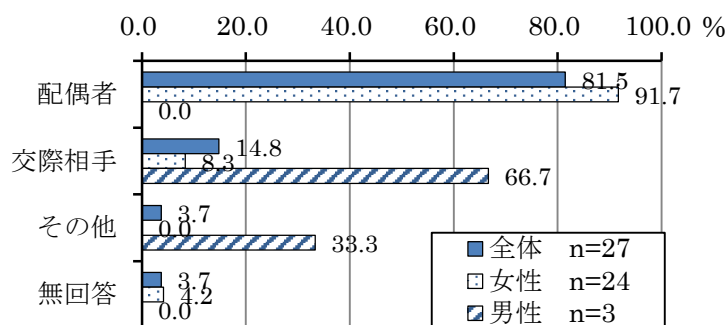
図 暴力を受けた相手



(1) 男女別

女性では、「配偶者」が91.7%とより多い状況にあります。男性は母数が3と限られている中での数値ですが、「配偶者」の回答はなく、3分の2が「交際相手」でした。

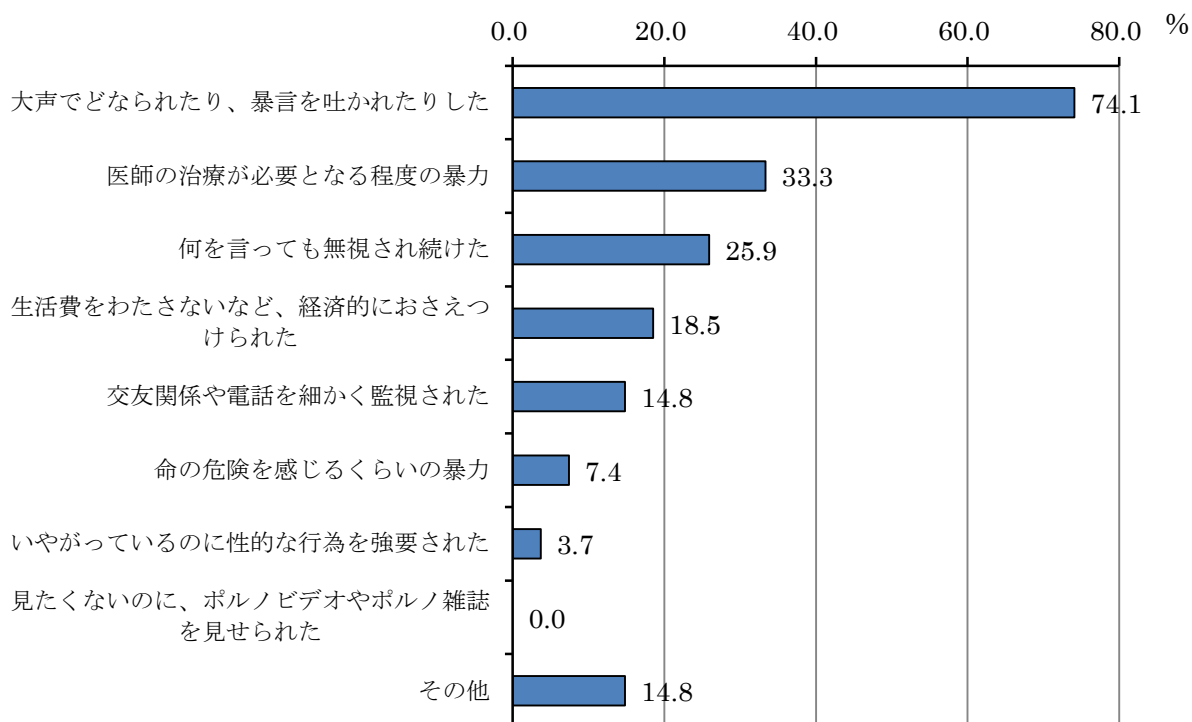
図 男女別 暴力を受けた相手



問 26 問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きます。その内容はどんなものでしたか。（あてはまるものすべてに○）

「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」74.1%が最も多く、次いで「医師の治療が必要となる程度の暴力」33.3%、「何を言っても無視され続けた」25.9%、「生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた」18.5%、「交友関係や電話を細かく監視された」14.8%と続きました。

図 暴力の内容



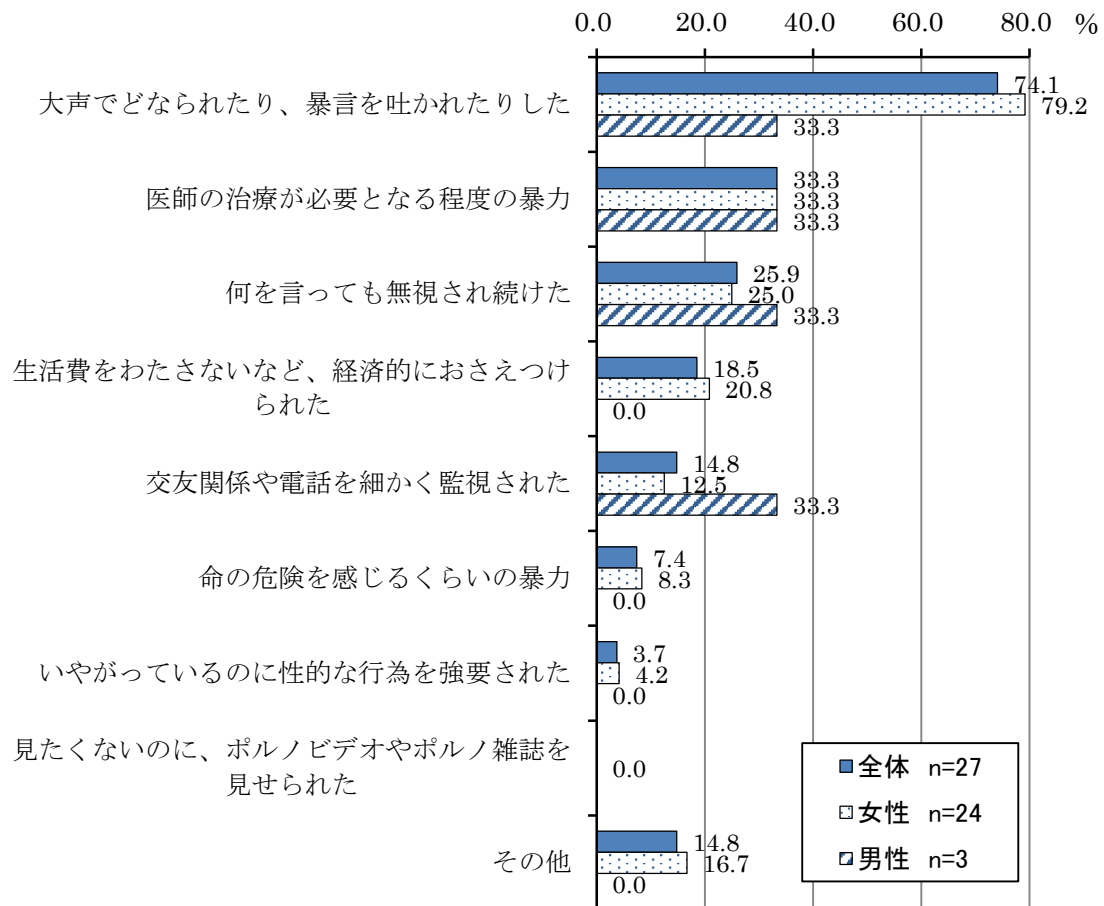
●その他回答

- ・家族を見捨て家を出ていった。
- ・直ぐに元へもどる
- ・感情的になり暴力を受けた
- ・物をこわす

(1) 男女別

「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」は女性 79.2%、男性 33.3%で、女性は男性より高い割合となっています。

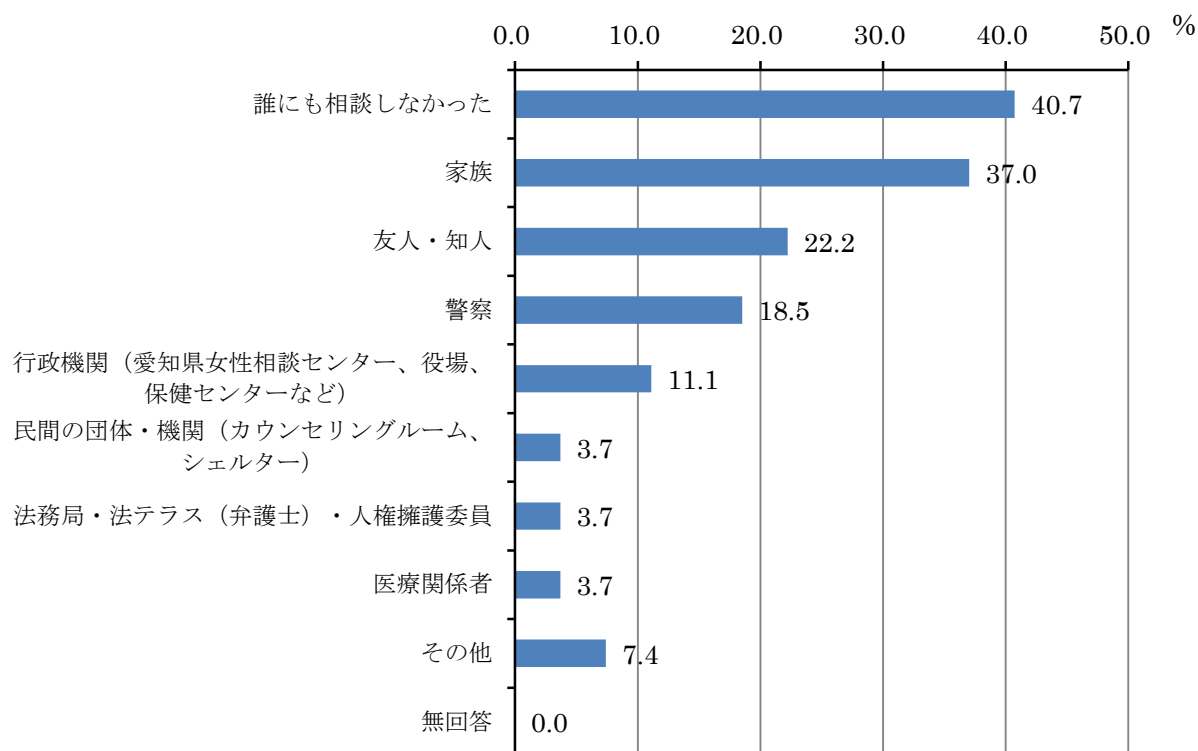
図 男女別 暴力の内容



問 27 問 24 で「はい」を選んだ方にお聞きます。その時に誰かに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

「誰にも相談しなかった」40.7%が最も多く、次いで「家族」37.0%、「友人・知人」22.2%の順となりました。「警察」18.5%、行政機関 11.1%も一定程度ありますが、各種相談機関や関係者に相談したという回答は少ない状況です。

図 暴力を受けた時の相談相手



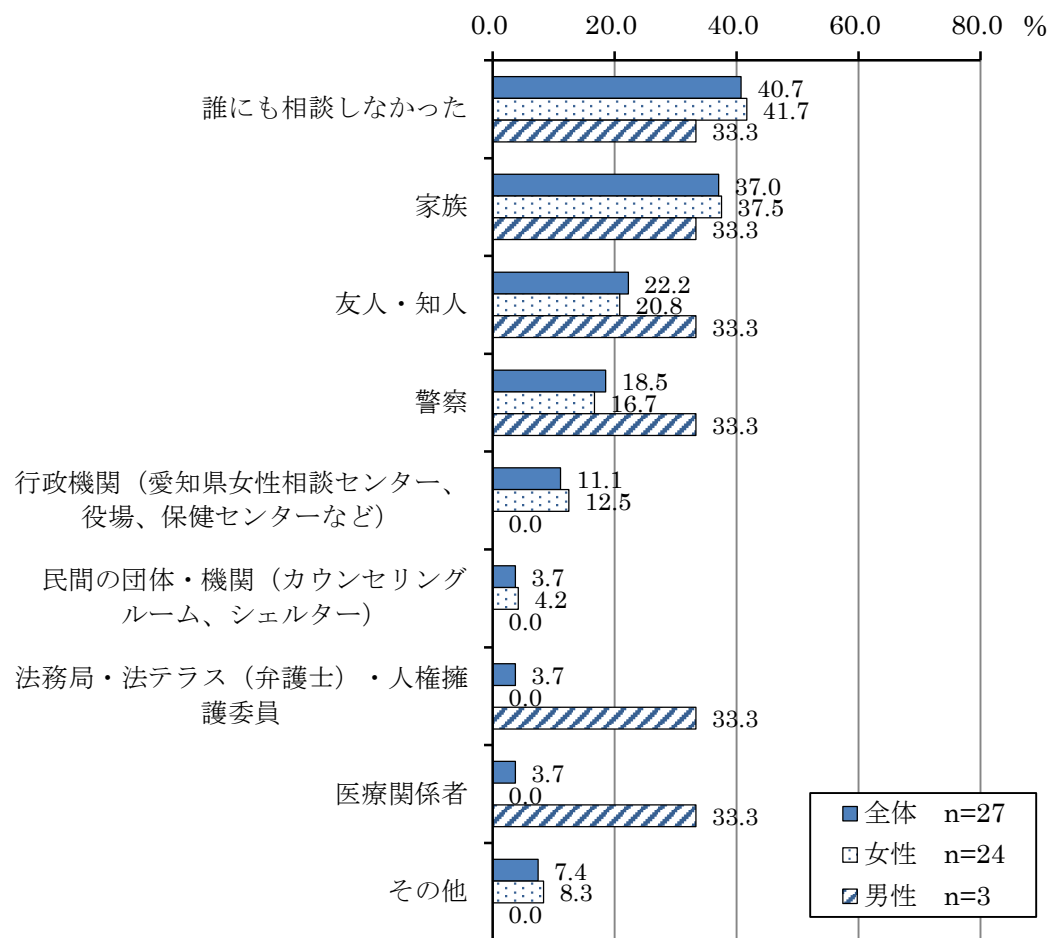
●その他回答

- ・実の母
- ・自分の親やおば・おじ

(1) 男女別

「誰にも相談しなかった」は女性 41.7%、男性 33.3%で、女性は男性と比べ高い割合となっています。また、女性は「家族」(女性 37.5%、男性 33.3%) 以外は、他者に相談することが少ない状況となっています。

図 男女別 暴力を受けた時の相談相手

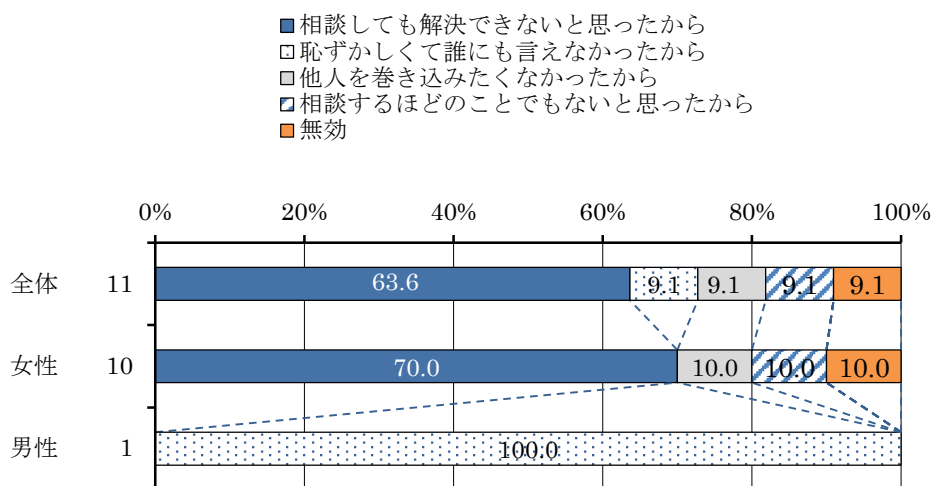


**問 28 問 27で「9. 誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きます。相談しなかった理由は何ですか。
(〇は1つ)**

「相談しても解決できないと思ったから」63.6%が最も多く、次いで「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」「他人を巻き込みたくなかったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」が各9.1%となっています（いずれも回答数は1）。

男女別では、「相談しても解決できないと思ったから」は女性が高く、男性は、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が高い割合でした（ただし男性の回答数は1）。

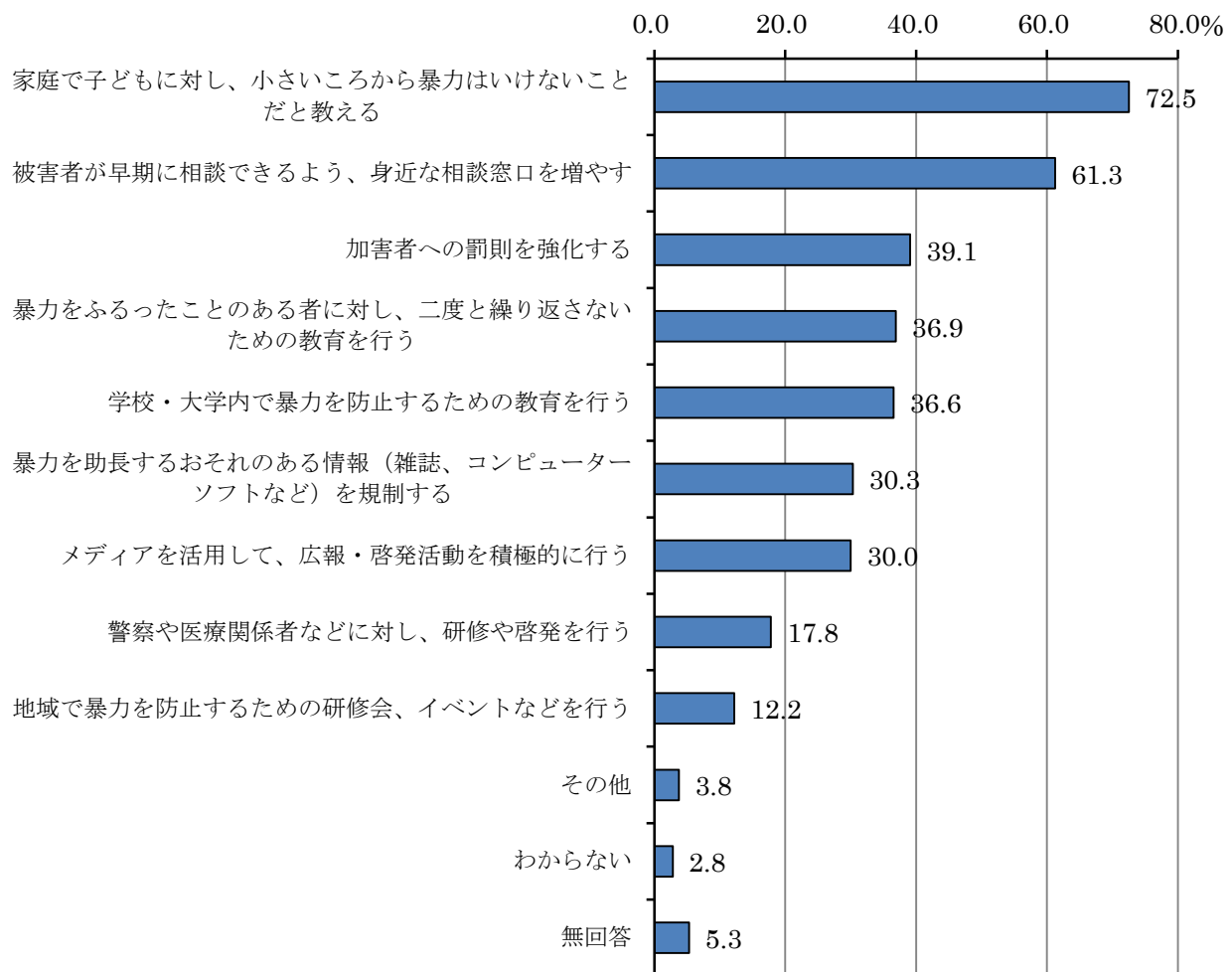
図 男女別 誰にも相談しなかった理由



問 29 男女間の暴力を防止するために必要なことは何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」72.5%が最も多く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」61.3%となりました。その他、5項目で30%を超える回答があり、男女間の暴力防止への意向の高さが表れています。

図 男女間の暴力を防止するために必要なこと



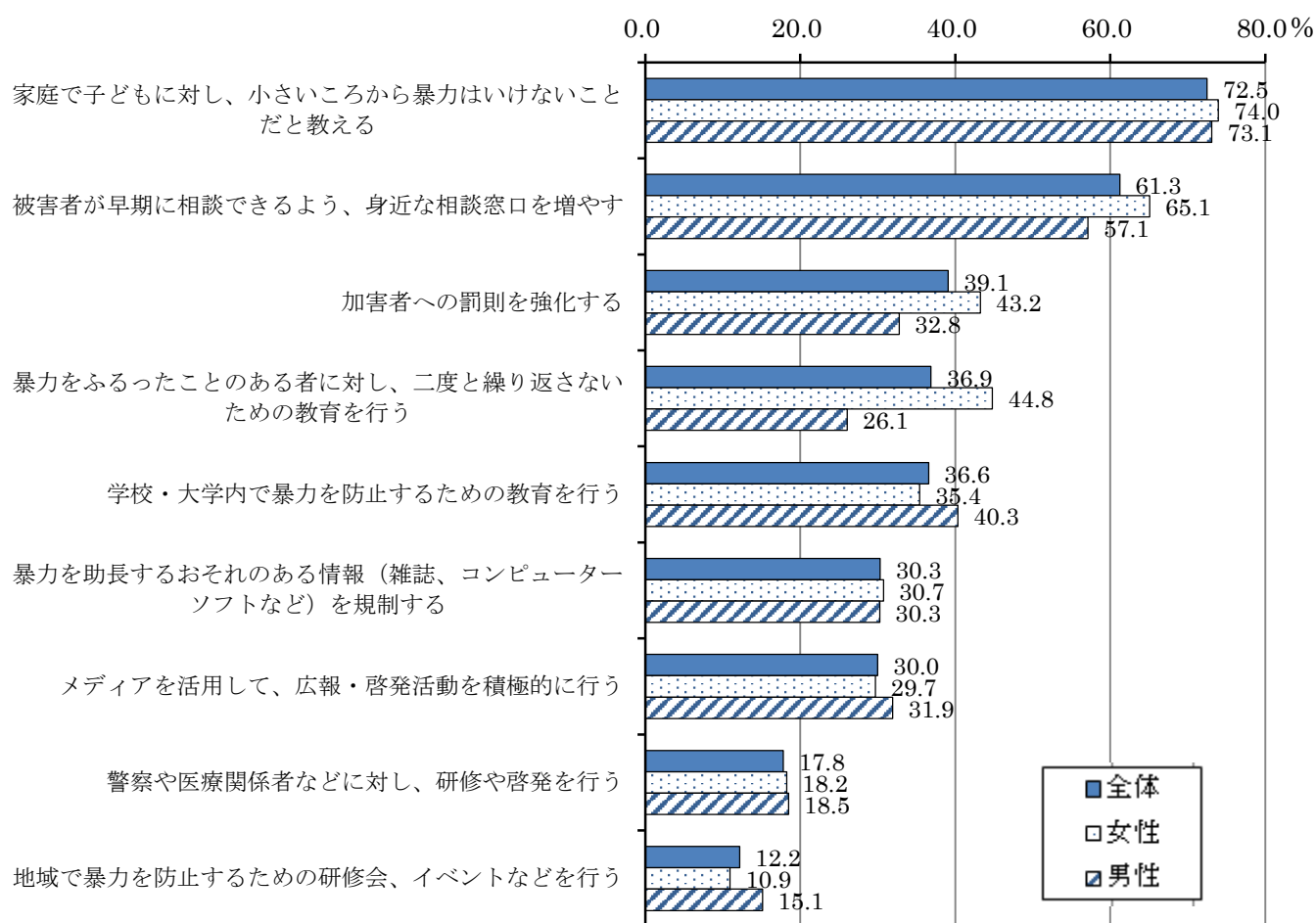
●その他回答

- ・暴力がなされた理由・背景をきちんと確認でき、対処できる人の教育
- ・警察が早い段階で介入できる様に法律を見直す
- ・男女間ではなく、男同子、女同子、で暴力とケンカの違いを教える。ケンカはお互いががまんすれば暴力は防げる
- ・すぐ逃げれる場所
- ・暴力が起こる前にきちんと男女間で話し合う
- ・家庭の問題の相談窓口が、みじかにあるといい。
- ・暴力に至るまでの経緯を考え精神面の強化を促進する
- ・生命の大切さや、相手を尊ぶ心を持つことを、早いうちから教育にとり入れる。
- ・発達障害、サイコパスなど影響を教える。
- ・人と人とのつき合い方、コミュニケーションがとれ、自分のことを一番理解できる人間にする教育・ストレスと向き合え、1人で抱えない環境をつくる。
- ・加害者側の原因をさぐり、医療的アドバイス、治療を行う
- ・生活苦から暴力をふるう人もいるので生活のみなおしが必要と思います

(1) 男女別

男女別に見ると、多くの項目で女性の割合がより高くなっていますが、全般的傾向は共通しています。男女別の差異が大きいものとして、女性は男性と比べて「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」(女性 65.1%、男性 57.1%)、「加害者への罰則を強化する」(女性 43.2%、男性 32.8%)、「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」(女性 44.8%、男性 26.1%)と、具体的な仕組みや措置を必要とする傾向が見られます。男性が女性より高く、その差異が大きなものには、「学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う」(女性 35.4%、男性 40.3%)がありました。

図 男女別 男女間の暴力を防止するために必要なこと



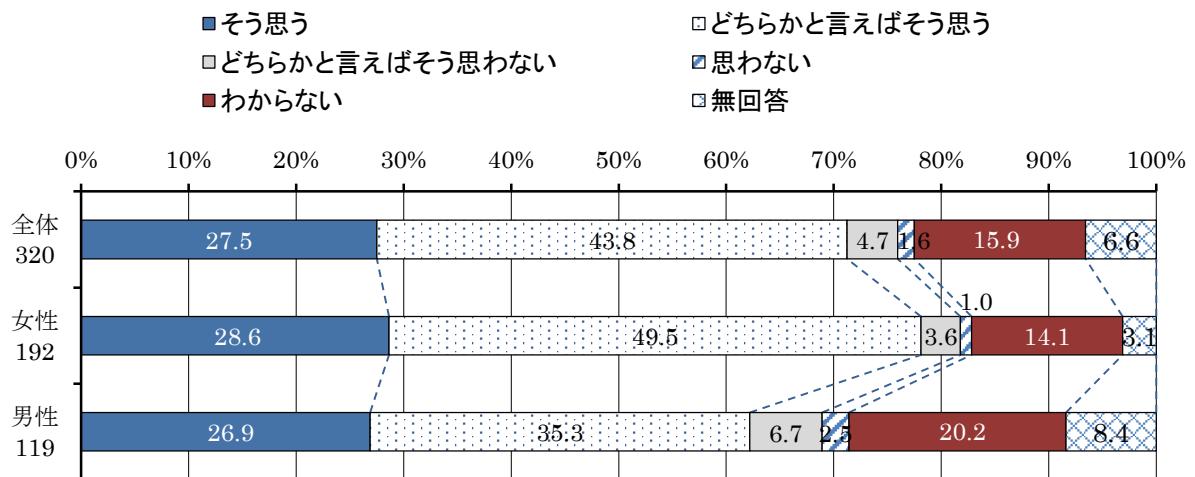
7 LGBTについて

問 30 現在の社会は、LGBT（または性的マイノリティ・性的少数者）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は1つ）

「そう思う」27.5%、「どちらかと言えばそう思う」43.8%で、2つの計＝“(広義の) そう思う”は、71.3%となりました。

男女別では、“(広義の) そう思う”は、女性 78.1%、男性 62.2%と、女性は男性より高く、他方、男性は女性より“(広義の) そう思わない”（女性 4.6%、男性 9.2%）、及び「わからない」（女性 14.1%、男性 20.2%）が高くなっています。

図 男女別 現在社会はLGBTの方々にとって生活しづらいと思いますか

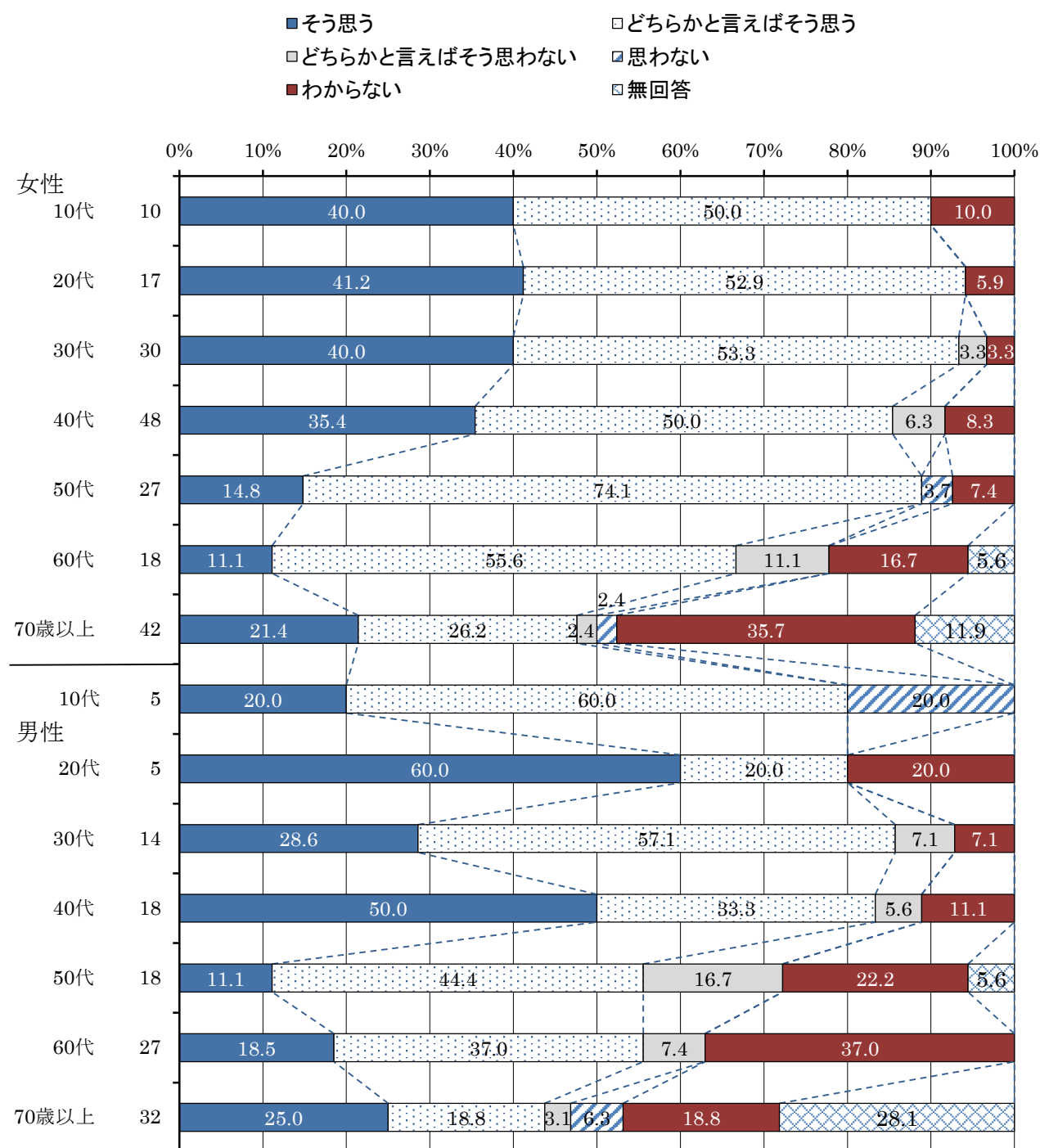


(1) 男女別・年代別

「そう思う」は、10代～40代で高く、50代以上は男女とも低くなる傾向にあります。ただし、男性では10代、30代の比率がやや低く不規則性も見られます。また、60代以上では、男女ともに「わからない」の比率が高くなっています。

“(広義の) そう思う”は、女性では10代～50代で80～90%以上の割合を占めています。男性では“(広義の) そう思う”は、10代～40代で80%前後ですが、50代では55.5%となり、“(広義の) そう思わない”16.7%と増え、「わからない」も22.2%と比較的高くなっています。

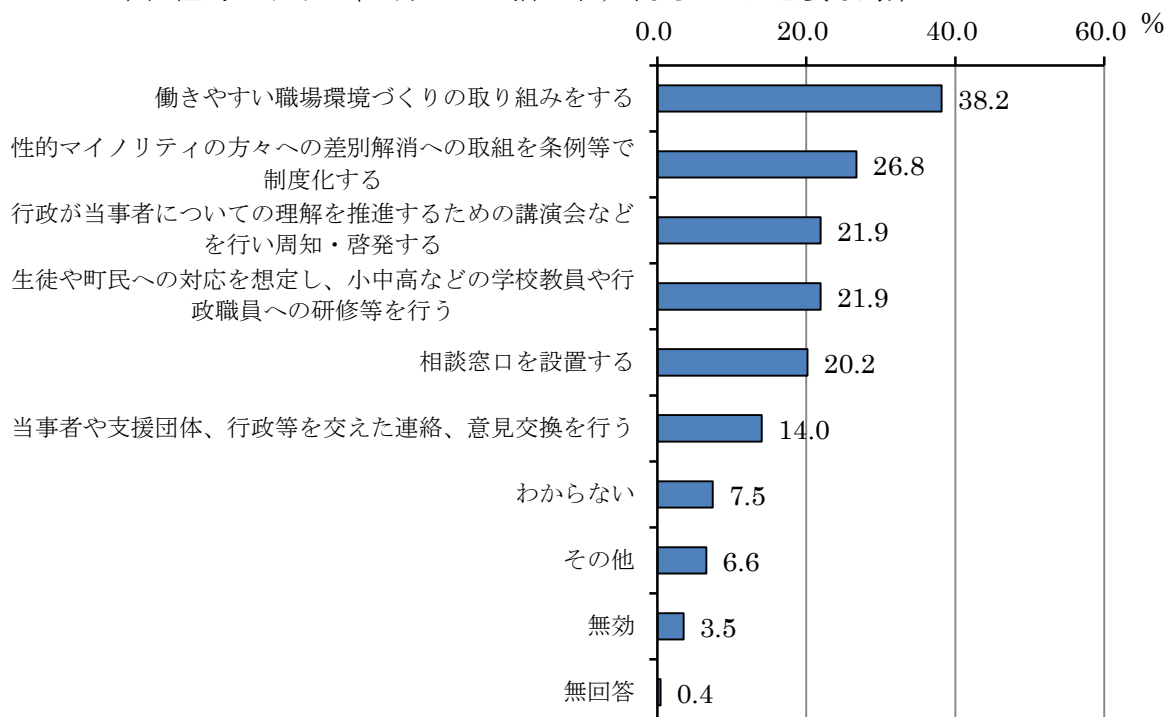
図 男女別 年代別 現在社会はLGBTの方々にとって生活しづらいと思いますか



問 31 問 30 で「 1. そう思う」「 2. どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きます。性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（〇は 2 つまで）

「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」38.2%が最も高く、次いで「性的マイノリティの方々への差別解消への取組を条例等で制度化する」26.8%、「行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する」「生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」が各々21.9%、「相談窓口を設置する」20.2%になりました。

図 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策



●その他回答

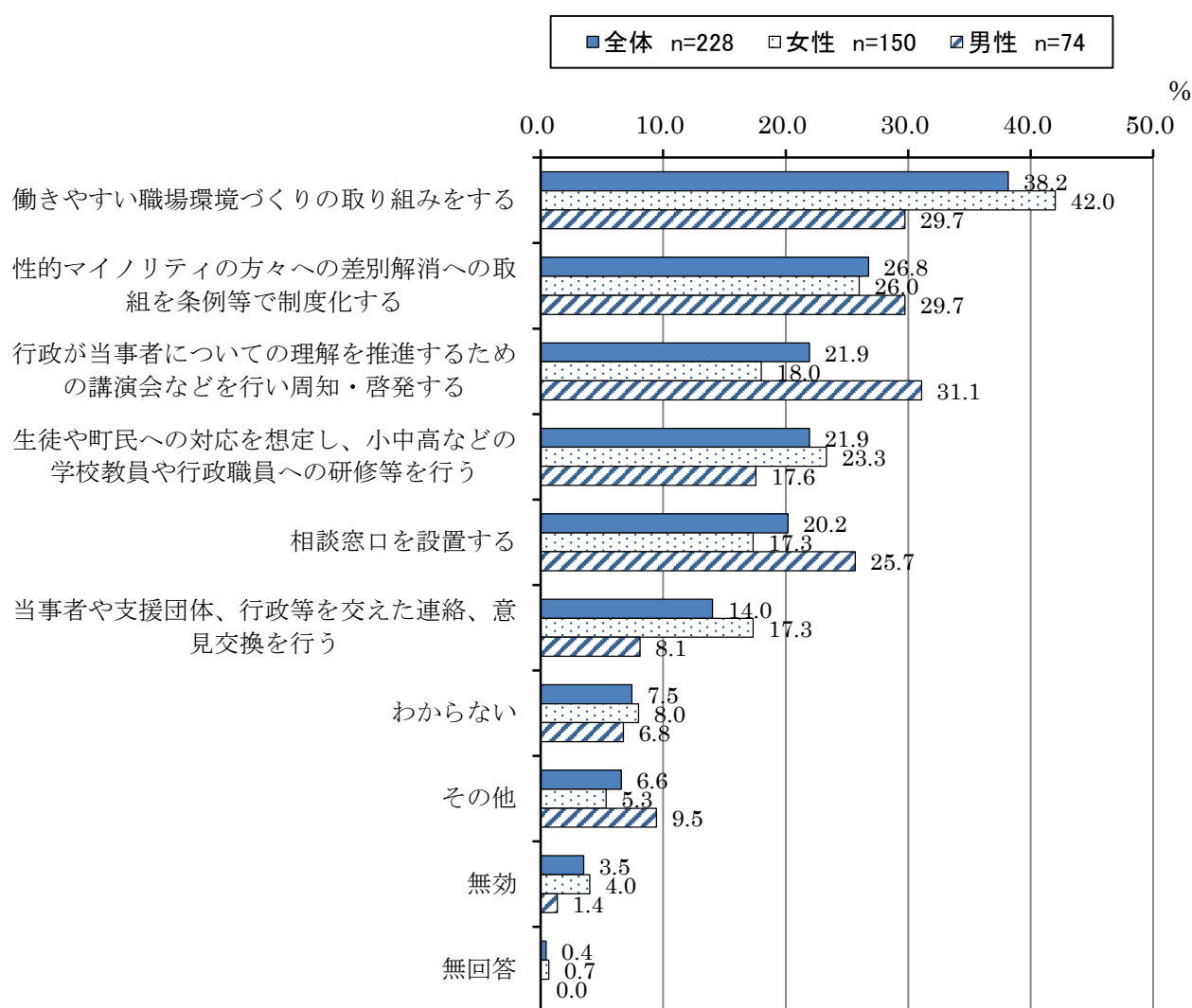
- ・偏見をなくす為、学校の授業などに取り入れる。 ・LGBT への差別をなくすため、小学校からの LGBT への理解を促す授業の取り組み ・教育（小中学校）で LGBT のことを学ぶ時間をつくる ・学校教育に入れる
- ・様々な性別があるということを、授業で教えていく。
- ・学校教育のあり方の見直し
- ・制服など男女区別あるものの撤廃か選択を増やす
- ・小さい頃から、他者を思いやり理解する環境を作る
- ・大人が偏見を持つだけ
- ・メディアを使って皆に LGBT は特別ではない、よくあると認識させる
- ・性的マイノリティに限らずマイノリティは間違っているという考えを変えれば色々と解決しそう。
- ・性的マイノリティの方々への理解を進めるべきだと思うがまず、どうすれば、どんなことから進めるべきなのかよくわからない
- ・あえて大事にしない。
- ・行政により解決できるものではない
- ・結婚できるように法律をかえるべき
- ・1人1人の個性を活かせる、思想を活かせる考えができる（受けとめられる）
- ・自分の固定観念では暮らしていけないということを考える、学び理解することを考えるシンポジウムみたいな物を行う

（１）男女別

男女差が大きいもので、女性が男性と比べて高いものとして、「働きやすい職場環境づくりの取り組みをする」（女性 42.0%、男性 29.7%）、「生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う」（女性 23.3%、男性 17.6%）、「当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う」（女性 17.3%、男性 8.1%）があります。

男性が女性と比べ高いものでは、「行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する」（女性 18.0%、男性 31.1%）、「相談窓口を設置する」（女性 17.3%、男性 25.7%）があります。

図 男女別 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要な対策



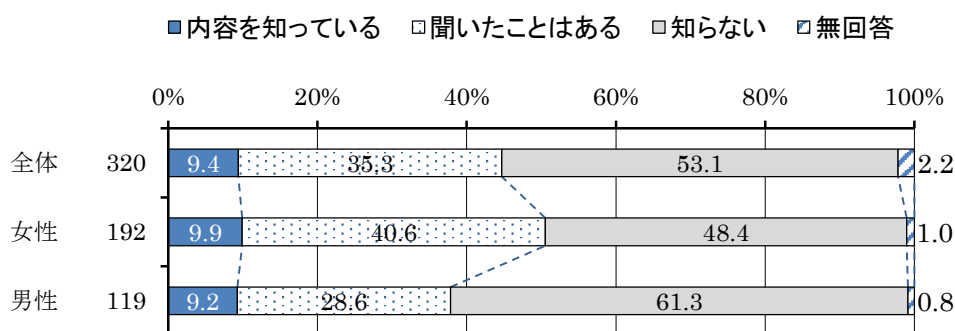
8 扶桑町の男女共同参画について

問 36 町では、「扶桑町男女共同参画プラン（平成 22 年～平成 31 年）」を策定して、男女共同参画を推進しています。このプランを知っていますか。（〇は 1 つ）

「内容を知っている」は 9.4%、「聞いたことがある」 35.3%、2 つの計は 44.7%で、「知らない」 53.1%が上回っています。

男女別では、「知っている」は大きな差異はありませんが、女性では「聞いたことはある」が多く、両者の計は 50.5%となり、「知らない」 48.4%を上回っています。男性では、両者の計が 37.8%に留まり、「知らない」 61.3%が大きく上回りました。

図 男女別「扶桑町男女共同参画プラン」の認知度の状況



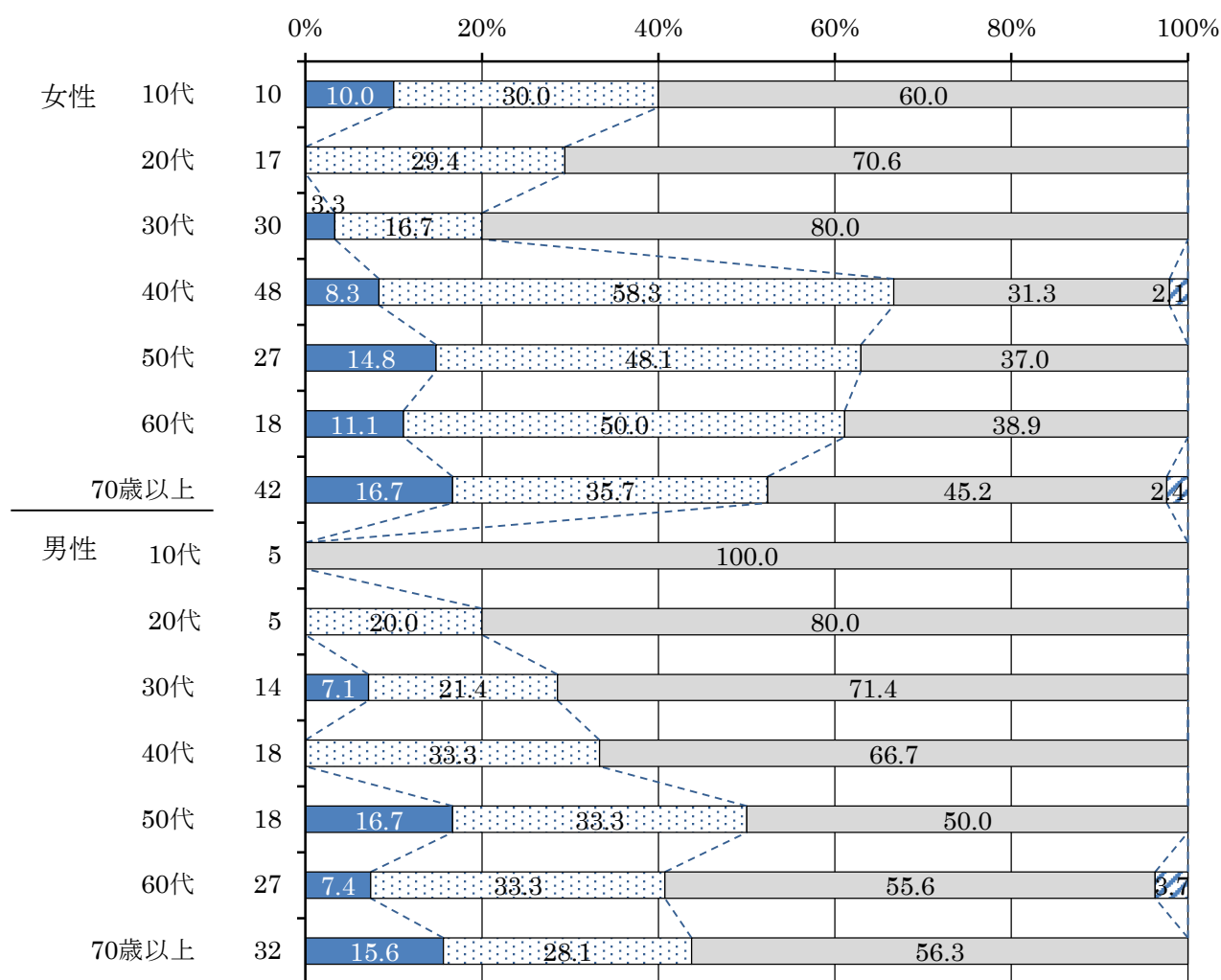
(1) 男女別・年代別

「内容を知っている」は、50代以上で比較的割合が高くなっています。「知らない」の割合は、若い世代で中高年と比べて高く、女性では、10代 60.0%、20代 70.6%、30代 80.0%、男性では、10代 100.0%、20代 80.0%、30代 71.4%でした。

40代以上になると、女性では「聞いたことはある」が増え、「知らない」を上回るのに対して、男性では、「聞いたことはある」は30%台にとどまり、いずれの世代でも「知らない」が過半数を占めています。

図 男女別年代別「扶桑町男女共同参画プラン」の認知度の状況

■内容を知っている □聞いたことはある □知らない □無回答

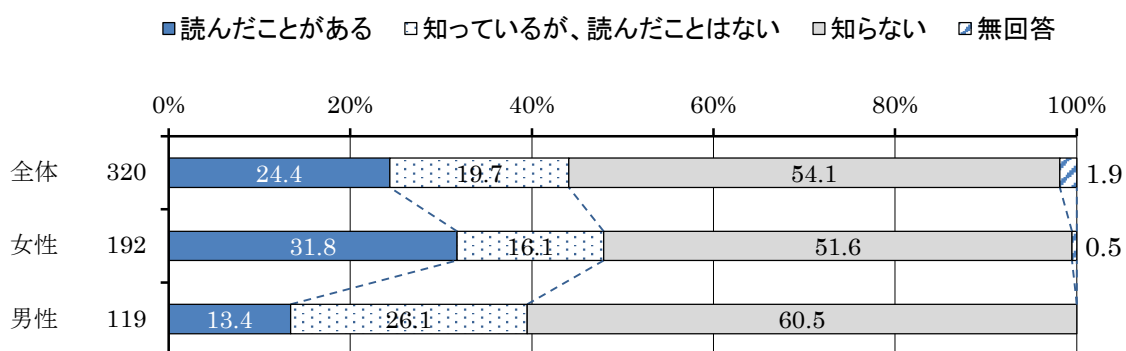


問 37 「広報ふそう」では、男女共同参画に関するコラムを掲載していますが、知っていますか。（〇は1つ）

「読んだことがある」は 24.4%、「知っているが、読んだことはない」 19.7%で、2つの計 44.1%でした。男女共同参画プランでの「内容を知っている」「聞いたことがある」の計 43.7%と同じ位の割合です。また、「知らない」 54.1%が上回る結果となりました。

男女別では、「読んだことがある」は、女性 31.8%、男性 13.4%で、女性が大きく上回り、男性は女性と比べて「知っているが、読んだことはない」が高くなりました。また、「知らない」は女性で 51.6%、男性で 60.5%と、男性が高くなっています。

図 男女別「男女共同参画に関するコラム」の認知度の状況

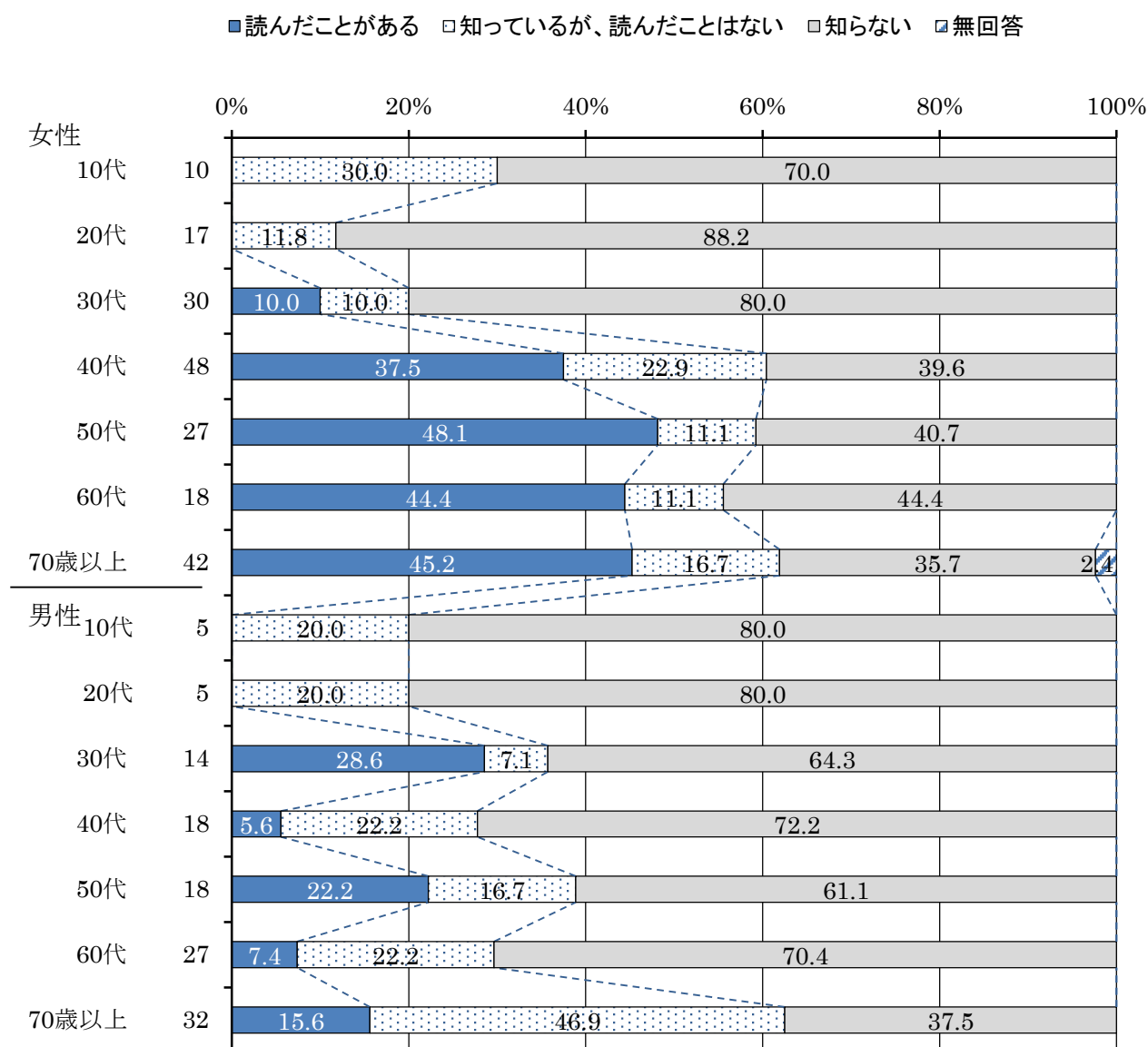


(1) 男女別・年代別

「読んだことがある」は、40代以上の女性で高く、40%～50%前後にのぼっています。他方で、10代～30代の女性では大変低く、「知らない」の割合も、70%～80%以上を占めています。

男性では、「読んだことがある」が30代、50代、70代以上で比較的高くなっていますが、「知らない」が70代以上を除いたほとんどの世代で、60%～80%と高い割合でした。

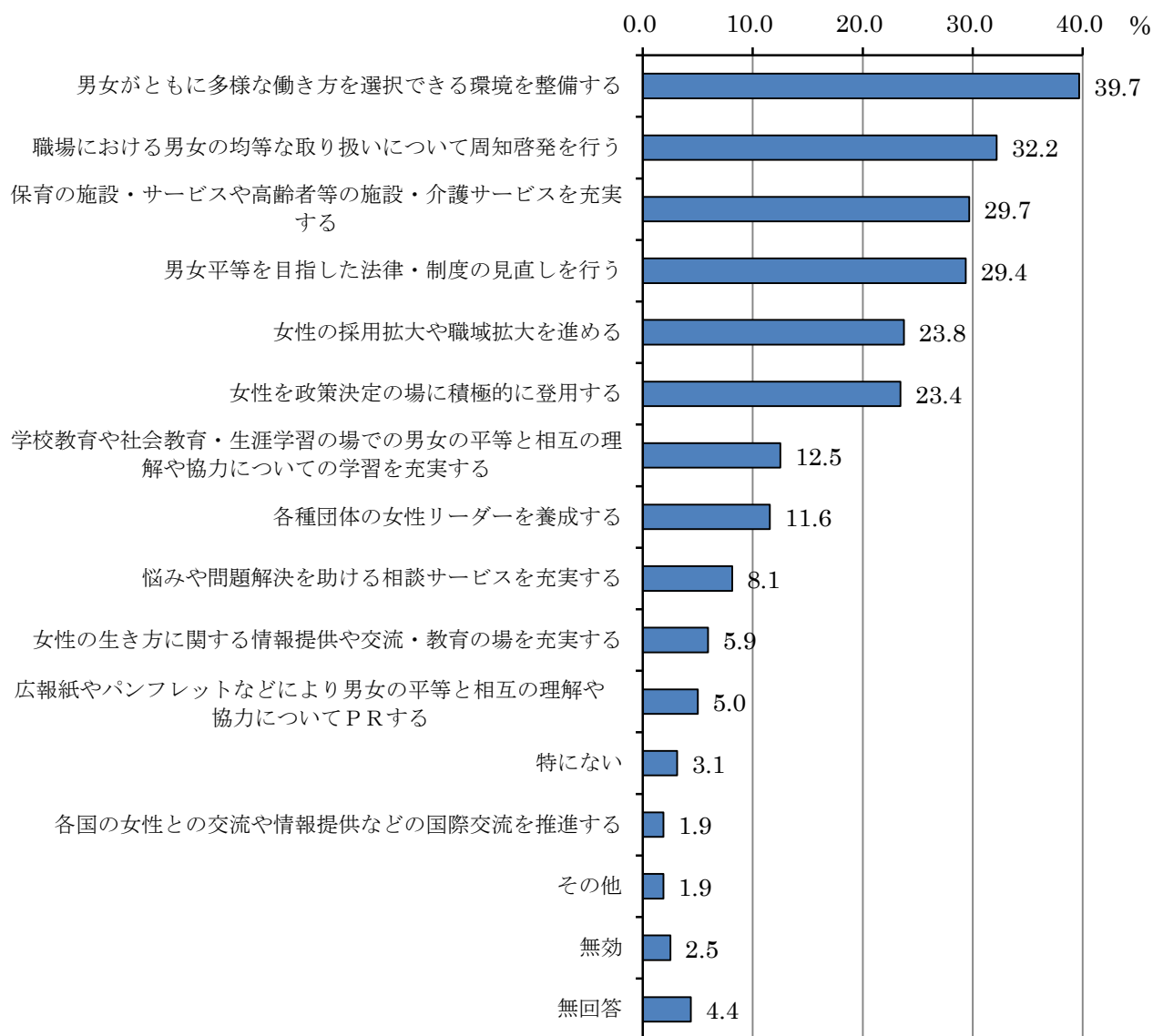
図 男女別年代別「男女共同参画に関するコラム」の認知度の状況



問 38 男女共同参画社会実現のために行政に望むことは何ですか。（〇は3つまで）

「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」39.7%が最も多く、次いで「職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う」32.2%、「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」29.7%、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」29.4%が続きました。働き方の環境の整備や保育・高齢者介護等の社会サービスの充実に関わる項目が上位に挙がっています。

図 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと



●その他回答

日にち、時間など、各家庭で自由に参加できる内容

性別に関係ない取組を全ての行政、政治で行う。女性特有の仕事、男性特有の仕事にあまり男女同一参画を強制しないようにする

行政が行う必要はない

役場の職員一人一人が男女共同参画社会を目指して日常生活を送る

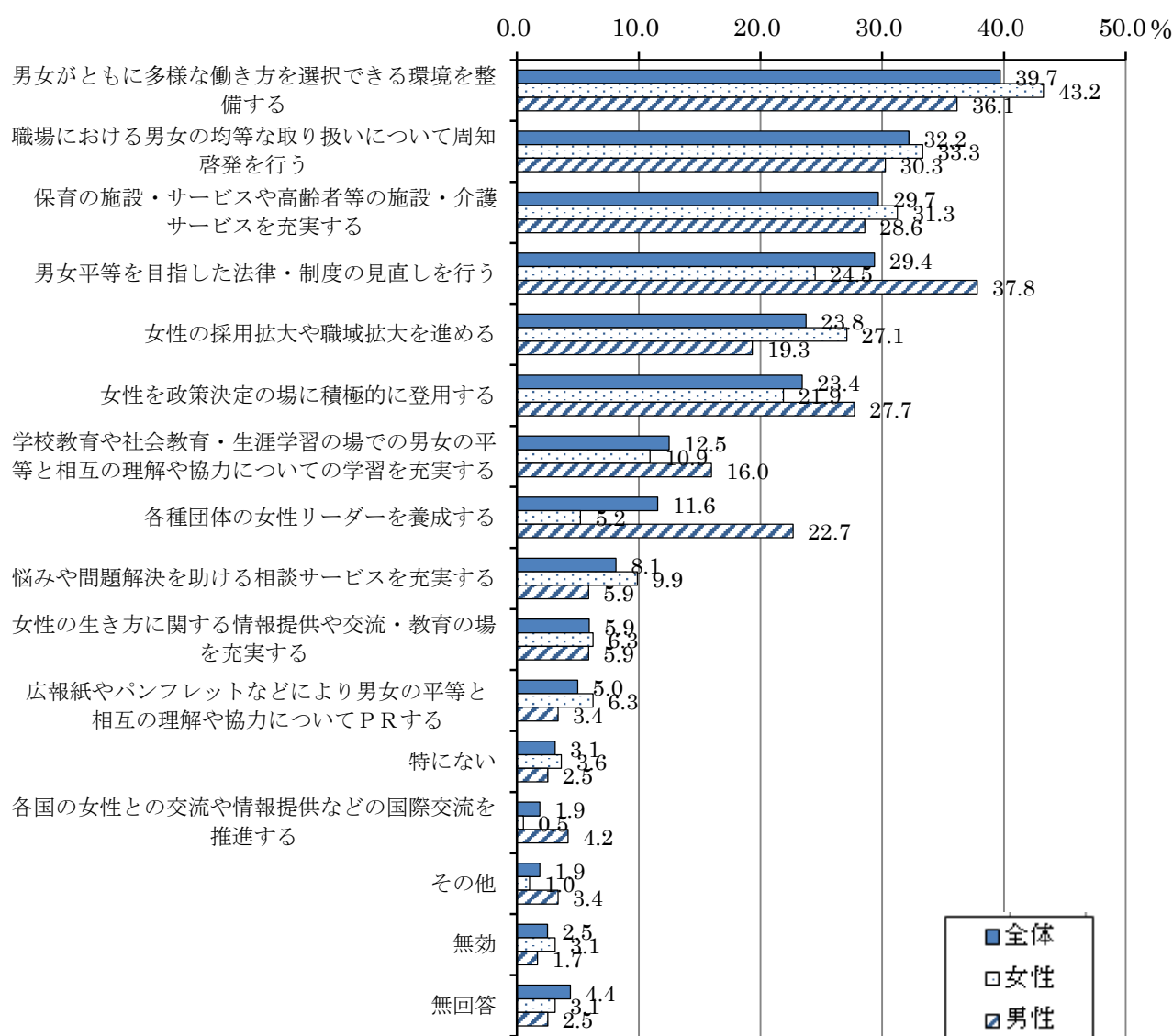
男女の差をつけず頭のよい人間や知識の豊富な人間をリーダーにする

(1) 男女別

男女別で差異が大きかったもので、女性が男性より高いものに、「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」(女性 43.2%、男性 36.1%)、「女性の採用拡大や職域拡大を進める」(女性 27.1%、男性 19.3%)がありました。

男性が女性より大きく上回った項目には、「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」(女性 24.5%、男性 37.8%)、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」(女性 21.9%、男性 27.7%)、「各種団体の女性リーダーを養成する」(女性 5.2%、男性 22.7%)があります。

図 男女別 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと



(1) 男女別・年代別

「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」は、20代～50代女性、30～40代男性で40～60%台で高い割合を占めました。「職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う」は、20代女性、10代と20代男性では40%前後で高く、50代で男女ともにやや低い割合となりました。

「男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う」は、10代女性、及び10～40代の男性で40～60%台と高い割合となりました。また、「女性を政策決定の場に積極的に登用する」は、30代男性と男女ともに60代で高い割合となりました。

表 男女別 年代別 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

単位：％

性別	年代	回答数	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービス充実する	男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う	女性の採用拡大や職域拡大を進める	女性を政策決定の場に積極的に登用する	学校教育や社会教育・生涯学習の場での男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	各種団体の女性リーダーを養成する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する	広報紙やパンフレットなどにより男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	特になし	各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する	その他	無効	無回答
女性	10代	10	300	300	200	400	100	200	100	100	200	00	00	200	00	00	00	00
	20代	17	412	412	235	176	294	118	59	00	118	59	59	118	00	00	00	00
	30代	30	46.7	33.3	36.7	26.7	300	133	00	33	67	133	00	33	00	6.7	00	00
	40代	48	64.6	35.4	27.1	25.0	33.3	14.6	125	21	63	63	63	21	21	00	21	21
	50代	27	55.6	22.2	37.0	25.9	18.5	14.8	18.5	11.1	11.1	7.4	3.7	3.7	00	00	7.4	00
	60代	18	33.3	33.3	38.9	11.1	11.1	50.0	5.6	5.6	22.2	00	5.6	00	00	00	5.6	5.6
	70歳以上	42	16.7	35.7	31.0	26.2	33.3	33.3	16.7	7.1	7.1	4.8	14.3	00	00	00	4.8	9.5
男性	10代	5	200	400	600	400	200	200	200	00	00	00	00	00	200	00	00	00
	20代	5	200	400	400	400	600	00	00	400	00	00	00	00	00	200	00	00
	30代	14	57.1	21.4	14.3	50.0	21.4	42.9	00	28.6	00	7.1	00	7.1	7.1	7.1	00	00
	40代	18	44.4	33.3	38.9	61.1	16.7	16.7	22.2	16.7	00	5.6	00	00	00	5.6	00	00
	50代	18	33.3	16.7	33.3	22.2	11.1	22.2	11.1	27.8	5.6	16.7	00	5.6	5.6	00	00	00
	60代	27	33.3	37.0	22.2	33.3	18.5	40.7	22.2	25.9	00	7.4	3.7	00	3.7	3.7	7.4	00
	70歳以上	32	31.3	31.3	25.0	31.3	18.8	25.0	18.8	18.8	18.8	00	9.4	3.1	3.1	00	00	9.4

問 39 男女共同参画プランでは、一人ひとりがお互いを認め、個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。ご意見や必要と思われる取り組みがあれば、ご記入ください

●思いやり・心がけ

- ・男女と決めつけず、相手を思いやる気持ちが大切だと思う。(男性 60 代)
- ・男女別の性ホルモンの差は、性の特性で、出産可能な性は女性であるという動物的性差は変えられないので、両性ともに思いやりのある対応が必要であると社会全体で理解する環境が整備されることを望みます。(男性 60 代)
- ・男女平等の心がけを大切にする (男性 70 代以上)
- ・1 人 1 人の個性を尊重する。自分が主体ではなく、取りまく環境、人間等の外的要因にまもられて自分がいるという考えで相手を思いやれる気持ちを持てる人間を育成できるようにしてほしい (女性 40 代)
- ・人付き合いが下手な自分は会社だけでいっぱい입니다。言いたい事を誰よりも先に言った方が特する社会を変える事。(男性 40 代)
- ・愛知県民は全国的に見ても自己主義的で閉鎖的で社会性を身につけている人は少ない。対人関係を受け入れる寛大な心を養って協調性を身につけてほしい。スポーツでたとえると、個人競技はすぐれている人がいるが団体でチームプレーする競技は弱い・・・・・・に現れている。職場でもまだ男女の格差があるように思う。改善されるよう願っている。(女性 70 代以上)
- ・男だ女だけではなく、思いやりの心を養えば問題もある程度解決するのではないかと (男性 50 代)

●コミュニケーション・協力

- ・毎日が、楽しく暮らせるような環境、それには人々とのコミニケを大切に、やはり、時間をついやせれる人が、協力しあえるような毎日一日一日が、努力しなければ、ならない！！ (女性 70 代以上)
- ・神社の区長などの役は、男性がやるものと女性自身が女性がやることを反対している人が多いのは驚ろきました。大変な役なので、家庭の仕事との両立は、難しい。ご主人の協力なくしてできないとも思います。男女の力の差も考慮すべきですが、家庭の仕事の分担を考えて行かないと女性の進出は難しいです。(女性 50 代)
- ・今は共働きをしないと生活できないような社会。昔ほど男女の差はないと思う。私自身は自営業で育ち嫁いでも自営業だった為、親も 2 人で協力し、自分達も協力しないと出来ない環境だった。お互い思いやり、尊敬しあえば自然に助け合えると思う。60 も過ぎれば男性女性なんて言ってられませんお互い出来る事をするだけです。(女性 60 代)
- ・女性を前面にだすことによって男性の意見が通らなくなってしまうケースをみてきたので、お互いの意識の交流が特に必要かとも思う。参画という形にとらわれていると、本質を忘れることもあるので！！ (男性 60 代)

●教育

- ・自治会の組織も男性が中心で女性は補助的な役割です。それを変えていくのはまだ時間がかかると思います。その地域の長年の風習みたいなものがあるからです。いろいろな政策も大切だと思いますが、まず意識改革から始めないといけないかなと思います。若い方は少しずつ柔軟に対応してけるとと思います。子供たちからの教育が大切だと思います。(女性 50 代)
- ・学校で、男女かんけいなく、助け合うことを学ぶと良いとおもいます (女性 50 代)

- ・もともと、男と女は体力の違いがあります。又、女性特有の子供を産む事ができるのが女性です。男女共同参画はすばらしい事です、女性に対して男女共同参画を無理じいするのではなく、あなた（you）は何ができますから入って、できる人が女性であった場合、素直に認める。女性だからできないという考えを持たせない教育を小さいときから学ばせるといいと思います。同様に男はできないという事も同様に学ばせる。大人になってから教えても、PRしても変わらないと思います。子供のやわらかい考えの中でしっかり学ばせて10年～100年後の事を考えた事をして下さい（男性 60 代）

●個性の尊重、多様な生き方

- ・女性の中には、昔ながらの女性の役割でよいと考えている人もいます。強制的に男女共同参画を押しつけるのは良くない。それぞれの人が考える行動をとることに周囲が否定しなければ、それでよいのではないかと（男性 30 代）
- ・単純に男女平等と言っても無理がある。それぞれに特化した能力を向上させれば共存もしやすくなる。男・女それぞれに活躍の場が出来る様に特典を設けたりすると、その町に人が住むと思う。扶桑町の良さを最大限に広めてほしい（男性 30 代）
- ・お互いを認め、個性と能力を発揮するためには、単純に男女を全く同一のものとして扱うことに反対。必要な配慮や、長所を生かしたり、補いあうなどのために何をすべきか考えていく必要がある。行政による強制、無理な過度な数値的目標達成のための女性登用は、当事者にも組織、社会にもマイナス。（男性 40 代）
- ・共同参画は理想だが、男、女は身体的、機能的、性理的に根本から異なる、ことを自覚し、全てを平等にする事には無理がある。（老人の古い考え方か？）（男性 70 代以上）

●まちづくり

- ・子どもを育てる世代が安心して生活できる事が長い目で見て、活力ある町づくりの基礎になると考えます。（男性 30 代）
- ・一人ひとりが男女逆の立場、LGBT の立場、子ども、老人の立場などさまざまな目線で町を歩いてみる、考えてみると、不便なことや横展開できることなどが見えてくると思います。（女性 30 代）

●行政

- ・職員の意識が低いので町民まで広がらない（男性 40 代）
- ・役場の職員も女性課長の登用をどんどん進めていくべきである。（男性 50 代）
- ・そもそも、今役場の中はどのような感じなのでしょう。男性優位になってませんか？（少なくとも、外からはそう見えます。）女性の活躍がもっと目立つようになるといい。（女性 40 代）
- ・名ばかりのプランを作るのなら、作らない方がいいですよ。結局、このプランを作って、どうしたいのか町の考えを知りたい（男性 40 代）
- ・まず、役場の職員一人一人が男女共同参画社会について理解し、行動しなければ町民には伝わらない。第一に、職員の意識向上が必要。役場で気運が高まれば、行政の政策にも熱が出てくると思う。（男性 20 代）

●行動を期待

- ・根気より継続して取り組む必要がある。法律や条例よりも直接行動して改善していく方が効果がある。私のような年金生活者はそういった教育も受けておらず受け入れることは難しいが協力はしていきたい(男性 60 代)
- ・色々な意見が挙がると思いますがやりもしないでボツにしないでやってダメならボツにすればいいと思います。(男性 30 代)
- ・PR活動が必要である。具体的な活動状況が必要。(男性 70 代以上)

●提案

- ・夫婦で参加できる(しやすい) → (小さな子供がいても) 町のイベントを増やしてみる。(男性 40 代)
- ・男女混合スポーツ大会など差別なく出来ること。(男性 30 代)

●広報・啓発

- ・一般的な男子高校生の立場から言わせていただきますと「広報ふそう」やパンフレットをいくら発行してもまず見ません。リビングの机に置いてあっても開こうと思いません。また学校の授業で男女共同参画等について教えてもらっても普段気をつけようとは正直思いません。これは僕だけに限らずほとんどの高校生、中学生がそうだと思います。そこで僕が提案するのはインターネットの活用です。いまや子供、大人に限らずスマホの普及率はものすごいです。僕は「twitter」「instagram」をおすすめします。ひまりんなんかよりもっとかわいいゆるキャラを作る→ゆるキャラグランプリで話題→そのゆるキャラの写真(おもしろ系←かわいい系だと飽きられます)をSNSに投稿→その垢で男女共同参画推す(深い言葉で)←深い言葉はよくRTされて話題になります→皆に男女共同参画広まる!! 現代の若者はほとんどがSNSをやっているのでも若者への啓発にはとても良いと思います。(普段からおもしろ投稿をしていると長続きします)僕は今まで「男女共同参画社会基本法」という法律名だけ社会で暗記していて内容までは理解できていませんでした。このアンケートを機に男女共同参画について深く考えることができました。ありがとうございました!(男性 10 代)
- ・共同参画を誰もが理解できるよう、もう少し分かりやすくする必要がある。理解しているようで誤解している人達が多いように思う。男性が負担と感ずる場面で都合よく共同参画を持ち出すこともある。(女性 50 代)
- ・全ての機会をとらえて啓もうして行くことが必要である(女性 50 代)

●制度

- ・女性が家庭を持っていても働きやすいような労働環境や保育施設などの設置の他に、男性にも子育てや介護に参加できるような休暇制度やフレックスの導入など社会制度の根本からの改正を願う。若い人の将来のためによりしく願います。(女性 10 代)
- ・個々人が男女共働、共同であるとの認識を進めるために行政側が夫婦別姓や同性婚などの制度を先に整える方が、理解がすすむのではと思います。(女性 40 代)
- ・男女がゆとりを持って生活するための法律や制度の整備(男性 50 代)
- ・家長制度 世帯主が男性なので結局、男性が主になってしまう。(男性 50 代)

●政治

- ・日本は制度（憲法、各種法律）に全ての人間は平等で機会も均等であると謳っているが実体は旧態依然。これを直すには政治、地方の組織そのものから改めて行く必要がある。（男性 70 代以上）

●女性の登用

- ・女性の首長、議員、管理職が全国的に少ないと思います。また、扶桑町、私が住んでいる地区では年配の男性の支配力が強いと思います。今生きている年配の方々の考え方が変わらなければ・・・と思います。（女性 40 代）
- ・あらゆるところで女性を登用する（町内の区長など）。男性が、女性の気持ちが分かるような教育。（女性 30 代）

●仕事・雇用環境

- ・男女平等といえど平等に出来ない職域もあるので全てを変えるのではなく、適正な職域における男女共同参加等が出来るのが望ましい。また、学校行事等においても参加しやすい環境を望む（男性 40 代）
- ・近年核家族化が進み、生活水準が高くなり、共稼ぎ家庭が増加するなか、私は昔の 2 世代、3 世代が一緒に生活していた時代が今の時代に参考になると思われる。子供を祖父母が、昼間見守り、子供に家庭の暖かさを教え、親の介護は家族で見守れば、医療費の負担も少なくなり空家の減少にもつながる、その為には、家から通勤できる職場があると良い、それが男女共同参画の暮らしの基本と思う。（男性 70 代以上）
- ・小学生の子供が 2 人いますが、長期休みの時に条件（1 日 4 時間以上、月 1 4 日以上）をクリアしていないと言われて、学童保育にエントリーすらさせてもらえませんでした。実際に必要だから申し込んでいるので、条件をつけずに受け入れてもらいたかった。これで職を失っている人、多いです。（女性 40 代）

●その他

- ・主旨とは違うかもしれませんが・・・”男”と”女”とかいうしぼりが薄れると良いかなと思います。「性的マイノリティ」という言葉も使わなくなるくらいに、多様な性が当たり前な世の中になってほしいと思っています。意見をする機会を与えてくださりありがとうございます。（女性 20 代）
- ・カカア天下、肝っ玉かあさん、マザコン、鬼嫁という表現があるように（あまり良い表現ではないが・・・）女性リーダーの方が頼れるかもしれないと思う。（男性 30 代）
- ・むかしから、今での扶桑町をおおきく、すごしやすい扶桑町を作っていないですか！（男性 60 代）
- ・行政でできることと、地域でできること、町民ができることは 少しずつ違うはずなのでその風とおしはもっとよくなると町全体がいきいきしそう（女性 30 代）
- ・毎日が楽しく生きて行けるよう（男性 60 代）
- ・扶桑町に住んで 30 年以上 どれだけ他町に引越しようと思ったか知れません。でも金の問題でできませんでした。今でも、がまんして生活しています。毎日悲しい淋しい思いをしています。声をかけてくれる人はいません。アンケート下さってありがとうございます（女性 70 代以上）

●アンケートについて

- ・質問が、若い方に対しての様に、思えました。答えるのに考える事が、多かったと思いました。私自身が、答えるのに、エッと思う事が、多い気がしました。（女性 60 代）
- ・町民アンケートも良いですが、役場職員で記入。税金のムダ（通信費）（男性 60 代）

- ・この問題文に付きましては、すべての物が私自身にあてはまるのではないかと思うほど本当に頭のさがる思いがします。この文章を読みありがたく何度も何度もどの問題の文章も読みました。ありがとうございました。(女性 70 代以上)

2. 地域調査

(ア) 調査目的

本調査は、扶桑町男女共同参画プラン（第二期）策定のため、地域活動における男女共同参画の実態、ニーズ等を把握し、新たな計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として実施しました。

(イ) 調査対象と回答状況

対象枠	母数	回答数	回答率
駐在員兼自主防災会長	22	18	81.8%
駐在員	21	14	66.7%
自主防災会長	10	6	60.0%
女性消防クラブ会長	40	21	52.5%
計	93	58	62.4%

(ウ) 調査結果

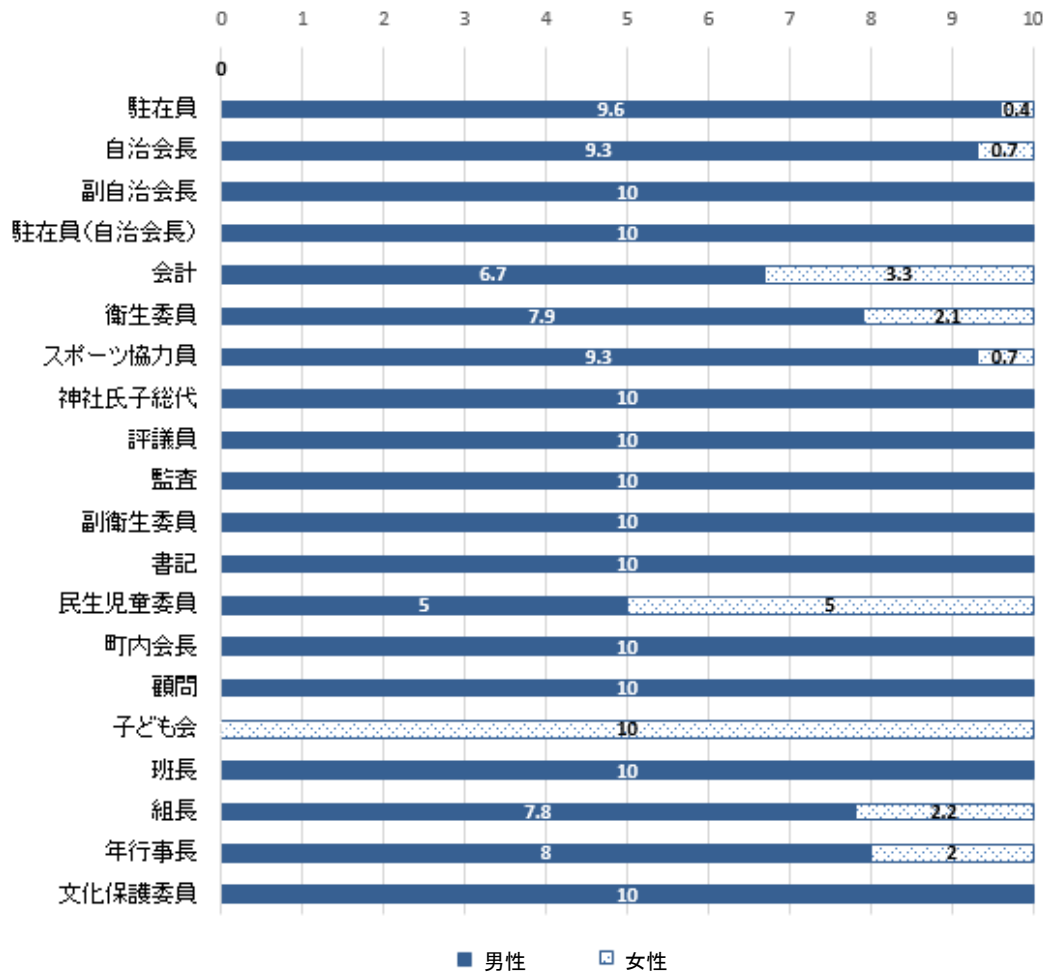
問 1 - 1 地区での役員の男女の就任状況

○駐在員、自治会長の他、多くの地区役員について、男性が大多数を占める役員が多く、過去3年以内も含めて女性が就任したことがない役員も多い状況です。女性就任の割合が2割以上のものとして、割合の多い順に、「子ども会」（10割）「民生児童委員」（5割）となり、以下は「会計」「組長」「衛生委員」「年行事長」でいずれも2～3割前後の割合となりました。

問 1-1：地区での役員の男女別就任状況（回答数＝29の内、回答が3以上の役員を抽出）

(人)	回答数	合計人数	男女比		過去に女性がいたか		
			男性	女性	いた	いない	無回答
駐在員	24	26	9.6	0.4	2	20	2
自治会長	14	14	9.3	0.7	3	10	1
副自治会長	6	6	10.0	0.0	1	4	1
駐在員（自治会長）	4	4	10.0	0.0	0	4	0
会計	12	12	6.7	3.3	7	5	0
衛生委員	10	14	7.9	2.1	3	6	1
スポーツ協力員	9	15	9.3	0.7	2	6	1
神社氏子総代	7	16	10.0	0.0	0	7	0
評議員	5	14	10.0	0.0	0	4	1
監査	5	9	10.0	0.0	0	5	0
副衛生委員	4	6	10.0	0.0	0	3	1
書記	4	4	10.0	0.0	1	3	0
民生児童委員	3	4	5.0	5.0	2	1	0
町内会長	3	3	10.0	0.0	0	3	0
顧問	3	5	10.0	0.0	0	3	0
子ども会	3	7	0.0	10.0	3	0	0
班長	3	47	10.0	0.0	3	0	0
組長	3	18	7.8	2.2	2	1	0
年行事長	3	5	8.0	2.0	1	2	0
文化保護委員	3	4	10.0	0.0	0	3	0

問 1 - 1 地区での役員の男女別就任状況



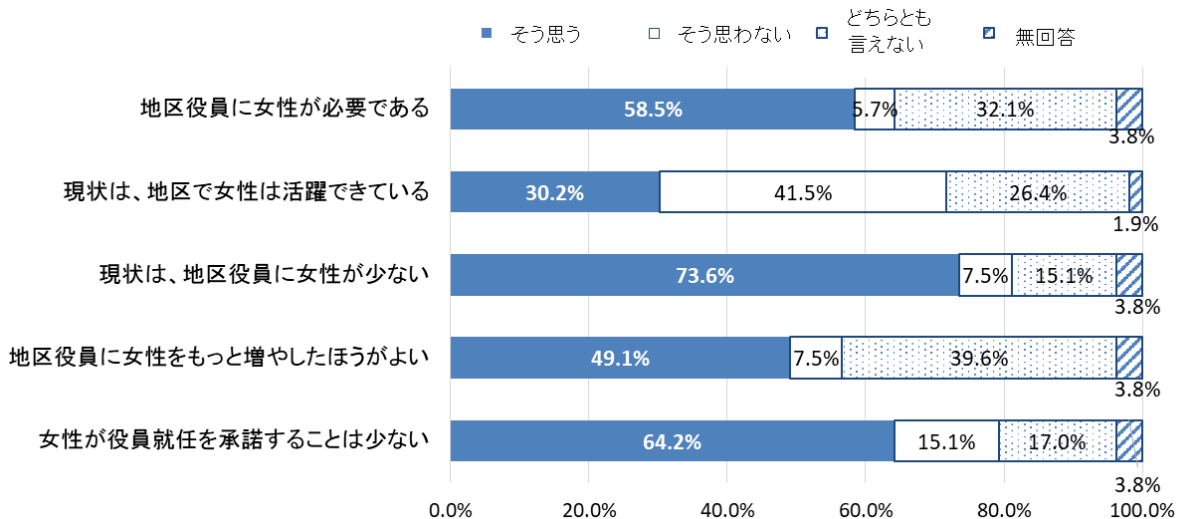
問 1 - 2 地区役員の女性の就任に関わる認識

- 現状について、「地区役員に女性が少ない」と思う率は 73.6%と高い割合でした。また「地区で女性は活躍できている」と思う率は 30.2%と低く、地区で女性が役員に就任し活躍する割合は低い状況です。
- 他方、「地区役員に女性をもっと増やした方がよい」は 49.1%と過半数をやや下回りました。また、「地区役員に女性が必要である」は 58.5%と認識されながらも、「女性が役員を承諾することは少ない」が 64.2%と多くなっています。

問 1 - 2 地区役員の女性の就任に関わる認識（回答数=53）

項目		全体			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	回答数	31	3	17	2
	割合	58.5%	5.7%	32.1%	3.8%
現状は、地区で女性は活躍できている	回答数	16	22	14	1
	割合	30.2%	41.5%	26.4%	1.9%
現状は、地区役員に女性が少ない	回答数	39	4	8	2
	割合	73.6%	7.5%	15.1%	3.8%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	回答数	26	4	21	2
	割合	49.1%	7.5%	39.6%	3.8%
女性が役員就任を承諾することは少ない	回答数	34	8	9	2
	割合	64.2%	15.1%	17.0%	3.8%

問 1 - 2 地区役員の女性の就任に関わる認識

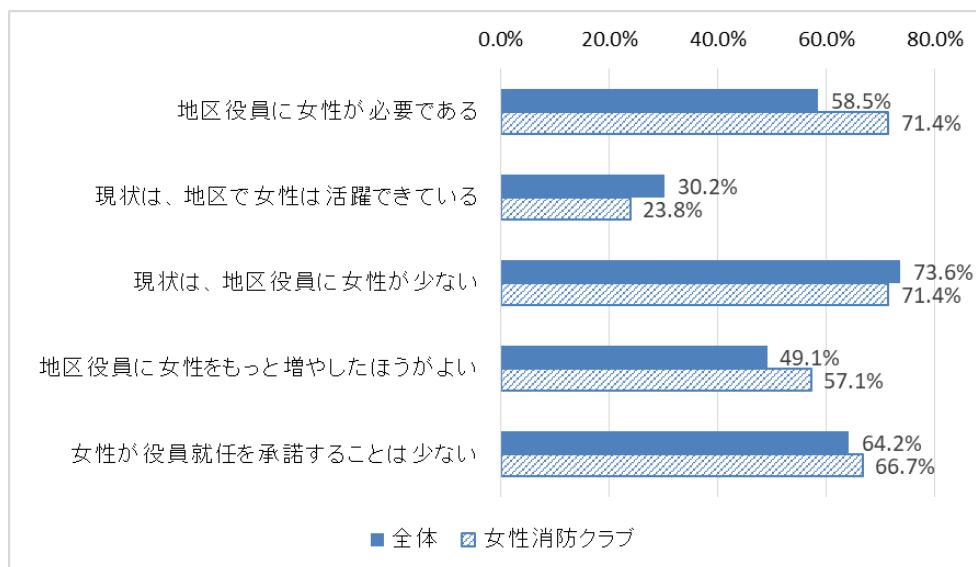


問 1 - 2 地区役員の女性の就任に関わる認識（組織別）

○地区の女性役員の認識について、「全体」と「女性消防クラブ会長」と比較すると、女性消防クラブでは「地区で女性が活躍できている」と思う率はより低く、「地区役員に女性が必要である」「地区役員に女性をもっと増やした方がよい」と思う割合は高くなっています。

○同時に、女性消防クラブの方が「女性が役員を承諾することは少ない」と思う率が高く、実際の役員承認に対しては難しいと感じる割合も高い状況でした。

問 1-2 地区役員の女性の就任に関わる認識（全体と女性との比較）



問 1 - 2 地区役員の女性の就任に関わる認識（組織別）

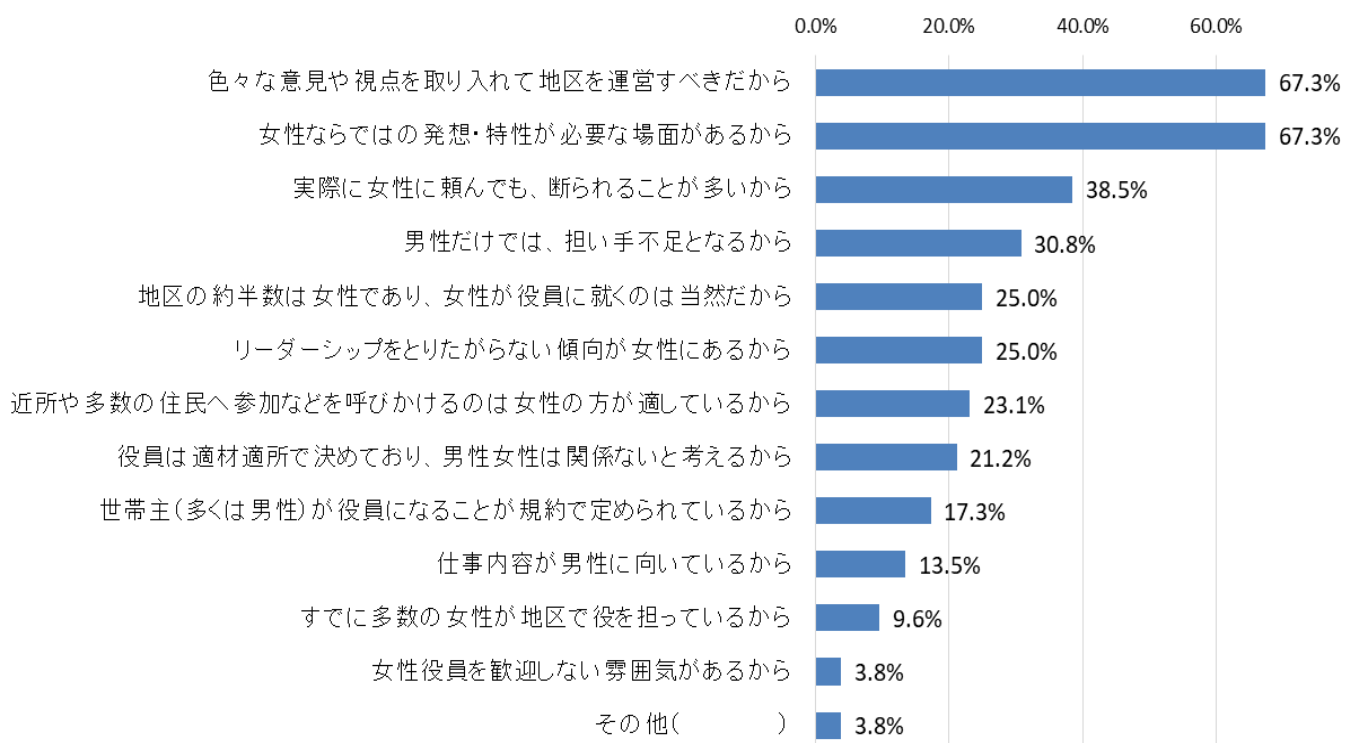
項目		全体				駐在員・自主防災組織			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答	そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	割合	58.5%	5.7%	32.1%	3.8%	44.4%	0.0%	44.4%	11.1%
現状は、地区で女性は活躍できている	割合	30.2%	41.5%	26.4%	1.9%	33.3%	38.9%	22.2%	5.6%
現状は、地区役員に女性が少ない	割合	73.6%	7.5%	15.1%	3.8%	66.7%	0.0%	22.2%	11.1%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	割合	49.1%	7.5%	39.6%	3.8%	44.4%	5.6%	38.9%	11.1%
女性が役員就任を承諾することは少ない	割合	64.2%	15.1%	17.0%	3.8%	66.7%	11.1%	11.1%	11.1%
項目		駐在員				女性消防クラブ			
		そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答	そう思う	思わない	どちらとも言えない	無回答
地区役員に女性が必要である	割合	57.1%	7.1%	35.7%	0.0%	71.4%	9.5%	19.0%	0.0%
現状は、地区で女性は活躍できている	割合	35.7%	35.7%	28.6%	0.0%	23.8%	47.6%	28.6%	0.0%
現状は、地区役員に女性が少ない	割合	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	71.4%	9.5%	19.0%	0.0%
地区役員に女性をもっと増やしたほうがよい	割合	42.9%	0.0%	57.1%	0.0%	57.1%	14.3%	28.6%	0.0%
女性が役員就任を承諾することは少ない	割合	57.1%	21.4%	21.4%	0.0%	66.7%	14.3%	19.0%	0.0%

問 1 - 3 問 1 - 2 のように答えた理由

○地区の女性役員に関して、「色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきから」「女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから」が共に 67.3%で、地区の運営にあたって多様な視点や発想が必要だという理由が多くみられました。

○「仕事内容が男性に向いているから」「女性役員を歓迎しない雰囲気があるから」を理由に挙げる回答は少ない結果となりました。

問 1 - 3 問 1 - 2 のように答えた理由（回答数 = 53）



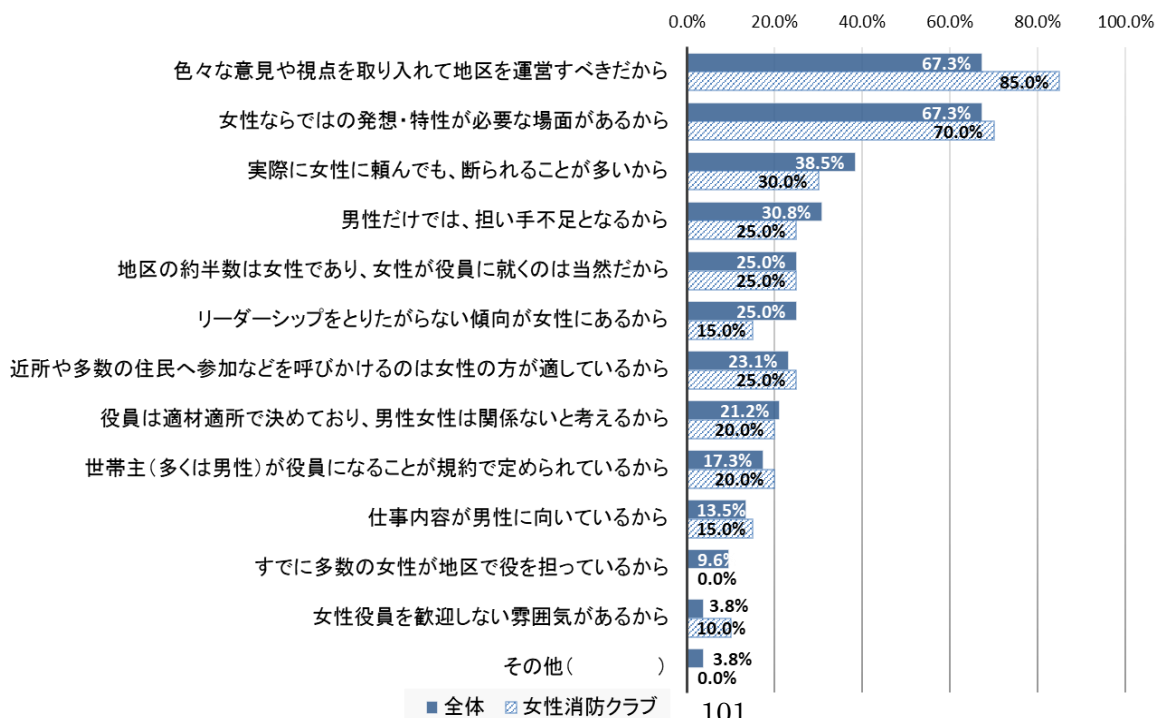
問1-3 問1-2のように答えた理由（組織別）

○組織別では、幾つかの項目で回答割合が異なっています。「駐在員」では「女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから」が高く、「駐在員・自主防災組織」では、他に「実際に女性に頼んでも断られることが多いから」「男性だけでは担い手不足になるから」「リーダーシップをとりたがらない傾向が女性にあるから」といった回答も多い傾向がみられました。

○「女性消防クラブ」では、「色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきだから」の割合が高くなりました。また、割合は10.0%と高くはないが、「女性役員を歓迎しない雰囲気があるから」と答えた回答は、全て女性消防クラブからでした。

問1-3 問1-2のように答えた理由（組織別）

項目	全体	駐在員	駐在員・自主防災組織	女性消防クラブ
色々な意見や視点を取り入れて地区を運営すべきだから	67.3%	71.4%	44.4%	85.0%
女性ならではの発想・特性が必要な場面があるから	67.3%	85.7%	50.0%	70.0%
実際に女性に頼んでも、断られることが多いから	38.5%	28.6%	55.6%	30.0%
男性だけでは、担い手不足となるから	30.8%	21.4%	44.4%	25.0%
地区の約半数は女性であり、女性が役員に就くのは当然だから	25.0%	28.6%	22.2%	25.0%
リーダーシップをとりたがらない傾向が女性にあるから	25.0%	21.4%	38.9%	15.0%
近所や多数の住民へ参加などを呼びかけるのは女性の方が適しているから	23.1%	14.3%	27.8%	25.0%
役員は適材適所で決めており、男性女性に関係ない考えるから	21.2%	7.1%	33.3%	20.0%
世帯主（多くは男性）が役員になることが規約で定められているから	17.3%	0.0%	27.8%	20.0%
仕事内容が男性に向いているから	13.5%	14.3%	11.1%	15.0%
すでに多数の女性が地区で役を担っているから	9.6%	21.4%	11.1%	0.0%
女性役員を歓迎しない雰囲気があるから	3.8%	0.0%	0.0%	10.0%
その他（ ）	3.8%	0.0%	11.1%	0.0%



問 1 - 4 その他、地区役員の女性の就任について感じていること

＜駐在員・自主防災組織＞

- ・子供や高齢者を見守る活動(ボランティア)が必要と思う。こうした組織活動には女性が必要。
- ・幅広い意見が出るので、女性も多くなるといいと思います。
- ・今後の活動として、自治会大役も女性が担えるよう、積極的に取り組んでいきたい。
- ・自治会そのものが古い体質であり、慣例を変えることは難しいと感じる。今後の取組はきっかけが必要。
- ・役員名義は世帯主の男性になっていても、実際には奥様が殆どの仕事を行っている場合が多いです。
- ・組長などに就任され、ご主人と奥様で分担制を執ってみえる方も毎年おみえです。組長会議・組内配布物等は奥様担当が多いです。ご主人は不燃物ゴミの立会等に出席となるケースが多いです。町内の催し物等には女性の手が必要な場合があり、助かっております。
- ・女性の役員は全く無いに等しい。班長でも世帯主が男性で、寄り合いに代理として女性が出てみえる程度。有能な女性がみえるが、何かと理由をつけて、役職についてもらえない（有能ゆえに理由付けも立派である）。断られることが多い。
- ・社会全体の仕組みで、男女共同参画(特に家事)が同時に機能する必要がある。男女同一でなく、性差に適った適材適所の役員就任も求められているが、そんな状況は程遠いと感じる。
- ・業務内容が駐在員業務・町内会コミュニティ業務・区会業務と多忙な上、現場の仕事が多く、女性では大変ではないか。

＜女性消防クラブ＞

●女性の視点が役立つ等の意見

- ・地区役員は女性が適している。子ども会や PTA 役員等を通して、地域活動を担っており、顔が知られている。世帯主が男性という考え方は時代遅れである。役員はほぼ男性が務める風習には、大きな違和感がある。
- ・生活していく上で、女性の方が知識があり、便利なことを考える。道路のデコボコも、いつも歩く女性と高齢者の方が気が付く。
- ・女性ならではの発想が役に立つと思いました。

●女性が実質上支えている等の意見

- ・地区の行事では、自治会長の妻が参加しなければならない状態。
- ・まだまだ男性中心と思います。子ども会等、一部女性役員がいますが、活動しているのが女性でも、名簿は男性とか・・・。
- ・年配の方が多い為、40～50 代の働き盛りの方が地区委員(駐在員・役員・その他)をすることになり、仕事に差し支える時はどうしても女性の手を借りなければならない。それならば女性が最初から役員になっていれば良いのではないかと思う。
- ・世帯主名で登録なので、ご婦人の出番が少ない。
- ・当地区は駐在員は必ず男性。それも夫婦健在の方を選んでいる。組長はほぼ女性が出てくる。
- ・役によっては女性もおられますが、主に男性が中心となって活動をしているように思います。行事では女性もサポートしているので、協力し合いながらの活動で、個人的には良いと感じています。
- ・実際にまつりの準備など力仕事があるので、男性の力が必要だと思います。地区役員の決め方（私の住む地域は、前任の役員が一軒一軒まわって次の役員をお願いしないといけない）の方が問題があると思います。男女という問題より、負担なく次年度役員の選出方法を見直してほしいと切に願います。

●男性に向いている／女性が担えるような環境づくりが必要等の意見

- ・現在、当地域の役員になられている方は退職後の男性で、年配者です。その中で女性が互角に活躍するのは勇気がいることです。10～20年先になるのでは・・・。
- ・男性の方がリーダーシップをうまくとれる。女性は補助で、うまくいっている気がする。
- ・地区役員は行事がたくさんあり、女性は家事や子供の世話、仕事等で頻繁に家を空けることが難しいと思います。役員の仕事内容は男性に向いていると思います。
- ・上記3「地区の半数は女性だから女性が役員に就くのは当然」の意見に関しては、各家庭で互いに就労していない場合、夫婦が平等に家事を役割分担し、当然のように行われていれば該当すると思われる。また、「女性に頼んでも断られることが多い」に関しても、断る理由の調査が必要と思われる。

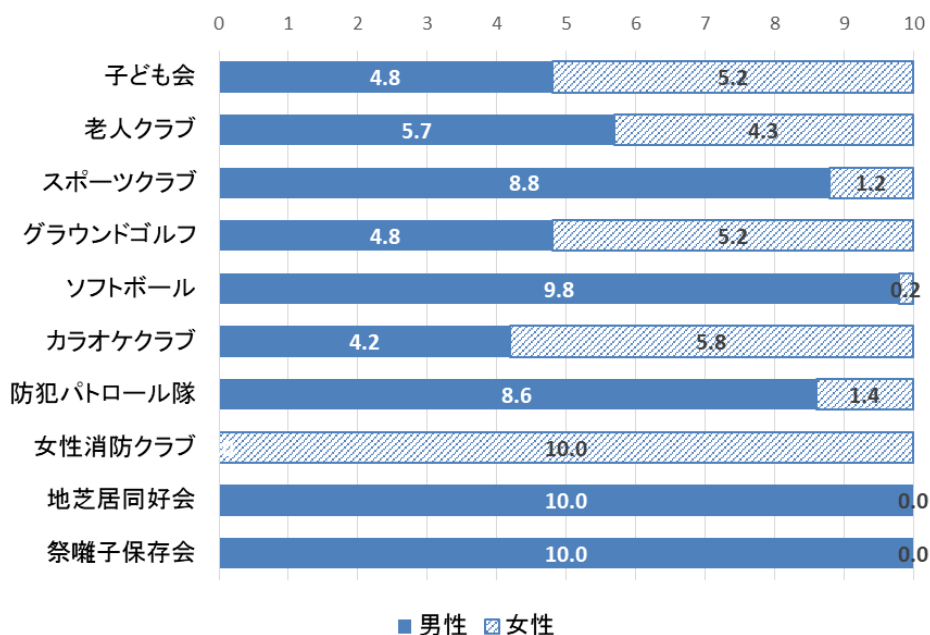
問2－1 地区の関係団体・協力団体について

○会員数において男性・女性の割合が半々に近いものとして「子ども会」「老人クラブ」「グラウンドゴルフ」「カラオケクラブ」がありました。代表者の性別では、「子ども会」は全員女性ですが、その他は男性の割合が多い結果です。

○「地芝居同好会」「祭囃子保存会」は男性比率が10割、「防犯パトロール隊」は8割以上でした。

問2－1 地区の関係団体の状況について（回答数27の内、回答が2以上のものを掲載）

	回答数	合計人数	会員男女比		代表者性別	
			男性	女性	男性	女性
子ども会	25	493	4.8	5.2	0	25
老人クラブ	18	454	5.7	4.3	17	1
スポーツクラブ	6	218	8.8	1.2	6	0
グラウンドゴルフ	5	93	4.8	5.2	5	0
ソフトボール	5	49	9.8	0.2	5	0
カラオケクラブ	5	31	4.2	5.8	4	1
防犯パトロール隊	4	36	8.6	1.4	4	0
女性消防クラブ	2	2	0.0	10.0	0	2
地芝居同好会	2	3	10.0	0.0	2	0
祭囃子保存会	2	7	10.0	0.0	2	0



問 2 - 2 関係団体・協力団体も含めた地区での活動について、女性が活躍し活性化している例

- ・子ども会（複数）。年間行事を決め、活動されている。
- ・子ども会・各小中高等 PTA は意識的に女性がやっています／ほとんど女性の名前になってきている。
- ・各種ボランティア活動（見守りボランティア・社会福祉協議会関連等）、女性消防協力員
- ・お年寄りの方に対するケア等は女性ならではの感じます（特に民生委員の場合）。
- ・地域サロン
- ・踊り団体として、盆踊り・体育祭等での協力をいただいている。子ども会として女性の方に活躍していただいている。
- ・地芝居・フラダンス・盆踊り等の活動では、女性が目立った活躍をしておられる。男女共同参画の実情は、むしろ女性により活性化が促進されていると言っても過言ではない。
- ・ヨガのサークル、カラオケ同好会等、楽しい場にできているように思います。また、この狭い地区という範囲に限られないが、小学校でのボランティアグループ（コロボックルさん）が読み聞かせの活動を、またコープあいちのグループでは食のイベントを開催したりしているようです。シェアサポート和ごころ・メリーママ・ママちょこさんも活躍していると思います。
- ・お祭り、総会等。
- ・役員は男性という風習があり、見かけない。

問 3 - 1 自主防災組織の体制について

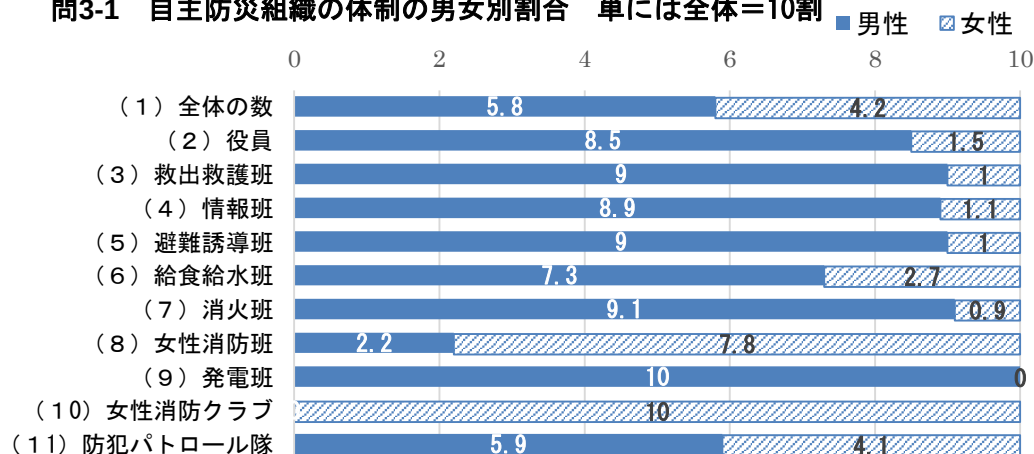
○自主防災会の会員数は、男女比 5.8 : 4.2 で、男性が多いものの、女性も 4 割以上を占めています。

○しかし、役員や各種役割を受け持つ班編成では、「女性消防班」を除くと「給食給水班」は女性が 3 割弱を占めていますが、他は男性比率が 8 ~ 9 割と極めて高い状況です。

問 3 - 1 自主防災組織の体制について（回答数 = 21） ※男女比の単位は、全体 = 10 割

(人)	回答数	合計人数	以下、平均値（無記入除く）			男女比	
			男女計	男性	女性	男性	女性
(1) 全体の数	20	3595	179.8	104.7	75.1	5.8	4.2
(2) 役員	20	105	5.3	4.5	0.8	8.5	1.5
(3) 救出救護班	15	62	6.9	6.2	0.7	9.0	1.0
(4) 情報班	14	87	9.7	8.6	1.1	8.9	1.1
(5) 避難誘導班	14	58	7.3	6.5	0.8	9.0	1.0
(6) 給食給水班	15	62	6.9	5.0	1.9	7.3	2.7
(7) 消火班	13	80	10.0	9.1	0.9	9.1	0.9
(8) 女性消防班	2	9	4.5	1.0	3.5	2.2	7.8
(9) 発電班	2	2	2.0	2.0	0.0	10.0	0.0
(10) 初期防災班	1						
(11) 要支援班	1						
(12) 女性消防クラブ	1	2	2.0	0.0	2.0	0.0	10.0
(13) 防犯パトロール隊	1	17	17.0	10.0	7.0	5.9	4.1

問3-1 自主防災組織の体制の男女別割合 単には全体=10割



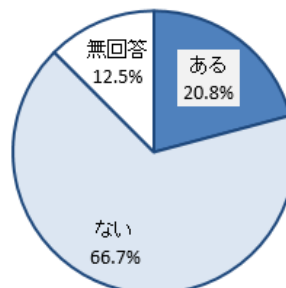
問3-2 男性のみ・女性みの役割はあるか

○役員や班の就任について「男性のみ／女性のみ」の役割があるのは2割でした。内容的には、男性は「消防・消火班」、女性は「給食給水班」にあたるというものと、「女性消防クラブ」は女性です。

○大半は、役割分担として男女の定めがないものが多い状況です。しかしながら、問3-1の通り、実情は女性が役割につくことが少ないのが現状です。

問3-2 男性のみ・女性みの役割の有無（回答数=24）

	ある	ない	無回答
回答数	5	16	3
割合（％）	20.8%	66.7%	12.5%



問3-3 災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか

○いずれの項目についても、男女のニーズの違いや参画のあり方は「検討した」割合は低い結果です。その中で一番検討した比率が多いのは「防災における人材育成」の項目で15.6%でした。その他の項目では、いずれも1割に満たない状況です。

問3-3 災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか（回答数=45）

項目		全体		
		した	していない	その他
備蓄庫に女性が必要とする生活用品を含めること	回答数	1	34	10
	割合	2.2%	75.6%	22.2%
避難所設営で、女性に配慮した環境をつくること（着替え、トイレの位置等）	回答数	2	34	9
	割合	4.4%	75.6%	20.0%
避難所を運営する意志決定の場に女性の視点・意見を取り入れること	回答数	3	32	10
	割合	6.7%	71.1%	22.2%
防災ボランティアやリーダー等の人材育成に女性に積極的に参加してもらうこと	回答数	7	30	8
	割合	15.6%	66.7%	17.8%
その他	回答数	1	0	23
	割合	2.3%	0.0%	52.3%

問3-3 災害時・防災に関して、男女のニーズの違いや参画のあり方を検討したか（組織別）

○「防災における人材育成」については、「女性消防クラブ」「自主防災組織」では、検討されたという回答が高くなっています

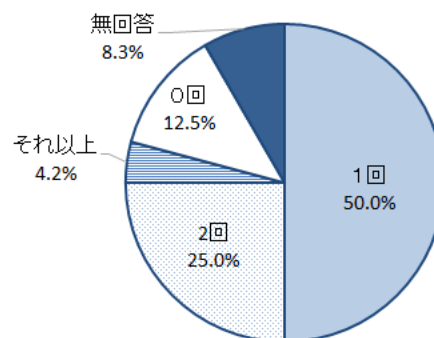
項目		駐在員・自主防災組織			自主防災組織			女性消防クラブ		
		した	していない	その他	した	していない	その他	した	していない	その他
備蓄庫に女性が必要とする生活用品を含めること	回答数	0	15	3	0	6	0	1	13	7
	割合	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%	0.0%	4.8%	61.9%	33.3%
避難所設営で、女性に配慮した環境をつくること（着替え、トイレの位置等）	回答数	1	14	3	1	5	0	0	15	6
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	71.4%	28.6%
避難所を運営する意志決定の場に女性の視点・意見を取り入れること	回答数	1	14	3	1	5	0	1	13	7
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	16.7%	83.3%	0.0%	4.8%	61.9%	33.3%
防災ボランティアやリーダー等の人材育成に女性に積極的に参加してもらうこと	回答数	1	14	3	2	4	0	4	12	5
	割合	5.6%	77.8%	16.7%	33.3%	66.7%	0.0%	19.0%	57.1%	23.8%

問 4 - 1 - 1 地区が住民対象に行う防災訓練の実施

○地区が行う防災訓練の実施回数は、年 1 回が半数、年 2 回と合わせると 3/4 にのぼっています。他方で「0 回」という回答が 1 割強ありました。

問 4 - 1 - 1 地区が住民対象に行う防災訓練の実施(回答数=24)

	1 回	2 回	それ以上	0 回	無回答
回答数	12	6	1	3	2
割合 (%)	50.0%	25.0%	4.2%	12.5%	8.3%



問 4 - 1 - 2 地区が住民対象に行う訓練への参加者数

○回答記載があったものにおいて、参加者数の平均は、37.2 人でした。

※注；以下の「参加者の平均値」においては、「男女比」「年代比」の記載があった回答についての平均値を各々記載します。そのため各々の「参加者数の平均値」は異なる数値となっています。

問 4 - 1 - 2 地区が住民対象に行う訓練への参加者数 (回答数 = 17)

	参加者合計	平均値
参加者数	632.5	37.2
割合 (%)		

問 4 - 1 - 3 地区が住民対象に行う訓練への参加者数

○訓練への男女の割合は、男性：女性=5.9：4.1 と、概ね 6：4 の割合でした。

問 4 - 1 - 3 地区が住民対象に行う訓練への参加者数 (回答数 = 16)

	参加者合計	平均値	男性割合	女性割合
参加者数	632.5	34.5	5.9	4.1

問 4 - 1 - 4 地区が住民対象に行う訓練への参加者数と割合 (年代比)

○訓練への年代別の割合は、60 代以上が 6 割以上、40 代～50 代と合わせると 9 割を超えます。10 代以下、20 代～30 代の参加率が低い状況です。

問 4 - 1 - 4 地区が住民対象に行う訓練への参加者数と割合 (年代比) (回答数 = 14)

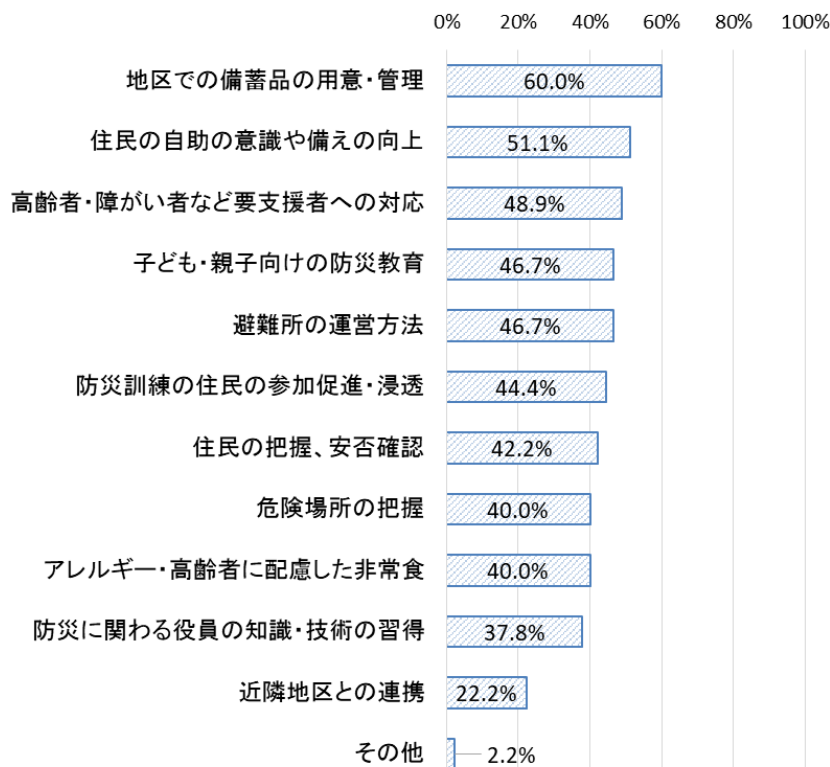
	参加者合計	平均値	10代以下	20～30代	40～50代	60代以上
参加者数	539.5	38.5	0.07	0.71	2.86	6.36

問４－２ もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの

○最も多かったのは「備蓄品の用意・管理」で60.0%、続いて「住民の意識の向上」となり、これらは5割以上にのぼりました。

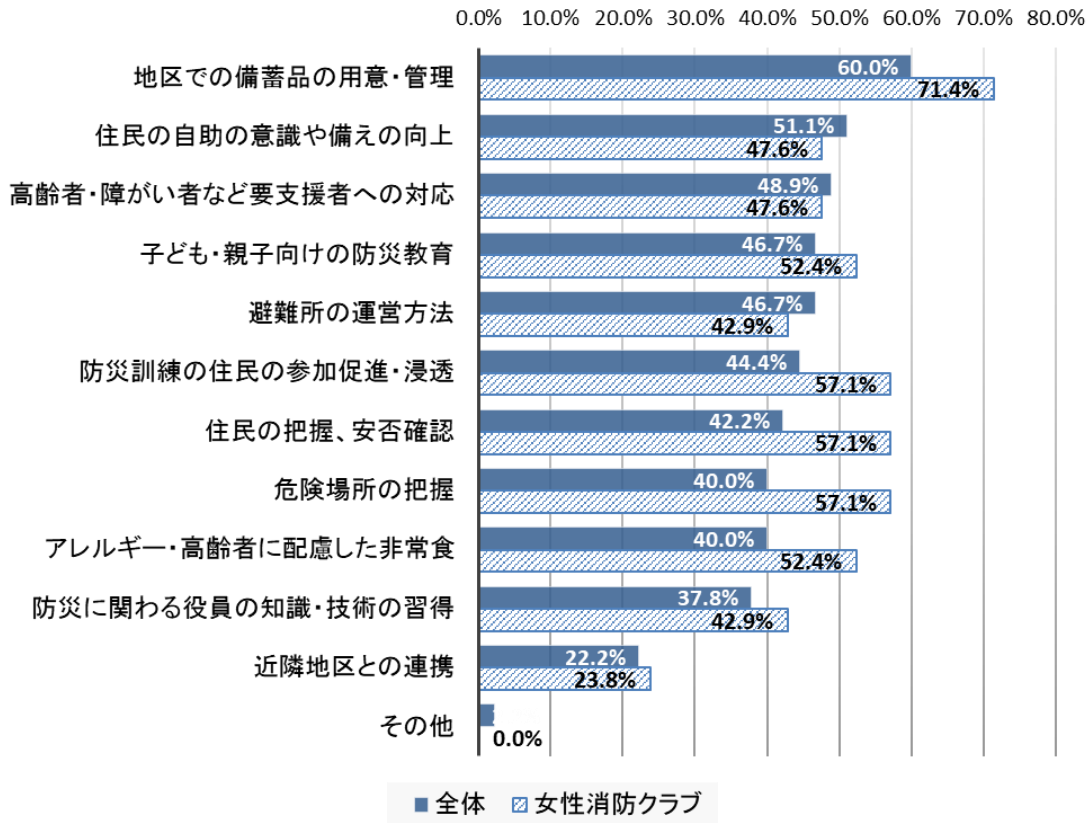
問４－２ もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの(回答数＝45)

項目		全体	駐在員・自主 防災組織	自主防災組織	女性消防 クラブ
地区での備蓄品の用意・管理	回答数	27	9	3	15
	割合	60.0%	50.0%	50.0%	71.4%
住民の自助の意識や備えの向上	回答数	23	8	5	10
	割合	51.1%	44.4%	83.3%	47.6%
高齢者・障がい者など要支援者への対応	回答数	22	9	3	10
	割合	48.9%	50.0%	50.0%	47.6%
子ども・親子向けの防災教育	回答数	21	7	3	11
	割合	46.7%	38.9%	50.0%	52.4%
避難所の運営方法	回答数	21	8	4	9
	割合	46.7%	44.4%	66.7%	42.9%
防災訓練の住民の参加促進・浸透	回答数	20	6	2	12
	割合	44.4%	33.3%	33.3%	57.1%
住民の把握、安否確認	回答数	19	5	2	12
	割合	42.2%	27.8%	33.3%	57.1%
危険場所の把握	回答数	18	4	2	12
	割合	40.0%	22.2%	33.3%	57.1%
アレルギー・高齢者に配慮した非常食	回答数	18	5	2	11
	割合	40.0%	27.8%	33.3%	52.4%
防災に関わる役員の知識・技術の習得	回答数	17	6	2	9
	割合	37.8%	33.3%	33.3%	42.9%
近隣地区との連携	回答数	10	2	3	5
	割合	22.2%	11.1%	50.0%	23.8%
その他	回答数	1	0	1	0
	割合	2.2%	0.0%	16.7%	0.0%



問4-2 もっと女性の視点や力を活かすべきだと思うもの(組織別)

○「女性の視点や力を活かすべきもの」について、「女性消防クラブ」の回答と、それ以外の組織の回答の間に違いがみられます。全体回答よりも、女性消防クラブの比率が高いものとして、「備蓄品の管理」「住民の参加促進」「住民の把握、安否確認」「危険個所の把握」「子ども・親子向けの防災教育」「アレルギー・高齢者に配慮した非常食」と多くの項目がありました。逆に、全体回答より低いものは「住民の自助や備えの向上」「避難所の運営方法」ですが、大きな差異ではありませんでした。



問4-3 問4-2で選択した内容について、具体的な役割・活動のイメージ(自由回答)

- ・上記1「住民の把握、安否確認」について、女性のコミュニケーション能力を活かすと良いと思われる。が、中には噂話や井戸端会議に参加したくない女性もいるので(私もそう)、一概に女性だけ活かされる能力ではないですが・・・。
- ・3「避難所の運営方法」については、男性・女性・LGBT への配慮をすると尚良いと思います。
上記すべて必要事項と考えます。先ず地区役員全員での勉強会を実施し、一つでも多く把握できたら、災害時の即戦力になると思います。
- ・近所にどのような人が住んでいるのか把握して、安否確認等が必要だと思います。
- ・今は高齢者宅が多くなり、近隣に声掛けの訓練をすると、突然の災害時にスムーズに声掛けができるのではと思います。
- ・現在、毎年行っている訓練は義理で行っているような所がある。もっと住民に向けての訓練が、いざという時に役立つと思う。
- ・子供・親子向けの防災教育は、女性役員が既存の地域の集会を利用して情報発信・共有すべきである。
- ・ハザードマップを回覧板に付けて、何回も回す。

問 4 - 4 地区の防災活動、防災訓練について、女性消防クラブが取り組んでいる活動（自由回答）

＜女性消防クラブからの回答＞

●具体的な事例

- ・防災訓練(丹羽消防署にて)研修等。水防・防災訓練(救護・炊出し・その他)
- ・炊出し等、食に関係することは女性消防が先頭に立って行動しています。
- ・年一回、人工呼吸・AED 取扱い・消火訓練等、消火器・AED 人形をお借りして、消防署員様に来ていただき、教えていただきます。40 人くらい参加していただけます。
- ・消火訓練のみ、女性消防クラブが主で、あとは組長のみの参加。全戸の参加が望ましい。
- ・10 月に女性防災訓練。
- ・防災訓練に参加。
- ・消火栓訓練
- ・防災訓練・消火訓練

●自主防災会と共に

- ・自主防災会とともに年二回の防災訓練。救命(AED 取扱い)と防火。
- ・自主防災会とともに地区の消火栓等の点検。

●あまり主体的な活動をする状況にない

- ・女性消防クラブが地区の防災チーム等と連携をとるという事例は今までになかったかもしれません。私の情報不足かもしれませんが。
- ・主体的な活動は、地区の子ども会の会員の子(1~6 年生)に対して、救急救命講習を年一回行っている。これは女性消防クラブの代表は子ども会の役員が毎年交代で担う決まりになっているからです。強制的にやることになっているので、意識・志が低い。
- ・順番制でいきなり女性消防になり、意見を述べる知識がありません。役場から通知のある場面にのみ参加しているだけの現状です。私自身、後期高齢者です。

問 4 - 5 その他、防災について、男女双方の視点が必要だと思うもの（自由回答）

＜女性消防クラブ以外の組織からの回答＞

- ・避難場所・トイレ・給食準備
- ・被災者が男性なら男性、女性なら女性でしかケアしきれないことがあるので、一つの災害発生時でも両方の視点がある方が良いです。
- ・最近の自然災害は、あらゆる地区で発生しているので、扶桑町においても災害時の避難体制・連絡網を住民がしっかり把握しているか、今後、情報発信が必要。ここでも女性の視点も重要と思われます。
- ・平日の昼間に災害が起きたら、若い男性は仕事に出ている為、女性の活躍が大いに必要だと思う。しかし女性は関心が薄い。

問5 その他、地区の運営・活動等における女性の参画について感じていること

<駐在員・自主防災組織>

- ・自治会及び役場に関わる要望や申請手続きの際、女性軽視されるケースがあるとのことを聞きますので、広報等で改善を呼び掛けていただけたらと存じます。
- ・女性が積極的に参加できるような、町としての指導・広報活動が必要と思う。
- ・町内会・区会・役員会は殆ど土・日曜日にあり、月の休日の半分は行事に参加しなければならない。女性の参画を可能にする為には、例えば、コミュニティ事業のみに参画する方法しかないと思います。
- ・現在の問題点は町内の高齢化が進み、地区の運営をできる人が少なくなっていることです。したがって、女性も町内の運営に参加せざるを得ない状況です。町内会の高齢化で地区の運営が難しくなるのは差し迫っています。扶桑町としては、どのような対策をお考えでしょうか？
- ・主婦として、母親として、祖母として、大いに女性の参画は重要と考えます。

<女性消防クラブ>

- ・女性が地区の運営で活躍するようになるのは、とても良いことだと思います。ただ、そのための準備として、男女ともに働く時代になったのにも関わらず、家事(炊事・洗濯・掃除)や子育てについては役割分担している家庭が少ないのでは、と思います。介護に関しては、「女性がやるのが普通」という認識では、女性に「活躍してもらおう!」というより「負担を増やす」ということになりかねません。日本の男女格差は世界的にみても大きいです。144 か国中、111 位(2016 年調べ)で先進国中では最下位。数値も残念なことになっていますが、今一度、女性が一週間いなくなったら、どんな社会になってしまうのか、を想定してみてもいいのでしょうか。住民の意識が時代についていけるといいですね。(一部略)
- ・リーダーとなる人の育成を望みます。
- ・もっと色々な活動に女性が参加して、いろんな意見交換をして、これからの防災に役立つようにしていきたいです。
- ・町内会の会合で、女性はお茶出しをする慣習は廃止してほしい。一般的に職場では過去に廃止されている。
- ・「男性優位社会」であり、この社会が変わらなければ難しい。女性の資格取得、スキルアップ、社会で働きやすい環境を整える等、仕事・子育ての両立ができるような支援。他県を参考にしてほしい。(海外も)
- ・共同参画に参加して、協力したいと思いますが、何ができるか、はっきりさせてほしい。
- ・今まで地区の運営・活動等に関心が薄く、今回、女性消防クラブの役を受け、防災訓練・消防クラブ研修会に参加したことで、学ぶことができました。このアンケートにお答えするには勉強不足で具体的にお答えできませんが、防災訓練等、皆が参加できる機会があればと思います。

扶桑町「男女共同参画プラン」策定にあたっての アンケート調査

アンケートにご協力ください

皆さまには、日頃より扶桑町の行政運営にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

扶桑町では、男女がお互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、男女がともに、その個性と能力を十分に発揮することができる社会をめざし、平成21年度に「扶桑町男女共同参画プラン」を策定し、さまざまな取り組みを行ってきました。現計画の策定から10年が経過することから、現在新しい計画策定に向け準備を行っているところです。

このアンケートは、新たな扶桑町男女共同参画プランの策定にあたり、扶桑町の男女共同参画の現状や町民の皆さまのお考えを把握し、よりよい計画策定に向けた基礎資料として活用することを目的としています。

お答えいただいた内容につきましては、統計的に処理をいたしますので、個人が特定されることは、一切ございません。

お忙しいところ恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成30年10月

扶桑町長 千田 勝隆

◆ご記入にあたってのお願い◆

- ・ アンケートの対象者は、町民から無作為に抽出していますので、ご了承ください。
- ・ この調査は無記名式ですので、調査票に名前を記入する必要はありません。
- ・ ご回答は、当てはまる項目の番号を、指定の数だけ○で囲んでください。
- ・ 「その他」の項目を選ばれた場合で、() がある設問については () の中に具体的にご記入ください。
- ・ ご記入いただいた調査票は、同封いたしました返信用封筒に入れ、封をして
10月31日(水)までにご返送ください。(切手は不要です。)
- ・ このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

扶桑町総務部 政策調整課 政策調整グループ

電話：0587-93-1111内線316

FAX：0587-93-2034

1 男女共同参画について

問1 あなたは、下記の言葉を知っていますか。(①から⑥までそれぞれ1つに○)

	内容(意味)を知っている	聞いたことはある	知らない
①男女共同参画社会	1	2	3
②仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)※	1	2	3
③育児・介護休業法	1	2	3
④ポジティブアクション(積極的改善措置)※	1	2	3
⑤DV(ドメスティック・バイオレンス/配偶者等からの暴力)	1	2	3
⑥LGBT※	1	2	3

※ワーク・ライフ・バランス…一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを指す。

※ポジティブアクション…一般的には、社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で特別の機会を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる暫定的な措置のこと。

※LGBT…同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。「セクシャルマイノリティ」、「性的マイノリティ」、「性的少数者」とも言う。

L(レズビアン)=女性の同性愛者、G(ゲイ)=男性の同性愛者、B(バイセクシャル)=両性愛者、T(トランスジェンダー)=生まれてきたときの法的・社会的性別とは違う性別で生きる人・生きたいと望む人、の頭文字をとって「LGBT」と呼ばれている。

問2 あなたは、次のような分野において、現在、男女が共に対等な立場で協力し合っていると思いますか。(①から⑦までそれぞれ1つに○)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	対等な立場で協力し合っている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
① 家庭生活の場	1	2	3	4	5	6
② 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
③ 職場	1	2	3	4	5	6
④ 地域活動・社会活動の場	1	2	3	4	5	6
⑤ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
⑥ 社会通念・慣習	1	2	3	4	5	6
⑦ 政治	1	2	3	4	5	6

2 家庭生活、育児、介護等について

問3 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

1. 同感する 2. ある程度同感する 3. どちらともいえない
4. あまり同感しない 5. 同感しない 6. その他

問4 あなたのご家庭での男女の役割について、現状をお答えください。また、理想をお答えください。(①から⑦でそれぞれ1つに○)

	(1) 現実の担い手						(2) 理想の担い手					
	すべて女性 が担当	主に女性が 担当	男女同じ 程度	主に男性が 担当	すべて男性 が担当	該当する人がい ない・該当する選 択肢がない	すべて女性 が担当	主に女性が担当 し男性は手伝う 程度	男女同じ 程度	主に男性が担当 し女性の手伝う 程度	すべて男性 が担当	該当する人がい ない・該当する選 択肢がない
①食事の支度・後片 付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
②掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
③地域活動への参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
④乳幼児の世話	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑤子どもの教育	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑥高齢者や病人の介 護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
⑦生活費の確保	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

問5 あなたは、男性が家事を行うことについて、どのようなイメージを持っていますか。(○は3つまで)

1. 男性も家事を行うことは、当然である
2. 家事を行う男性は仕事と家庭のバランスを取るのが上手である
3. 男性自身も充実感や幸福感が得られる
4. 子どもによい影響を与える
5. 仕事と両立させることは現実的に難しい
6. 家事は女性の方が向いている
7. 周囲から変わった人と評価される
8. 男性は、家事を行うべきではない
9. その他 ()

問6 家庭の中での、炊事、洗濯、掃除などの家事を男女がともに担うために必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

1. 男性が家事を行うことへの男性自身の抵抗感をなくす
2. 男性が家事を行うことへの女性の抵抗感をなくす
3. 夫婦や家族で役割分担についてよく話し合う
4. 年配者やまわりの人が、役割分担についての当事者の考え方を尊重する
5. 労働時間短縮や休暇制度等の普及で、家庭に使える時間を増やす
6. 講座等により、男女が対等に家事を担える技能を高める
7. 男女がともに家事を行うのが当然であるという意識を普及・啓発する
8. 機械化や社会サービスの導入により、一つ一つの家事の負担を軽減する
9. 男女で家事を分担することを妨げるような社会通念が変わる
10. その他 ()

問7 男性と女性がともに育児や介護に参加していくためには、どのようなことが重要になると思いますか。(〇は3つまで)

1. 男性が育児・介護休業制度を利用しやすくなる
2. 労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむ
3. 男性のための育児や介護の講座が充実する
4. 男性自身が育児や介護に取り組む意識をもつ
5. 女性（例：介護される当事者）が男性の介護を受け容れるような意識をもつ
6. 保育や介護に関わる施設や社会サービスが充実し、保育・介護の家庭での負担が軽減される
7. 夫婦や家族の間で育児や介護についてよく話し合う
8. 男性が気軽に育児や介護の問題を相談できる窓口を設ける
9. 育児や介護を男女で分担することを妨げるような社会通念が変わる
10. その他 ()
11. わからない

問8 将来、自分の老後の介護が必要になったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。(〇は1つ)

1. 配偶者に介護してもらいたい
2. 娘に介護してもらいたい
3. 娘の配偶者に介護してもらいたい
4. 息子に介護してもらいたい
5. 息子の配偶者に介護してもらいたい
6. その他の親族に介護してもらいたい
7. 家族以外（友人・隣人等）に介護してもらいたい
8. 在宅の介護保険サービスの利用
9. 病院・施設の利用
10. その他

問9 自分が障害を負ったとき、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか。(○は1つ)

1. 自分の親に介護してもらいたい 2. 配偶者に介護してもらいたい
3. 自分の兄弟姉妹に介護してもらいたい 4. 実子に介護してもらいたい
5. 実子の配偶者に介護してもらいたい 6. その他の親族に介護してもらいたい
7. 家族以外（友人・隣人等）に介護してもらいたい
8. 在宅の障害福祉サービスの利用 9. 病院・施設の利用 10. その他

問 10 安心して子どもを産み育てるために、町が行っている事業に関する充足度についてお聞かせください。(①から⑩でそれぞれ1つに○)

	充足して いる	不足して いる	どちらとも 言えない	わから ない
①児童手当などの養育費の補助	1	2	3	4
②乳幼児の医療費補助（子ども医療）	1	2	3	4
③保育施設の設置	1	2	3	4
④一時保育・延長保育・病児病後児保育（病気や病気の回復の途中で保育園へ通えない子どもを預かる事業）など保育制度	1	2	3	4
⑤育児サークルなど地域の仲間づくり組織	1	2	3	4
⑥放課後児童クラブなどの子育て支援	1	2	3	4
⑦ファミリーサポート事業	1	2	3	4
⑧出産・育児の心理的負担を軽くする講座や相談	1	2	3	4
⑨母子家庭・父子家庭の支援	1	2	3	4
⑩その他（ ）	1	2	3	4

問 1 1 以下の育児・介護に関して町が実施する教室や講座等を知っていますか。
(①から⑥でそれぞれ1つに○)

	参加したことが ある	参加したことは ないが 内容を知っ ている	聞いたこと はある	知らない
①ぱぱママクラス	1	2	3	4
②乳幼児相談	1	2	3	4
③赤ちゃん教室	1	2	3	4
④子育て支援センター	1	2	3	4
⑤認知症サポーター養成講座	1	2	3	4
⑥高齢者徘徊搜索模擬訓練	1	2	3	4

3 仕事、働き方について

問 1 2 生活の中で「仕事」「家庭生活」「地域生活」の内、あなたが最も優先したいと思う形はどれですか。(○は1つ)

1. 「仕事」 2. 「家庭生活」 3. 「地域生活」
4. 「仕事」と「家庭生活」 5. 「仕事」と「地域生活」
6. 「家庭生活」と「地域生活」 7. 「仕事」「家庭生活」「地域生活」全て
8. その他 9. わからない

問 13 男女ともに、仕事と家庭生活の調和を実現していくための雇用環境として、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

1. 仕事量・残業時間の減少
2. 短時間勤務制度や時差出勤制度の導入
3. テレワーク※や在宅ワークなどの出社を必要としない働き方の導入
4. 賃金改善・男女間格差の是正
5. 再雇用制度の充実
6. パートや派遣社員の労働条件の改善
7. 育児・介護休業制度の（事業者側の）運用
8. 代行要員の確保など、育児・介護休業制度を利用できる職場環境
9. 家事・育児・介護参加への職場・上司の理解
10. 地域活動・学校行事参加への職場・上司の理解

※テレワーク…情報通信技術（ICT）を活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。

問 1 4 あなたは、女性が職業を持つことについて、どのように思いますか。(○は1つ)

1. 結婚・出産にかかわらず、ずっと働き続ける方がよい
2. 結婚するまでは、働く方がよい
3. 子どもができるまでは、働く方がよい
4. 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び働く方がよい
5. 働かない方がよい
6. その他 ()
7. わからない

問 15 あなたが、いったん出産・育児・介護などで離職した場合、次にどのような働き方や生活がしたいですか。(○は1つ)

1. これまでの知識・経験・キャリアを生かすことを重視し、正社員として働く
2. 仕事と家事・育児・介護などが両立できる環境で、正社員として働く
3. これまでの知識や経験を生かして、パート・アルバイトとして働く
4. 働く時間や場所を重視して、パート・アルバイトとして働く
5. 在宅ワークやテレワークなど出社を必要としない仕事で、家事・育児・介護等と両立する

6. ボランティアや地域活動で貢献する
7. 起業やNPOを立ち上げて自ら仕事をつくる
8. 仕事などは持たず家庭で家事に従事する
9. その他（ ）
10. わからない

問 1 6 結婚や出産、介護などで離職した人が、再び職業をもち、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。（○は3つまで）

1. 再就職に関わる相談窓口・情報提供を充実する
2. 働いていた職場への再雇用制度を充実する
3. 給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する
4. 職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する
5. 労働時間を少なくする
6. 勤務形態を柔軟にする（在宅勤務、時差出勤制度など）
7. 休暇を取りやすくする（育児、介護など）
8. 育児や介護による仕事への影響を理由として昇進を制限しないようにする
9. 教育訓練機会を充実させ、能力の向上を図る
10. その他（ ）

問 1 7 管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。（○は3つまで）

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. やりがいのある仕事ができる | 2. 賃金があがる |
| 3. 能力が認められた結果である | 4. 家族から評価される |
| 5. 自分の能力・経験が活かせる | 6. やるべき仕事が増え、身体的負担が増える |
| 7. 広域異動が増える | 8. 責任が重くなり、精神的負担が増える |
| 9. 仕事と家庭の両立が困難になる | 10. その他（ ） |
| 11. 特にない | |

4 地域活動について

問 1 8 あなたは、どのような地域活動に参加していますか。（あてはまるものすべてに○）

- | | | |
|-------------------------|--------------------|-----------|
| 1. 自治会・町内会活動 | 2. 女性団体活動 | 3. PTA 活動 |
| 4. 子ども会・青少年活動 | 5. 老人クラブ活動 | |
| 6. ボランティア活動などの社会奉仕活動 | 7. 消費者活動 | |
| 8. 文化活動（趣味・教養） | 9. スポーツ・レクリエーション活動 | |
| 10. 子育て支援活動（グループ活動を含む） | 11. その他 | |
| 12. 特に参加していない（→問 1 9 へ） | | |

問 19 問 18 で「12. 特に参加していない」と答えた方のみにお聞きします。地域活動に参加していない主な理由は何ですか。(○は3つまで)

1. 子どもの世話や家族の介護がある
2. 仕事が忙しい
3. 他の家族がやっている
4. 配偶者や家族の理解がない
5. 必要な能力がない
6. 必要な情報が不足している
7. 活動する仲間がいない
8. 責任が重くなり、精神的負担が増える
9. 人間関係がわずらわしい
10. 興味や関心がない
11. その他 ()

問 20 あなたが住んでいる地域では、地域活動の役割分担はどのようになっていますか。(①～⑥それぞれ1つに○)

	主として女性	どちらかといえば女性	男女同じ程度	主として男性	どちらかといえば男性	わからない
①地域役員や催しものの企画、決定	1	2	3	4	5	6
②集会などの運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
③集会などでのお茶くみ、調理	1	2	3	4	5	6
④祭りや葬儀の運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
⑤PTA や保護者会の運営、取仕切り	1	2	3	4	5	6
⑥その他 ()	1	2	3	4	5	6

問 21 地域活動で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(○は3つまで)

1. 多様な視点が加わり、活動が魅力的になる
2. 活動の担い手が増える
3. 女性の声・ニーズが反映されやすくなる
4. 口コミやネットワークにより、活動への参加が増える
5. 子どもや家族への理解が促される
6. 活動中でのコミュニケーションが活発化する
7. 女性の活躍の場が広がる
8. 既存のやり方が踏襲できない
9. 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
10. その他 ()

問 2 2 自然災害が起きたとき、男女両方に配慮した避難所にするためにはどのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 男女別の更衣室
2. 授乳室
3. プライバシーを確保するための仕切り
4. 安全で行きやすい場所の男女別トイレ
5. 女性トイレ・女性専用スペースへの女性用品の常備
6. 運営の責任者に男女両方がなること
7. 男女両方の相談員による相談対応
8. その他 ()

5 教育について

問 2 3 あなたは、男女が共に協力し合う社会を作るために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(○は3つまで)

1. 生活指導や進路指導において、男女の別なく能力を生かせるように配慮する
2. 教科書などの、固定化された男女の役割や特性についての記述をなくす
3. 異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる
4. 男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける
5. 男女ともに、法律・経済・科学技術などについて学習する時間を設ける
6. 性に対する正しい知識や性の尊厳、母性保護の重要性についての学習を推進する
7. 教員や保育者に男女共同参画の研修を推進する
8. 管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく
9. 出席簿の順番や持ち物の色など、男女を分ける慣習をなくす
10. 学校行事・課外活動・生徒会等で、男女共に役割を担うように配慮する
11. その他 ()
12. わからない

6 DV(ドメスティック・バイオレンス/配偶者等からの暴力)について

問 2 4 あなたは配偶者や交際相手から暴力を受けた経験がありますか。(○は1つ)

1. はい(→問 2 5へ)
2. いいえ(→11 ページの問 2 9へ)

問 2 5 問 2 4で「はい」を選んだ方にお聞きします。それは誰からですか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者
2. 交際相手
3. その他

**問 2 6 問 2 4 で「はい」を選んだ方にお聞きします。その内容はどんなものでしたか。
(あてはまるものすべてに○)**

1. 命の危険を感じるくらいの暴力
2. 医師の治療が必要となる程度の暴力
3. いやがっているのに性的な行為を強要された
4. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた
5. 何を言っても無視され続けた
6. 交友関係や電話を細かく監視された
7. 大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした
8. 生活費をわたさないなど、経済的におさえつけられた
9. その他 ()

**問 2 7 問 2 4 で「はい」を選んだ方にお聞きします。その時に誰かに相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)**

1. 家族
2. 友人・知人
3. 行政機関（愛知県女性相談センター、役場、保健センターなど）
4. 警察
5. 民間の団体・機関（カウンセリングルーム、シェルター）
6. 法務局・法テラス（弁護士）・人権擁護委員
7. 医療関係者
8. その他 ()
9. 誰にも相談しなかった（→問 2 8 へ）

問 2 8 問 2 7 で「9. 誰にも相談しなかった」と回答した方にお聞きします。相談しなかった理由は何ですか。(○は1つ)

1. どこ（誰）に相談してよいのか分からなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても解決できないと思ったから
4. 相談した相手の言動により、かえって不快な思いををすると思ったから
5. 自分さえ我慢すればよいと思ったから
6. 他人を巻き込みたくなかったから
7. そのことについて思い出したくなかったから
8. 自分にも悪いところがあると思ったから
9. 相談するほどのことでもないと思ったから
10. その他 ()

問 2 9 男女間の暴力を防止するために必要なことは何だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える
2. 学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する
10. その他（ ）
11. わからない

7 L G B Tについて

問 3 0 現在の社会は、L G B T（または性的マイノリティ・性的少数者）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

1. そう思う (→問 3 1 へ)
2. どちらかと言えばそう思う (→問 3 1 へ)
3. どちらかと言えばそう思わない (→問 3 2 へ)
4. 思わない (→問 3 2 へ)
5. わからない (→問 3 2 へ)

※L G B Tの語句については、アンケート 2 ページ目に語句の説明がありますのでご参照ください。

問 3 1 問 3 0で「1. そう思う」「2. どちらかと言えばそう思う」と回答した方にお聞きます。性的マイノリティの方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 行政が当事者についての理解を推進するための講演会などを行い周知・啓発する
2. 相談窓口を設置する
3. 生徒や町民への対応を想定し、小中高などの学校教員や行政職員への研修等を行う
4. 性的マイノリティの方々への差別解消への取組を条例等で制度化する
5. 当事者や支援団体、行政等を交えた連絡、意見交換を行う
6. 働きやすい職場環境づくりの取り組みをする
7. その他（ ）
8. わからない

8 あなたご自身のことについて

問32 あなたの性別はどれですか。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. その他 ()

※3. その他については性的マイノリティの方を考慮した選択肢です。この設問は、戸籍上の区分とは別にご自身の主観によりご記入ください。

問33 あなたの年齢についてあてはまる番号はどれですか。(○は1つ)

1. 15～19歳 2. 20～29歳 3. 30～39歳
4. 40～49歳 5. 50～59歳 6. 60～69歳 7. 70歳以上

問34 あなたが同居されているご家族を全て選んでください。(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者 2. 子ども (小学校入学前) 3. 子ども (小学生以上)
4. 自分の親・祖父母 5. 配偶者の親・祖父母 6. その他の親族
7. 親族以外 8. なし (一人世帯)

問35 あなたの職業についてあてはまる番号はどれですか。(○は1つ)

1. 専業主婦・専業主夫 2. 正社員・正職員 3. 契約社員・派遣社員
4. パート・アルバイト 5. 自営業 6. 無職 (年金受給者も含む)
7. 学生 8. その他

9 扶桑町の男女共同参画について

問36 町では、「扶桑町男女共同参画プラン (平成22年～平成31年)」を策定して、男女共同参画を推進しています。このプランを知っていますか。(○は1つ)

1. 内容を知っている 2. 聞いたことはある 3. 知らない

問37 「広報ふそう」では、男女共同参画に関するコラムを掲載していますが、知っていますか。(○は1つ)

1. 読んだことがある 2. 知っているが、読んだことはない 3. 知らない

問38 男女共同参画社会実現のために行政に望むことは何ですか。(○は3つまで)

1. 男女平等を目指した法律・制度の見直しを行う
2. 女性を政策決定の場に積極的に登用する
3. 各種団体の女性リーダーを養成する
4. 職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う
5. 女性の採用拡大や職域拡大を進める
6. 男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する

7. 保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する
8. 学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
9. 女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する
10. 悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する
11. 各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する
12. 広報紙のパンフレットなどにより男女の平等と相互の理解や協力について PR する
13. その他（ ）
14. 特になし

問 3 9 男女共同参画プランでは、一人ひとりがお互いを認め、個性と能力を発揮し、いきいきと暮らすことができる社会の実現を目指しています。ご意見や必要と思われる取り組みがあれば、ご記入ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。